

**介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び
在宅介護実態調査
調査結果報告書**

令和2年3月

宮津市

目次

I 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	1
II 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査結果	2
■回答者の基本属性	2
2. からだを動かすことについて	14
3. 食べることについて	31
4. 毎日の生活について	44
5. 地域での活動について	64
6. たすけあいについて	74
7. 健康について	90
8. 認知症のことについて	103
9. これからの生活について	108
10. 成年後見制度について	116
11. 延命治療について	121
12. リスク評価	128
III 在宅介護実態調査 調査結果	137
1. A票 調査対象者本人について.....	137
2. B票 主な介護者について.....	152
3. 要介護認定データ	157
4. クロス集計結果（自動集計分析ソフトによる集計）	160

I 調査概要

1. 調査目的

本調査は、令和3年度から令和5年度までを計画期間とする「第9次宮津市高齢者保健福祉計画・第8期宮津市介護保険事業計画」の策定のための基礎資料とすることを目的とし、本市在住の65歳以上の方の健康や生活実態、介護の実態等を把握するために実施した。

2. 調査設計

- ・調査地域：宮津市内全域
- ・調査対象：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
宮津市在住の65歳以上で、要介護1から5までの認定を受けていない方
在宅介護実態調査
宮津市内の在宅で生活している要支援、要介護認定を受けている方及びその方を介護する家族
- ・調査方法：郵送配布、郵送回収
- ・調査期間：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
令和元年11月29日（金）～12月22日（日）
在宅介護実態調査
令和元年11月1日（金）～11月29日（金）

3. 回収状況

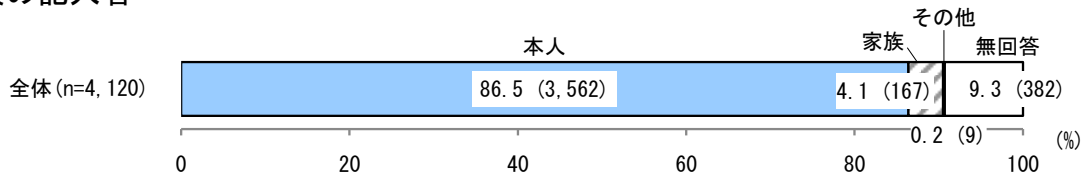
	発送数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	6,030件	4,120件	68.3%
在宅介護実態調査	793件	520件	65.6%

4. 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

II 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査結果

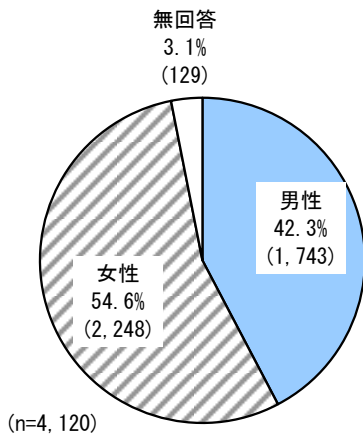
調査票の記入者



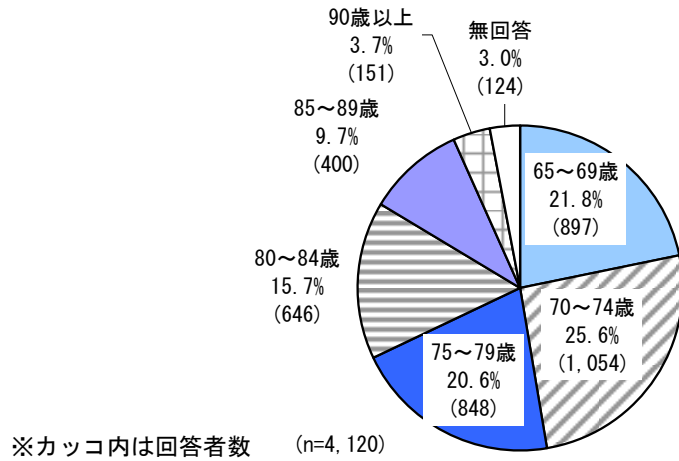
※カッコ内は回答者数

■回答者の基本属性

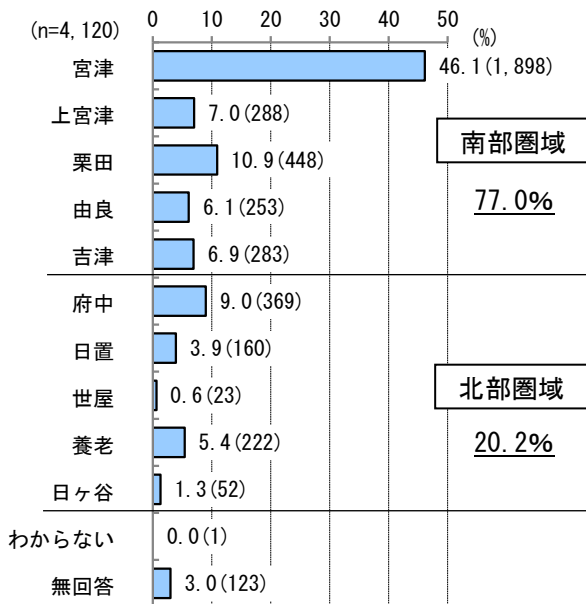
(1) 性別 [問1(1)]



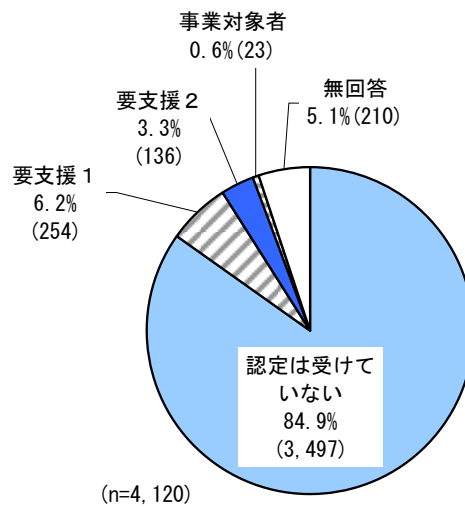
(2) 年齢 [問1(2)]



(3) 居住地 [問1(3)]



(4) 要支援認定の状況 [問1(4)]



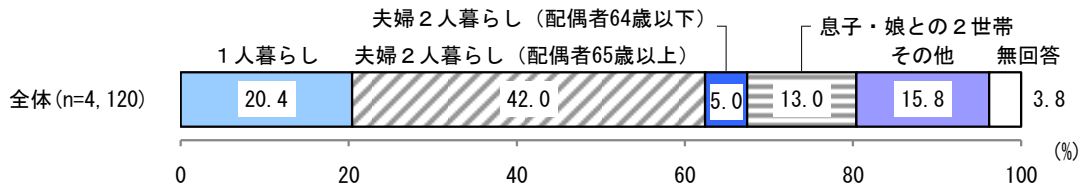
※日常生活圏域・・・地理的条件、生活形態、人口等社会的条件を総合的に勘案して設定したもので、宮津市では2圏域を設定。

※カッコ内は回答者数

(5) 家族構成

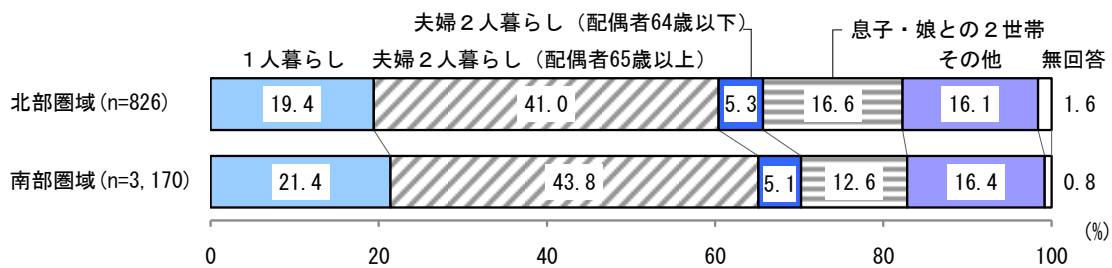
問1 (5) 家族構成を教えてください (○は1つ)

【図1-5 家族構成】



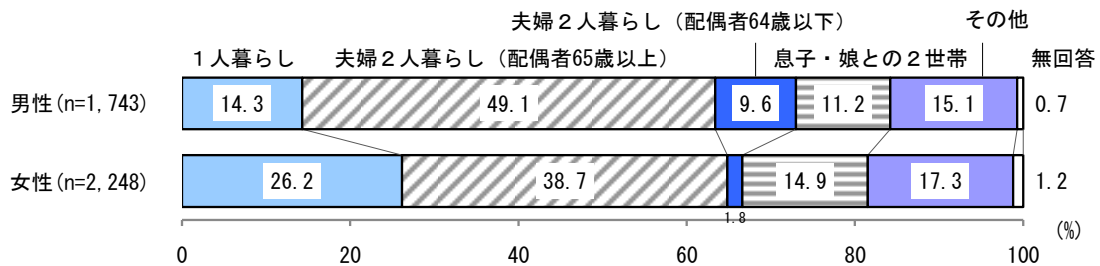
家族構成については、「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」が42.0%で最も多く、次いで「1人暮らし」が20.4%、「息子・娘との2世帯」が13.0%となっている。(図1-5)

【図1-5-1 家族構成 (圏域別)】



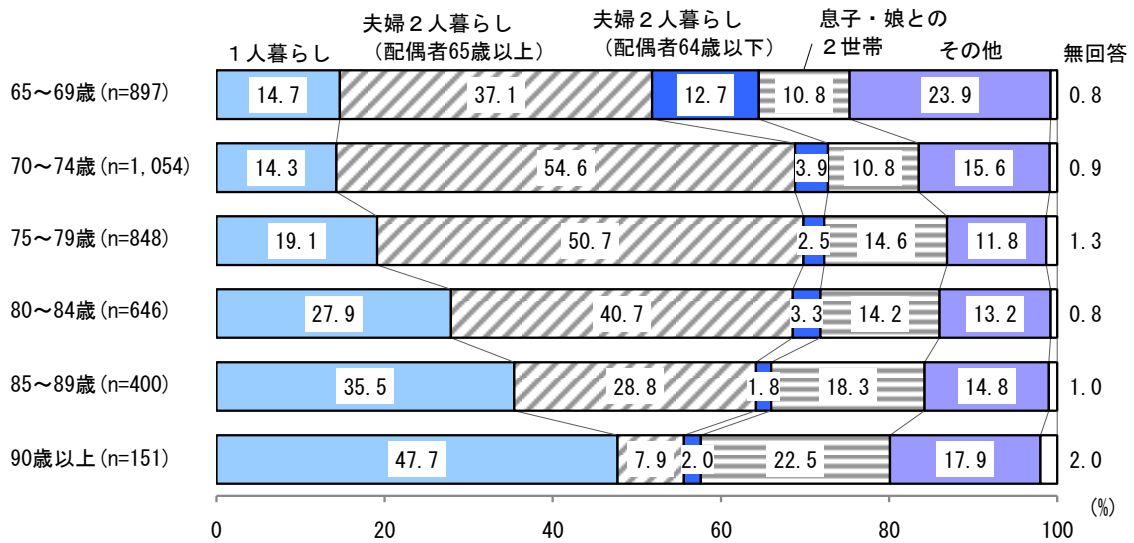
圏域別でみると、「1人暮らし」「夫婦2人暮らし」の割合はそれほど差がないが、「息子・娘との2世帯」の割合は北部圏域のほうが4.0ポイント高くなっている。(図1-5-1)

【図1-5-2 家族構成 (性別)】



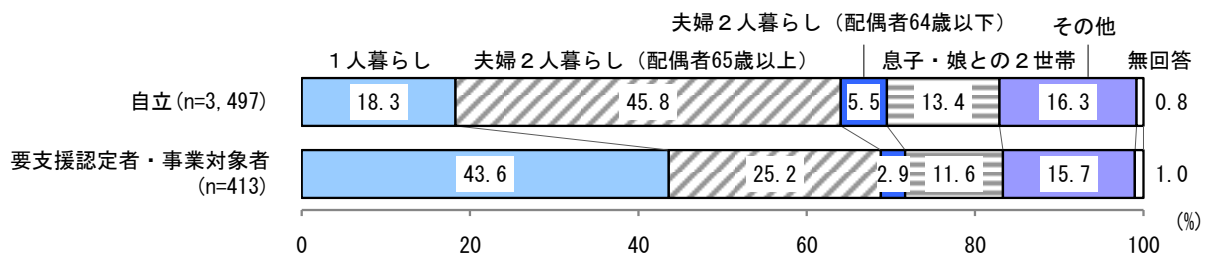
性別でみると、「1人暮らし」の割合は、女性のほうが高くなっている。また、「息子・娘との2世帯」も、女性のほうが高くなっている。(図1-5-2)

【図1-5-3 家族構成（年齢別）】



年齢別でみると、「1人暮らし」の割合は、概ね年齢が上がるほど高くなっている。また、「息子・娘との2世帯」も、同様となっている。(図1-5-3)

【図1-5-4 家族構成（認定状況別）】

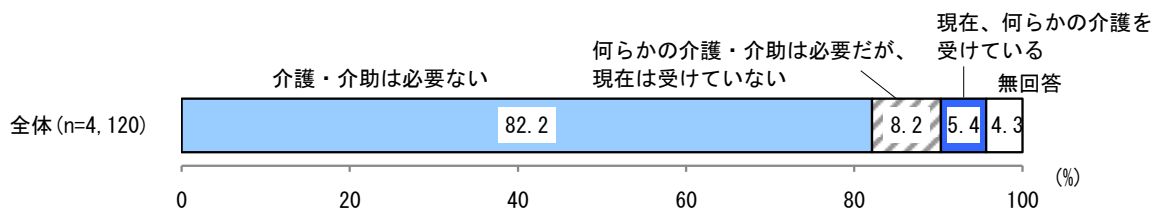


認定状況別でみると、要支援認定者等は「一人暮らし」が43.6%で最も多くなっている。(図1-5-4)

(6) 介護・介助の必要性の有無

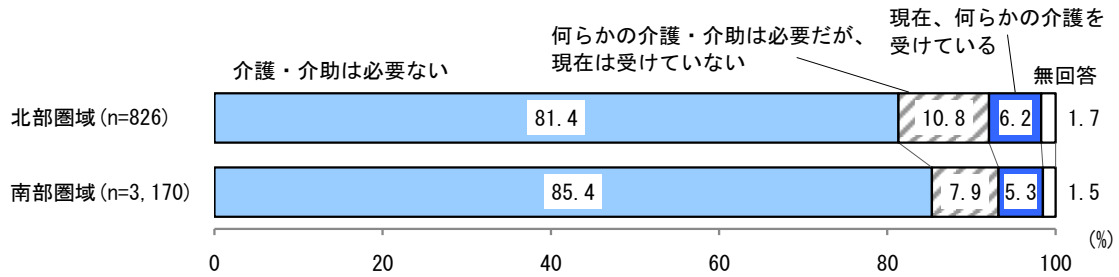
問1 (6) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○は1つ)

【図1-6 介護・介助の必要性の有無】



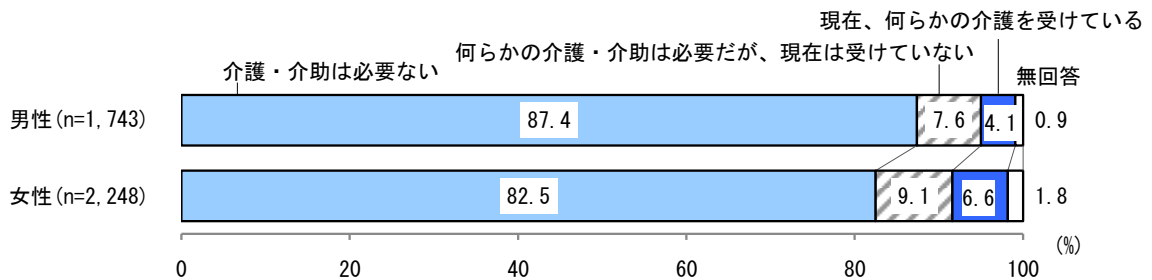
介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が82.2%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.2%、「現在、何らかの介護を受けている」が5.4%となっている。(図1-6)

【図1-6-1 介護・介助の必要性の有無（圏域別）】



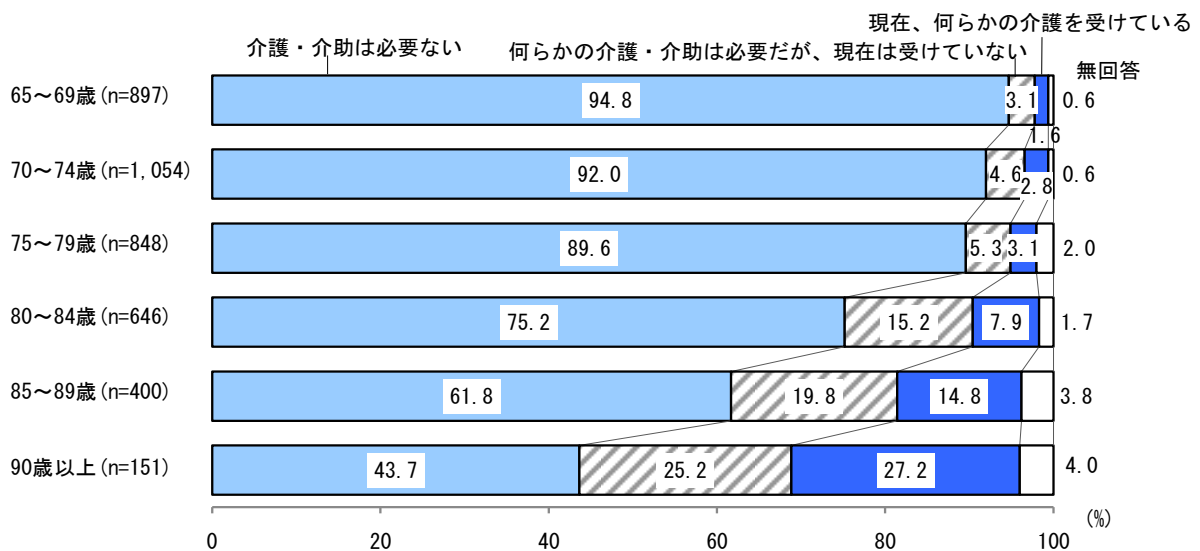
圏域別でみると、「介護・介助は必要ない」の割合は、南部圏域のほうが4.0ポイント高くなっている。(図1-6-1)

【図1-6-2 介護・介助の必要性の有無（性別）】



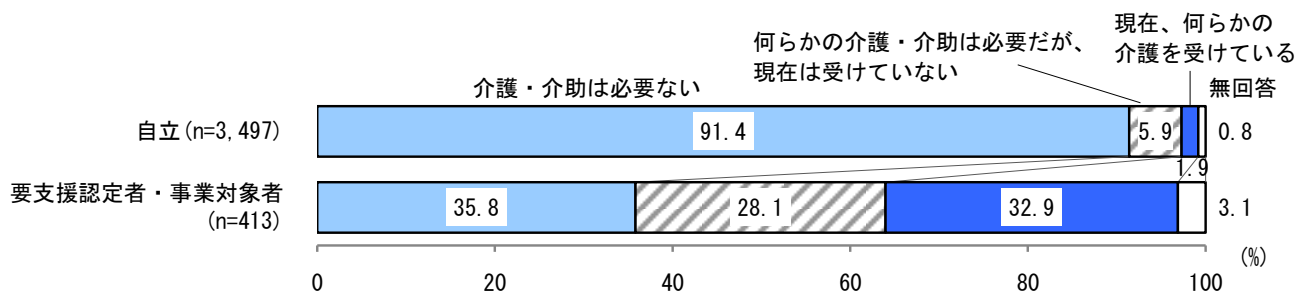
性別でみると、「介護・介助は必要ない」の割合は、男性のほうが4.9ポイント高くなっている。(図1-6-2)

【図1-6-3 介護・介助の必要性の有無（年齢別）】



年齢別でみると、年齢が上るほど「現在、何らかの介護を受けている」割合が高くなっている。(図1-6-3)

【図1-6-4 介護・介助の必要性の有無（認定状況別）】

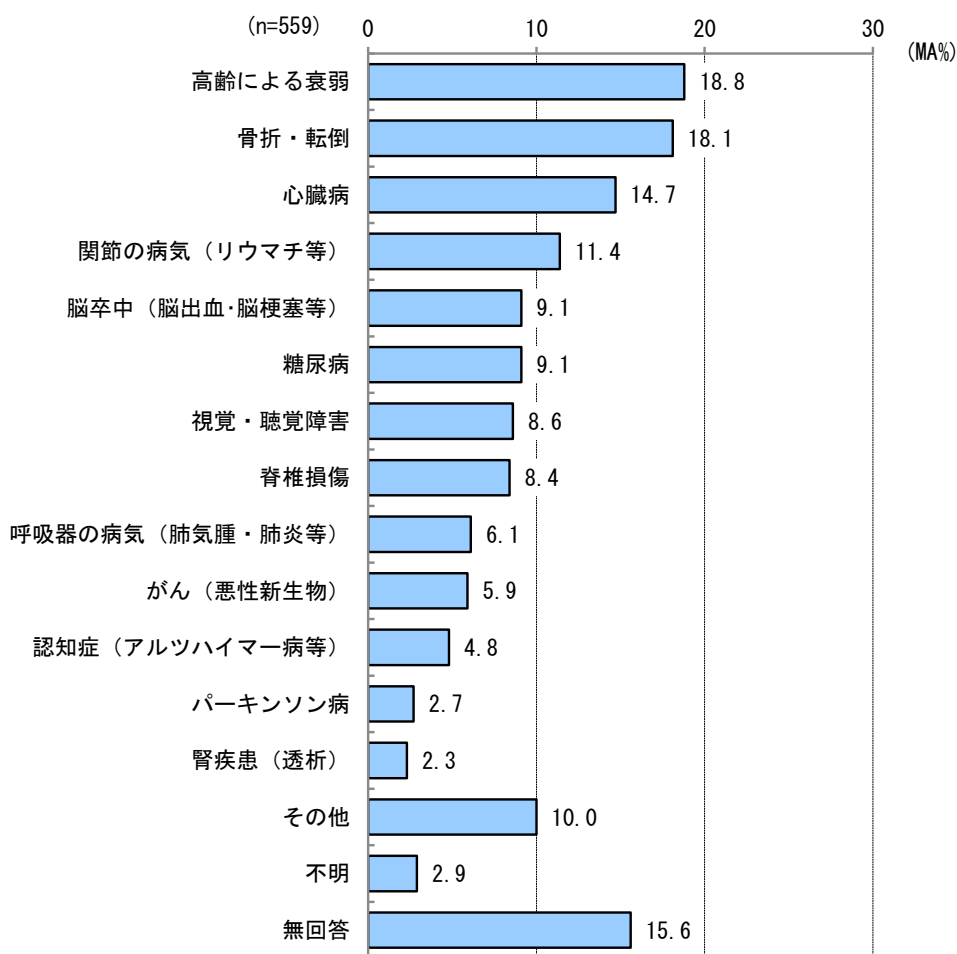


認定状況別でみると、要支援認定者等は「介護・介助は必要ない」が35.8%、「現在、何らかの介護を受けている」が32.9%となっている。(図1-6-4)

(6) ① 介護・介助が必要になった原因

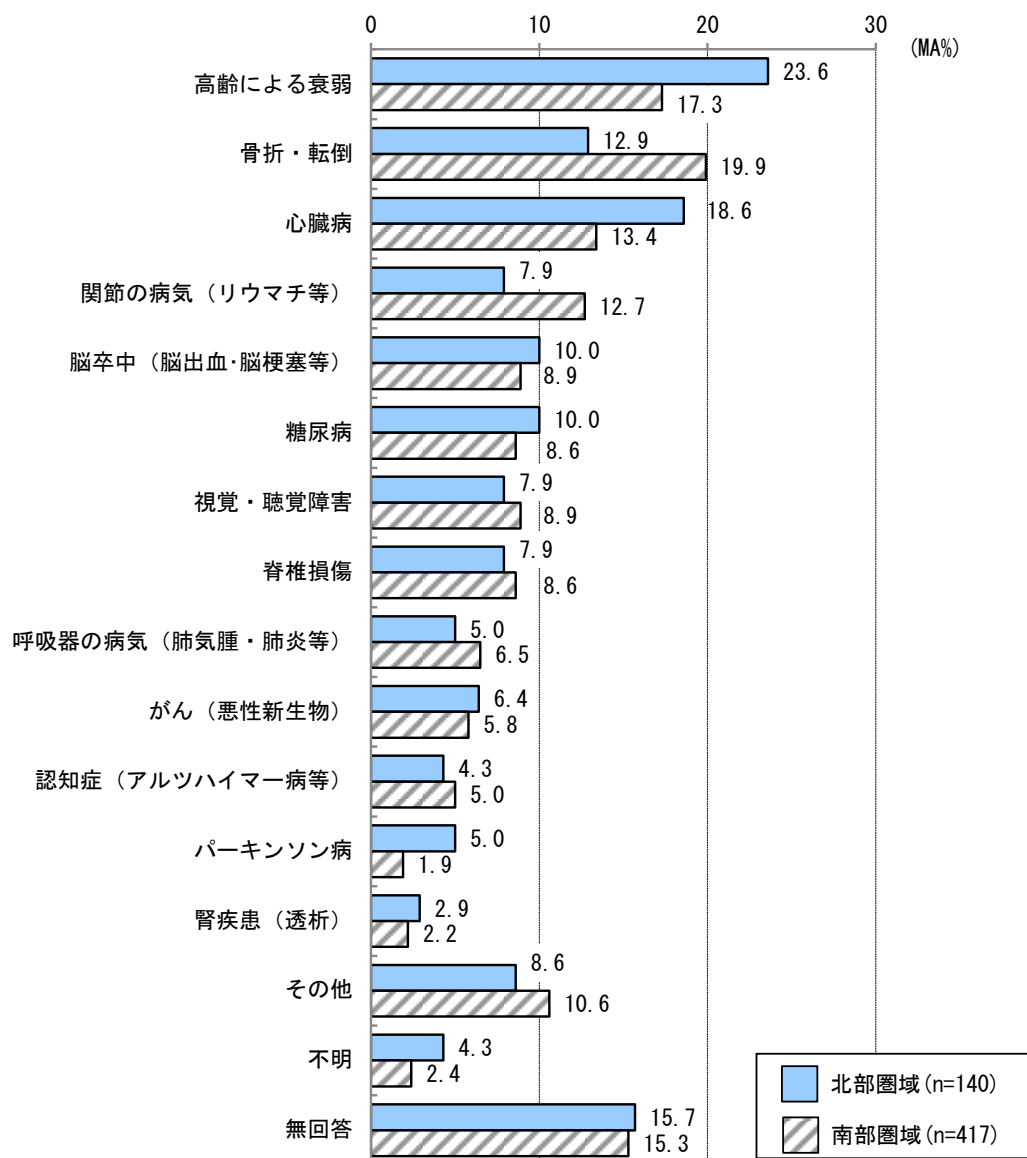
問1 (6) ① 【(6)において「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3. 現在、何らかの介護を受けている」に○をした方のみ】
 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか (○はいくつでも)

【図1-6-1 介護・介助が必要になった原因】



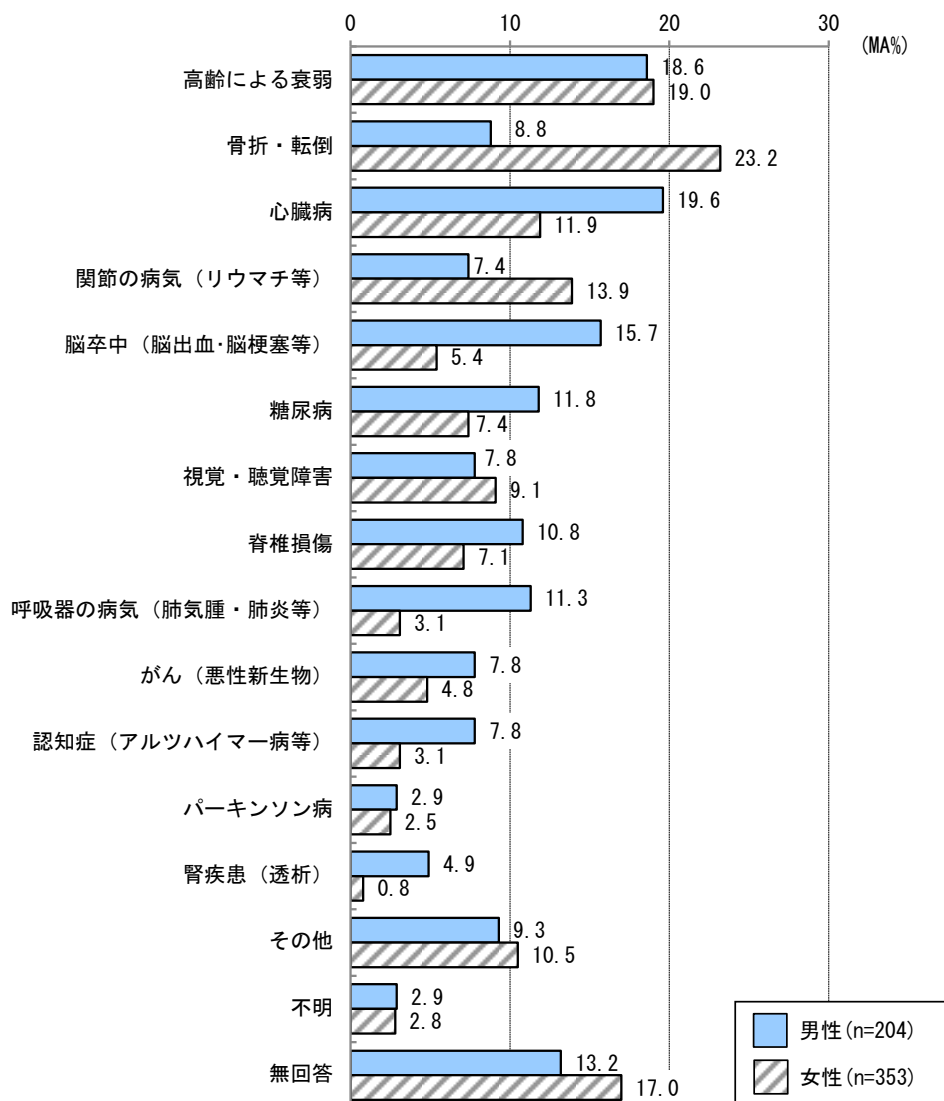
何らかの介護・介助が必要と回答した人にその原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が18.8%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が18.1%、「心臓病」が14.7%となっている。(図1-6-1)

【図1-6-1-1 介護・介助が必要になった原因（圏域別）】



圏域別でみると、北部圏域では「高齢による衰弱」と「心臓病」の割合が南部圏域より5ポイント以上高くなっている。南部圏域では「骨折・転倒」と「関節の病気（リウマチ等）」の割合が北部圏域より4ポイント以上高くなっている。（図1-6-1-1）

【図1-6-1-2 介護・介助が必要になった原因（性別）】



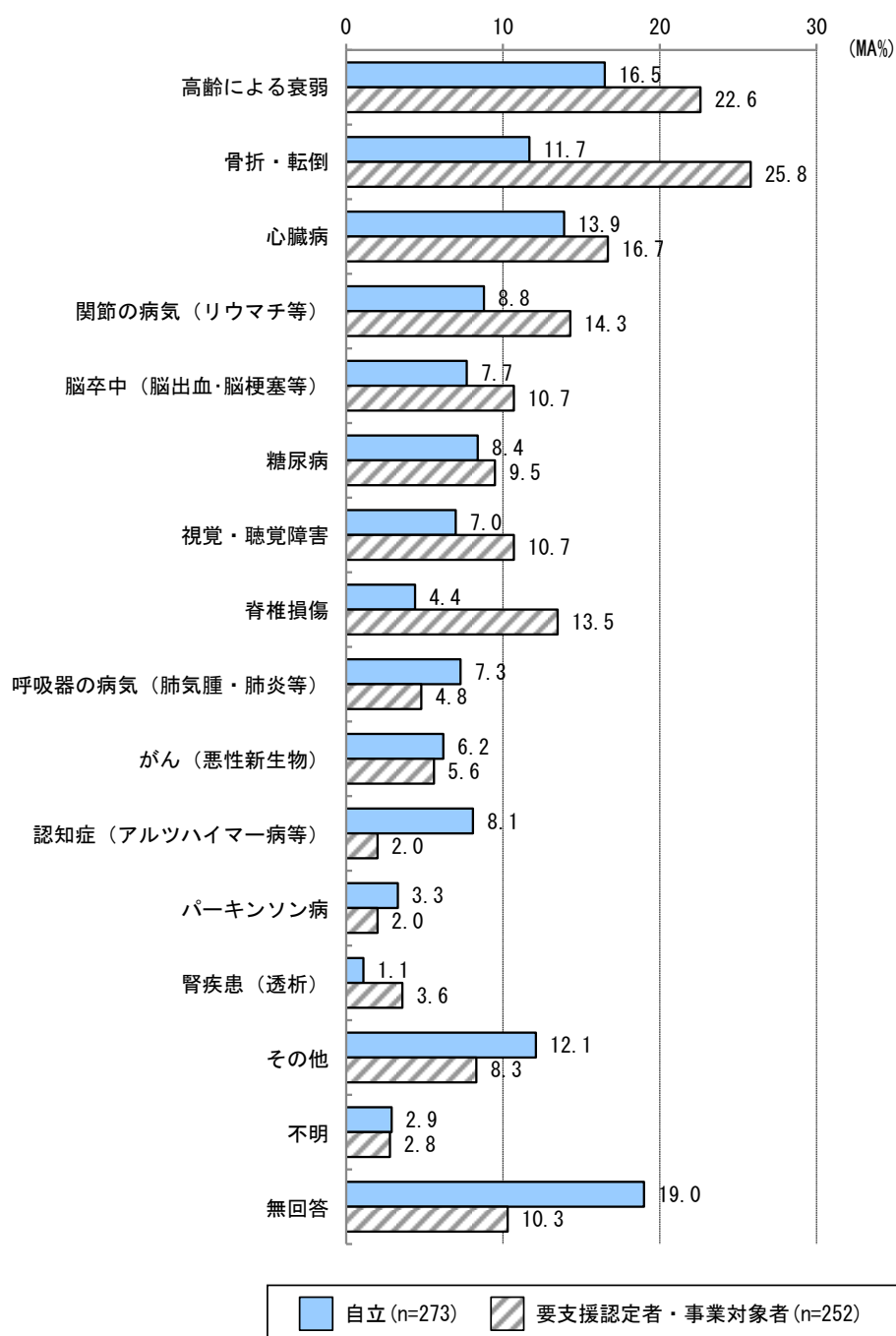
性別でみると、男性は「心臓病」「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」の割合が、女性より7～10ポイントほど高くなっている。女性は「骨折・転倒」の割合が、男性より14.4ポイント高くなっている。（図1-6-1-2）

【表1-6-1-3 介護・介助が必要になった原因（年齢別）】

	n	高齢による衰弱	骨折・転倒	心臓病	（関節の病気 （リウマチ等）	血脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	糖尿病	視覚・聴覚障害	脊椎損傷	等（呼吸器の病気 （肺気腫・肺炎等）	（がん （悪性新生物）	ハ イ マ ー 病 等 ）	認 知 症 （ ア ル ツ ハ イ マ ー 病 等 ）	パ ー キ ン ソ ン 病	腎疾患（透析）	その他	不明	無回答
65～69歳	42	7.1	7.1	14.3	16.7	14.3	7.1	0.0	0.0	11.9	9.5	7.1	9.5	0.0	23.8	4.8	11.9	
70～74歳	78	6.4	14.1	6.4	11.5	17.9	11.5	6.4	5.1	7.7	11.5	10.3	2.6	3.8	16.7	2.6	10.3	
75～79歳	71	5.6	16.9	11.3	12.7	2.8	9.9	5.6	11.3	7.0	7.0	2.8	7.0	4.2	12.7	0.0	18.3	
80～84歳	149	20.1	20.8	15.4	12.8	7.4	8.1	7.4	8.7	4.0	3.4	5.4	2.0	2.7	3.4	4.0	22.8	
85～89歳	138	24.6	20.3	17.4	12.3	10.1	9.4	11.6	10.1	5.1	3.6	2.9	0.7	0.7	8.7	2.9	10.1	
90歳以上	79	36.7	20.3	20.3	3.8	3.8	8.9	15.2	10.1	6.3	6.3	2.5	0.0	2.5	8.9	2.5	15.2	

年齢別でみると、75～84歳は「骨折・転倒」が、85歳以上は「高齢による衰弱」が最も多くなっている。（表1-6-1-3）

【図1-6-1-4 介護・介助が必要になった原因（認定状況別）】

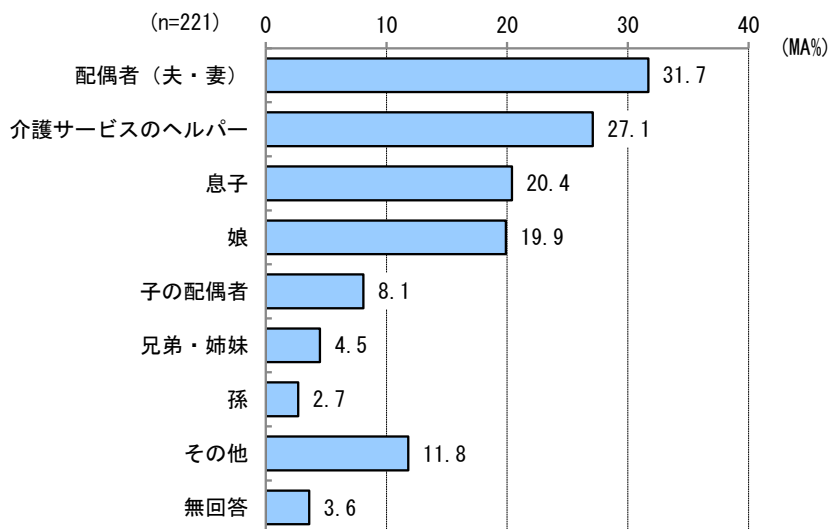


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「骨折・転倒」が25.8%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が22.6%、「心臓病」が16.7%となっている。（図1-6-1-4）

(6) ② 主な介護者

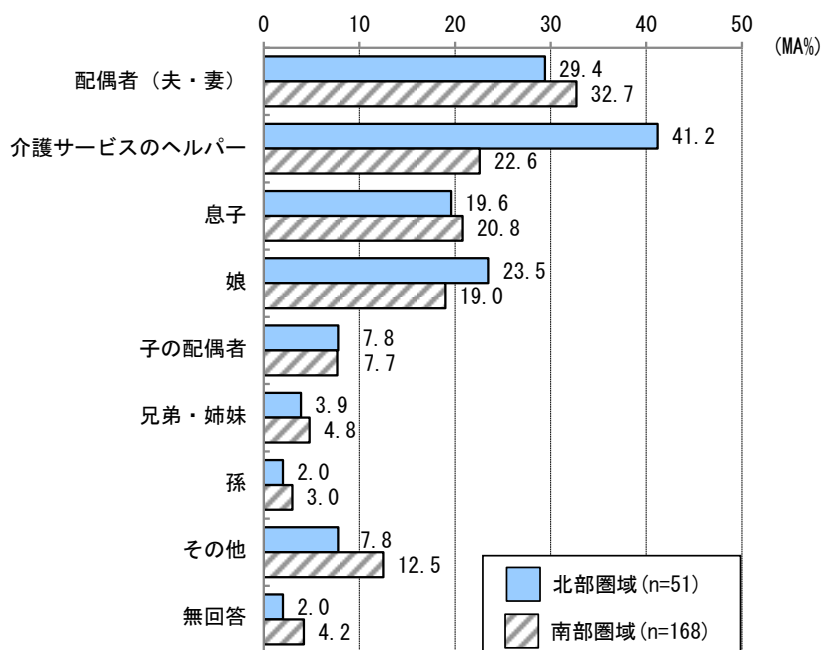
問1 (6) ② 【(6)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」に○をした方のみ】
主にどなたの介護、介助を受けていますか (○はいくつでも)

【図1-6-2 主な介護者】



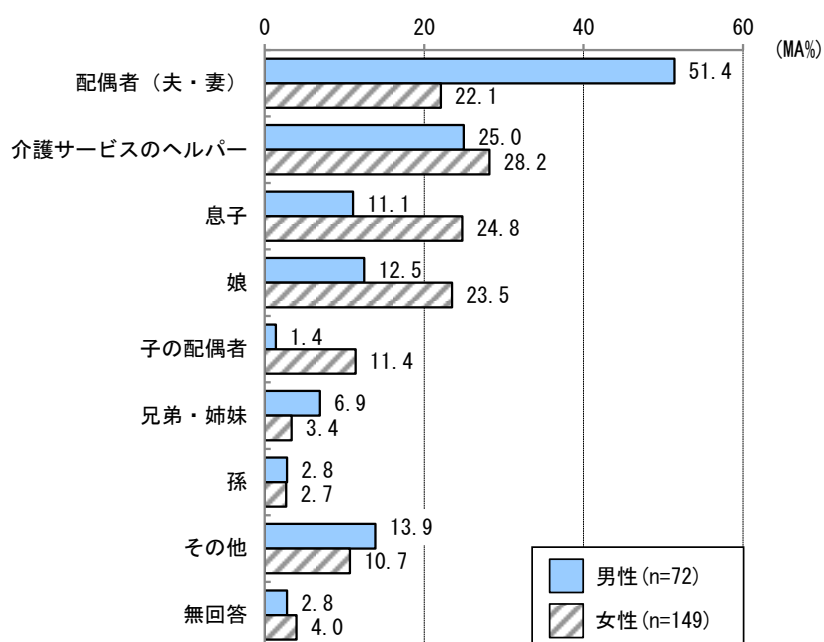
現在何らかの介護を受けていると回答した方に、主な介護者についてたずねたところ、「配偶者 (夫・妻)」が31.7%で最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー」が27.1%、「息子」が20.4%、「娘」が19.9%となっている。(図1-6-2)

【図1-6-2-1 主な介護者 (圏域別)】



圏域別でみると、「介護サービスのヘルパー」の割合は、北部圏域のほうが18.6ポイント高くなっている。(図1-6-2-1)

【図1-6-2-2 主な介護者（性別）】



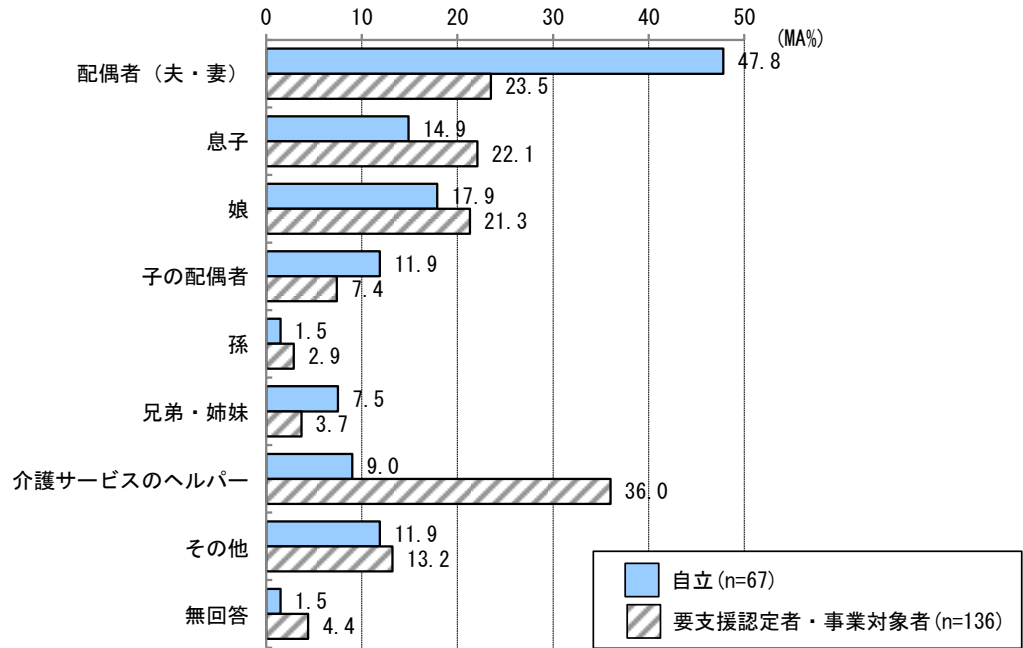
性別で見ると、「配偶者（夫・妻）」の割合は、男性のほうが29.3ポイント高くなっている。また、「息子」「娘」の割合は、女性のほうが10ポイント以上高くなっている。（図1-6-2-2）

【表1-6-2-3 主な介護者（年齢別）】

	n	配偶者 (夫・妻)	介護 サービスの ヘルパー	息子	娘	子の 配偶者	孫	兄弟・ 姉妹	その他	無 回答
65～69歳	14	50.0	21.4	7.1	7.1	0.0	7.1	14.3	28.6	0.0
70～74歳	29	55.2	20.7	3.4	6.9	0.0	0.0	6.9	10.3	0.0
75～79歳	26	57.7	30.8	7.7	23.1	0.0	0.0	3.8	3.8	3.8
80～84歳	51	21.6	27.5	27.5	23.5	7.8	2.0	5.9	9.8	5.9
85～89歳	59	22.0	25.4	20.3	20.3	11.9	0.0	1.7	13.6	6.8
90歳以上	41	19.5	34.1	36.6	26.8	14.6	9.8	2.4	12.2	0.0

年齢別で見ると、79歳までは「配偶者（夫・妻）」の割合が最も高くなっている。また、80～89歳では「介護サービスのヘルパー」の割合が高く、90歳以上は「息子」の割合が高い。（表1-6-2-3）

【図1-6-2-4 主な介護者（認定状況別）】

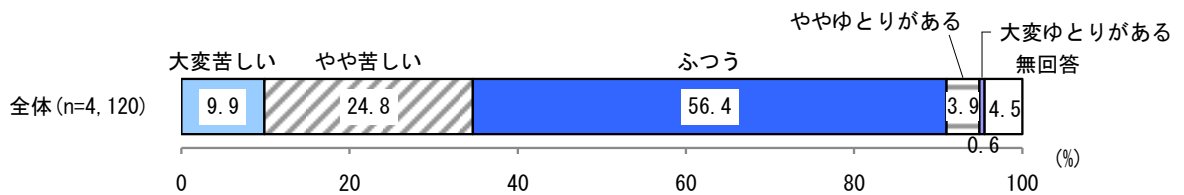


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「介護サービスのヘルパー」が36.0%で最も多く、次いで「配偶者（夫・妻）」が23.5%、「息子」が22.1%となっている。（図1-6-2-4）

（7）主観的経済状況

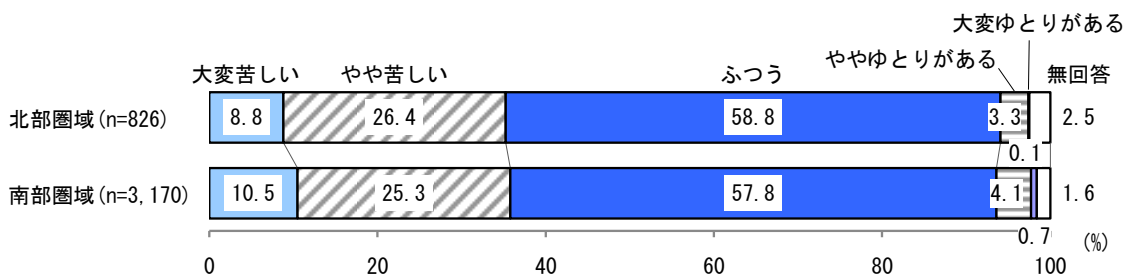
問1（7）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（○は1つ）

【図1-7 主観的経済状況】



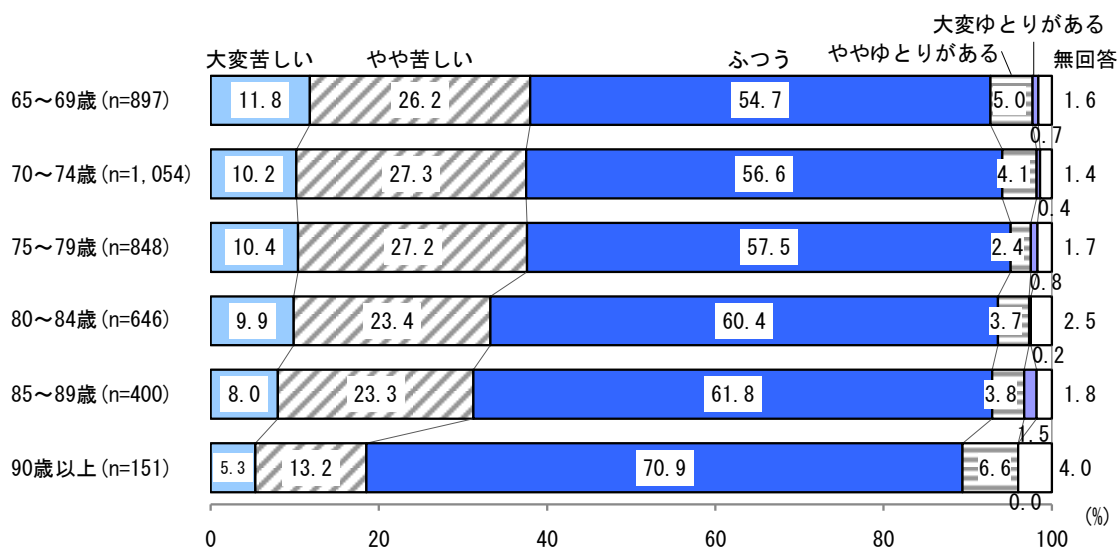
主観的経済状況については、「ふつう」が56.4%で最も多く、次いで「やや苦しい」が24.8%、「大変苦しい」が9.9%となっている。（図1-7）

【図1-7-1 主観的経済状況（圏域別）】



圏域別で見ると、大きな差異はみられない。（図1-7-1）

【図1-7-2 主観的経済状況（年齢別）】

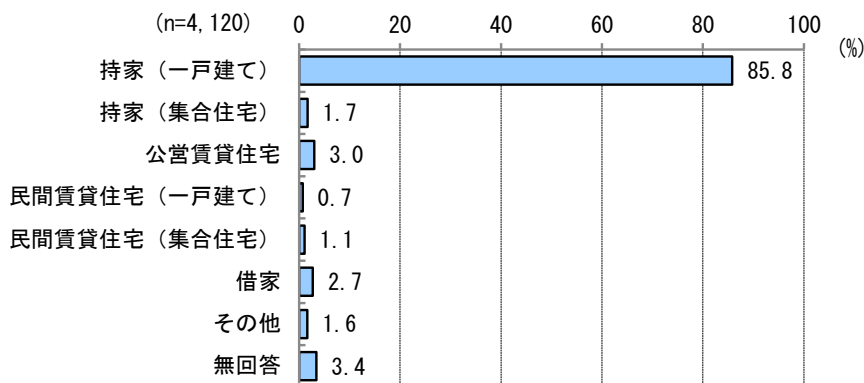


年齢別でみると、「大変苦しい」と「やや苦しい」の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。（図1-7-2）

（8）住居形態

問1（8）お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか（○は1つ）

【図1-8 住居形態】



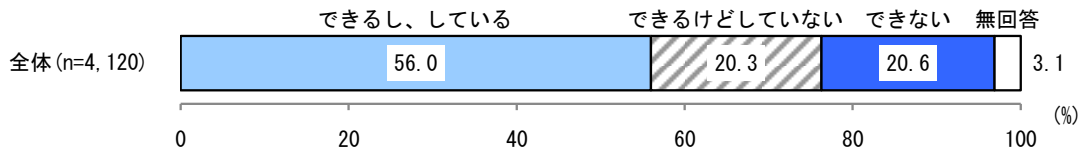
住居形態については、「持家（一戸建て）」が85.8%で最も多く、次いで「公営賃貸住宅」が3.0%となっている。（図1-8）

2. からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

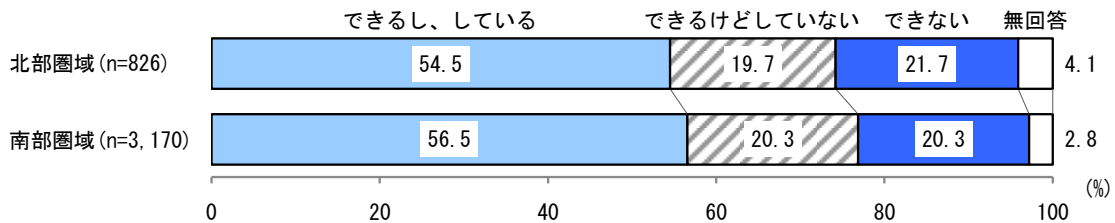
問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○は1つ)

【図2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか】



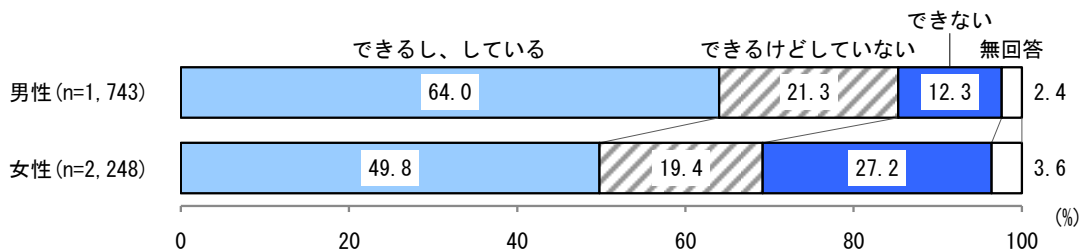
階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が5割を超えている。一方、「できない」は20.6%となっている。(図2-1)

【図2-1-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか (圏域別)】



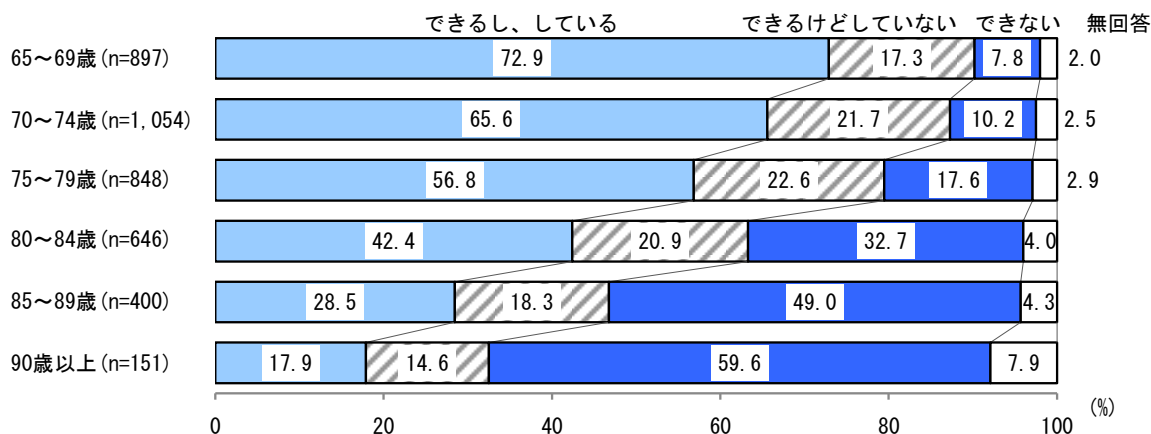
圏域別でみると、「できるし、している」割合は南部圏域のほうが2.0ポイント高くなっている。(図2-1-1)

【図2-1-2 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか (性別)】



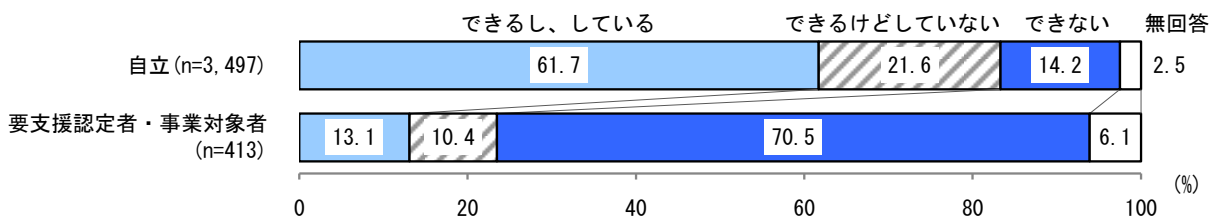
性別でみると、「できるし、している」割合は男性のほうが14.2ポイント高く、「できない」割合は女性のほうが14.9ポイント高くなっている。(図2-1-2)

【図2-1-3 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか（年齢別）】



年齢別でみると、「できない」割合は年齢が上がるほど高くなっている。（図 2-1-3）

【図2-1-4 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか（認定状況別）】

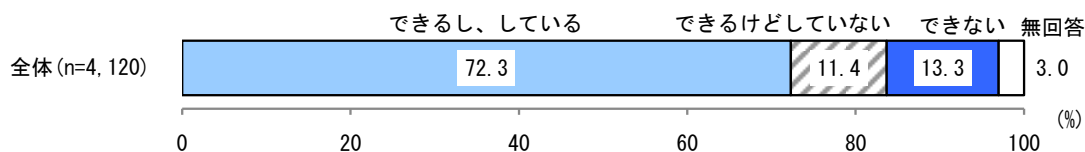


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できない」が70.5%となっている。（図 2-1-4）

（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

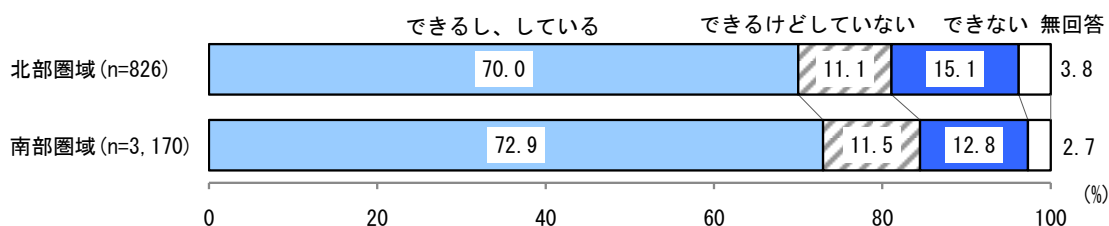
問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（○は1つ）

【図2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか】



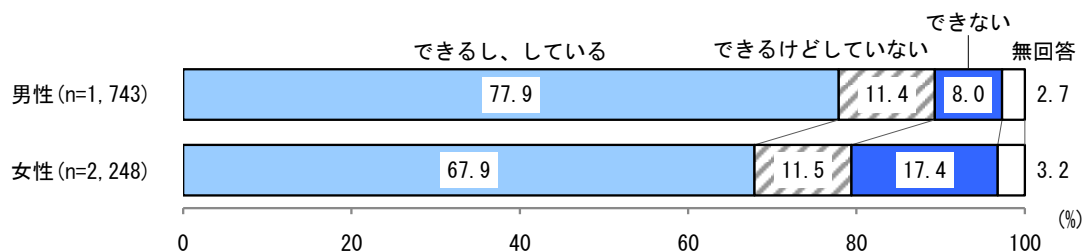
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が72.3%で最も多くなっている。（図 2-2）

【図2-2-1 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか（圏域別）】



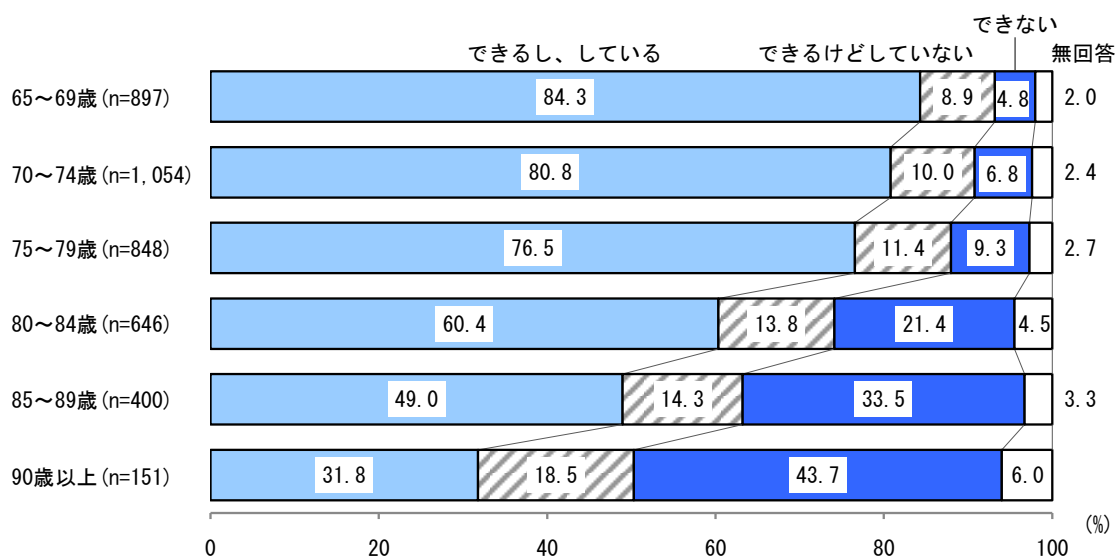
圏域別でみると、「できるし、している」割合は南部圏域のほうが2.9ポイント高くなっている。（図 2-2-1）

【図2-2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか（性別）】



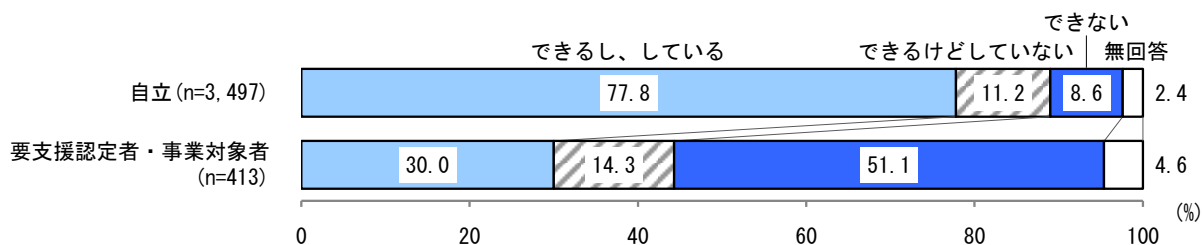
性別でみると、「できるし、している」割合は男性のほうが10.0ポイント高く、「できない」割合は女性のほうが9.4ポイント高くなっている。(図2-2-2)

【図2-2-3 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか（年齢別）】



年齢別でみると、「できない」割合は年齢が上がるほど高くなっている。(図2-2-3)

【図2-2-4 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか（認定状況別）】

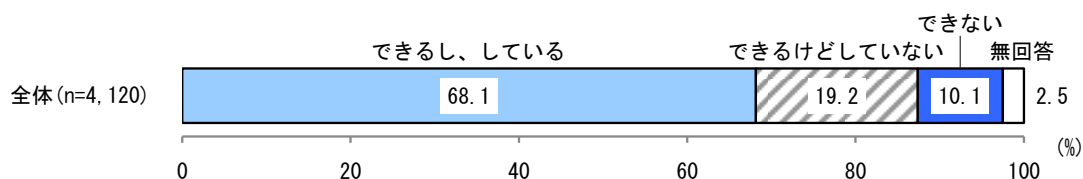


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できない」が51.1%となっている。(図2-2-4)

(3) 15分くらい続けて歩いているか

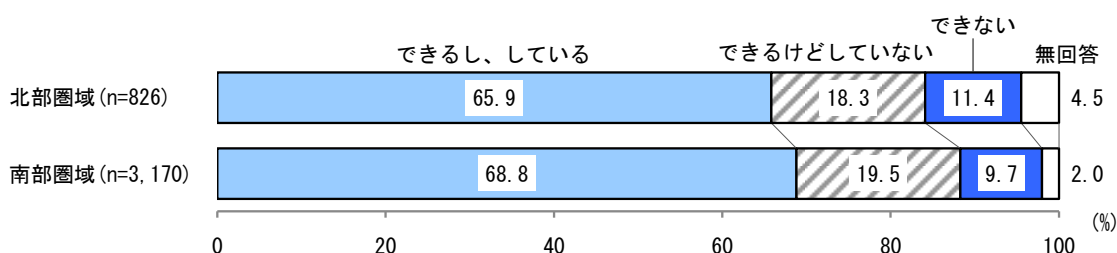
問2 (3) 15分くらい続けて歩いていますか (○は1つ)

【図2-3 15分くらい続けて歩いているか】



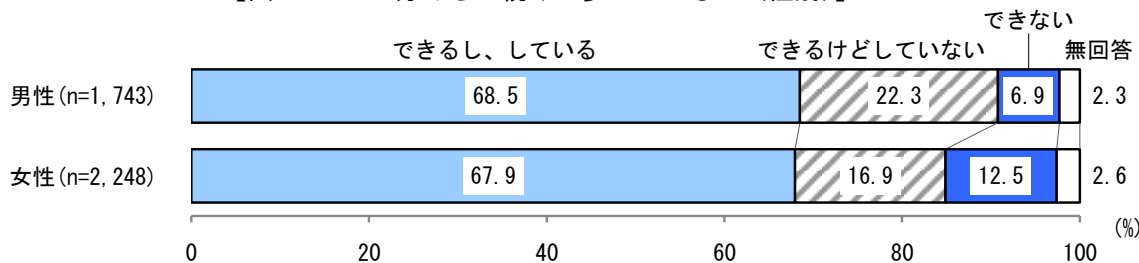
15分くらい続けて歩いているかについては、「できるし、している」が68.1%となっています。(図2-3)

【図2-3-1 15分くらい続けて歩いているか (圏域別)】



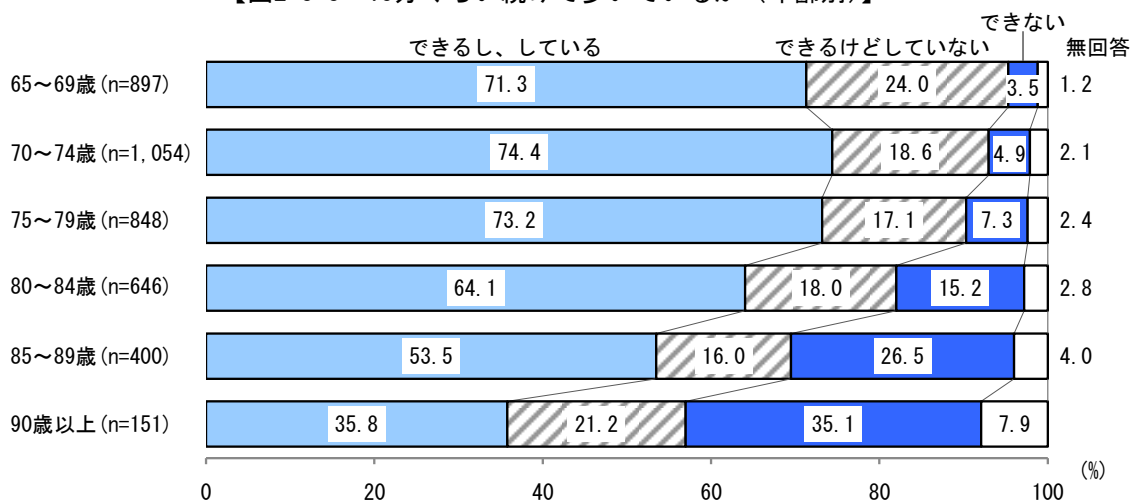
圏域別でみると、「できるし、している」割合は南部圏域のほうが2.9ポイント高くなっている。(図2-3-1)

【図2-3-2 15分くらい続けて歩いているか (性別)】



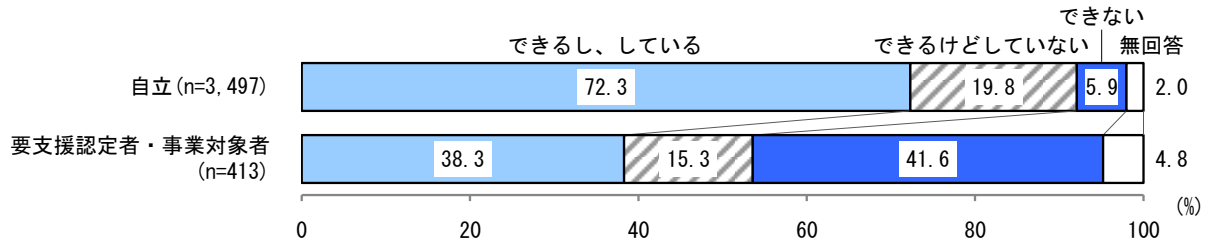
性別でみると、「できない」割合は女性のほうが5.6ポイント高くなっている。(図2-3-2)

【図2-3-3 15分くらい続けて歩いているか (年齢別)】



年齢別でみると、「できない」割合は年齢が上がるほど高くなっている。(図2-3-3)

【図2-3-4 15分くらい続けて歩いているか（認定状況別）】

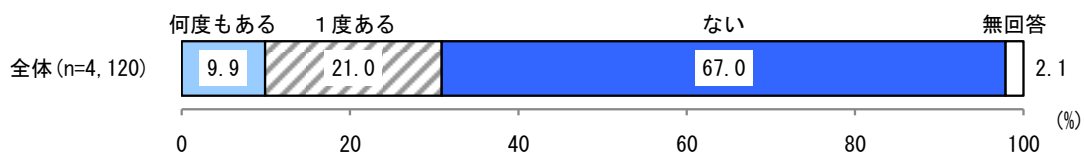


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できない」が41.6%となっている。(図2-3-4)

(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

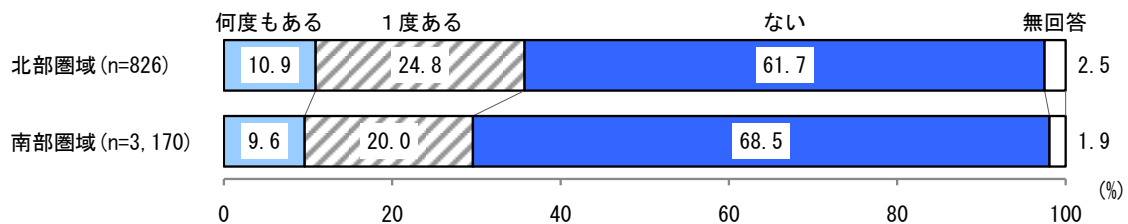
問2 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○は1つ)

【図2-4 過去1年間に転んだ経験があるか】



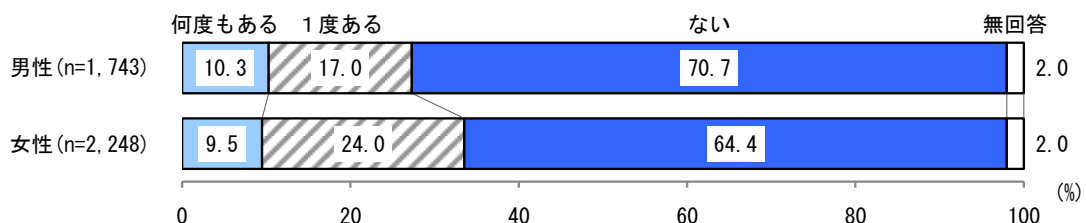
過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が67.0%で最も多く、「一度ある」が21.0%、「何度もある」が9.9%となっている。(図2-4)

【図2-4-1 過去1年間に転んだ経験があるか（圏域別）】



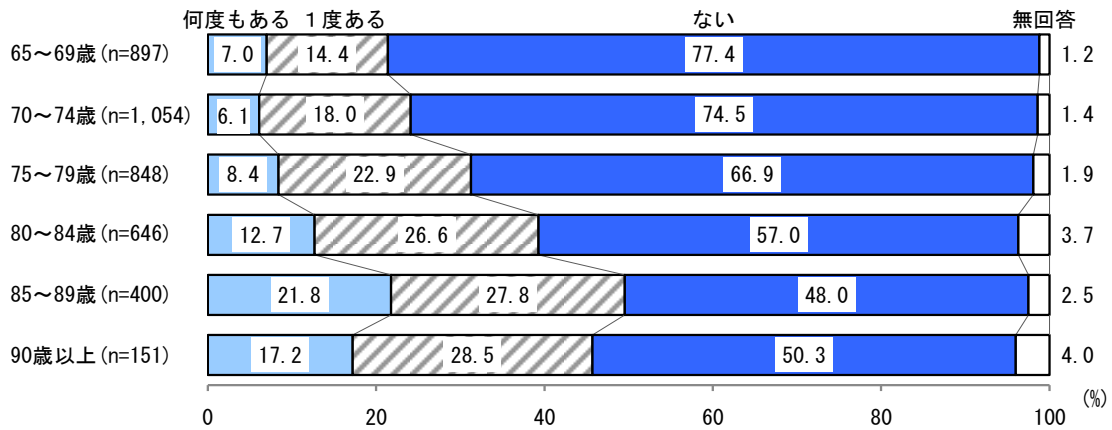
圏域別でみると、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』割合は北部圏域のほうが6.1ポイント高くなっている。(図2-4-1)

【図2-4-2 過去1年間に転んだ経験があるか（性別）】



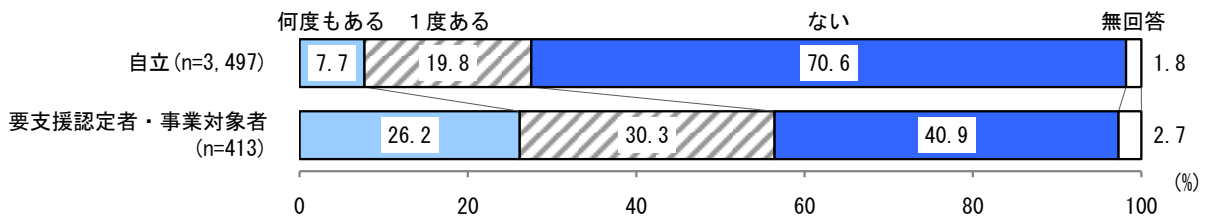
性別でみると、『ある』割合は女性のほうが6.2ポイント高くなっている。(図2-4-2)

【図2-4-3 過去1年間に転んだ経験があるか（年齢別）】



年齢別でみると、『ある』割合は概ね年齢が上がるほど高くなっている。（図 2-4-3）

【図2-4-4 過去1年間に転んだ経験があるか（認定状況別）】

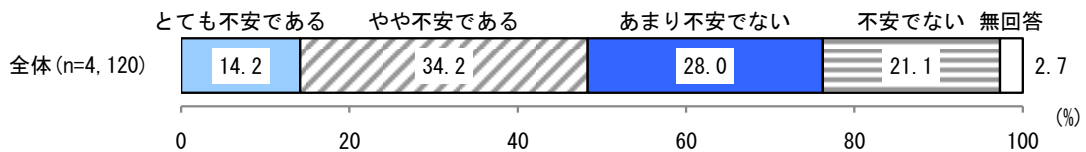


認定状況別でみると、要支援認定者等は『ある』が56.5%となっている。（図 2-4-4）

（5）転倒に対する不安は大きい

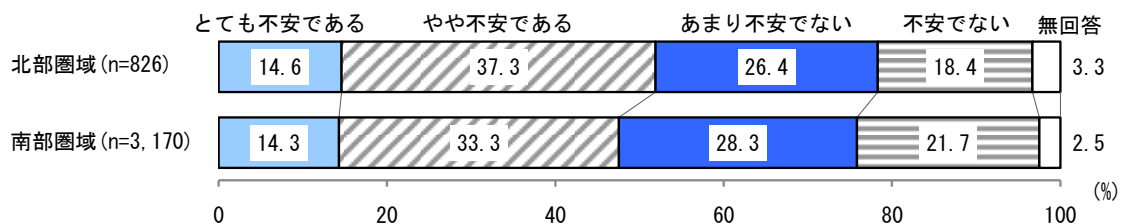
問2（5）転倒に対する不安は大きいですか（○は1つ）

【図2-5 転倒に対する不安は大きいか】



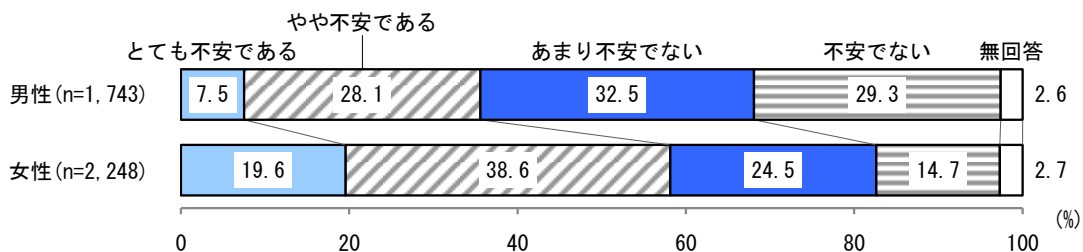
転倒に対する不安については、「やや不安である」が34.2%で最も多く、次いで「あまり不安でない」が28.0%となっている。（図2-5）

【図2-5-1 転倒に対する不安は大きいか（圏域別）】



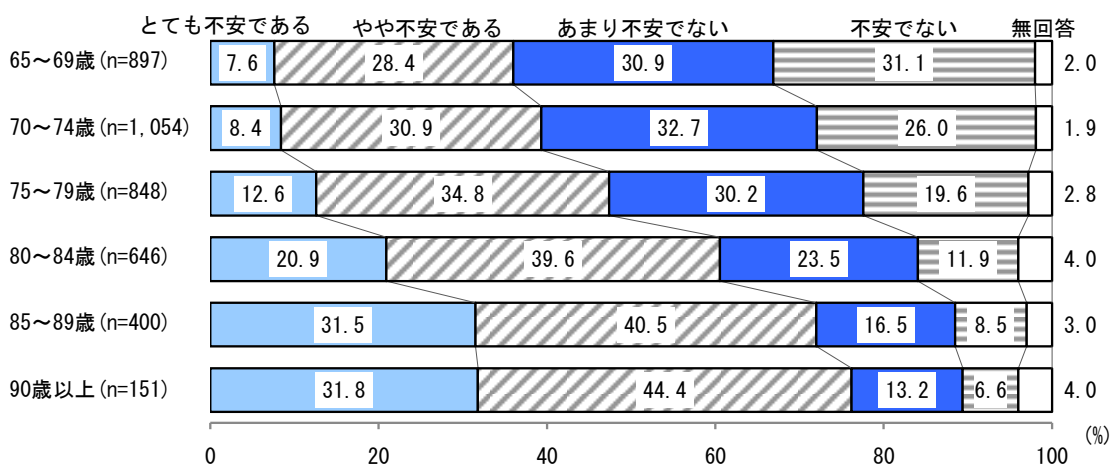
圏域別でみると、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』割合は、北部圏域が51.9%で南部圏域（47.6%）より4.3ポイント高くなっている。（図 2-5-1）

【図2-5-2 転倒に対する不安は大きいか（性別）】



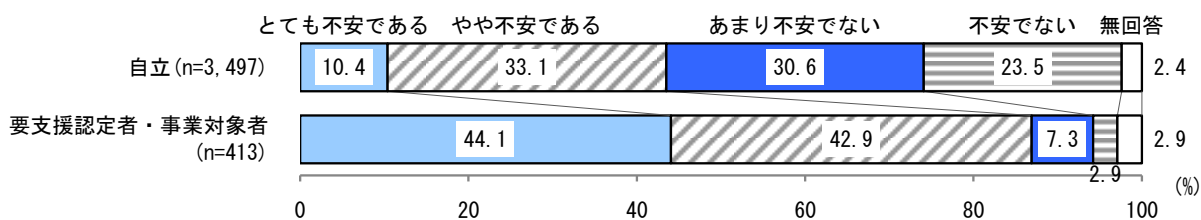
性別でみると、『不安である』割合は女性が58.2%で、男性（35.6%）より22.6ポイント高くなっている。（図2-5-2）

【図2-5-3 転倒に対する不安は大きいか（年齢別）】



年齢別でみると、『不安である』割合は、年齢が上がるほど高くなっている。（図2-5-3）

【図2-5-4 転倒に対する不安は大きいか（認定状況別）】

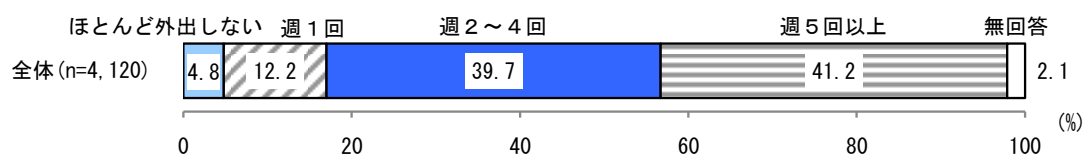


認定状況別でみると、要支援認定者等は『不安である』が87.0%となっている。自立度が高い方でも『不安である』が43.5%となっている。（図2-5-4）

(6) 週に1回以上は外出しているか

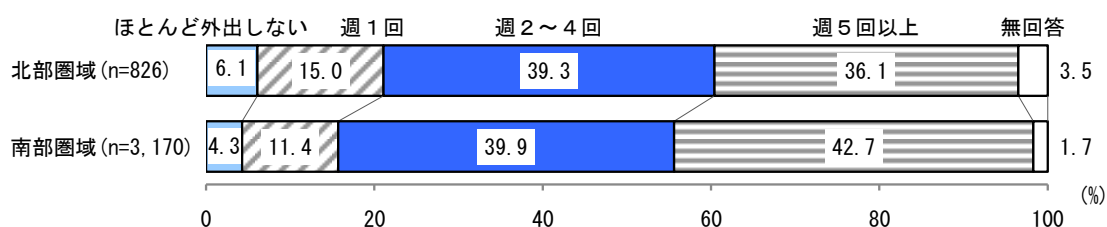
問2 (6) 週に1回以上は外出していますか (○は1つ)

【図2-6 週に1回以上は外出しているか】



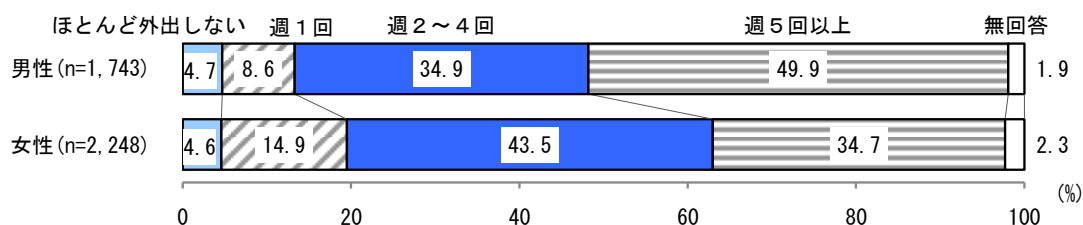
外出しているかについては、「週5回以上」が41.2%で最も多く、次いで「週2~4回」が39.7%となっている。(図2-6)

【図2-6-1 週に1回以上は外出しているか (圏域別)】



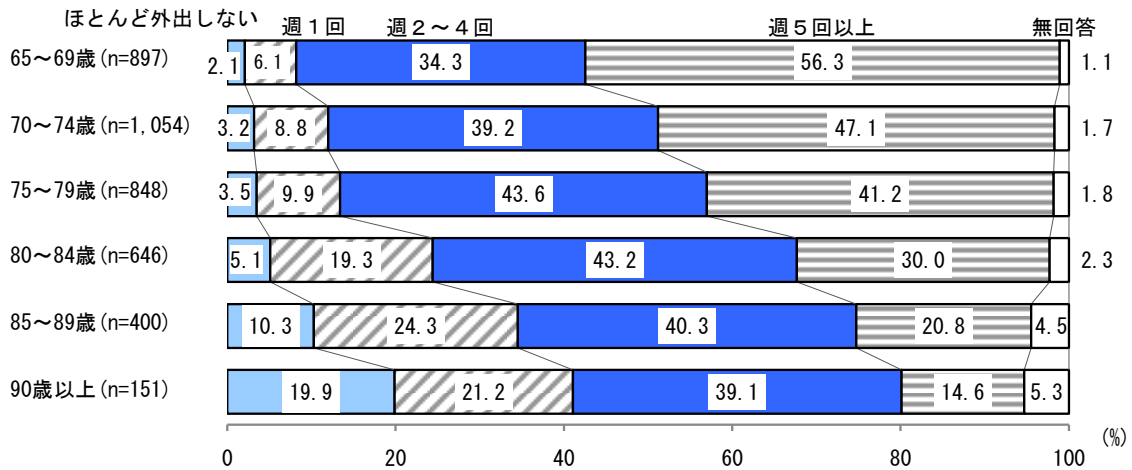
圏域別でみると、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた『外出しない』割合は、北部圏域が21.1%で、南部圏域(15.7%)より5.4ポイント高くなっている。(図2-6-1)

【図2-6-2 週に1回以上は外出しているか (性別)】



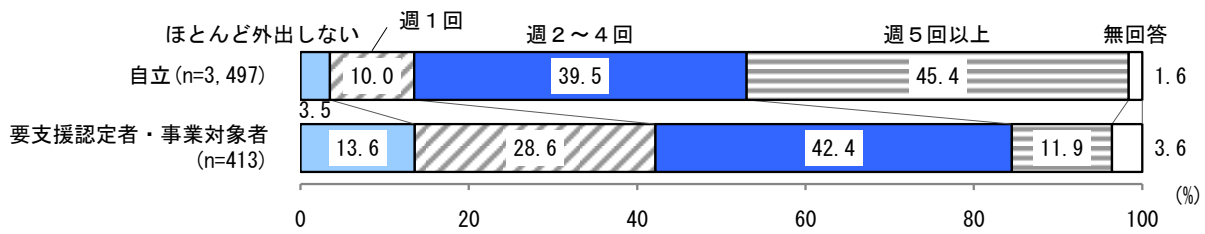
性別でみると、『外出しない』割合は女性が19.5%で、男性(13.3%)よりも6.2ポイント高くなっている。(図2-6-2)

【図2-6-3 週に1回以上は外出しているか（年齢別）】



年齢別でみると、『外出しない』割合は年齢が上がるほど高くなっている。(図 2-6-3)

【図2-6-4 週に1回以上は外出しているか（認定状況別）】

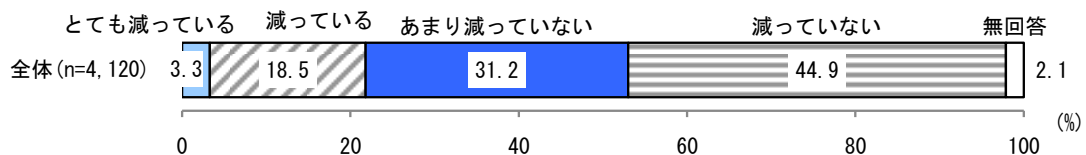


認定状況別でみると、要支援認定者等は『外出しない』が42.2%と、「週2～4回」とほぼ同じになっている。(図 2-6-4)

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

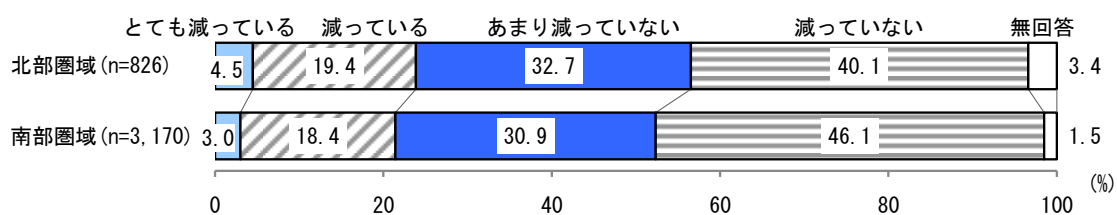
問2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (○は1つ)

【図2-7 昨年と比べて外出の回数が減っているか】



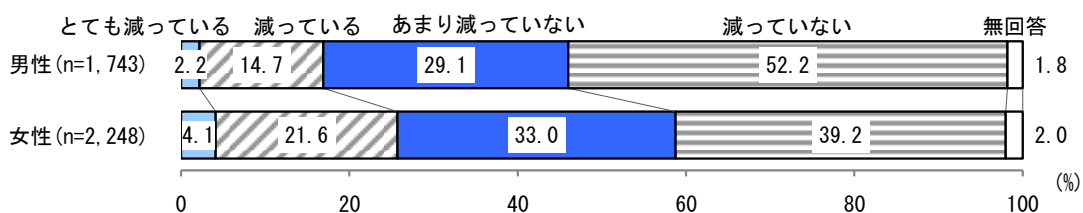
昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」が44.9%で最も多く、次いで「あまり減っていない」が31.2%と、この2つを合わせた『減っていない』人は4分の3を占めている。(図2-7)

【図2-7-1 昨年と比べて外出の回数が減っているか（圏域別）】



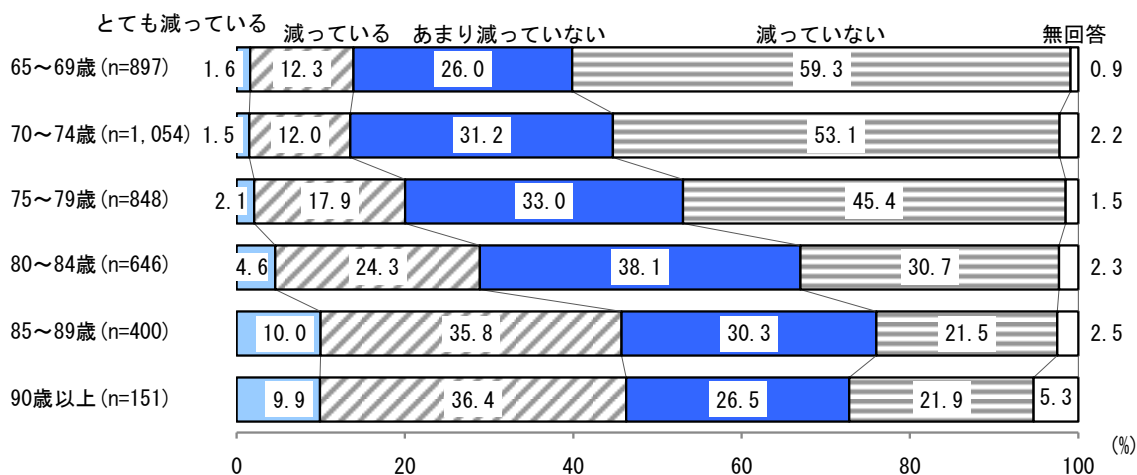
圏域別でみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』割合は、北部圏域が23.9%で、南部圏域（21.4%）より2.5ポイント高くなっている。（図2-7-1）

【図2-7-2 昨年と比べて外出の回数が減っているか（性別）】



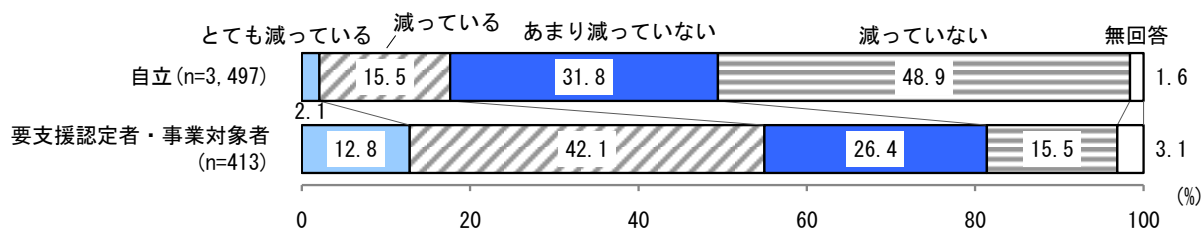
性別でみると、『減っている』割合は女性が25.7%で、男性（16.9%）より8.8ポイント高くなっている。（図2-7-2）

【図2-7-3 昨年と比べて外出の回数が減っているか（年齢別）】



年齢別でみると、『減っている』割合は、年齢が上がるほど高くなっている。（図2-7-3）

【図2-7-4 昨年と比べて外出の回数が減っているか（認定状況別）】

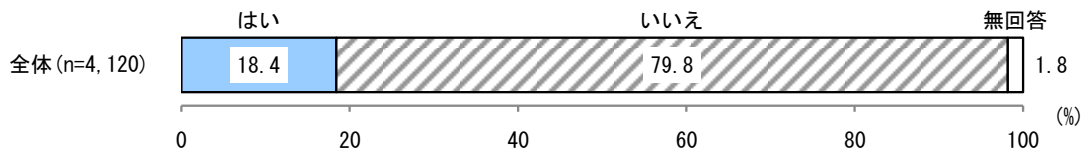


認定状況別でみると、要支援認定者等は「減っている」が42.1%で最も多くなっている。（図2-7-4）

(8) 外出を控えているか

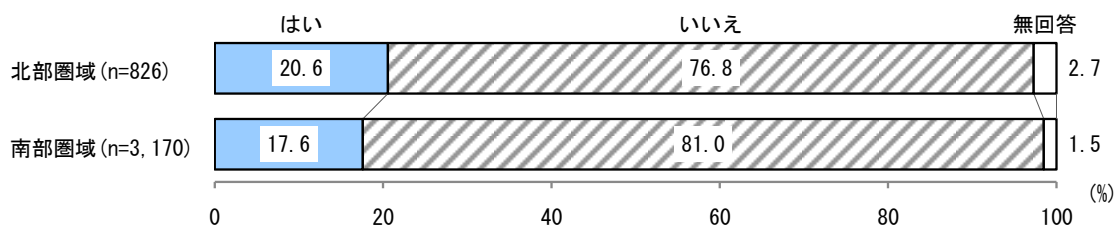
問2 (8) 外出を控えていますか (○は1つ)

【図2-8 外出を控えているか】



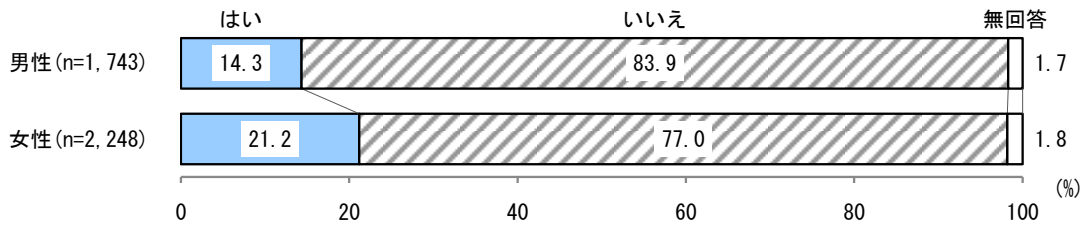
外出を控えているかについては、「はい」が18.4%、「いいえ」が79.8%となっている。(図2-8)

【図2-8-1 外出を控えているか (圏域別)】



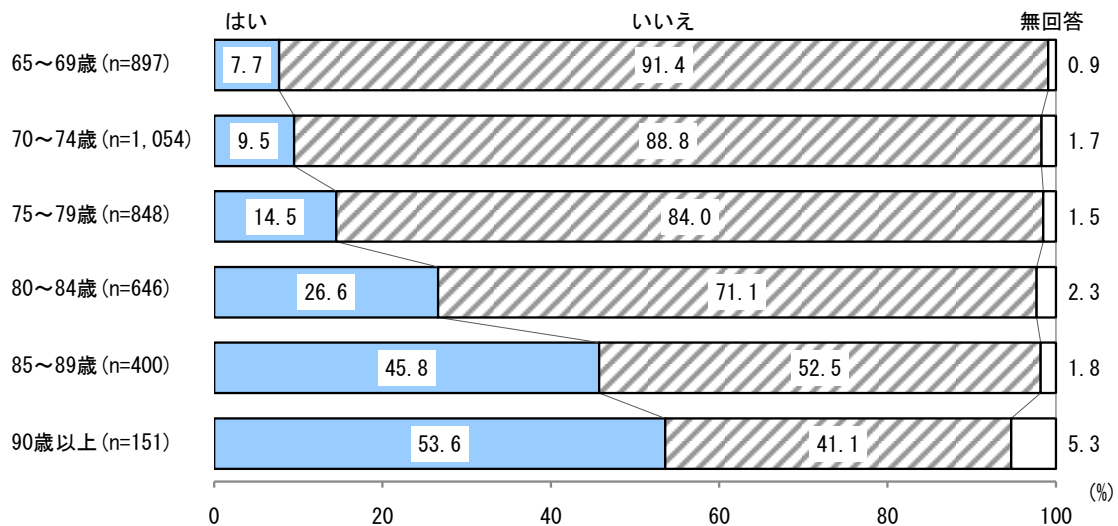
圏域別にみると、「はい」の割合は北部圏域のほうが3.0ポイント高くなっている。(図2-8-1)

【図2-8-2 外出を控えているか (性別)】



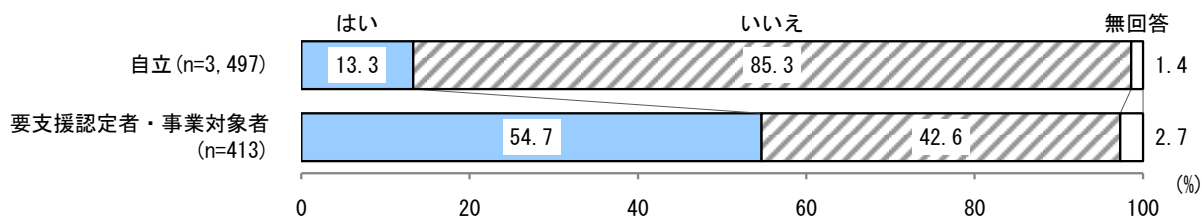
性別でみると、「はい」の割合は女性のほうが6.9ポイント高くなっている。(図2-8-2)

【図2-8-3 外出を控えているか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は年齢が上がるほど高くなっている。(図2-8-3)

【図2-8-4 外出を控えているか（認定状況別）】

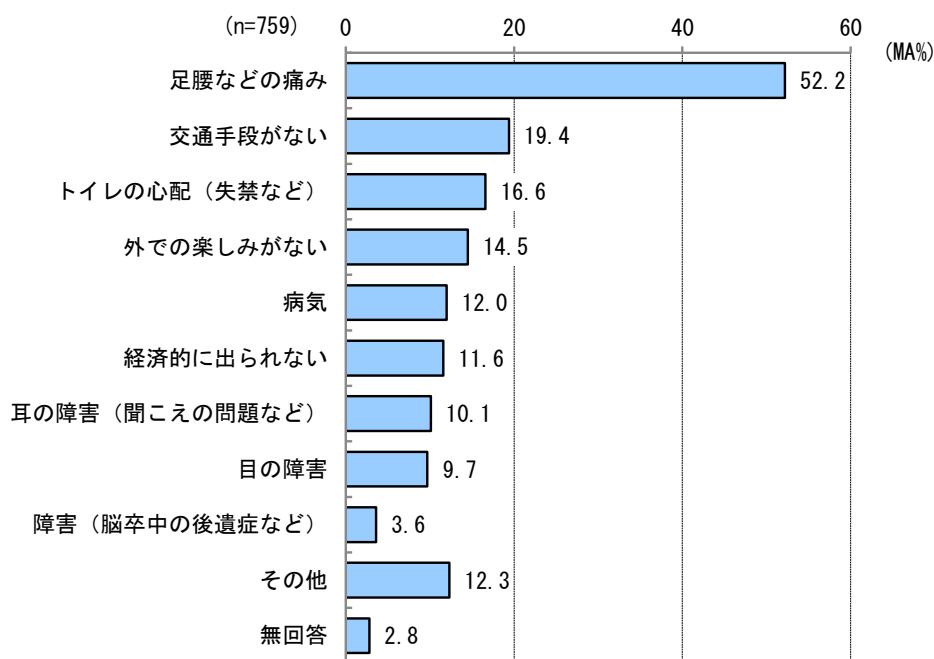


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が54.7%となっている。(図2-8-4)

(8) ① 外出を控えている理由

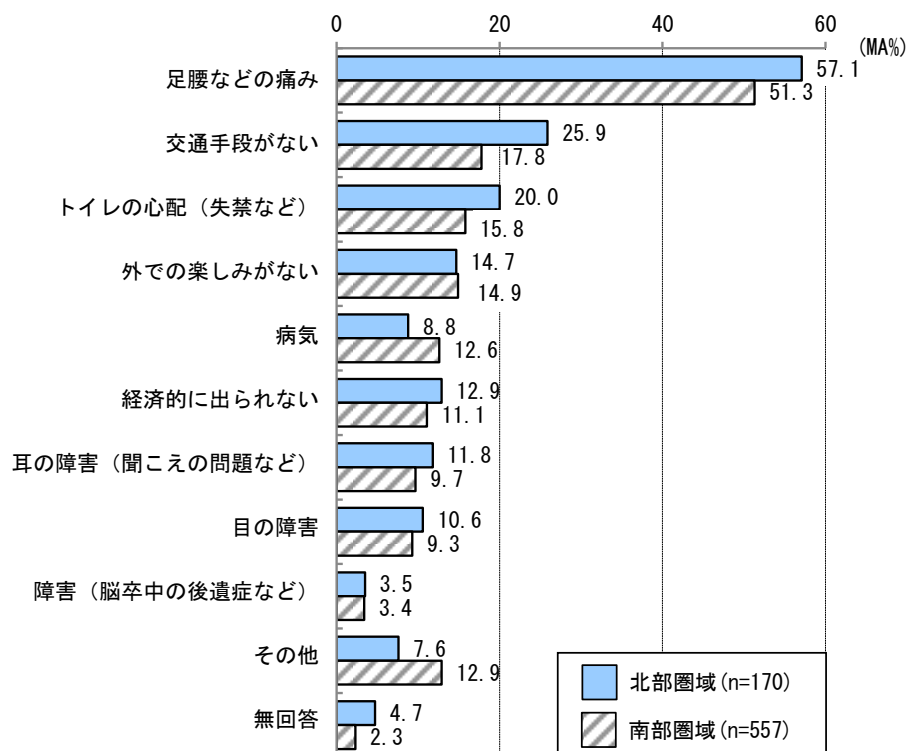
問2 (8) ① 【(8) で「1. はい」(外出を控えている) に○をした方のみ】
 外出を控えている理由は、次のどれですか (○はいくつでも)

【図2-8-1 外出を控えている理由】



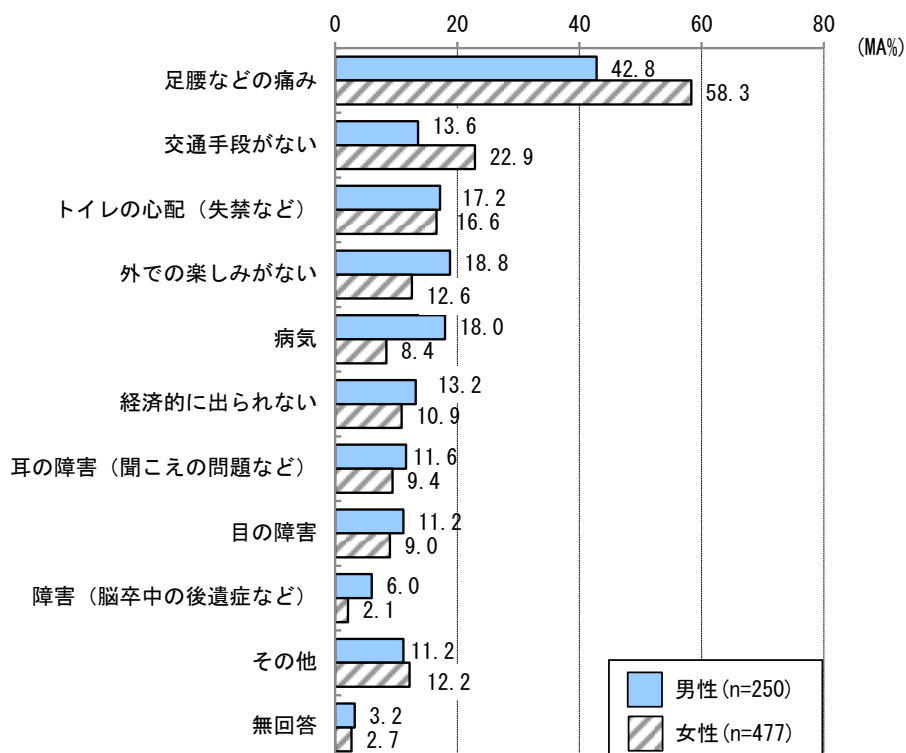
外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」が52.2%で最も多く、次いで「交通手段がない」が19.4%、「トイレの心配 (失禁など)」が16.6%となっている。(図2-8-1)

【図2-8-1-1 外出を控えている理由（圏域別）】



圏域別でみると、「交通手段がない」割合は、北部圏域のほうが8.1ポイント高くなっている。
 (図 2-8-1-1)

【図2-8-1-2 外出を控えている理由（性別）】



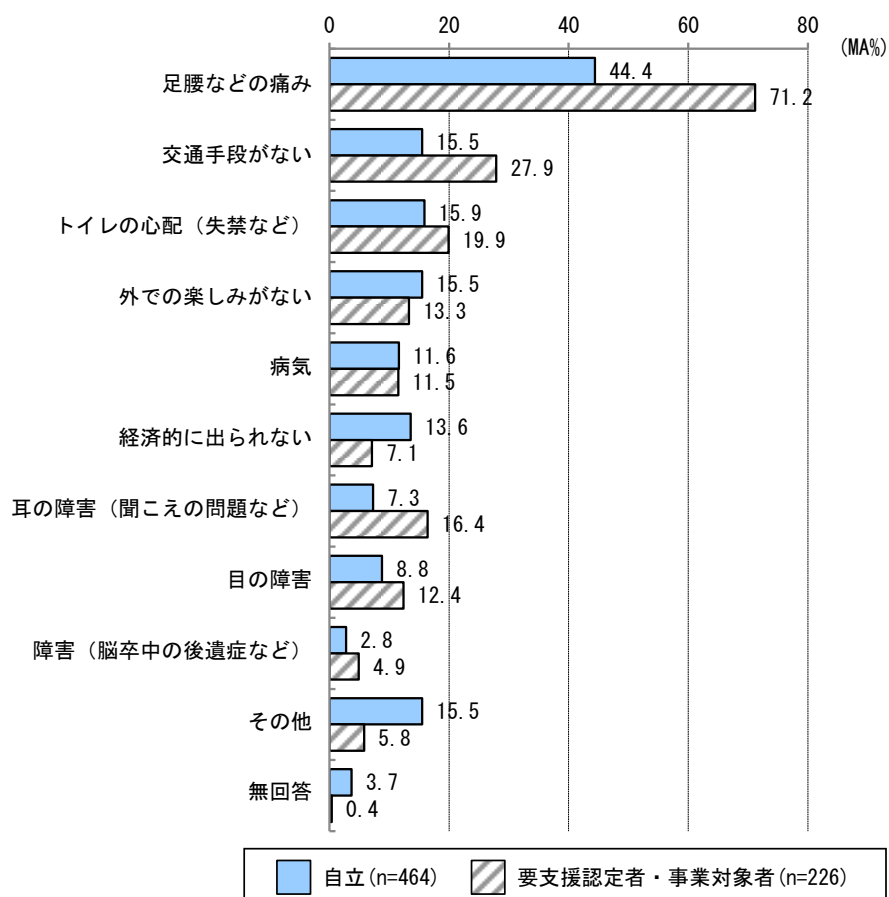
性別でみると、「病気」「外での楽しみがない」の割合は、男性のほうが6ポイント以上高くなっている。「足腰などの痛み」「交通手段がない」の割合は、女性のほうが9ポイント以上高くなっている。
 (図 2-8-1-2)

【表2-8-1-3 外出を控えている理由（年齢別）】

	n	足腰などの痛み	交通手段がない	トイレの心配（失禁など）	外での楽しみがない	病気	経済的に出られない	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	障害（脳卒中の後遺症など）	その他	無回答
65～69歳	69	29.0	7.2	10.1	17.4	20.3	21.7	1.4	7.2	4.3	18.8	7.2
70～74歳	100	33.0	6.0	16.0	26.0	21.0	18.0	0.0	5.0	8.0	22.0	0.0
75～79歳	123	43.9	17.1	15.4	16.3	10.6	11.4	4.9	8.9	0.8	13.8	3.3
80～84歳	172	61.0	20.9	16.3	7.6	8.7	15.7	7.6	7.0	3.5	7.0	3.5
85～89歳	183	67.8	27.9	18.6	14.8	8.2	4.9	19.7	10.4	2.7	9.3	2.2
90歳以上	81	58.0	29.6	22.2	11.1	8.6	1.2	22.2	22.2	1.2	6.2	2.5

年齢別でみると、どの年代も「足腰などの痛み」が最も多くなっている。（表 2-8-1-3）

【図2-8-1-4 外出を控えている理由（認定状況別）】

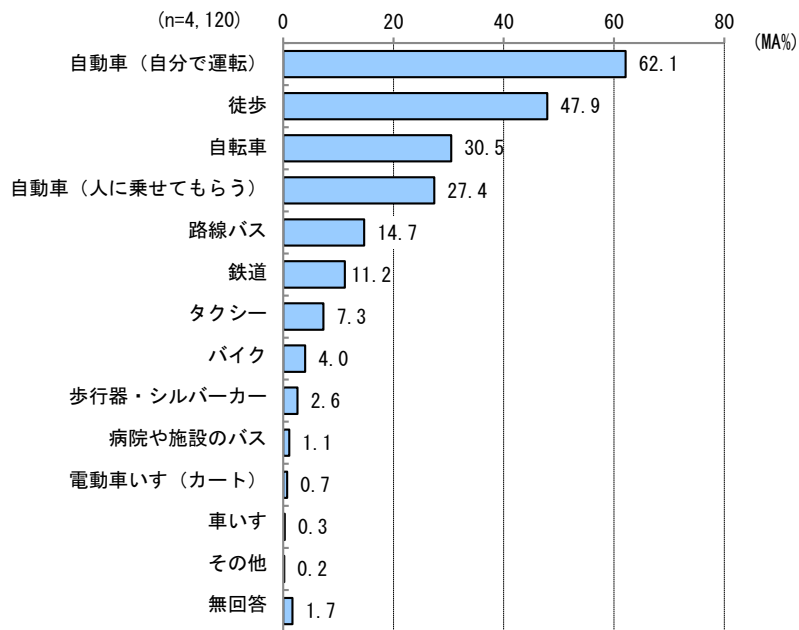


認定状況別でみると、要支援認定者等は「足腰などの痛み」が71.2%で最も多く、次いで「交通手段がない」が27.9%となっている。（図 2-8-1-4）

(9) 外出の際の移動手段

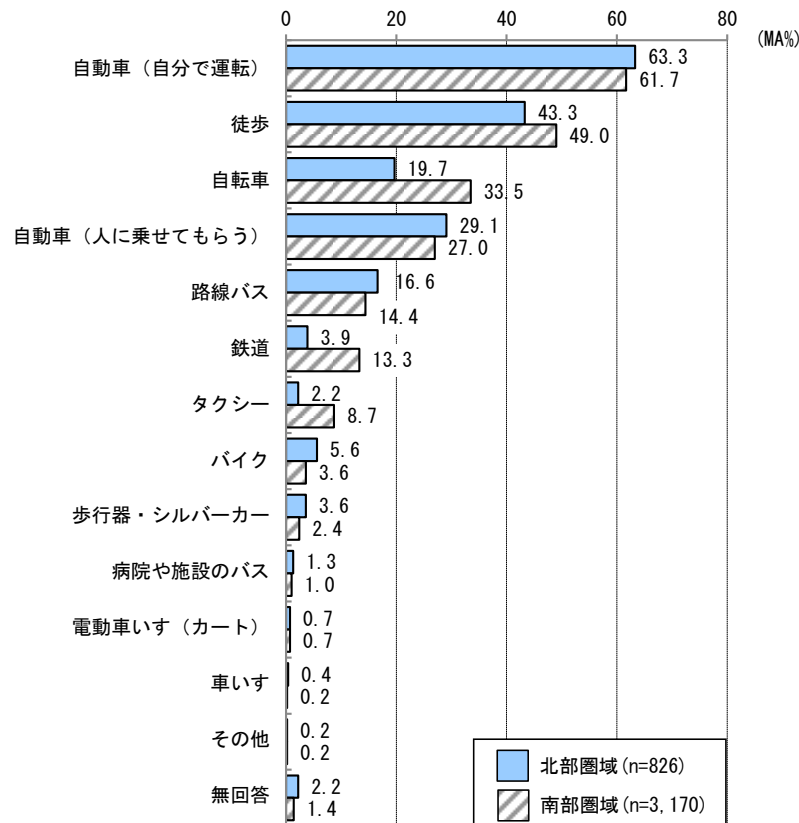
問2 (9) 外出する際の移動手段は何ですか (〇はいくつでも)

【図2-9 外出の際の移動手段】



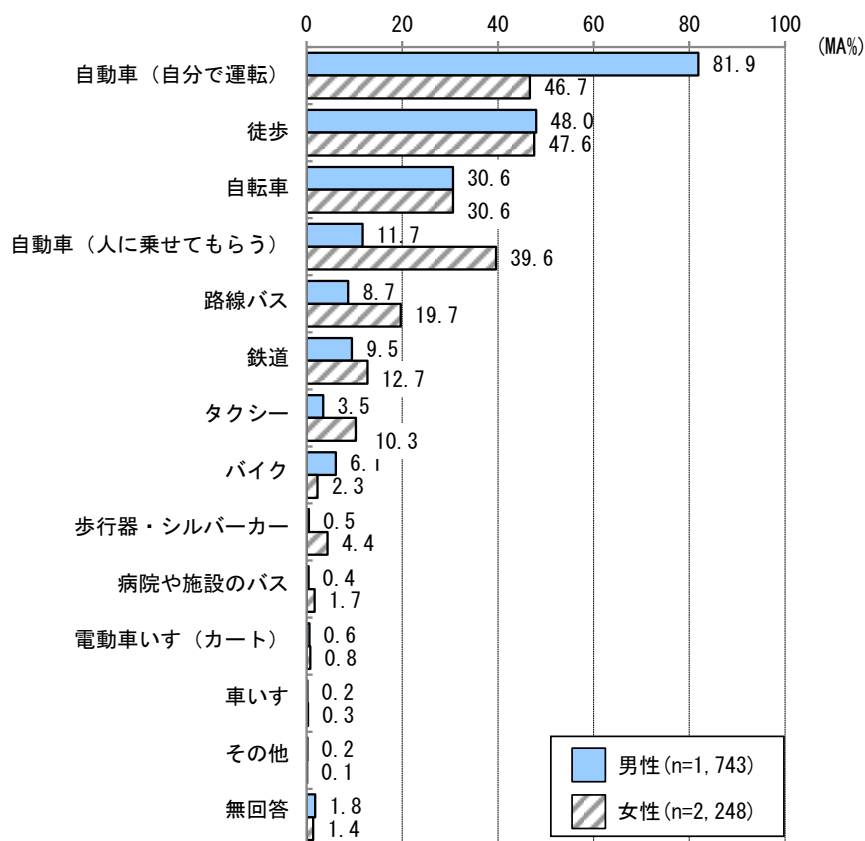
外出の際の移動手段については、「自動車(自分で運転)」が62.1%で最も多く、次いで「徒歩」が47.9%、「自転車」が30.5%となっている。(図2-9)

【図2-9-1 外出の際の移動手段(圏域別)】



圏域別でみると、自動車ではあまり差がないが、「徒歩」「自転車」「鉄道」「タクシー」の割合は、北部圏域より南部圏域のほうが高くなっている。(図2-9-1)

【図2-9-2 外出の際の移動手段（性別）】



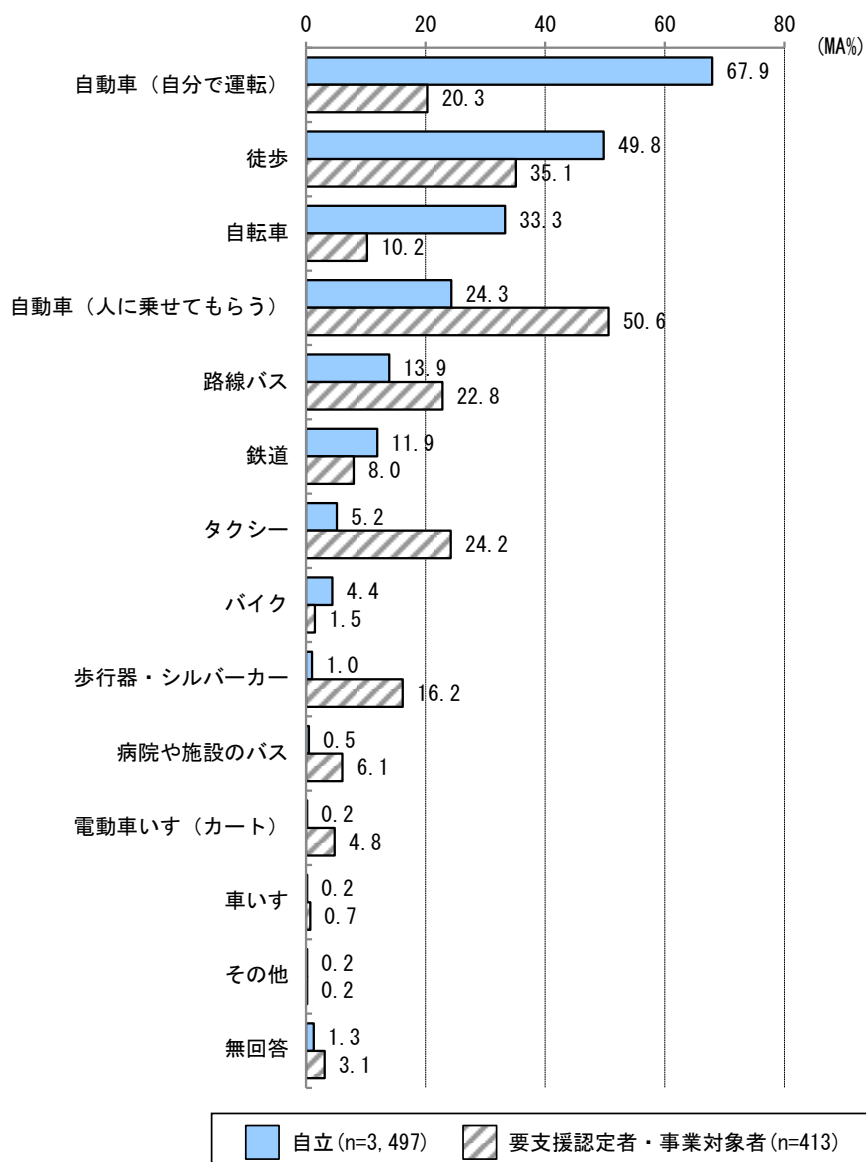
性別でみると、「自動車（自分で運転）」の割合は、男性のほうが35.2ポイント高くなっている。また「自動車（人に乗せてもらう）」の割合は、女性のほうが27.9ポイント高くなっている。（図2-9-2）

【表2-9-3 外出の際の移動手段（年齢別）】

	n	（自動車 （自分で運転）	徒歩	自転車	（自動車 （人に乗せてもらう）	路線バス	鉄道	タクシー	バイク	歩行器・ シルバーカー	病院や施設のバス	電動車いす （カート）	車いす	その他	無回答
65～69歳	897	83.1	49.2	31.7	16.8	7.1	10.0	2.1	5.5	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0	1.2
70～74歳	1,054	76.2	49.6	33.9	23.1	10.4	11.9	3.2	4.6	0.1	0.4	0.0	0.2	0.3	1.3
75～79歳	848	63.1	51.8	35.7	25.8	18.4	14.4	7.1	3.9	1.3	0.7	0.4	0.1	0.1	1.3
80～84歳	646	41.6	43.7	29.6	34.2	23.1	12.8	9.9	2.9	5.3	2.3	1.4	0.2	0.0	2.5
85～89歳	400	26.8	42.8	17.5	45.0	22.3	5.8	19.3	1.5	9.8	2.8	2.0	0.3	0.5	1.5
90歳以上	151	11.9	35.8	13.2	55.6	16.6	7.3	25.2	2.0	13.9	4.6	6.0	2.0	0.7	3.3

年齢別でみると、「自動車（自分で運転）」の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。「自動車（人に乗せてもらう）」「タクシー」「歩行器・シルバーカー」の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。（表2-9-3）

【図2-9-4 外出の際の移動手段（認定状況別）】



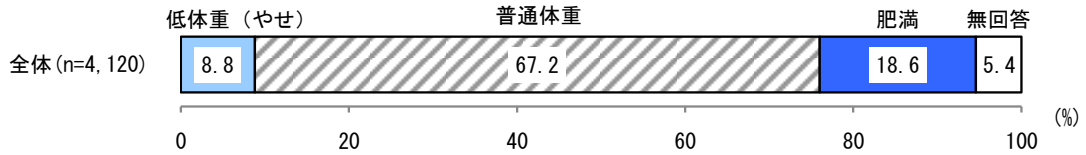
認定状況別で見ると、要支援認定者等は「自動車（人に乗せてもらう）」が50.6%で最も多く、次いで「徒歩」が35.1%となっている。（図2-9-4）

3. 食べることについて

(1) BMI

問3 (1) 身長・体重を下記の欄にご記入ください。(小数点以下は四捨五入)

【図3-1 BMI】

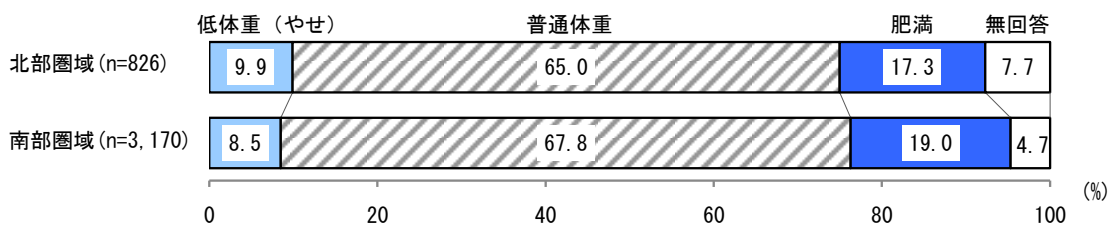


* 記入された身長と体重からBMIを算出している

* BMI=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m)) 18.5未満「低体重(やせ)」、18.5~25.0未満「普通体重」、25.0以上「肥満」

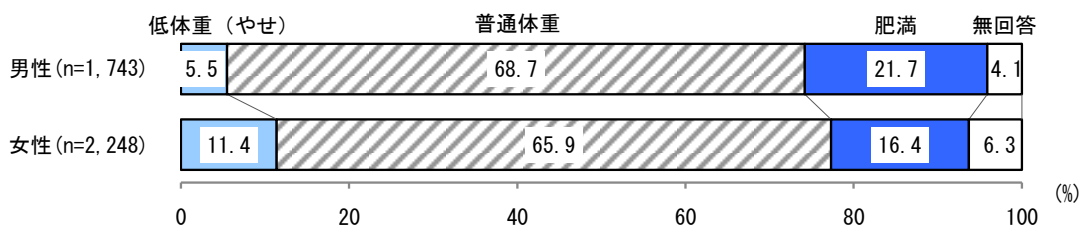
BMI 判定では、「低体重 (やせ)」が8.8%、「普通体重」が67.2%、「肥満」が18.6%となっている。

【図3-1-1 BMI (圏域別)】



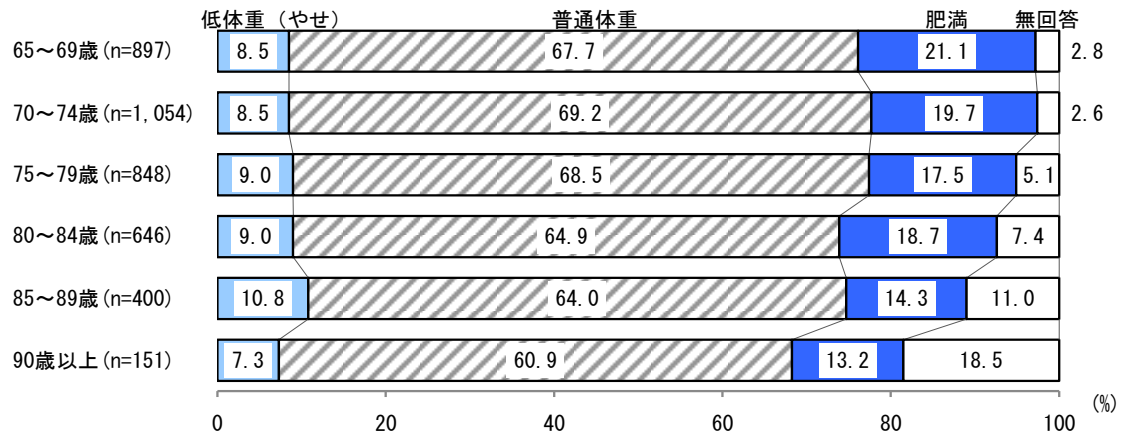
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 3-1-1)

【図3-1-2 BMI (性別)】



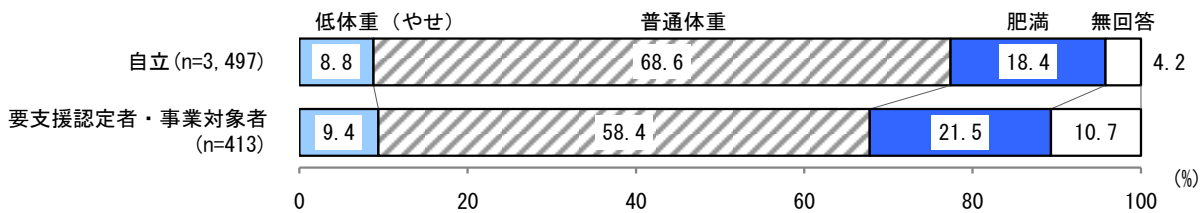
性別でみると、「低体重 (やせ)」の割合は女性のほうが5.9ポイント高くなっており、「肥満」の割合は男性のほうが5.3ポイント高くなっている。(図 3-1-2)

【図3-1-3 BMI（年齢別）】



年齢別で見ると、「肥満」の割合は概ね年齢が上がるほど低くなっている。（図 3-1-3）

【図3-1-4 BMI（認定状況別）】

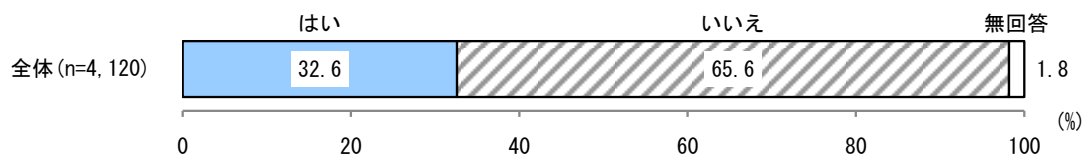


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「低体重（やせ）」が9.4%、「普通体重」が58.4%、「肥満」が21.5%となっている。（図 3-1-4）

（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

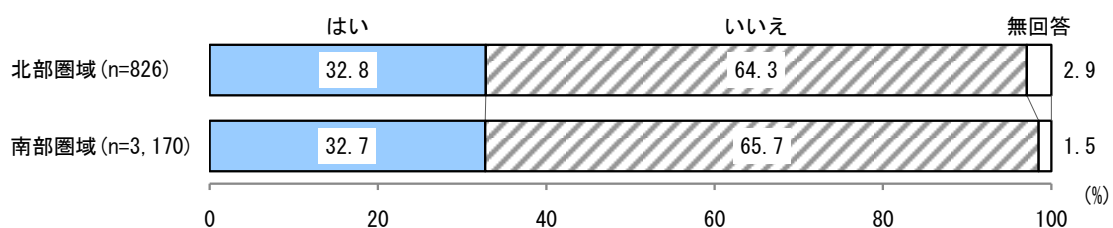
問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（○は1つ）

【図3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか】



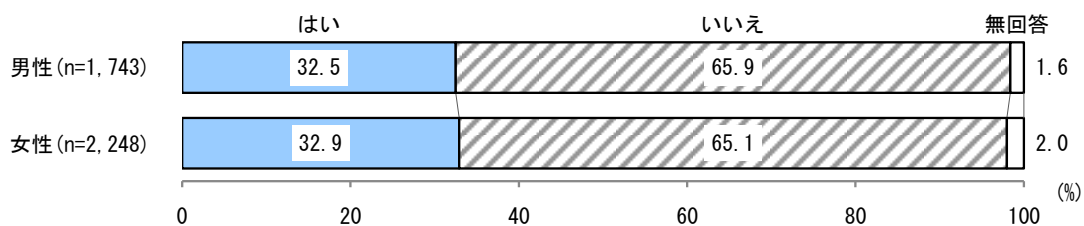
固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が32.6%、「いいえ」が65.6%となっている。（図3-2）

【図3-2-1 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか（圏域別）】



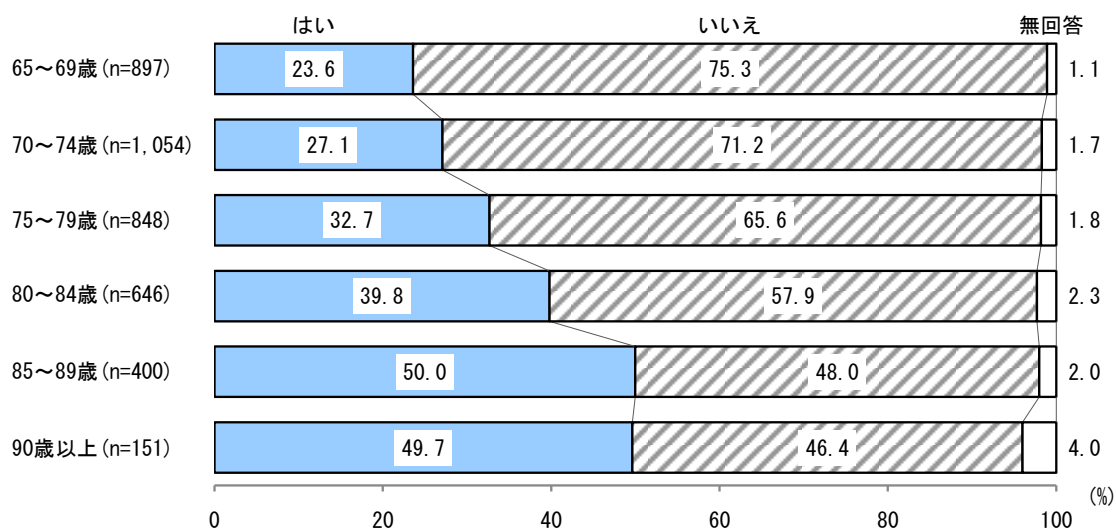
圏域別で見ると、大きな差異はみられない。（図3-2-1）

【図3-2-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか（性別）】



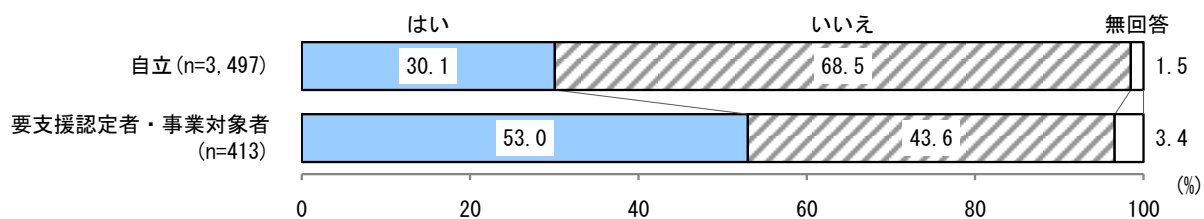
性別でみると、大きな差異はみられない。(図3-2-2)

【図3-2-3 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は、概ね年齢が上がるほど高くなっており、85歳以上では約5割の人が食べにくくなったと感じている。(図3-2-3)

【図3-2-4 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか（認定状況別）】

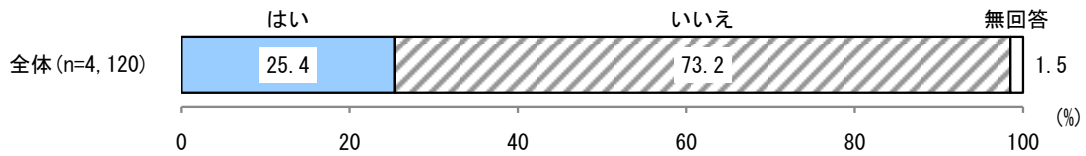


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が53.0%、「いいえ」が43.6%となっている。(図3-2-4)

(3) 汁物等でむせることがあるか

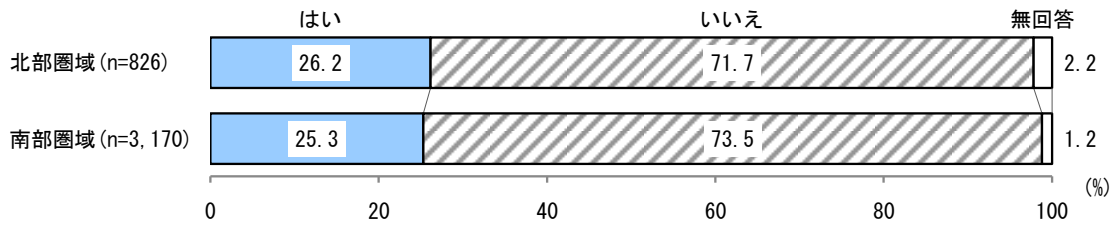
問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか (○は1つ)

【図3-3 汁物等でむせることがあるか】



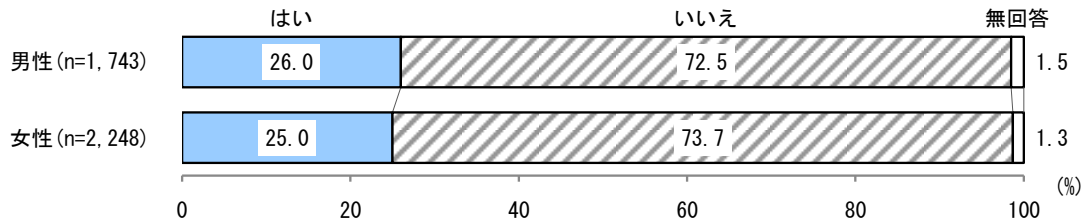
お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が25.4%、「いいえ」が73.2%となっている。(図3-3)

【図3-3-1 汁物等でむせることがあるか (圏域別)】



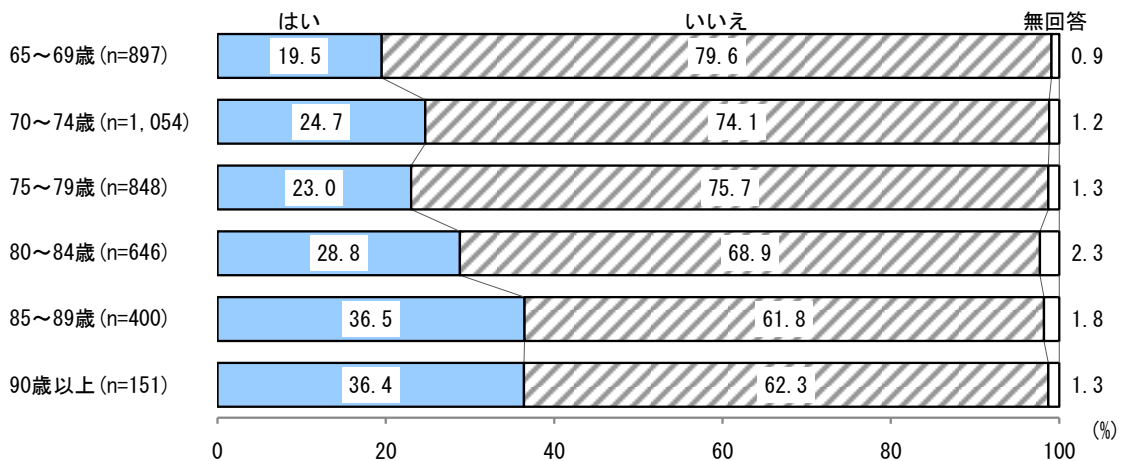
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図3-3-1)

【図3-3-2 汁物等でむせることがあるか (性別)】



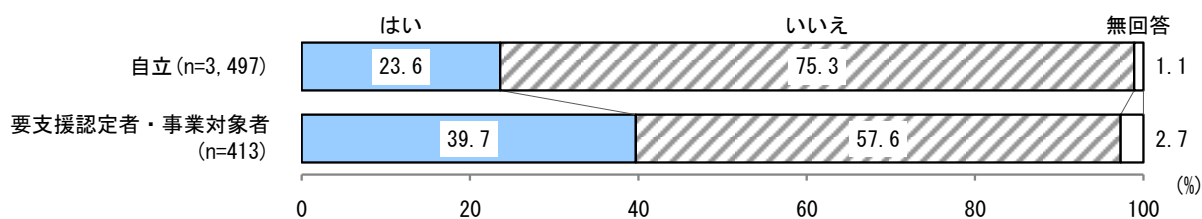
性別でみると、大きな差異はみられない。(図3-3-2)

【図3-3-3 汁物等でむせることがあるか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は概ね年齢が上がるほど高くなっている。(図3-3-3)

【図3-3-4 汁物等でむせることがあるか（認定状況別）】

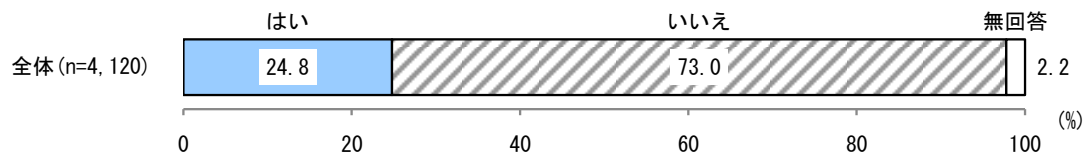


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が39.7%となっている。(図3-3-4)

(4) 口の渇きが気になるか

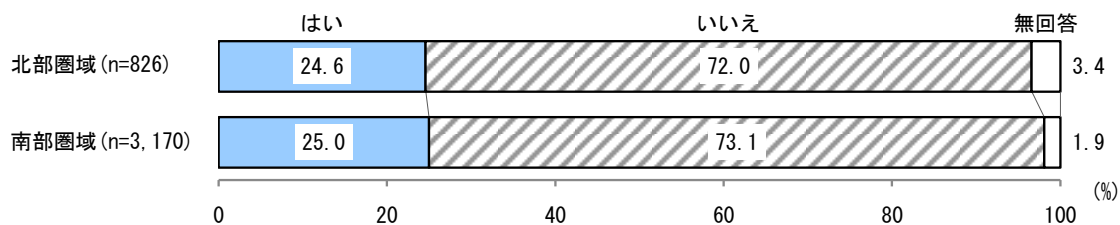
問3 (4) 口の渇きが気になりますか (○は1つ)

【図3-4 口の渇きが気になるか】



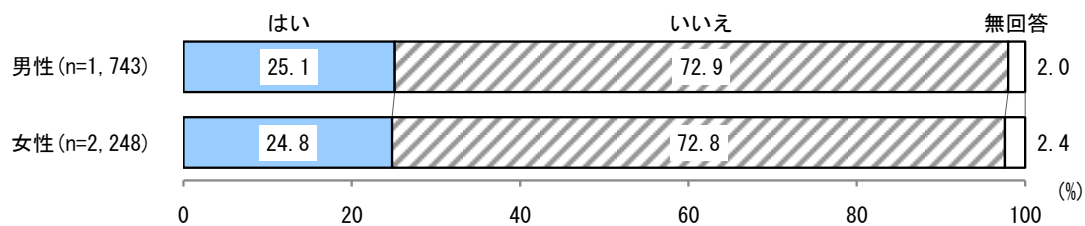
口の渇きが気になるかについては、「はい」が24.8%、「いいえ」が73.0%となっている。(図3-4)

【図3-4-1 口の渇きが気になるか（圏域別）】



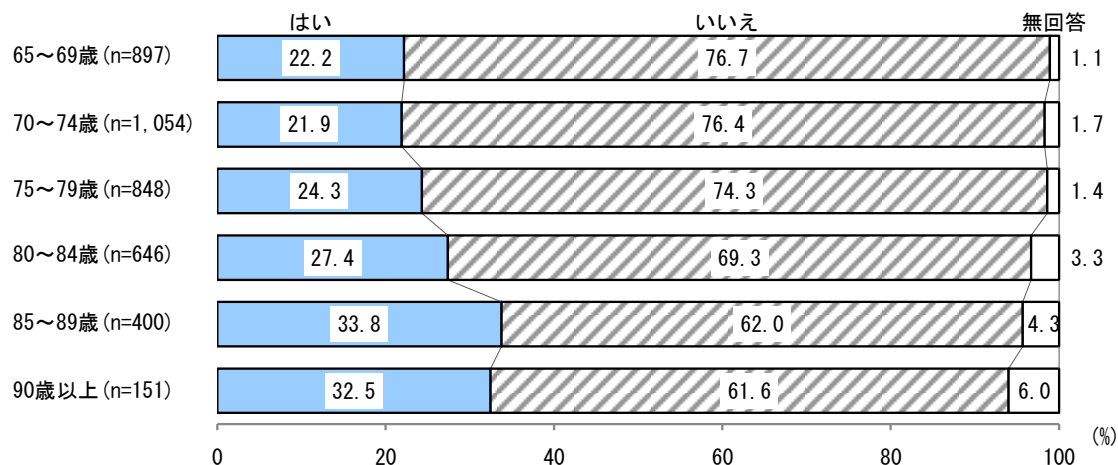
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図3-4-1)

【図3-4-2 口の渇きが気になるか（性別）】



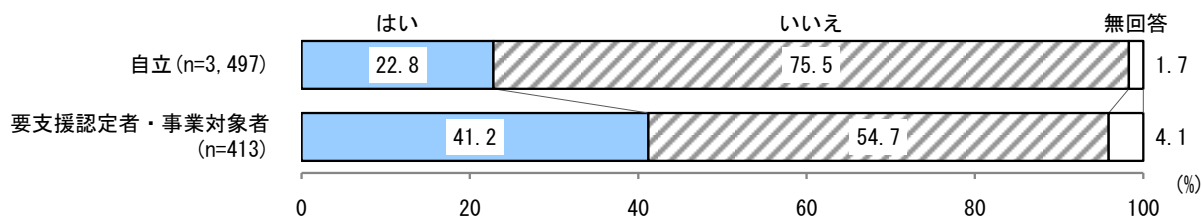
性別でみると、大きな差異はみられない。(図3-4-2)

【図3-4-3 口の渇きが気になるか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は概ね年齢が上がるほど高くなっている。（図3-4-3）

【図3-4-4 口の渇きが気になるか（認定状況別）】

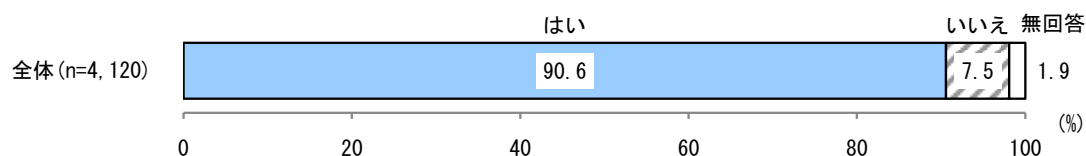


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が41.2%となっている。（図3-4-4）

（5）歯磨きを毎日しているか

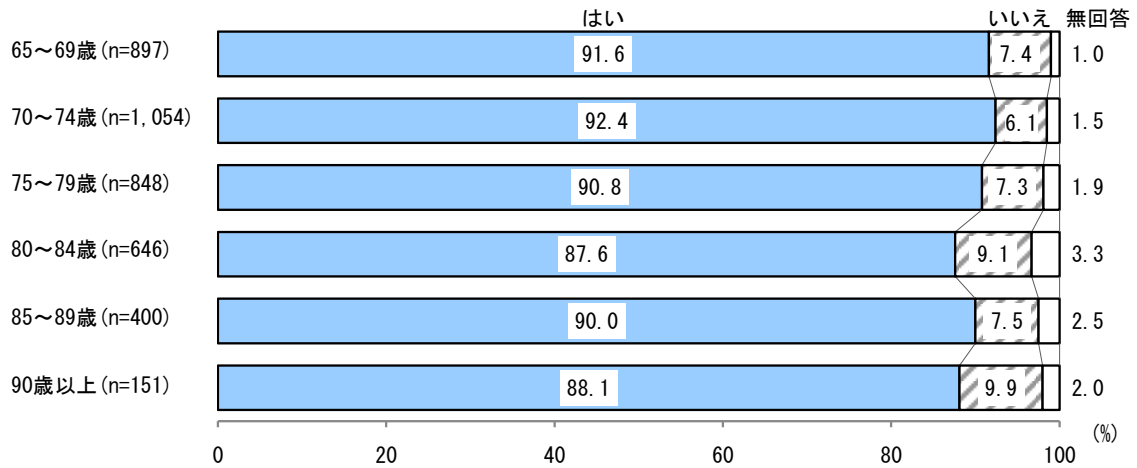
問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（○は1つ）

【図3-5 歯磨きを毎日しているか】



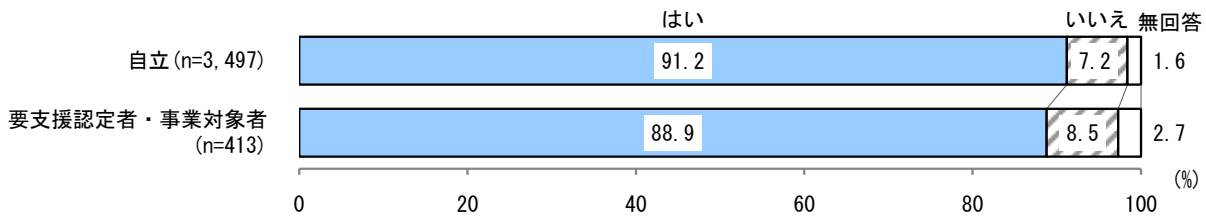
歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が90.6%、「いいえ」が7.5%となっている。（図3-5）

【図3-5-1 歯磨きを毎日しているか（年齢別）】



年齢別でみると、「いいえ」の割合は、90歳以上で9.9%と最も高くなっている。(図3-5-1)

【図3-5-2 歯磨きを毎日しているか（認定状況別）】

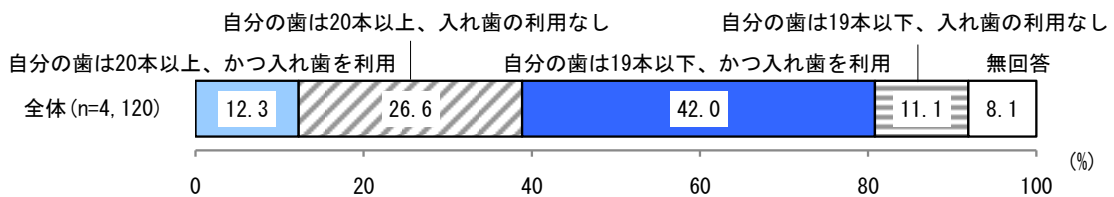


認定状況別でみると、要支援認定者等は「いいえ」が8.5%となっている。(図3-5-2)

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況

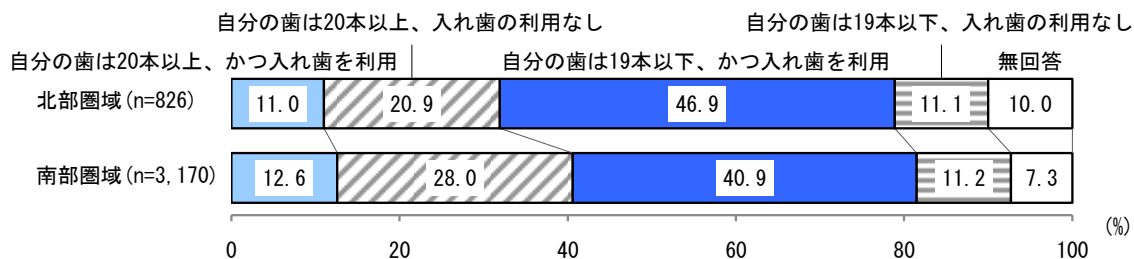
問3 (6) 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください (○は1つ)
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

【図3-6 歯の数と入れ歯の利用状況】



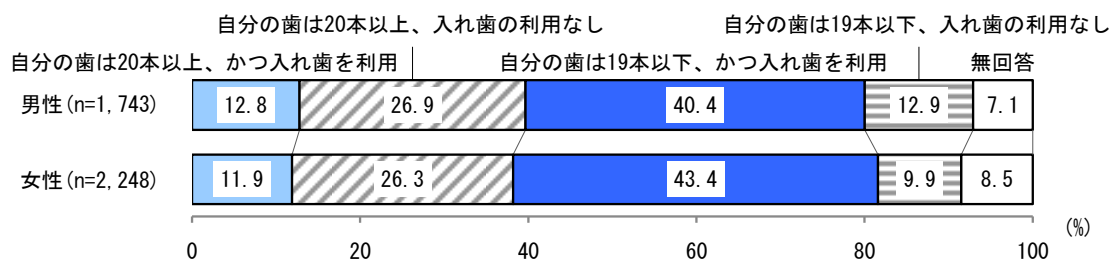
歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が42.0%で最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が26.6%となっている。(図3-6)

【図3-6-1 歯の数と入れ歯の利用状況（圏域別）】



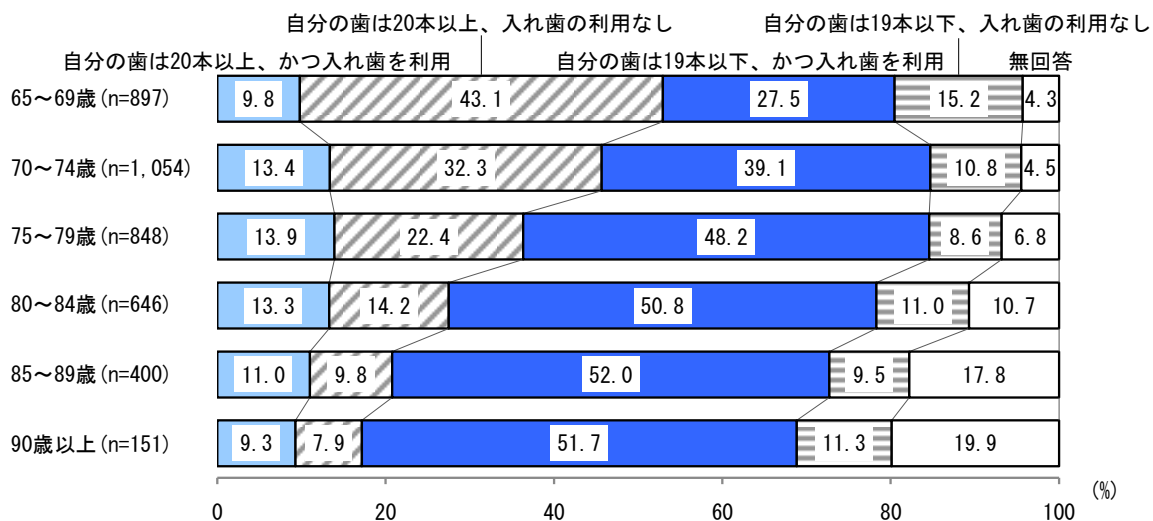
圏域別でみると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合は、南部圏域のほうが7.1ポイント高くなっている。(図3-6-1)

【図3-6-2 歯の数と入れ歯の利用状況（性別）】



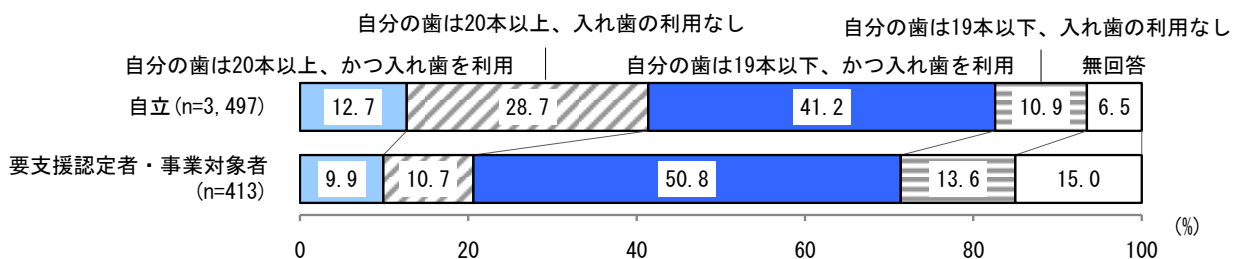
性別でみると、大きな差異はみられない。(図3-6-2)

【図3-6-3 歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）】



年齢別でみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合は、概ね年齢が上がるほど高くなっている。(図3-6-3)

【図3-6-4 歯の数と入れ歯の利用状況（認定状況別）】

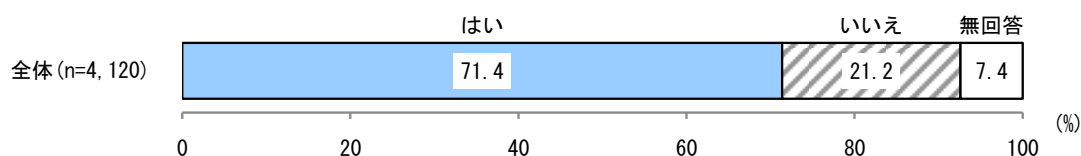


認定状況別でみると、要支援認定者等は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が50.8と最も多くなっている。(図3-6-4)

(6) ① 噛み合わせは良いか

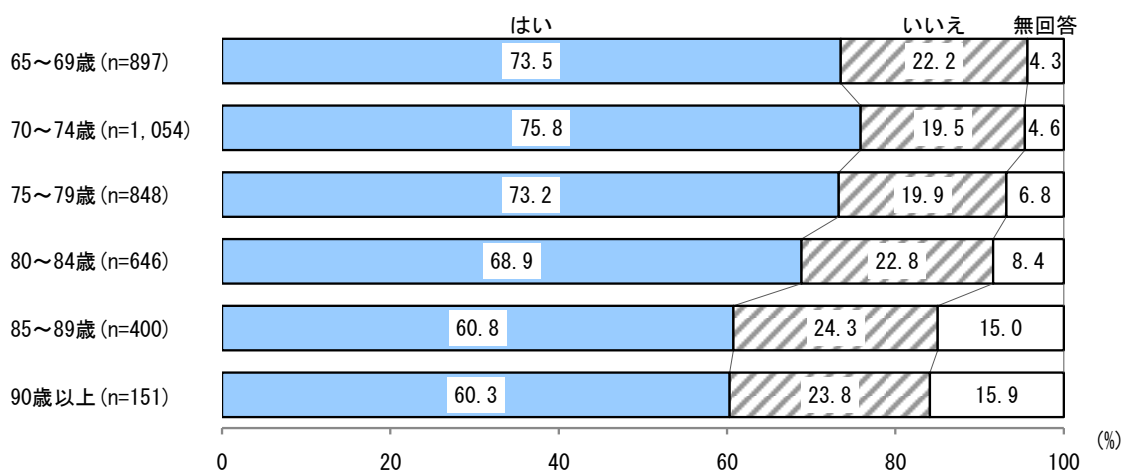
問3 (6) ① 噛み合わせは良いですか (○は1つ)

【図3-6-1 噛み合わせは良いか】



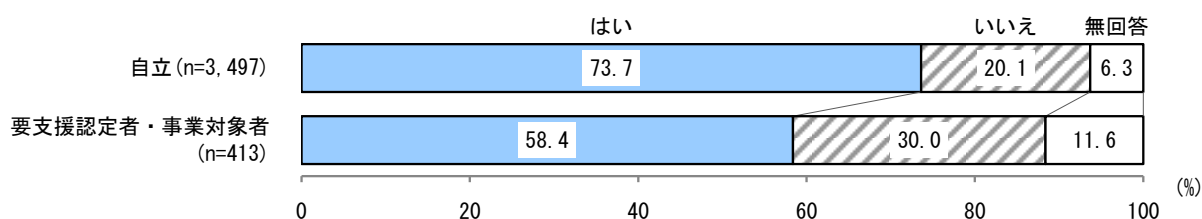
噛み合わせは良いかについては、「はい」が71.4%、「いいえ」が21.2%となっている。(図3-6-1)

【図3-6-1-1 噛み合わせは良いか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。(図3-6-1-1)

【図3-6-1-2 噛み合わせは良いか（認定状況別）】

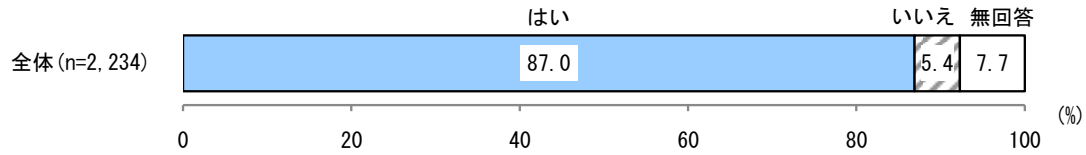


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が58.4%となっている。(図3-6-1-2)

(6) ② 毎日入れ歯の手入れをしているか

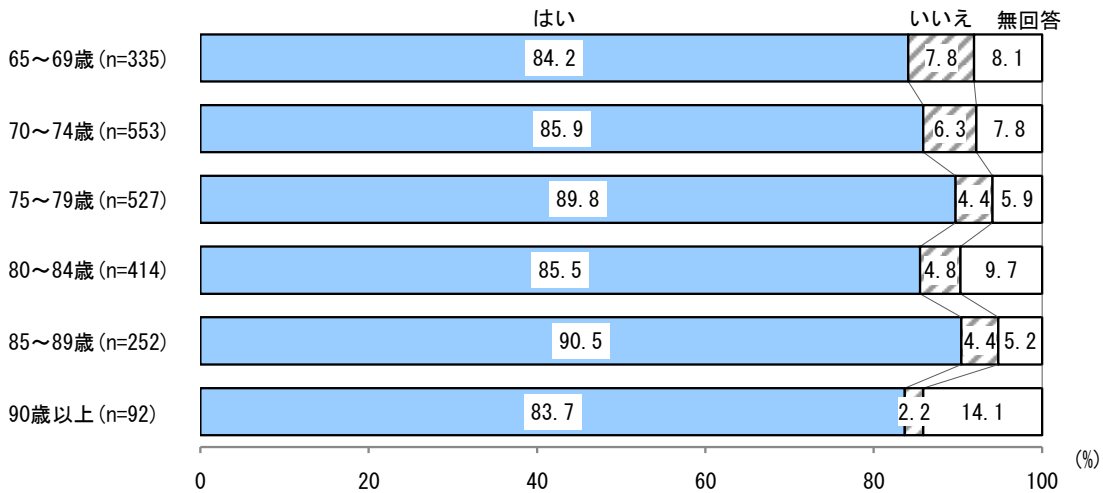
問3 (6) ② 【(6) で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」または「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」に○をした方のみ】毎日入れ歯の手入れをしていますか (○は1つ)

【図3-6-2 毎日入れ歯の手入れをしているか】



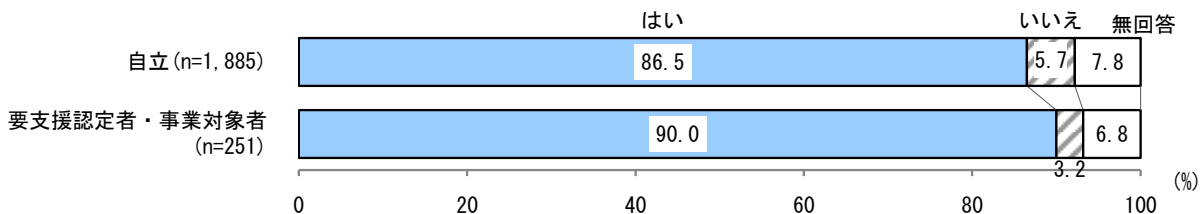
毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が87.0%、「いいえ」が5.4%となっている。(図3-6-2)

【図3-6-2-1 毎日入れ歯の手入れをしているか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合はいずれの年齢も8割以上となっている。(図3-6-2-1)

【図3-6-2-2 毎日入れ歯の手入れをしているか (認定状況別)】

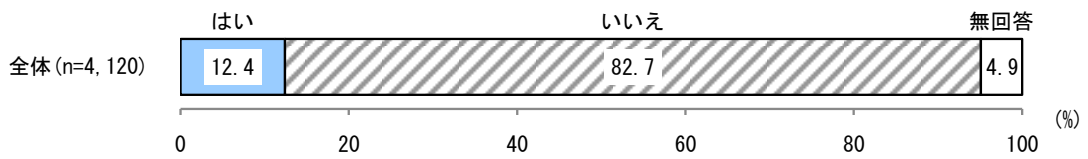


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が90.0%となっている。(図3-6-2-2)

(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

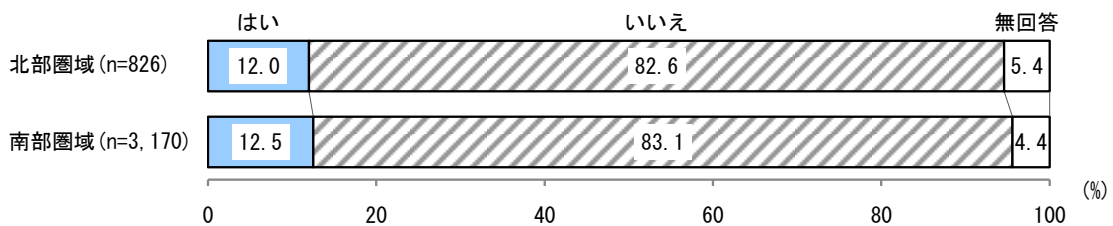
問3 (7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (○は1つ)

【図3-7 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか】



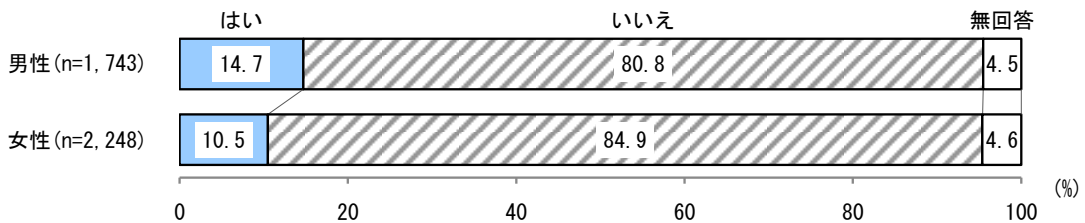
6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が12.4%、「いいえ」が82.7%となっている。(図3-7)

【図3-7-1 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか (圏域別)】



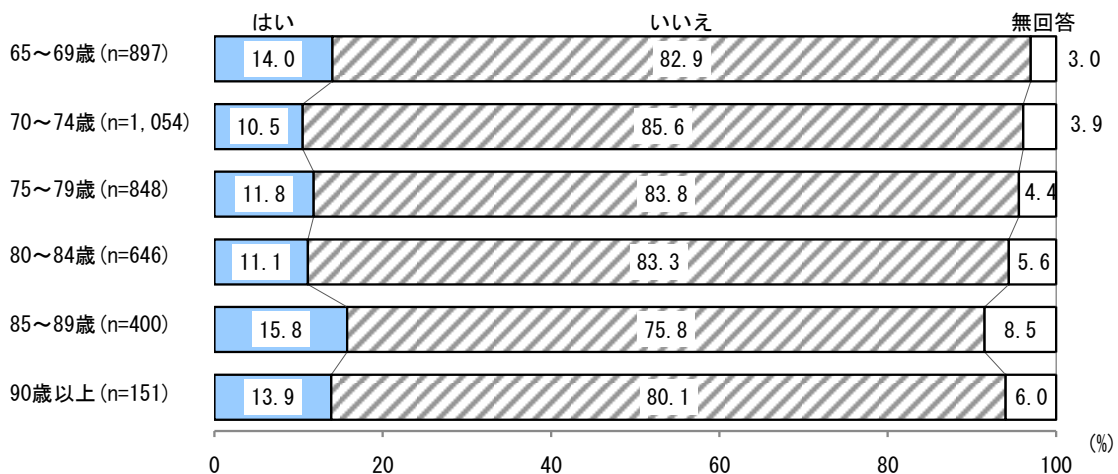
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図3-7-1)

【図3-7-2 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか (性別)】



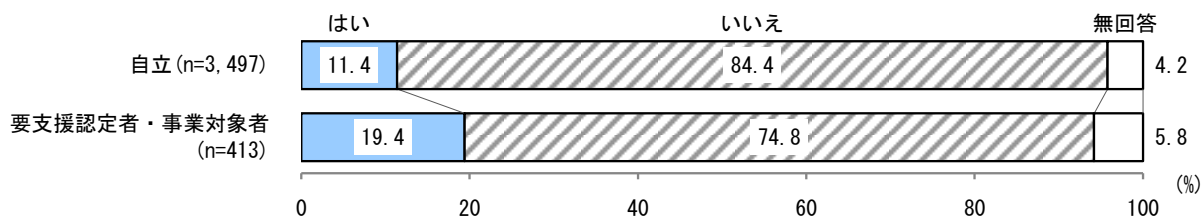
性別でみると、「はい」の割合は男性のほうが4.2ポイント高くなっている。(図3-7-2)

【図3-7-3 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、85～89歳で15.8%と最も高くなっている。(図3-7-3)

【図3-7-4 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか（認定状況別）】

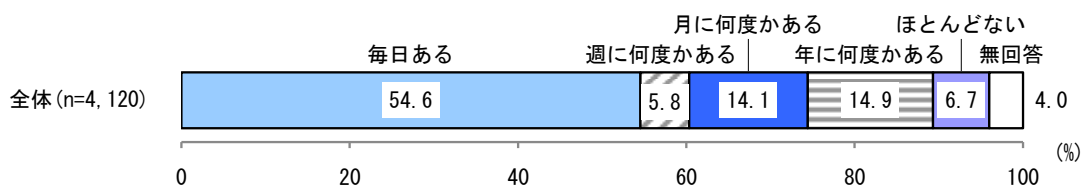


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が19.4%となっている。(図3-7-4)

(8) 共食頻度

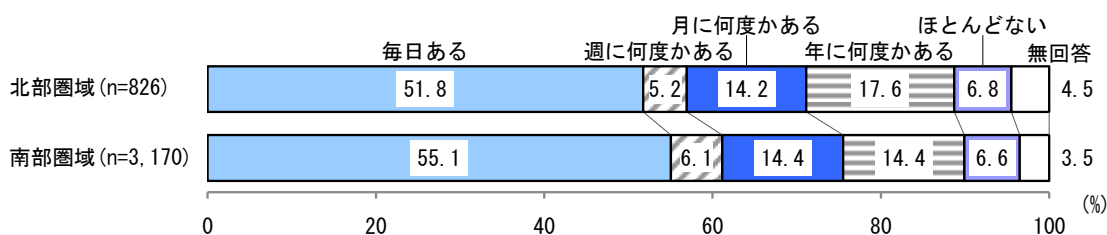
問3 (8) どなたかと食事をともしる機会がありますか (○は1つ)

【図3-8 共食頻度】



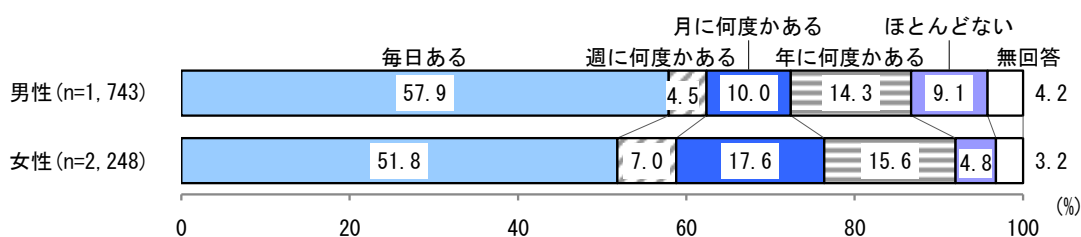
共食の頻度については、「毎日ある」が54.6%でも最も多く、次いで「年に何度かある」が14.9%、「月に何度かある」が14.1%となっている。(図3-8)

【図3-8-1 共食頻度（圏域別）】



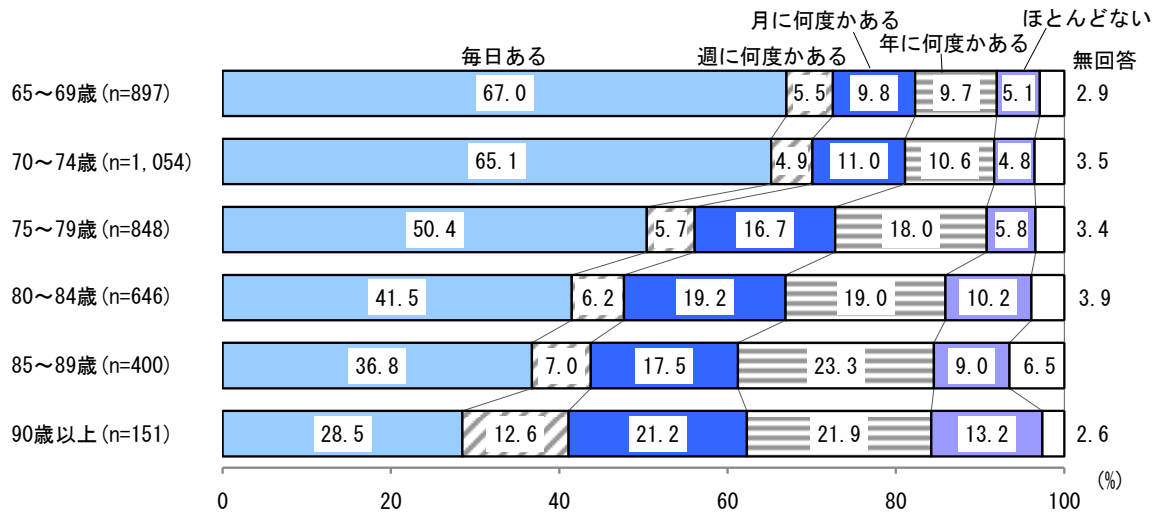
圏域別でみると、「毎日ある」の割合は南部地域のほうが3.3ポイント高くなっている。(図3-8-1)

【図3-8-2 共食頻度（性別）】



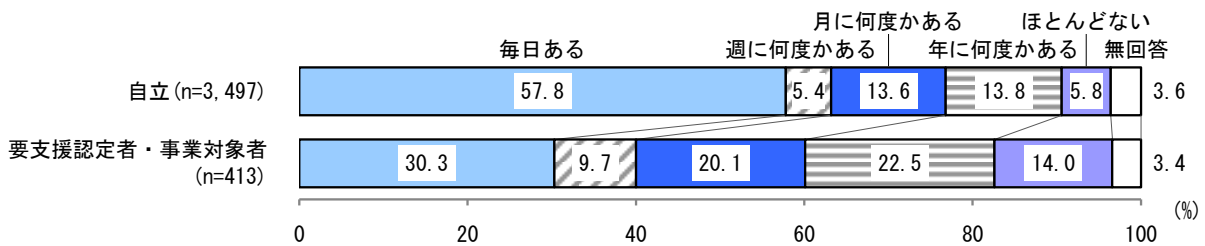
性別でみると、「毎日ある」の割合は男性のほうが6.1ポイント高くなっている。(図3-8-2)

【図3-8-3 共食頻度（年齢別）】



年齢別で見ると、年齢が上がるほど共食頻度が低い傾向となっている。(図 3-8-3)

【図3-8-4 共食頻度（認定状況別）】



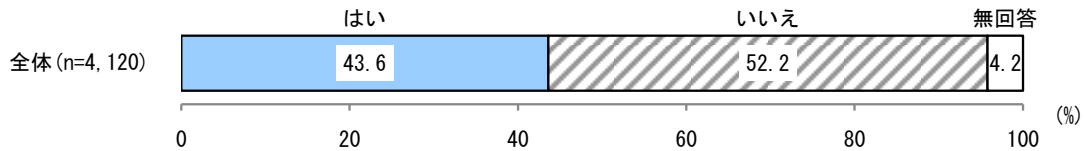
認定状況別で見ると、要支援認定者等は「毎日ある」が30.3%で最も多く、次いで「年に何度かある」が22.5%となっている。(図 3-8-4)

4. 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

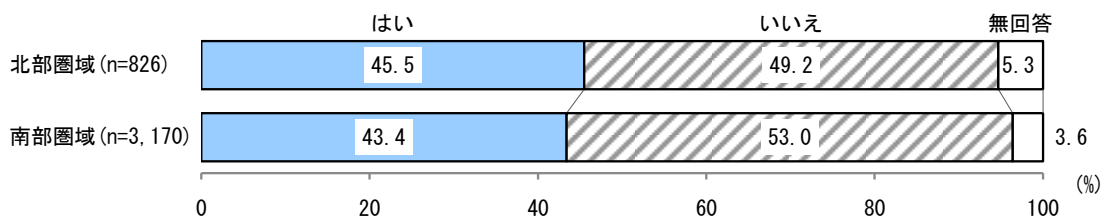
問4 (1) 物忘れが多いと感じますか (○は1つ)

【図4-1 物忘れが多いと感じるか】



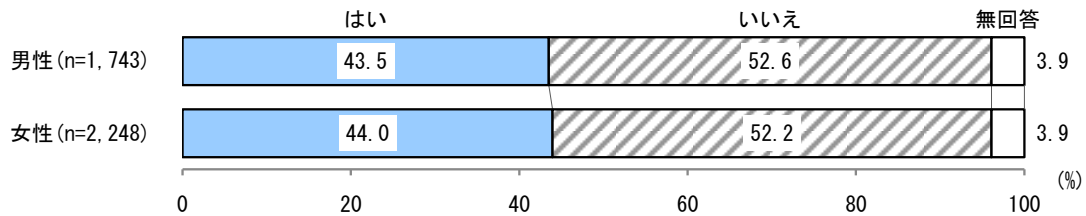
物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が43.6%、「いいえ」が52.2%となっている。(図4-1)

【図4-1-1 物忘れが多いと感じるか (圏域別)】



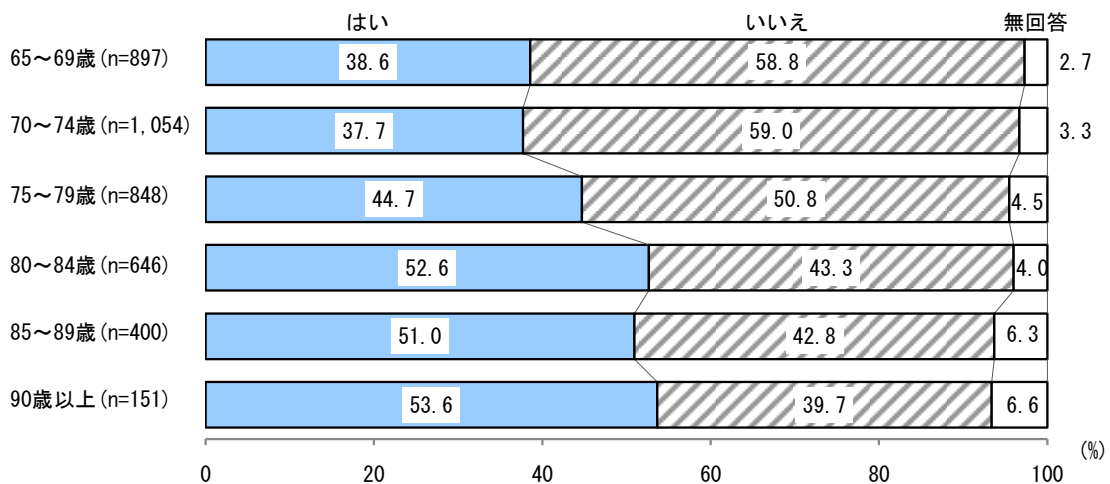
圏域別でみると、「はい」の割合は、北部圏域のほうが2.1ポイント高くなっている。(図4-1-1)

【図4-1-2 物忘れが多いと感じるか (性別)】



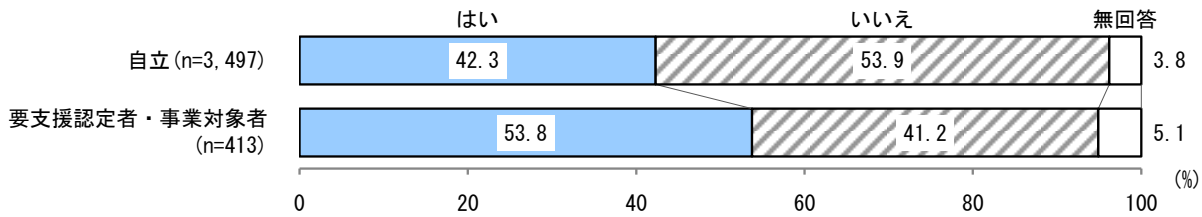
性別でみると、男性、女性とも「いいえ」のほうが多く、大きな差異はみられない。(図4-1-2)

【図4-1-3 物忘れが多いと感じるか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、概ね年齢が上がるほど高くなっている。(図4-1-3)

【図4-1-4 物忘れが多いと感じるか（認定状況別）】

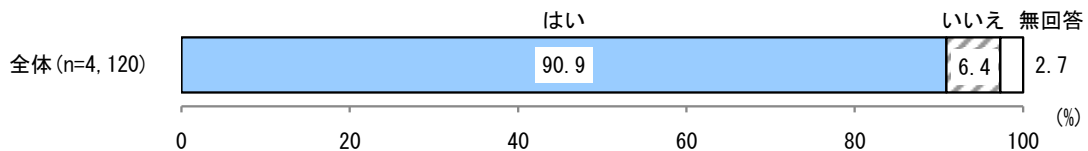


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が53.8%となっている。(図4-1-4)

(2) 電話番号を調べて、電話をかけているか

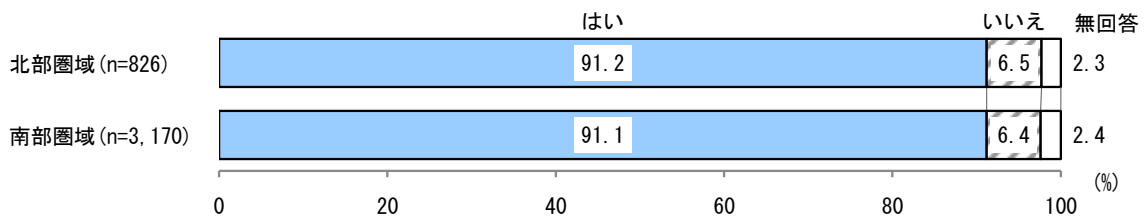
問4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (○は1つ)

【図4-2 電話番号を調べて電話をかけているか】



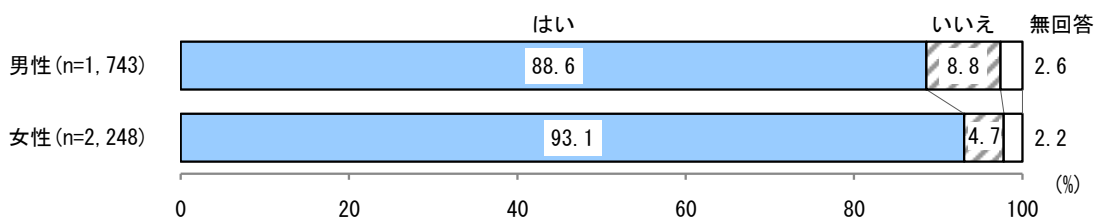
自分で電話番号を調べて電話をかけているかについては、「はい」が90.9%、「いいえ」が6.4%となっている。(図4-2)

【図4-2-1 電話番号を調べて電話をかけているか（圏域別）】



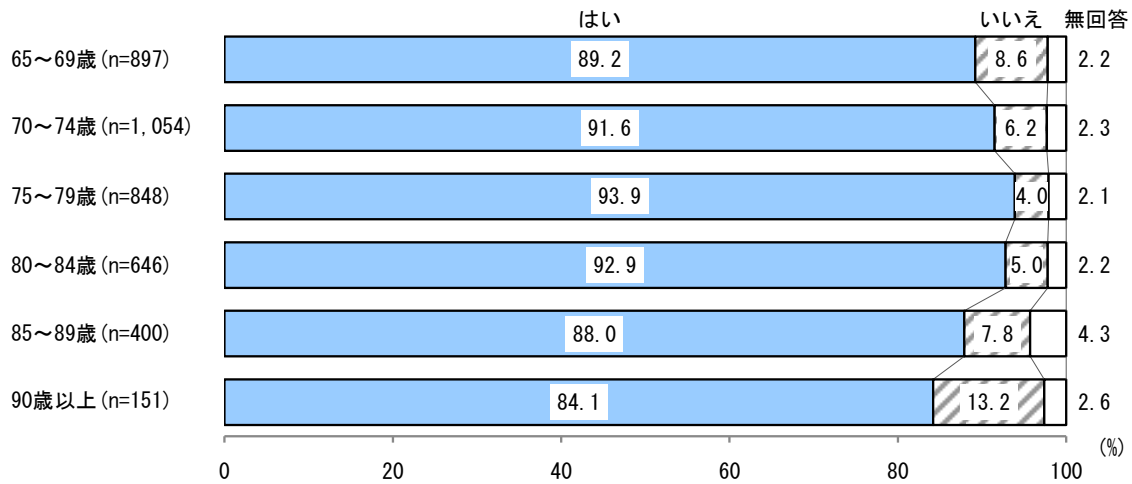
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図4-2-1)

【図4-2-2 電話番号を調べて電話をかけているか（性別）】



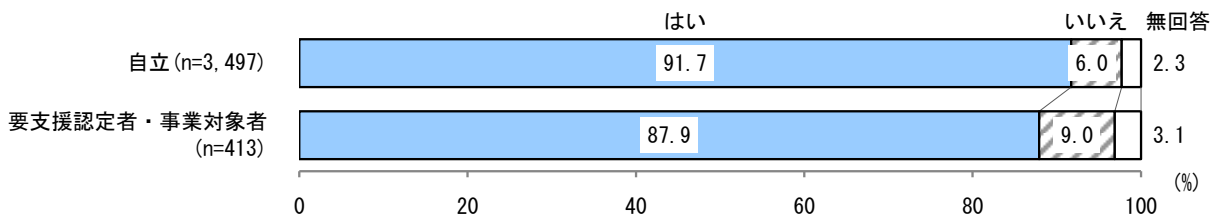
性別でみると、「はい」の割合は、女性のほうが4.5ポイント高くなっている。(図4-2-2)

【図4-2-3 電話番号を調べて電話をかけているか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は75～79歳で93.9%と最も高くなっている。(図4-2-3)

【図4-2-4 電話番号を調べて電話をかけているか（認定状況別）】

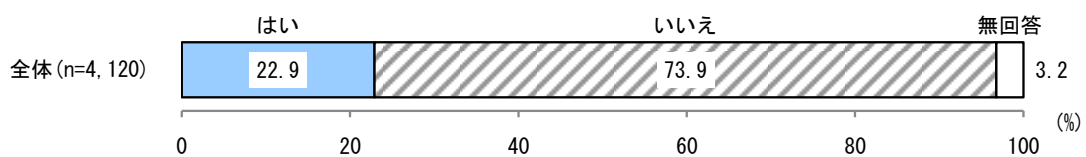


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が87.9%となっている。(図4-2-4)

(3) 今日が何月何日かわからない時があるか

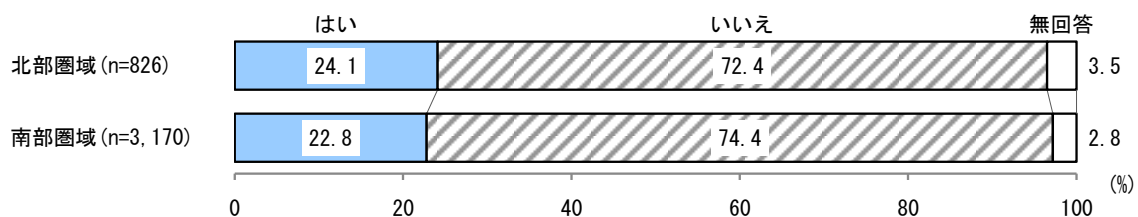
問4 (3) 今日が何月何日かわからない時がありますか (○は1つ)

【図4-3 今日が何月何日かわからない時があるか】



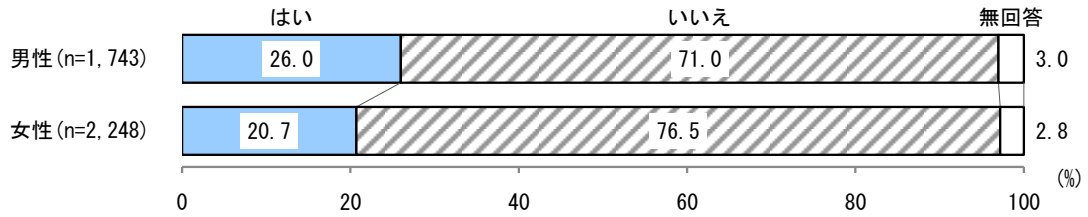
今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が22.9%、「いいえ」が73.9%となっている。(図4-3)

【図4-3-1 今日が何月何日かわからない時があるか（圏域別）】



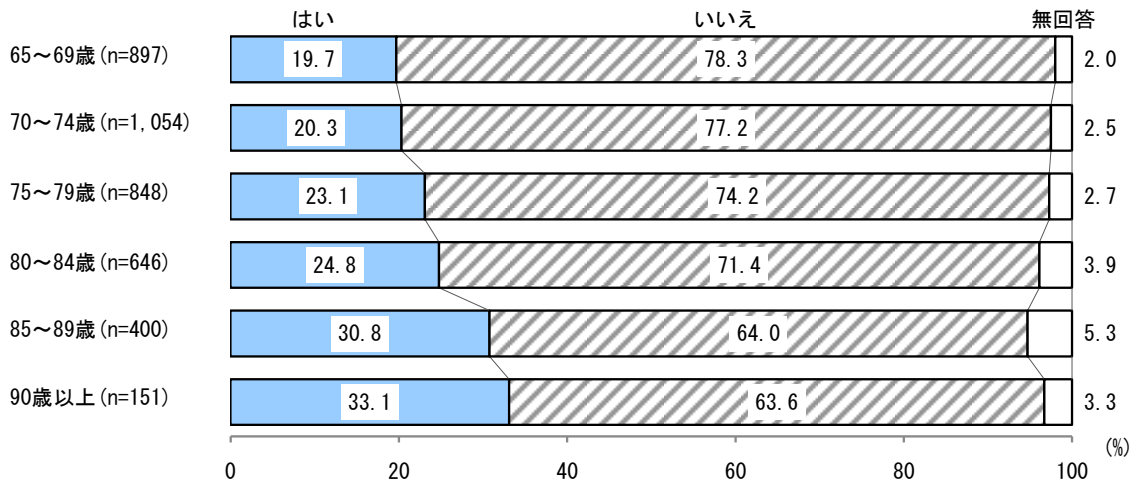
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図4-3-1)

【図4-3-2 今日が何月何日かわからない時があるか（性別）】



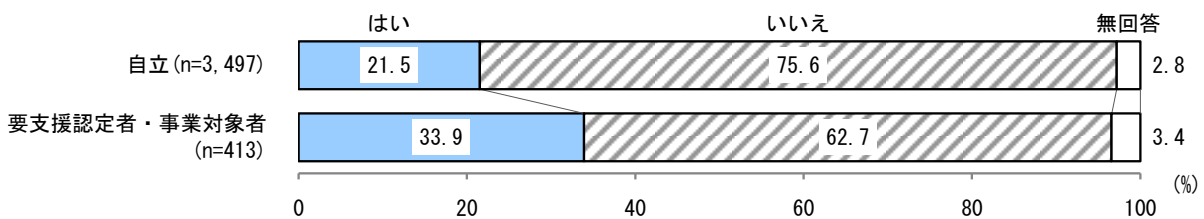
性別でみると、「はい」の割合は、男性のほうが5.3ポイント高くなっている。(図 4-3-2)

【図4-3-3 今日が何月何日かわからない時があるか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。(図 4-3-3)

【図4-3-4 今日が何月何日かわからない時があるか（認定状況別）】

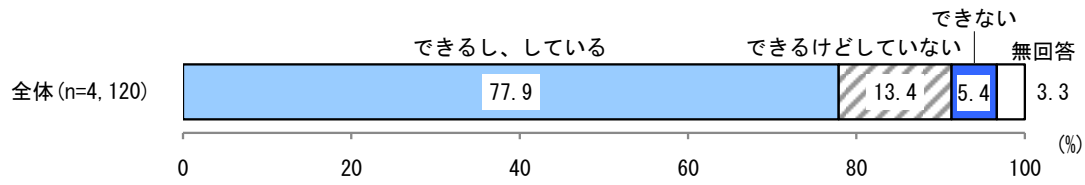


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が33.9%となっている。(図 4-3-4)

(4) 1人で外出しているか

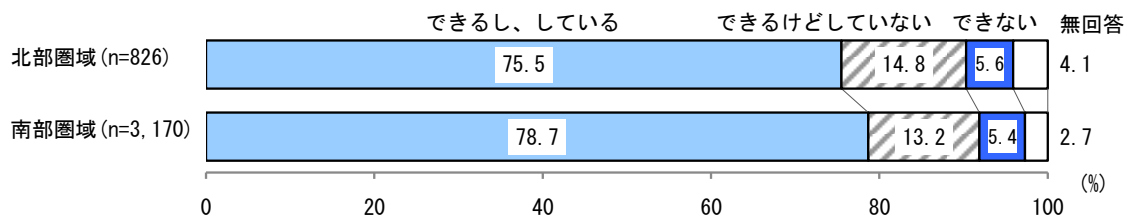
問4 (4) バスや鉄道を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(○は1つ)

【図4-4 1人で外出しているか】



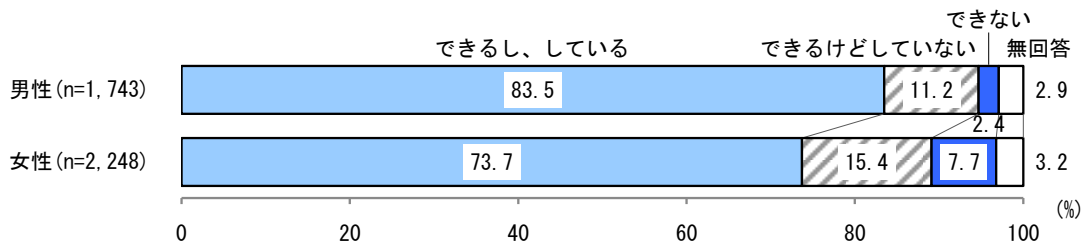
1人で外出しているかについては、「できるし、している」が77.9%、「できるけどしていない」が13.4%、「できない」が5.4%となっている。(図4-4)

【図4-4-1 1人で外出しているか(圏域別)】



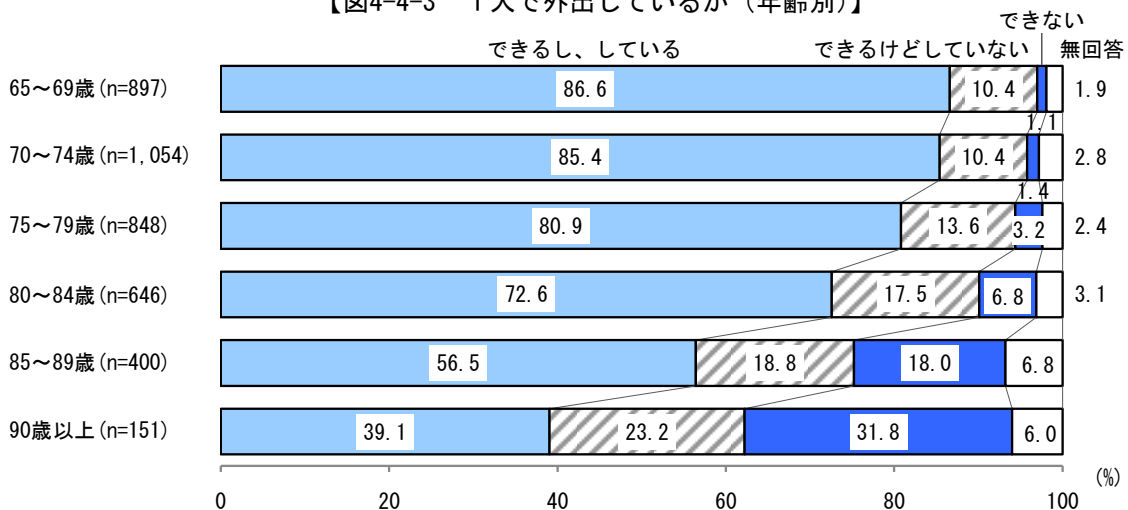
圏域別でみると、「できるし、している」割合は、南部圏域のほうが3.2ポイント高くなっている。(図4-4-1)

【図4-4-2 1人で外出しているか(性別)】



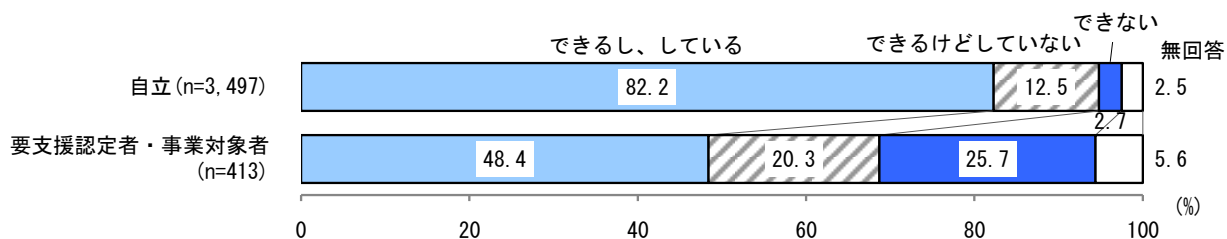
性別でみると、「できるし、している」割合は男性のほうが9.8ポイント高くなっている。(図4-4-2)

【図4-4-3 1人で外出しているか(年齢別)】



年齢別でみると、「できるし、している」割合は年齢が上がるほど低くなっている。(図4-4-3)

【図4-4-4 1人で外出しているか（認定状況別）】

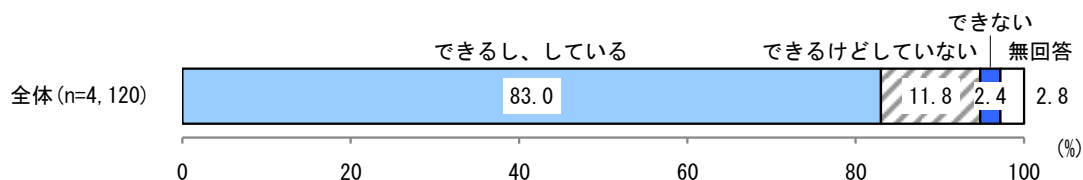


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できるし、している」が48.4%となっている。また「できない」は25.7%で、「できるけどしていない」と合わせると46.0%となっている。(図4-4-4)

(5) 自分で食品・日用品の買物をしているか

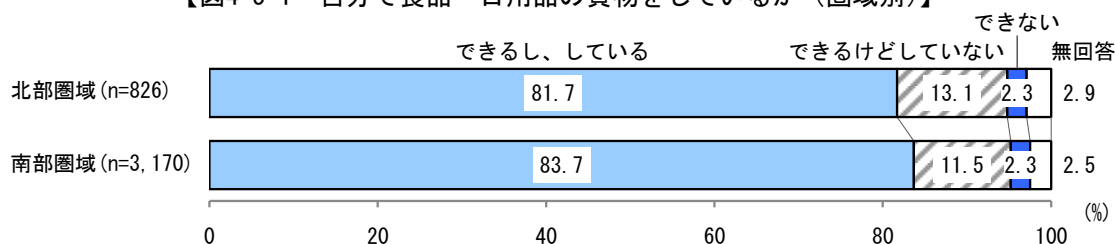
問4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○は1つ)

【図4-5 自分で食品・日用品の買物をしているか】



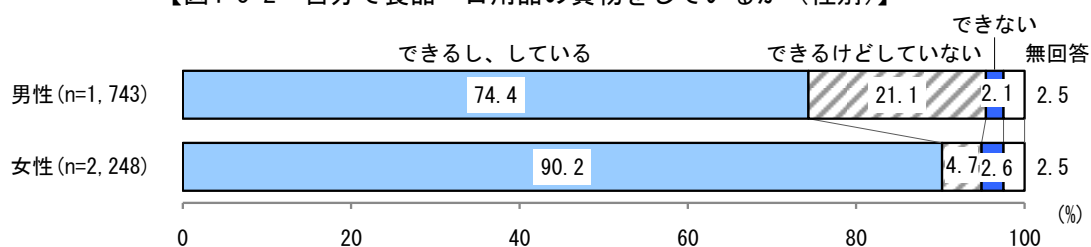
自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が83.0%、「できるけどしていない」が11.8%、「できない」が2.4%となっている。(図4-5)

【図4-5-1 自分で食品・日用品の買物をしているか（圏域別）】



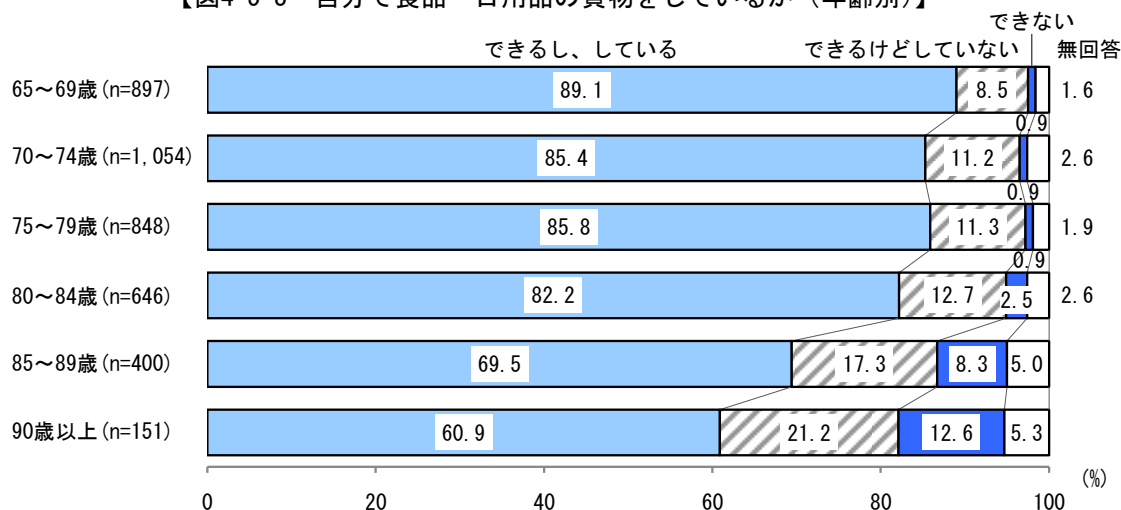
圏域別でみると、「できるし、している」割合は、南部圏域のほうが2.0ポイント高くなっている。(図4-5-1)

【図4-5-2 自分で食品・日用品の買物をしているか（性別）】



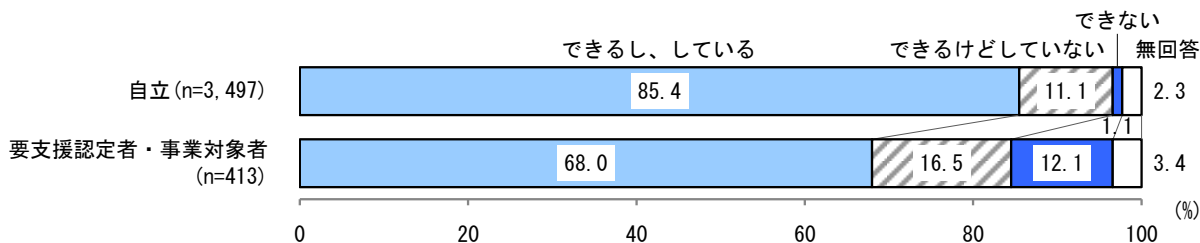
性別でみると、「できるし、している」割合は、女性のほうが15.8ポイント高くなっており、「できるけどしていない」割合は、男性のほうが16.4ポイント高くなっている。(図4-5-2)

【図4-5-3 自分で食品・日用品の買物をしているか（年齢別）】



年齢別でみると、「できるし、している」割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図 4-5-3)

【図4-5-4 自分で食品・日用品の買物をしているか（認定状況別）】

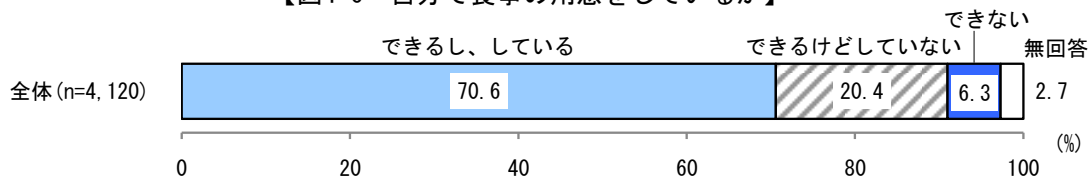


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できるし、している」が68.0%となっている。(図 4-5-4)

(6) 自分で食事の用意をしているか

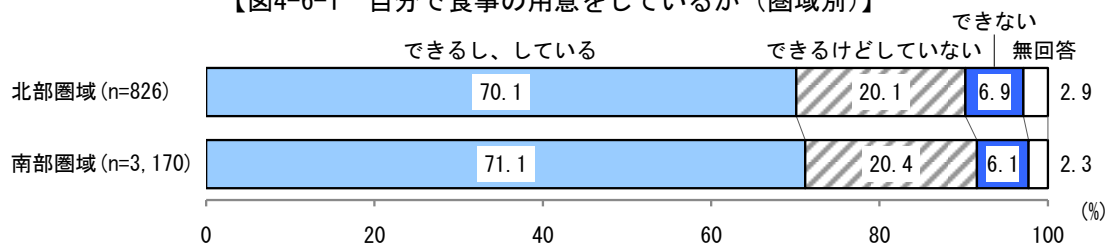
問4 (6) 自分で食事の用意をしていますか (○は1つ)

【図4-6 自分で食事の用意をしているか】



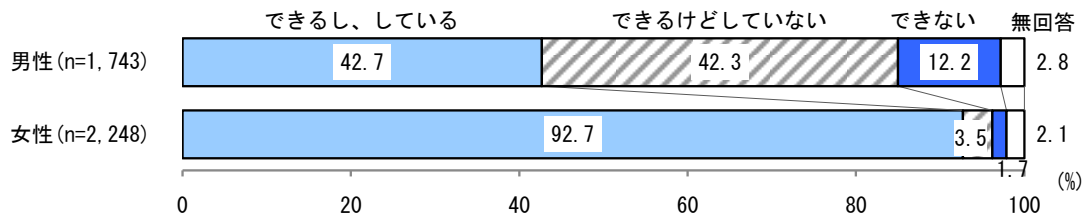
自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が70.6%、「できるけどしていない」が20.4%、「できない」が6.3%となっている。(図 4-6)

【図4-6-1 自分で食事の用意をしているか（圏域別）】



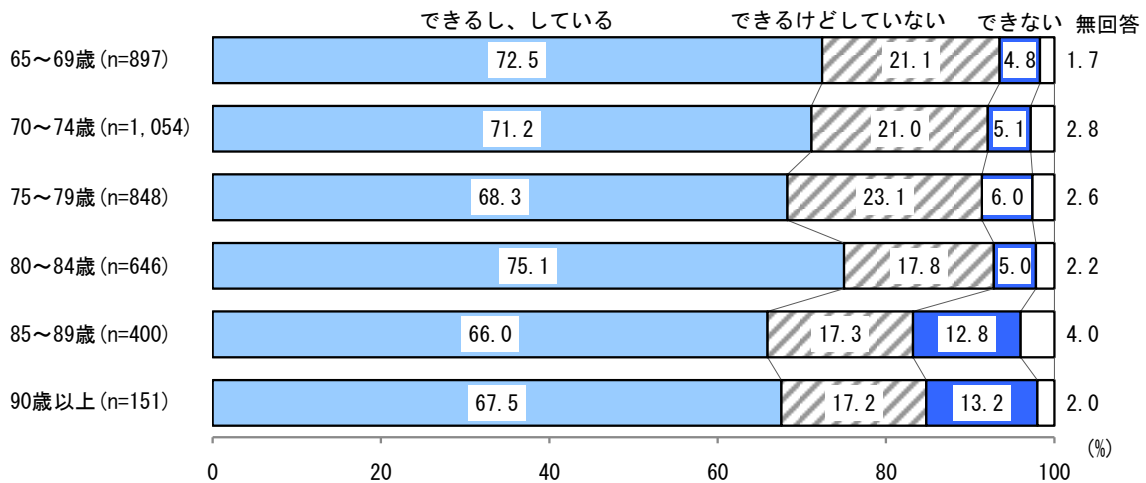
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 4-6-1)

【図4-6-2 自分で食事の用意をしているか（性別）】



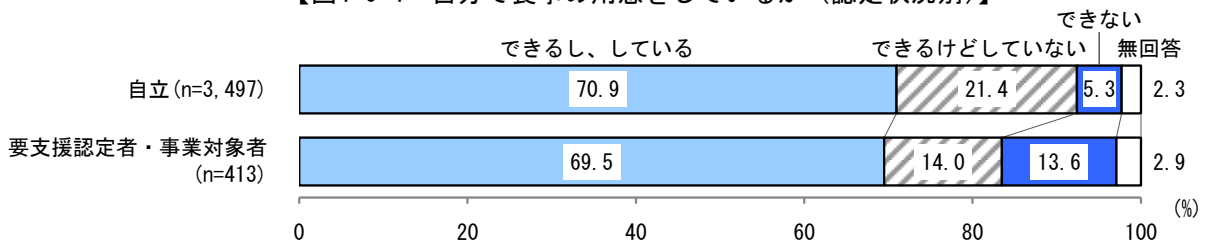
性別で見ると、男性の「できるし、している」割合は、女性より 50.0 ポイント低くなっている。(図 4-6-2)

【図4-6-3 自分で食事の用意をしているか（年齢別）】



年齢別で見ると、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合は、80～84 歳では低くなっているが、概ね年齢が上がるほど高くなっている。(図 4-6-3)

【図4-6-4 自分で食事の用意をしているか（認定状況別）】

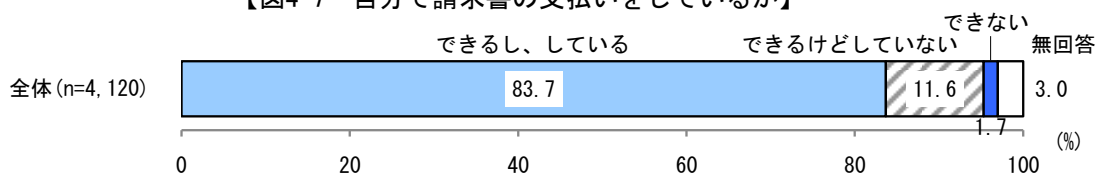


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「できるし、している」が 69.5%となっている。(図 4-6-4)

(7) 自分で請求書の支払いをしているか

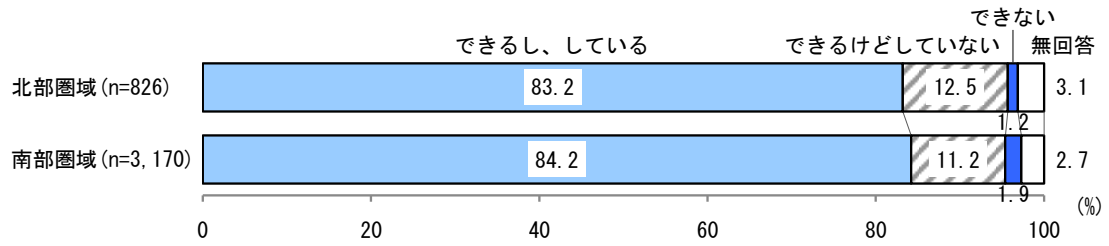
問4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか (○は1つ)

【図4-7 自分で請求書の支払いをしているか】



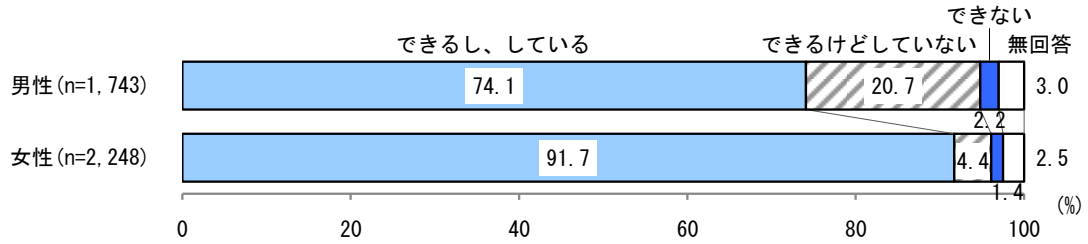
自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 83.7%、「できるけどしていない」が 11.6%、「できない」が 1.7%となっている。(図 4-7)

【図4-7-1 自分で請求書の支払いをしているか（圏域別）】



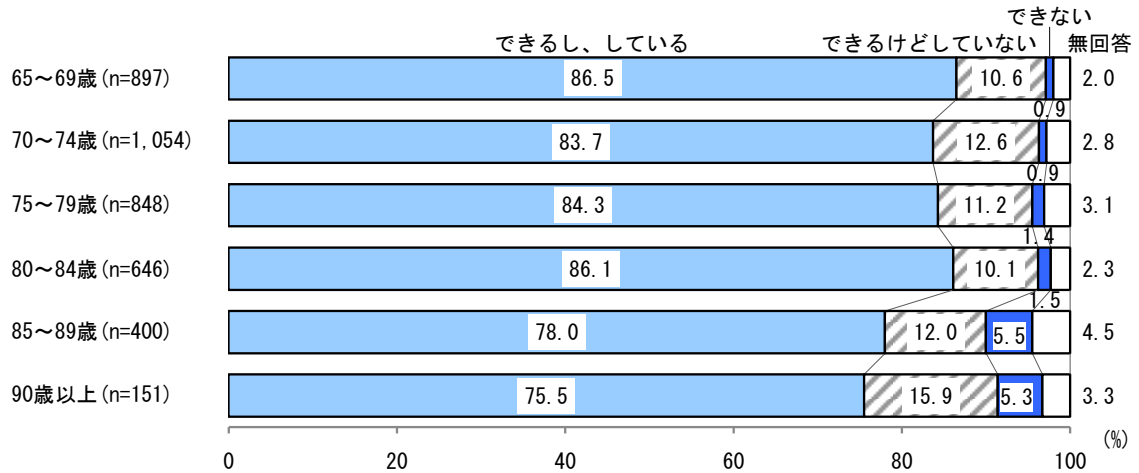
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図4-7-1)

【図4-7-2 自分で請求書の支払いをしているか（性別）】



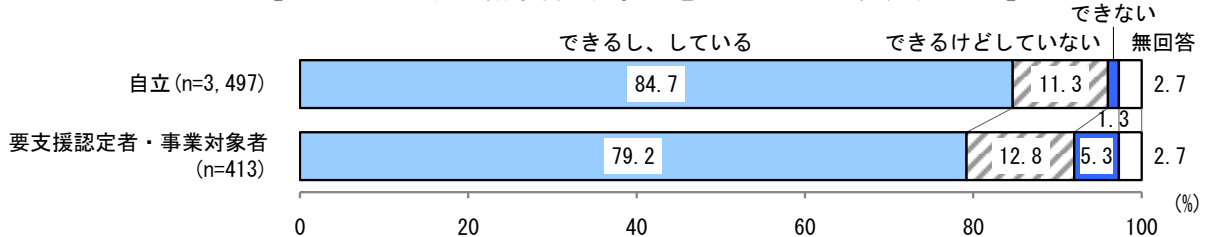
性別でみると、「できるし、している」割合は、女性のほうが17.6ポイント高くなっている。(図4-7-2)

【図4-7-3 自分で請求書の支払いをしているか（年齢別）】



年齢別でみると、「できるし、している」割合は、84歳以下が80%台、85歳以上が70%台となっている。(図4-7-3)

【図4-7-4 自分で請求書の支払いをしているか（認定状況別）】

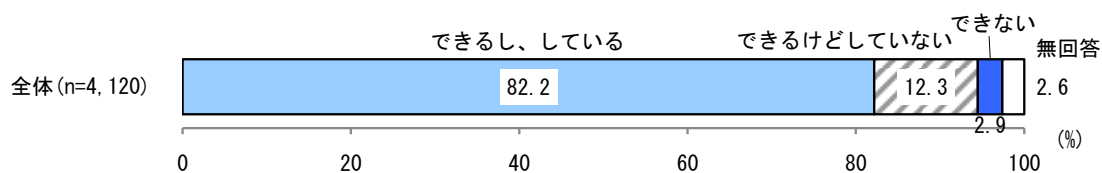


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できるし、している」が79.2%となっている。(図4-7-4)

(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

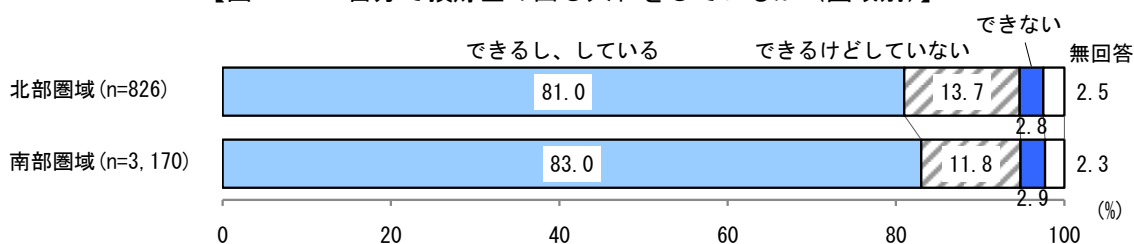
問4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○は1つ)

【図4-8 自分で預貯金の出し入れをしているか】



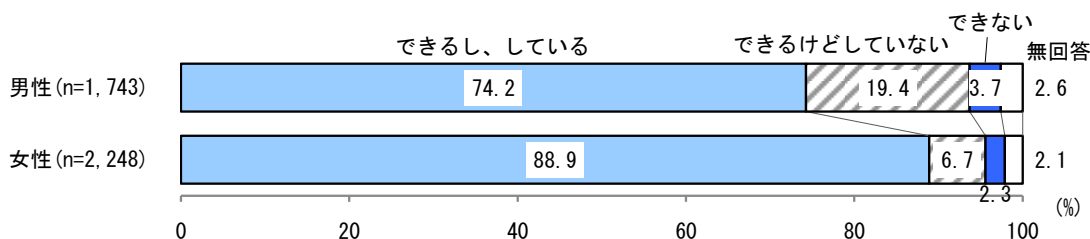
自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が82.2%、「できるけどしていない」が12.3%、「できない」が2.9%となっている。(図4-8)

【図4-8-1 自分で預貯金の出し入れをしているか (圏域別)】



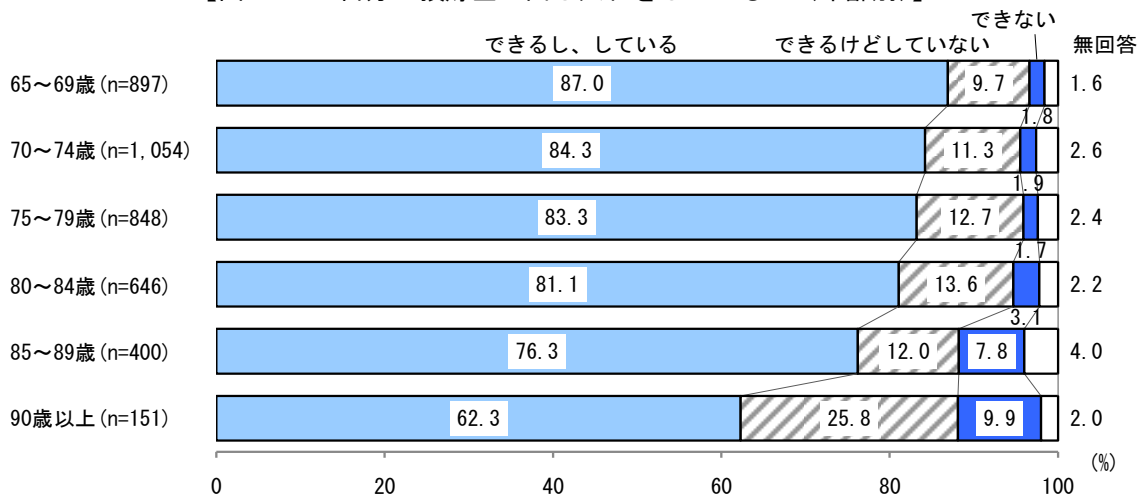
圏域別でみると、「できるし、している」割合は、南部圏域のほうが2.0ポイント高くなっている。(図4-8-1)

【図4-8-2 自分で預貯金の出し入れをしているか (性別)】



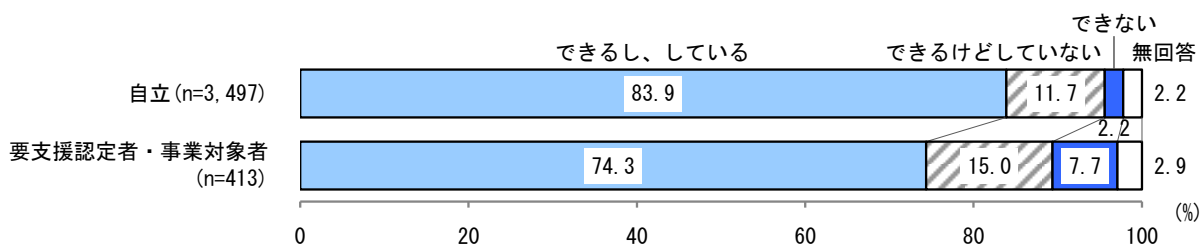
性別でみると、「できるし、している」割合は、女性のほうが14.7ポイント高くなっている。(図4-8-2)

【図4-8-3 自分で預貯金の出し入れをしているか (年齢別)】



年齢別でみると、「できるし、している」割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図4-8-3)

【図4-8-4 自分で預貯金の出し入れをしているか（認定状況別）】

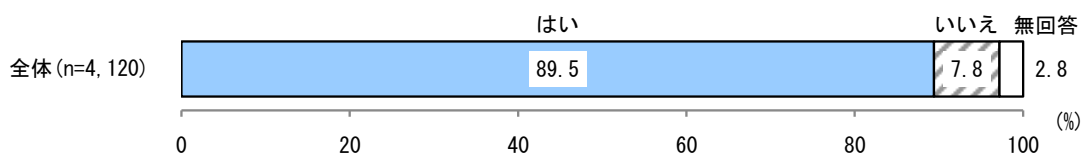


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できるし、している」が74.3%となっている。(図4-8-4)

(9) 年金などの書類が書けるか

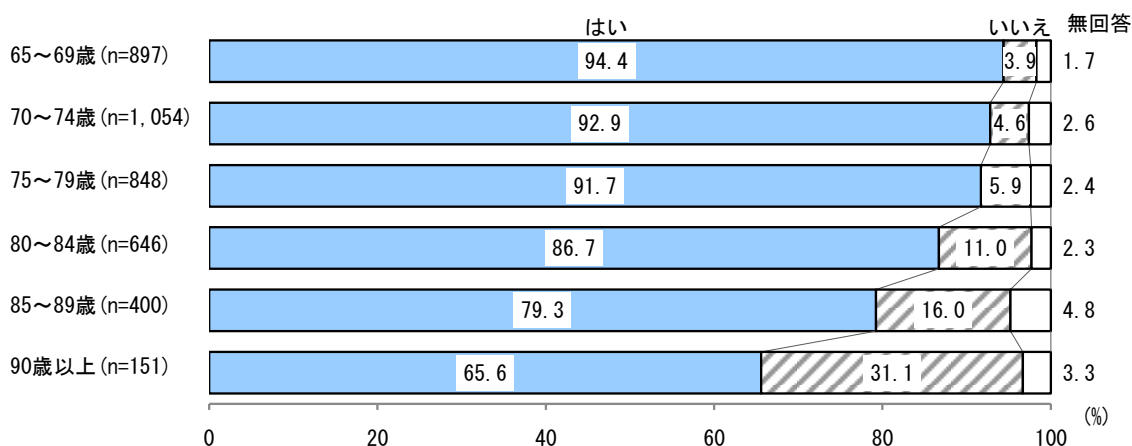
問4 (9) 年金などの書類（市役所や病院などに出す書類）が書けますか（○は1つ）

【図4-9 年金などの書類が書けるか】



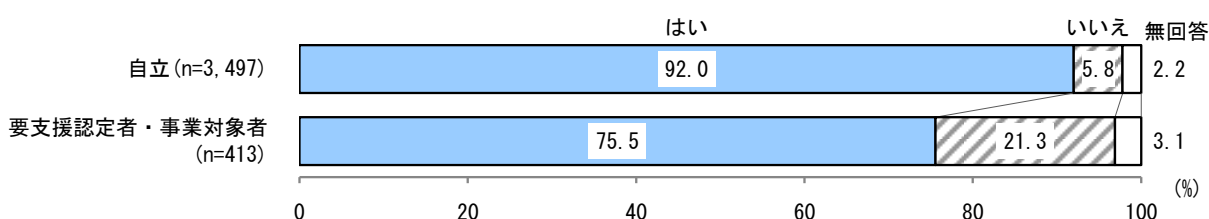
年金などの書類が書けるかについては、「はい」が89.5%、「いいえ」が7.8%となっている。(図4-9)

【図4-9-1 年金などの書類が書けるか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図4-8-1)

【図4-9-2 年金などの書類が書けるか（認定状況別）】

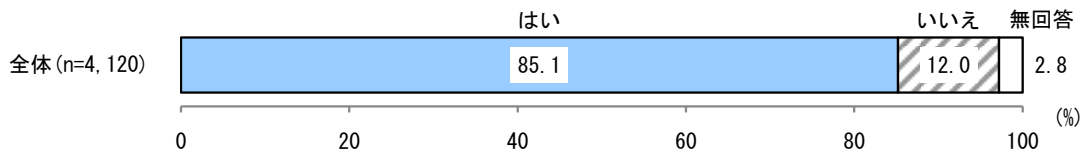


認定状況別でみると、要支援認定者等は「できるし、している」が75.5%となっている。(図4-9-2)

(10) 新聞を読んでいるか

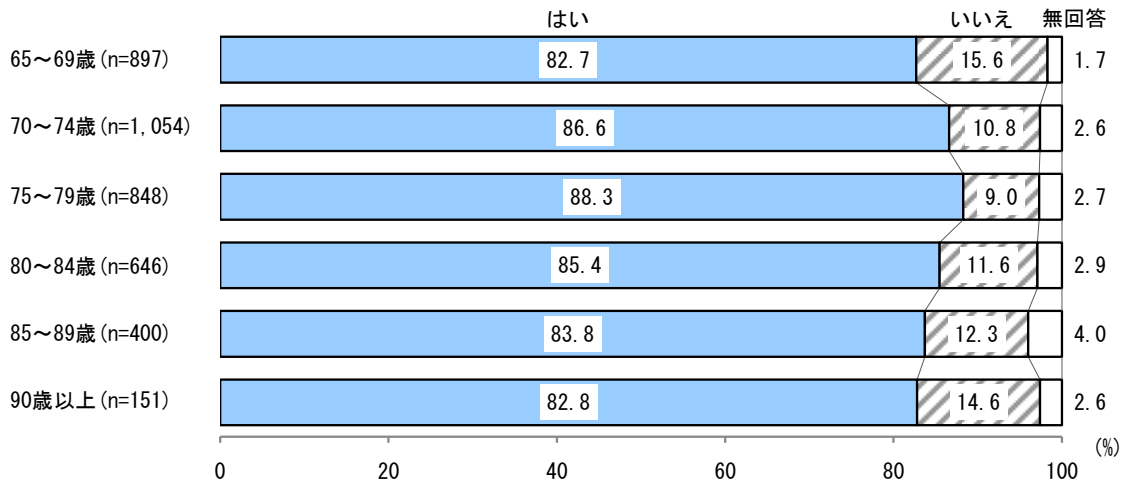
問4 (10) 新聞を読んでいますか (○は1つ)

【図4-10 新聞を読んでいるか】



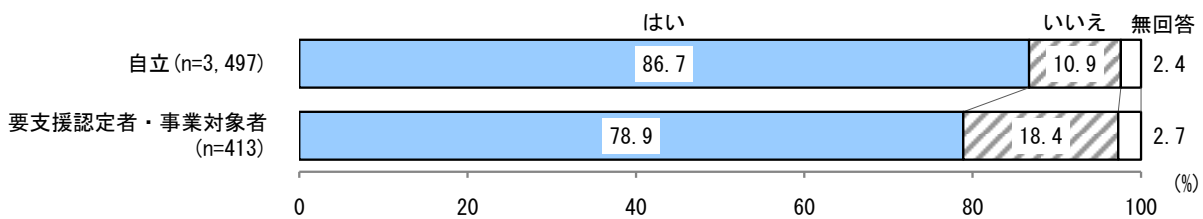
新聞を読んでいるかについては、「はい」が85.1%、「いいえ」が12.0%となっている。(図4-10)

【図4-10-1 新聞を読んでいるか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、すべての年代で80%を超えている。「いいえ」の割合は、65～69歳で15.6%と最も高くなっている。(図4-10-1)

【図4-10-2 新聞を読んでいるか (認定状況別)】

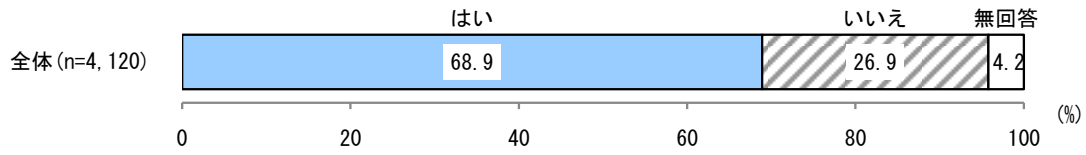


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が78.9%となっている。(図4-10-2)

(11) 本や雑誌を読んでいるか

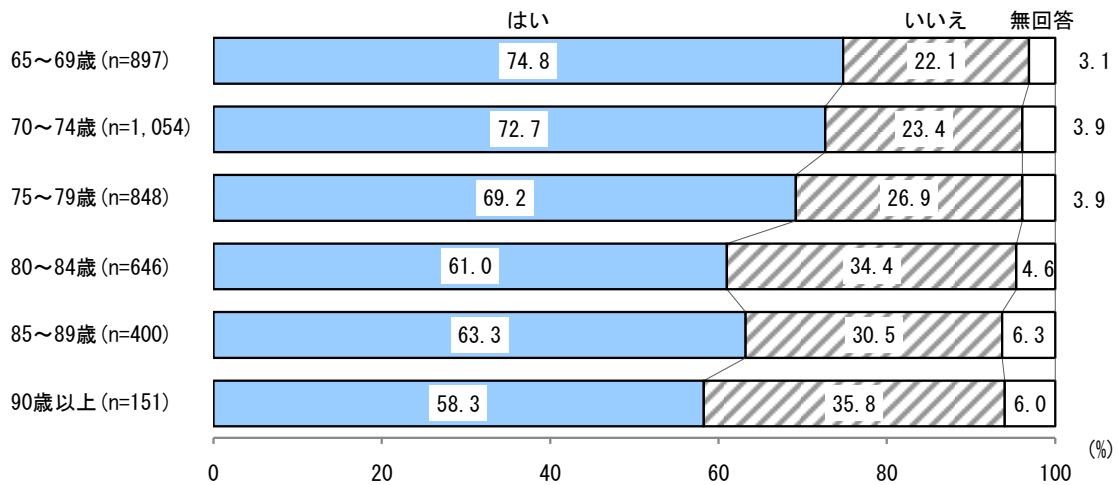
問4 (11) 本や雑誌を読んでいますか (○は1つ)

【図4-11 本や雑誌を読んでいるか】



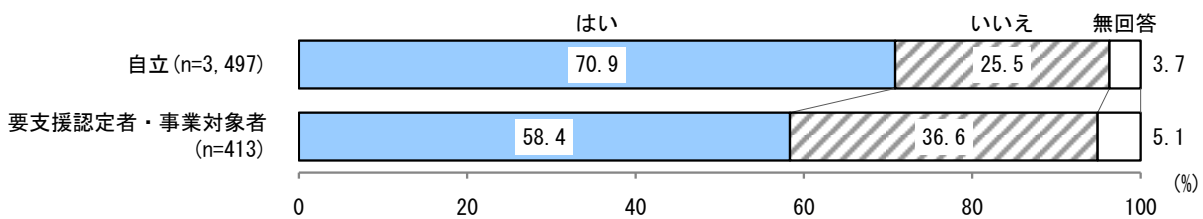
本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が68.9%、「いいえ」が26.9%となっている。(図4-11)

【図4-11-1 本や雑誌を読んでいるか (年齢別)】



年齢別で見ると、「はい」の割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。(図4-11-1)

【図4-11-2 本や雑誌を読んでいるか (認定状況別)】

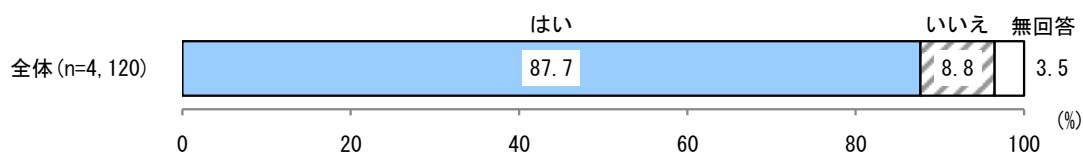


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「はい」が58.4%となっている。(図4-11-2)

(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

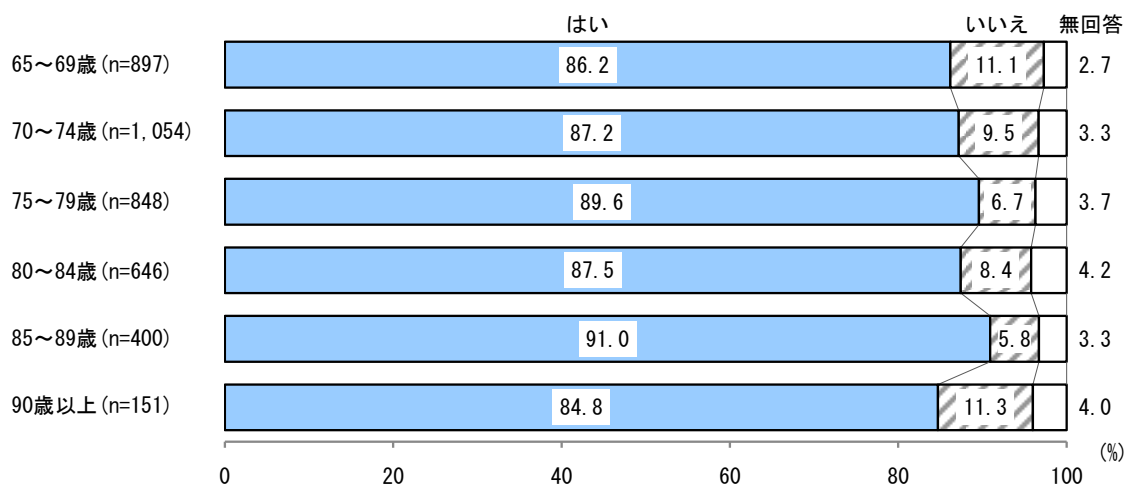
問4 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか (○は1つ)

【図4-12 健康についての記事や番組に関心があるか】



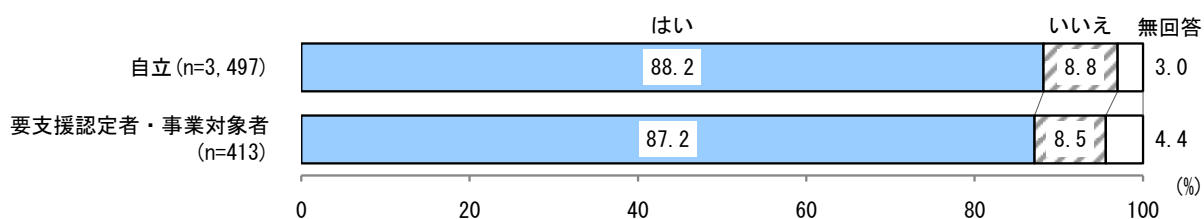
健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が87.7%、「いいえ」が8.8%となっている。(図4-12)

【図4-12-1 健康についての記事や番組に関心があるか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、すべての年代で80%を超えている。(図4-12-1)

【図4-12-2 健康についての記事や番組に関心があるか (認定状況別)】

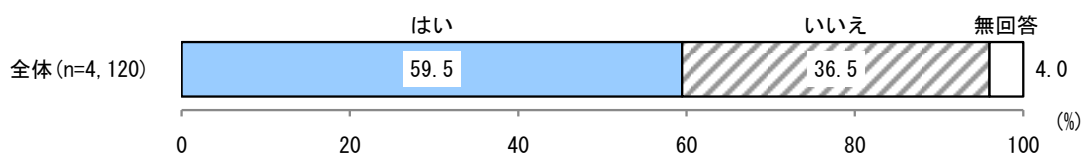


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が87.2%となっている。(図4-12-2)

(13) 友人の家を訪ねているか

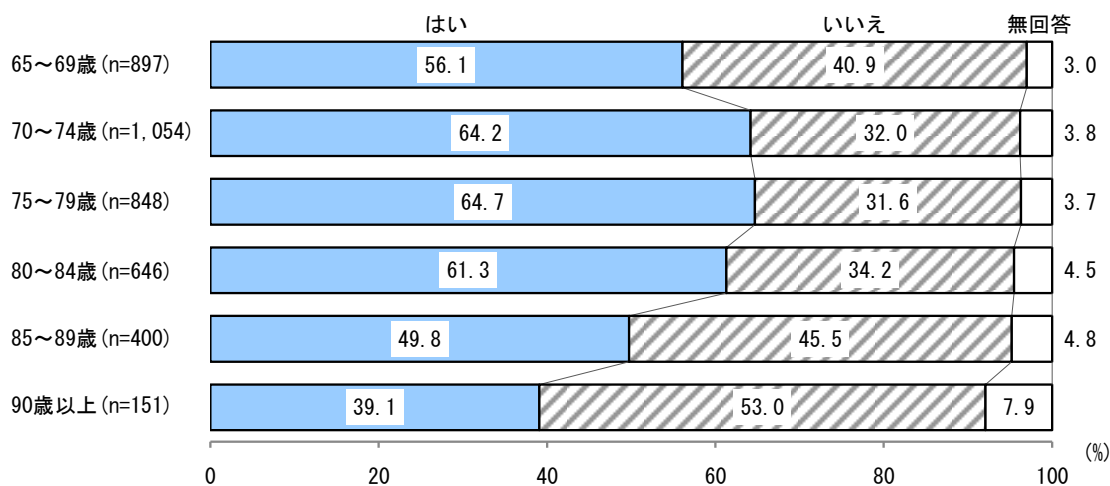
問 4 (13) 友人の家を訪ねていますか (○は1つ)

【図4-13 友人の家を訪ねているか】



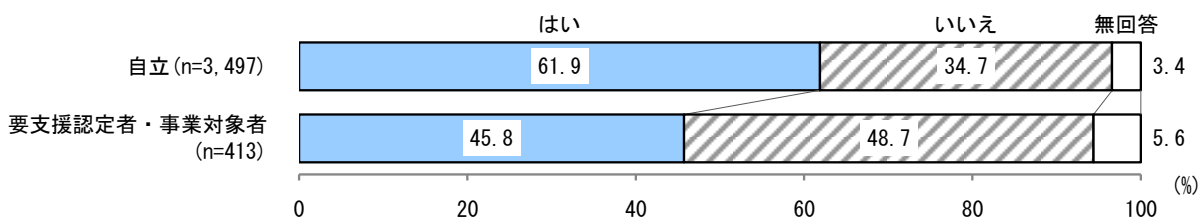
友人の家を訪ねているかについては、「はい」が59.5%、「いいえ」が36.5%となっている。(図4-13)

【図4-13-1 友人の家を訪ねているか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、75～79歳で64.7%と最も高く、80歳以上では年齢が上がるほど低くなっている。(図4-13-1)

【図4-13-2 友人の家を訪ねているか (認定状況別)】

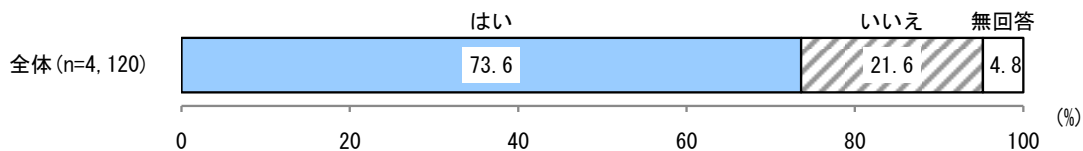


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が45.8%となっている。(図4-13-2)

(14) 家族や友人の相談にのっているか

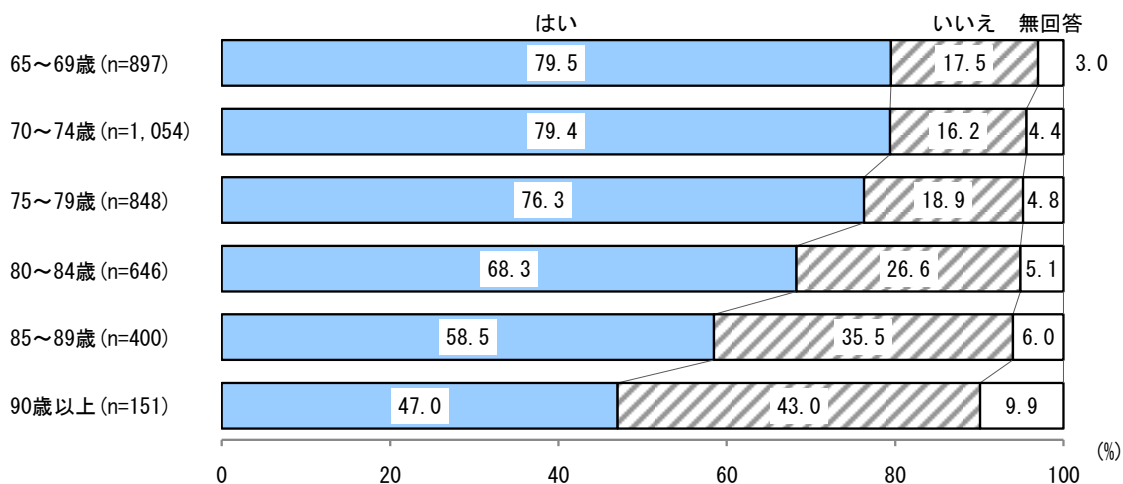
問 4 (14) 家族や友人の相談にのっていますか (○は1つ)

【図4-14 家族や友人の相談にのっているか】



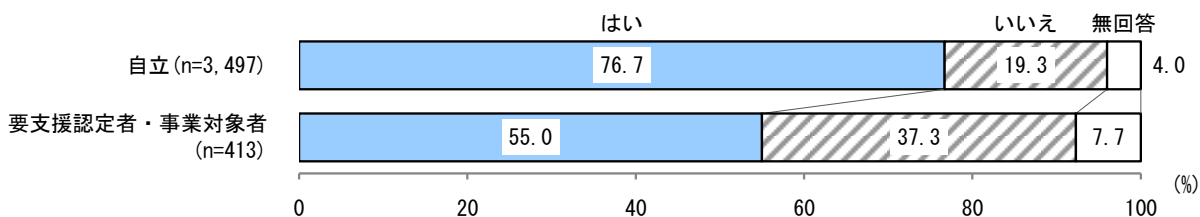
家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が73.6%、「いいえ」が21.6%となっている。(図 4-14)

【図4-14-1 家族や友人の相談にのっているか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図 4-14-1)

【図4-14-2 家族や友人の相談にのっているか (年齢別)】

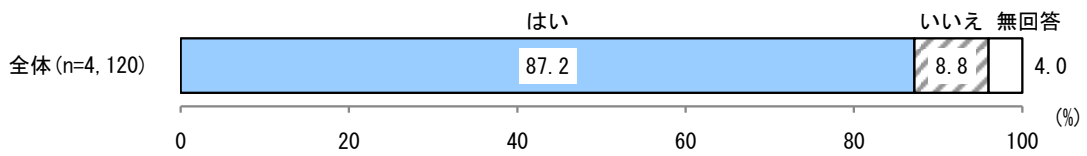


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が55.0%となっている。(図 4-14-2)

(15) 病人を見舞うことができるか

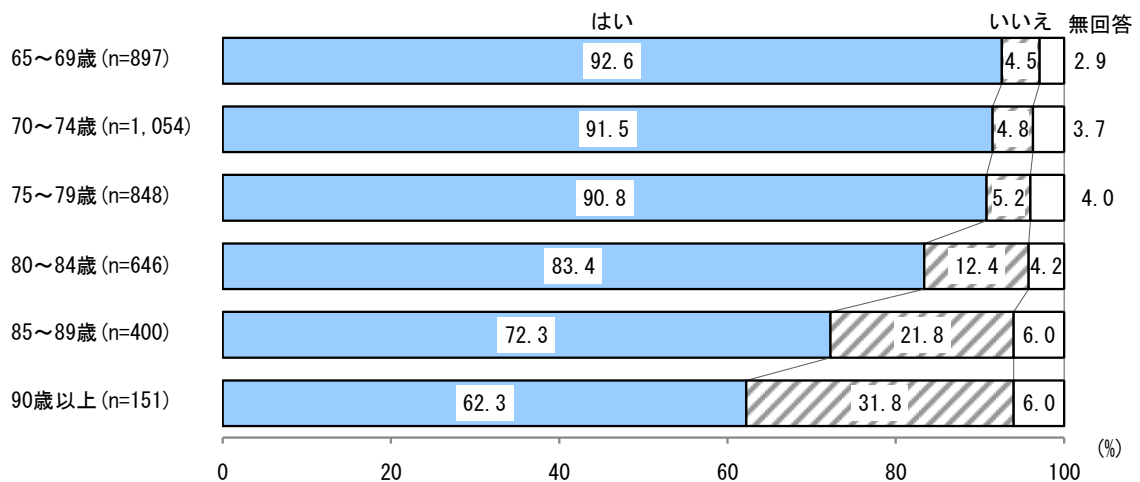
問4 (15) 病人を見舞うことができますか (○は1つ)

【図4-15 病人を見舞うことができるか】



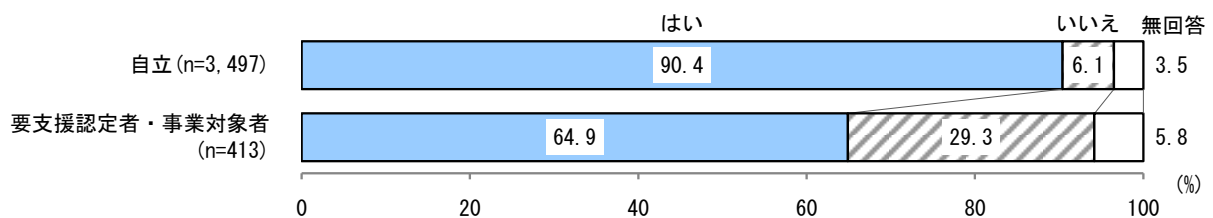
病人を見舞うことができるかについては、「はい」が87.2%、「いいえ」が8.8%となっている。(図 4-15)

【図4-15-1 病人を見舞うことができるか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図 4-15-1)

【図4-15-2 病人を見舞うことができるか (認定状況別)】

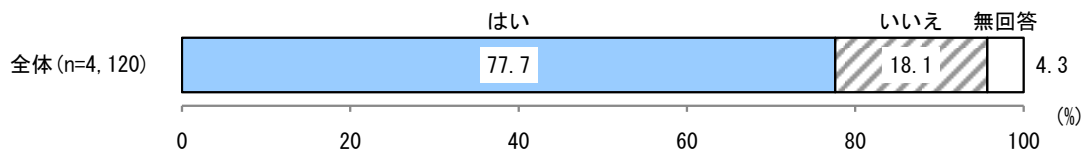


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が64.9%となっている。(図 4-15-2)

(16) 若い人に自分から話しかけることがあるか

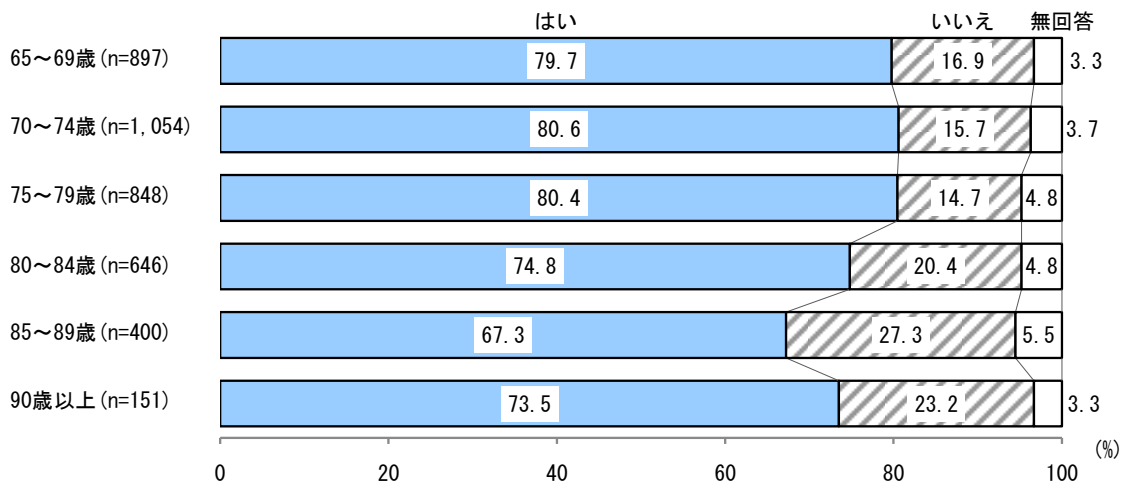
問4 (16) 若い人に自分から話しかけることがありますか (○は1つ)

【図4-16 若い人に自分から話しかけることがあるか】



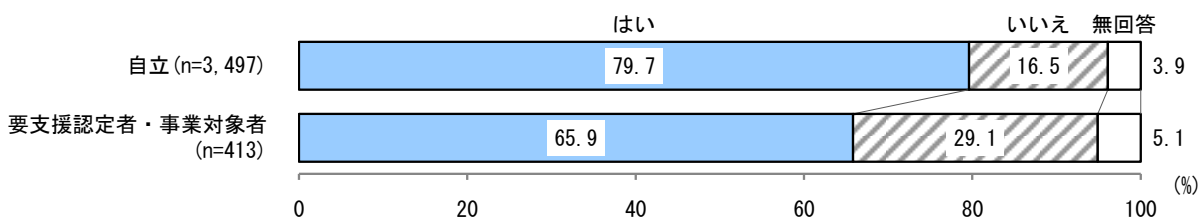
若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が77.7%、「いいえ」が18.1%となっている。(図4-16)

【図4-16-1 若い人に自分から話しかけることがあるか (年齢別)】



年齢別でみると、「はい」の割合は79歳までは約80%であるが、80歳以上ではそれより低くなっている。(図4-16-1)

【図4-16-2 若い人に自分から話しかけることがあるか (認定状況別)】

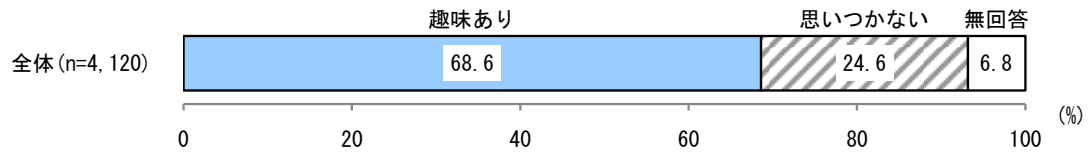


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が65.9%となっている。(図4-16-2)

(17) 趣味の有無

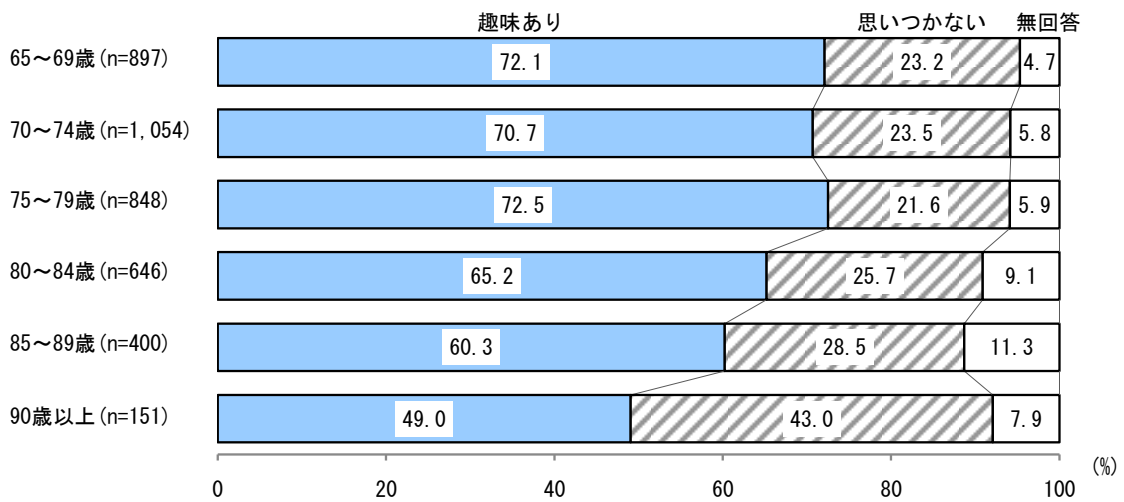
問 4 (17) 趣味の有無

【図4-17 趣味の有無】



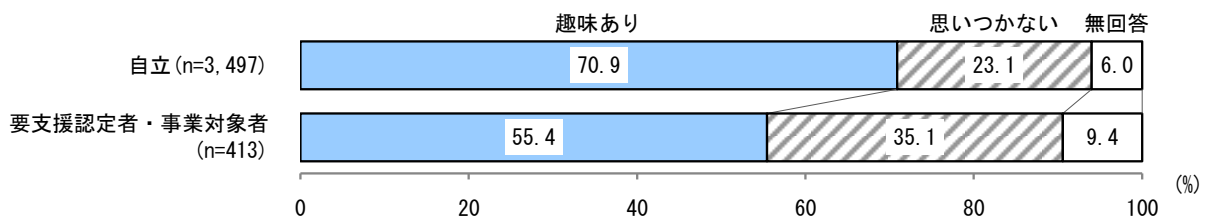
趣味の有無については、「趣味あり」が68.6%、「思いつかない」が24.6%となっている。(図4-17)

【図4-17-1 趣味の有無（年齢別）】



年齢別でみると、「趣味あり」の割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。(図 4-17-1)

【図4-17-2 趣味の有無（認定状況別）】

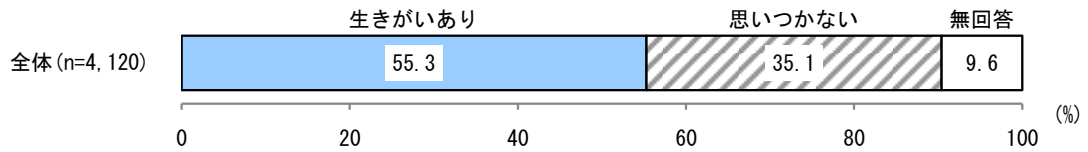


認定状況別でみると、要支援認定者等は「趣味あり」が55.4%となっている。(図 4-17-2)

(18) 生きがいの有無

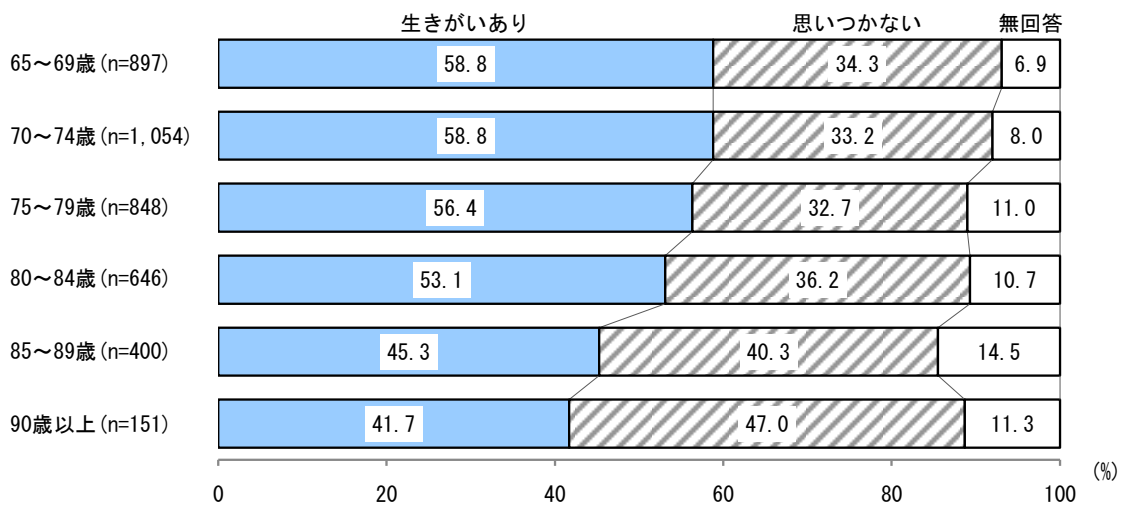
問 4 (18) 生きがいはありますか (○は1つ)

【図4-18 生きがいの有無】



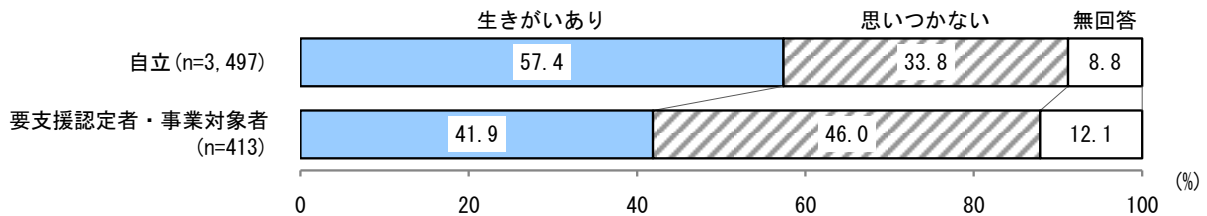
生きがいの有無については、「生きがいあり」が55.3%、「思いつかない」が35.1%となっている。(図4-18)

【図4-18-1 生きがいの有無 (年齢別)】



年齢別でみると、「生きがいあり」の割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図 4-18-1)

【図4-18-2 生きがいの有無 (認定状況別)】



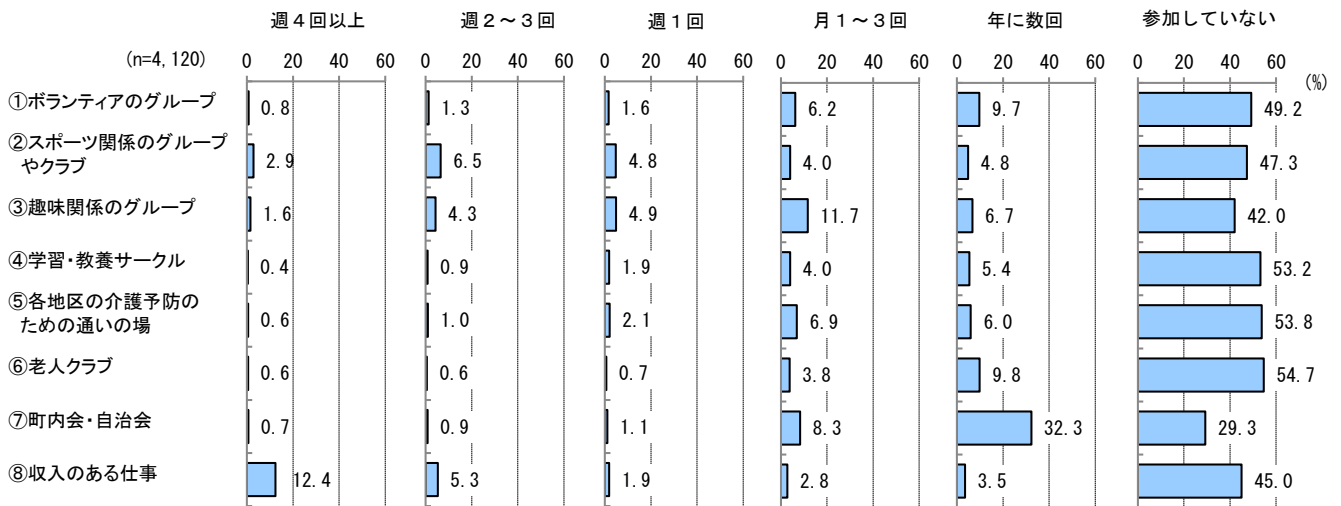
認定状況別でみると、要支援認定者等は「生きがいあり」が41.9%となっている。(図 4-18-2)

5. 地域での活動について

(1) 会・グループへの参加頻度

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
 ※①～⑧のそれぞれに回答してください(それぞれ〇は1つ)

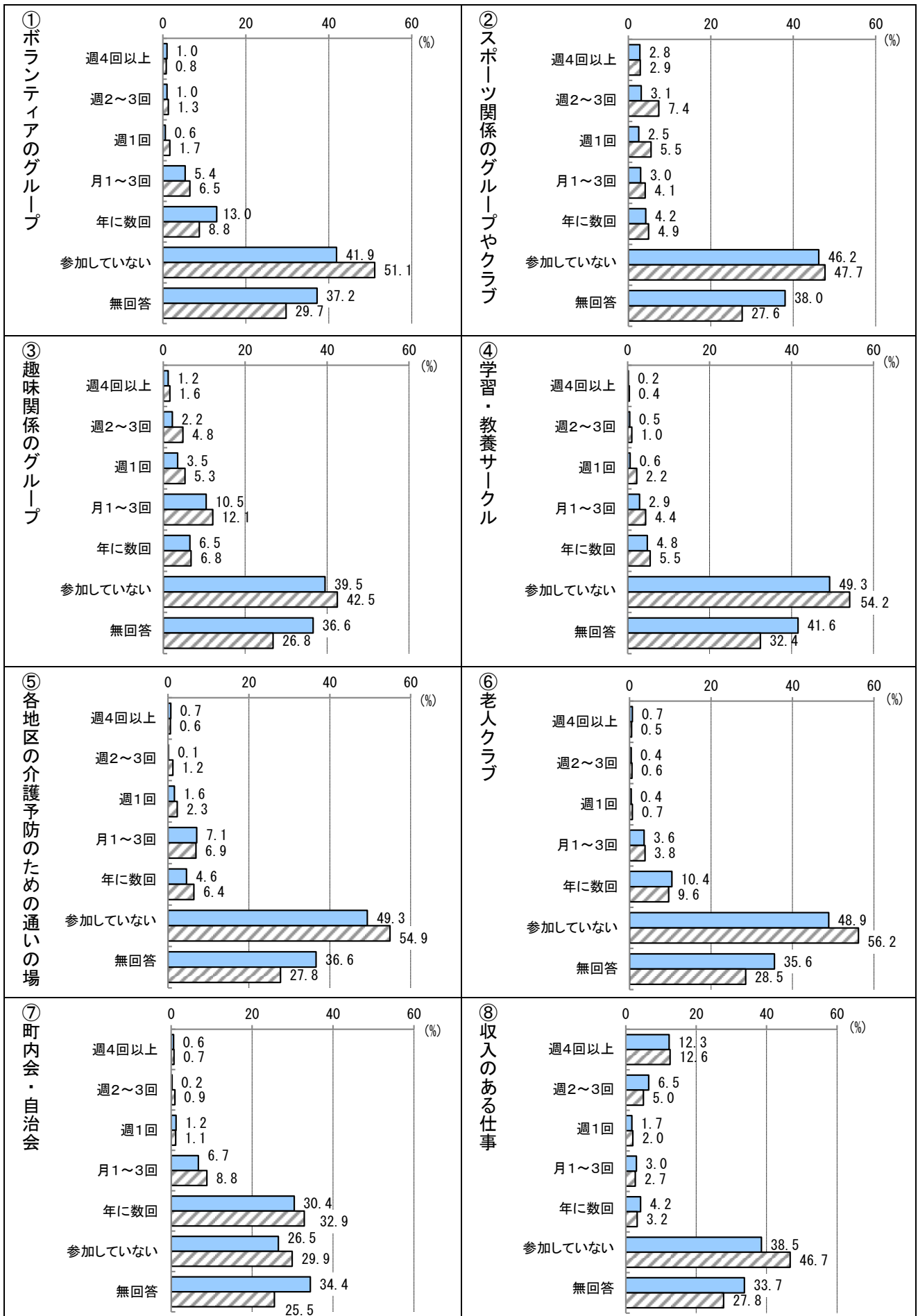
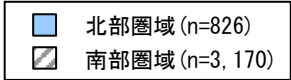
【図5-1 会・グループへの参加頻度】



会・グループへの参加頻度については、参加している割合が最も高い(参加していない割合が低い)のは⑦町内会・自治会で、4割以上が参加している。一方、④学習・教養サークル、⑤各地区の介護予防のための通いの場、⑥老人クラブは、「参加していない」が5割を超えている。(図5-1)

<圏域別>

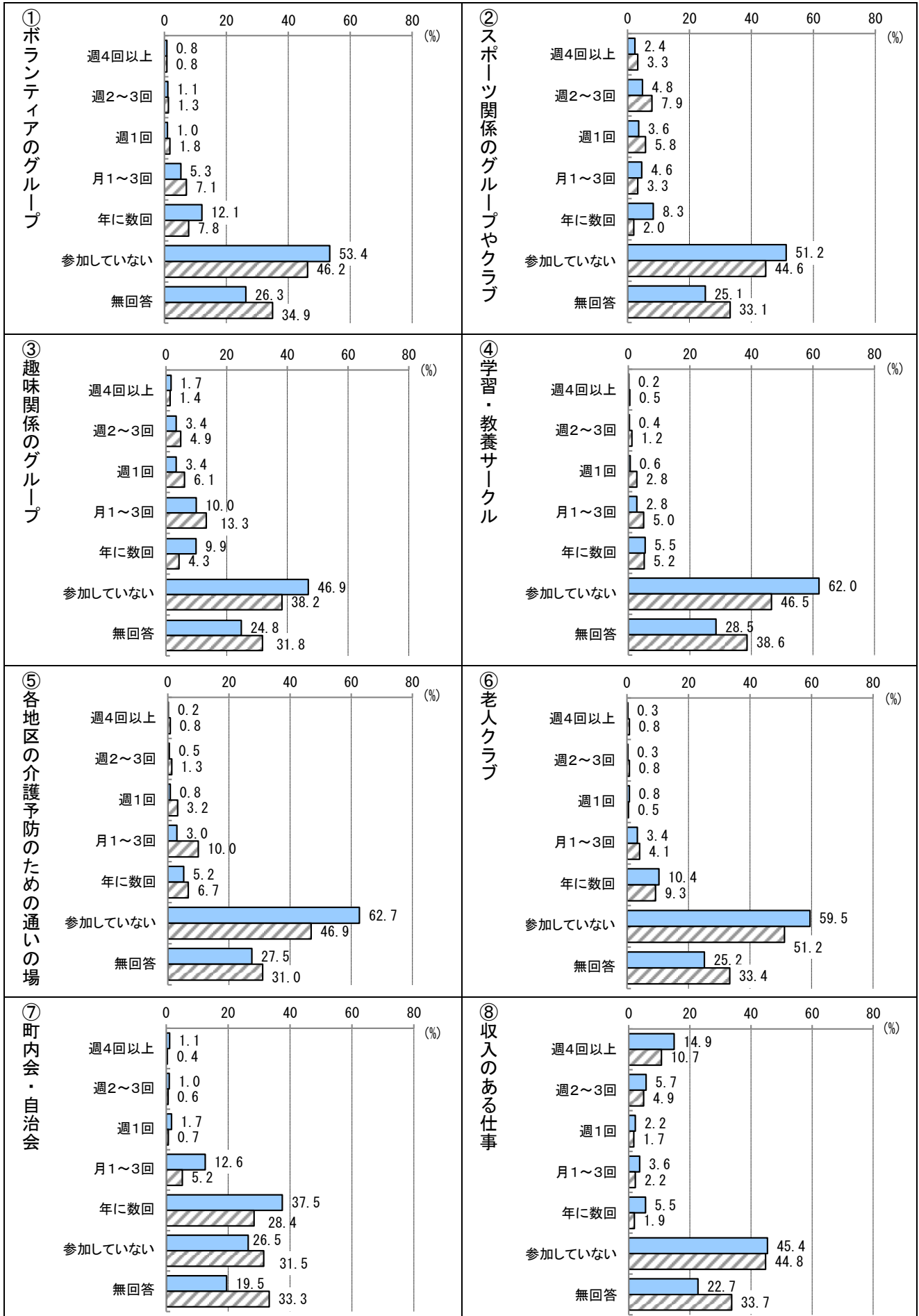
【図5-1-1 会・グループへの参加頻度（圏域別）】



<性別>

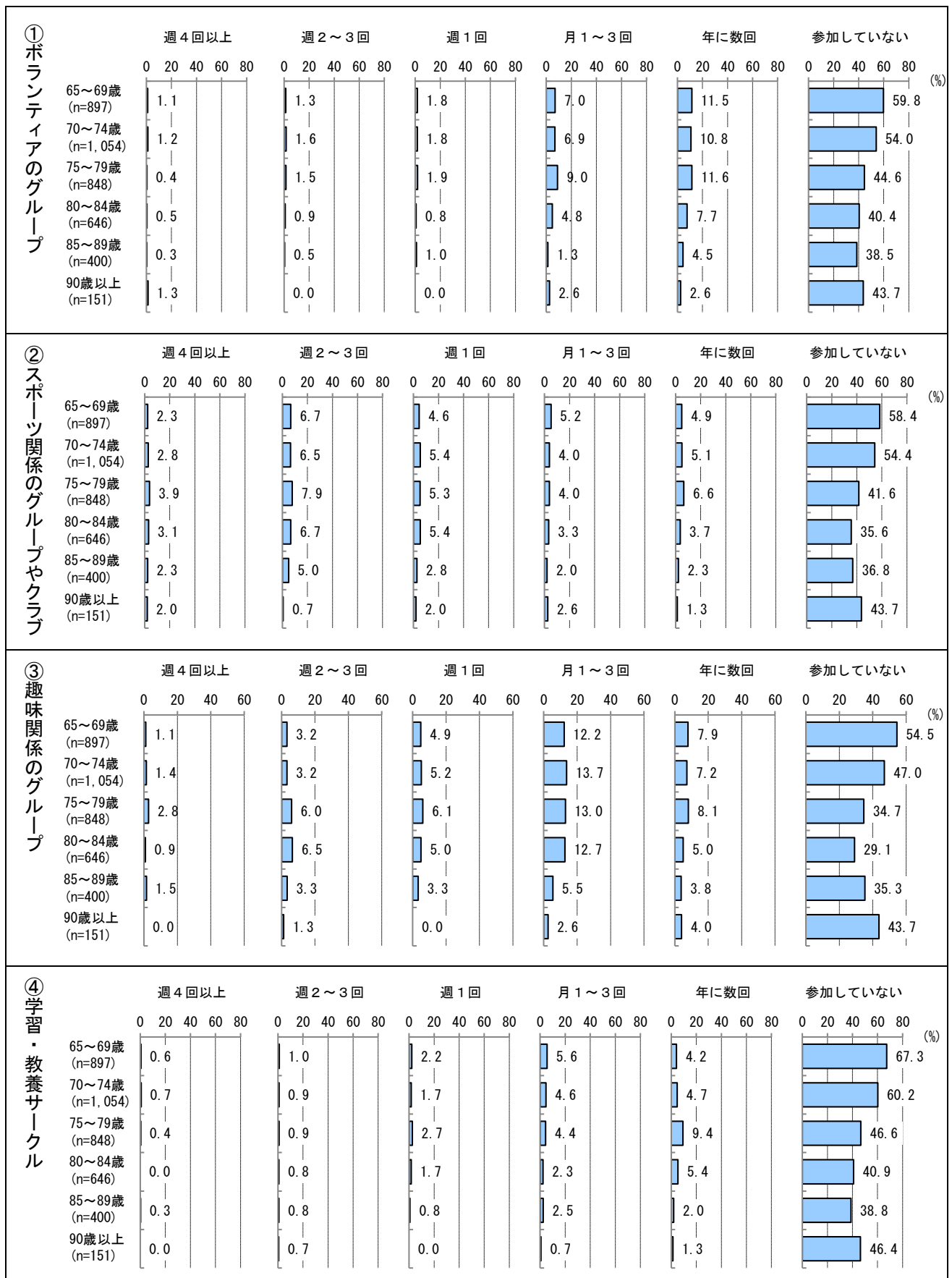
【図5-1-2 会・グループへの参加頻度（男女別）】

■ 男性(n=1,743)
 ■ 女性(n=2,248)



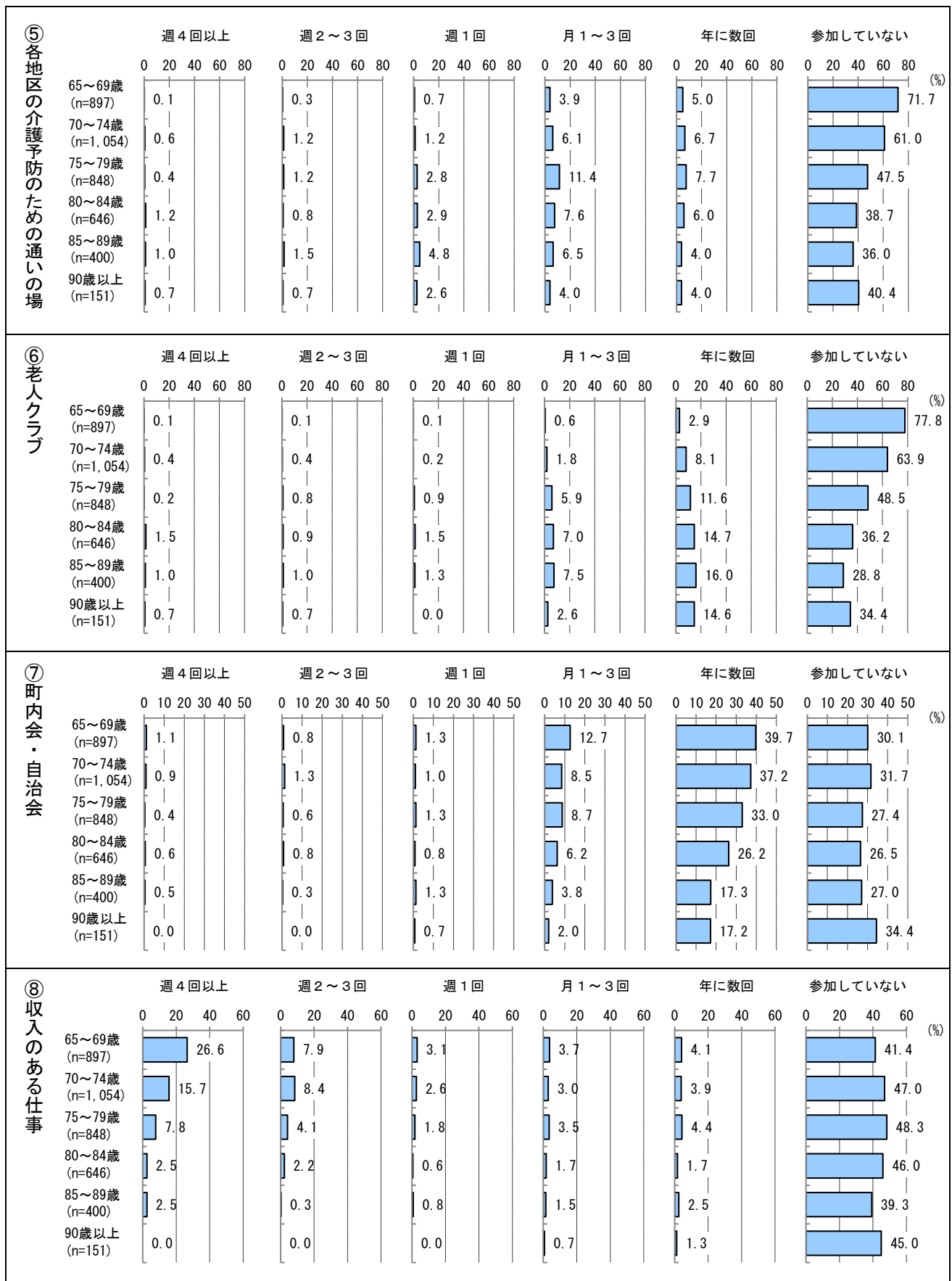
<年齢別>

【図5-1-3 会・グループへの参加頻度（年齢別）】



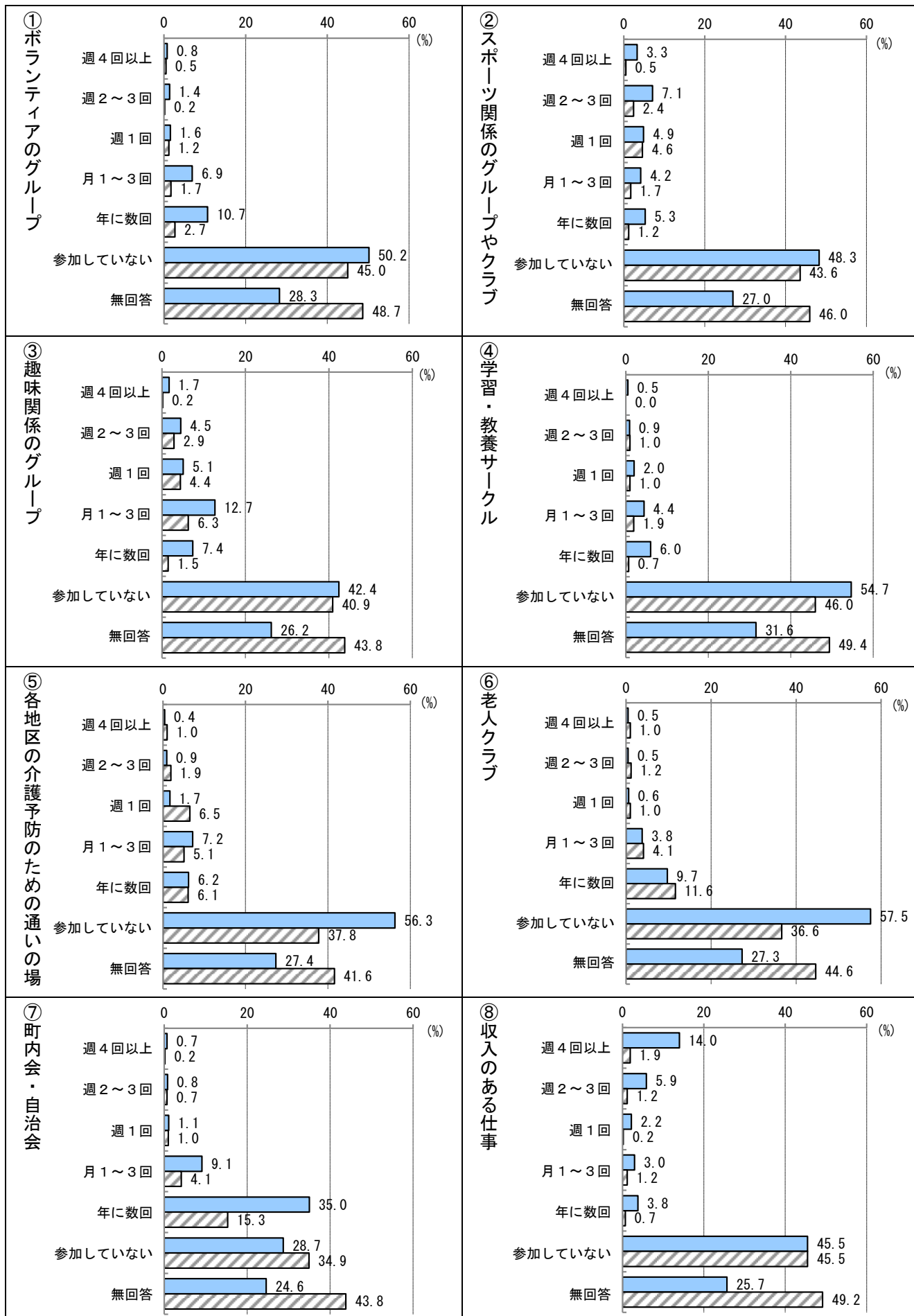
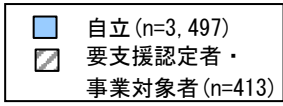
<年齢別>

【図5-1-3 会・グループへの参加頻度（年齢別）】



<認定状況別>

【図 5-1-4 会・グループへの参加頻度（認定状況別）】



圏域別では、北部圏域・南部圏域とも、⑦町内会・自治会を除くすべての会・グループで「参加していない」が最も多くなっている。

参加頻度でみると、①ボランティアのグループ、④学習・教養サークル、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会は、北部圏域・南部圏域とも「年に数回」が最も多くなっている。③趣味関係のグループ、⑤各地区の介護予防のための通いの場は、北部圏域・南部圏域とも「月1～3回」が最も多くなっている。②スポーツ関係のグループやクラブは、北部圏域では「年に数回」が、南部圏域では「週2～3回」が最も多くなっている。⑧収入のある仕事は、北部圏域・南部圏域とも「週4回以上」が最も多くなっている。(図5-1-1)

性別では、男性、女性とも、⑦町内会・自治会を除くすべての会・グループで「参加していない」が最も多くなっている。⑦町内会・自治会では、男性は「年に数回」が、女性は「参加していない」が最も多くなっている。

参加頻度でみると、①ボランティアのグループ、④学習・教養サークル、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会は、男性・女性とも「年に数回」が最も多くなっている。③趣味関係のグループは、男性・女性ともに「月1～3回」が最も多くなっている。⑧収入のある仕事は、男性・女性ともに「週4回以上」が最も多くなっている。②スポーツ関係のグループやクラブは、男性は「年に数回」が、女性は「週2～3回」が最も多くなっている。⑤各地区の介護予防のための通いの場は、男性は「年に数回」が、女性は「月1～3回」が最も多くなっている。(図5-1-2)

年齢別では、いずれの年代も、⑦町内会・自治会を除くすべての会・グループで「参加していない」が最も多くなっている。⑦町内会・自治会は、79歳以下で「年に数回」が、80歳以上で「参加していないが」が最も多くなっている。

参加頻度をみると、①ボランティアのグループ、②スポーツ関係のグループやクラブ、③趣味関係のグループ、④学習・教養サークル、⑤各地区の介護予防のための通いの場では、参加している人(『参加していない』と『無回答』以外の回答の人)は、「75～79歳」で最も多くなっている。⑥老人クラブでは、参加している人は「85～89歳」が最も多くなっている。⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事は、年齢が上るほど、参加している人が少なくなっている。(図5-1-3)

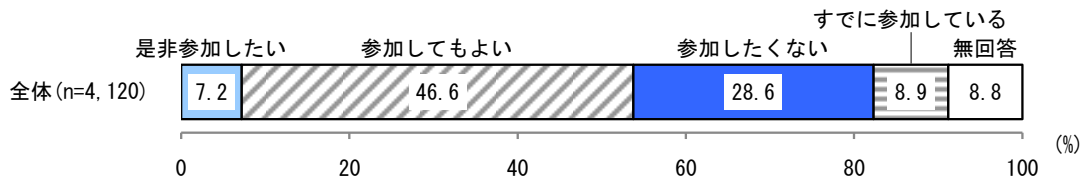
認定状況別では、要支援認定者等はいずれの会・グループも「参加していない」が最も多くなっている。

要支援認定者等の参加頻度をみると、参加している人(『参加していない』と『無回答』以外の回答の人)の割合は、⑦町内会・自治会(21.3%)、⑤各地区の介護予防のための通いの場(20.6%)、⑥老人クラブ(18.9%)が多くなっている。(図5-1-4)

(2) 地域づくり活動の参加者としての参加意向

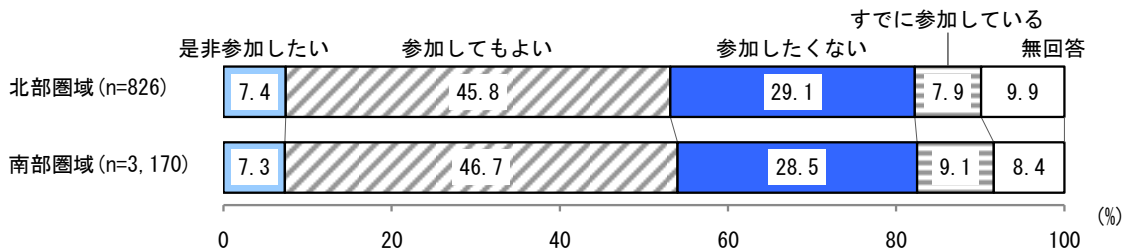
問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (〇は1つ)

【図5-2 地域づくり活動の参加者としての参加意向】



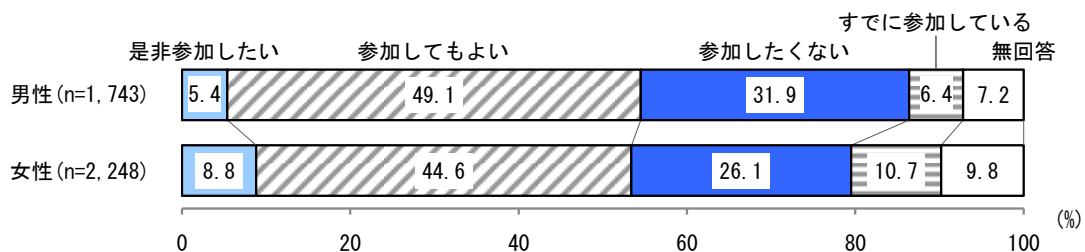
地域づくり活動の参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が46.6%で最も多く、次いで「参加したくない」が28.6%となっている。(図5-2)

【図5-2-1 地域づくり活動の参加者としての参加意向 (圏域別)】



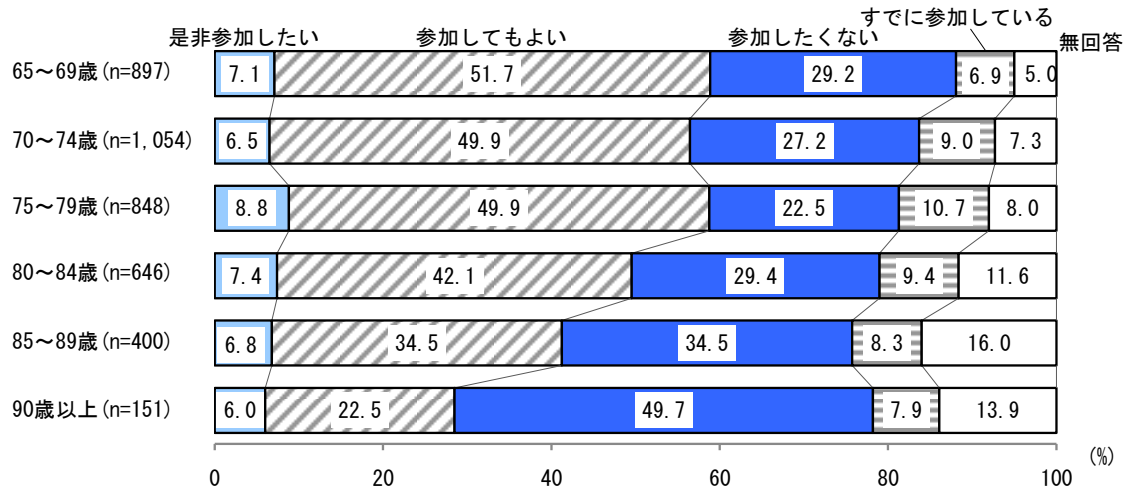
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 5-2-1)

【図 5-2-2 地域づくり活動の参加者としての参加意向 (性別)】



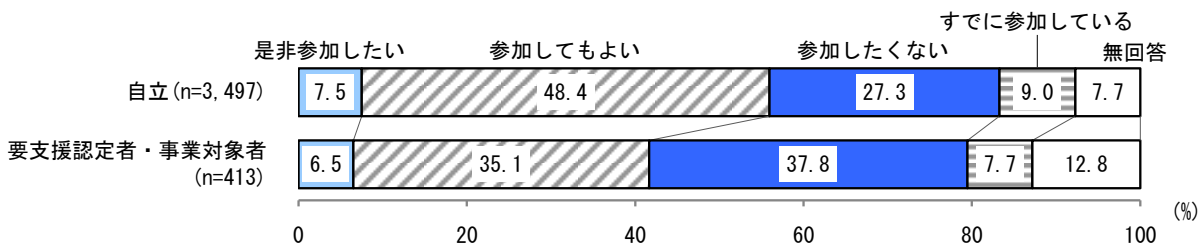
性別でみると、「参加したくない」割合は、男性のほうが 5.8 ポイント高くなっている。また「すでに参加している」割合は、女性のほうが 4.3 ポイント高くなっている。(図 5-2-2)

【図 5-2-3 地域づくり活動の参加者としての参加意向（年齢別）】



年齢別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加したい』割合は、79歳以下では過半数を占めている。(図 5-2-3)

【図5-2-4 地域づくり活動の参加者としての参加意向（認定状況別）】

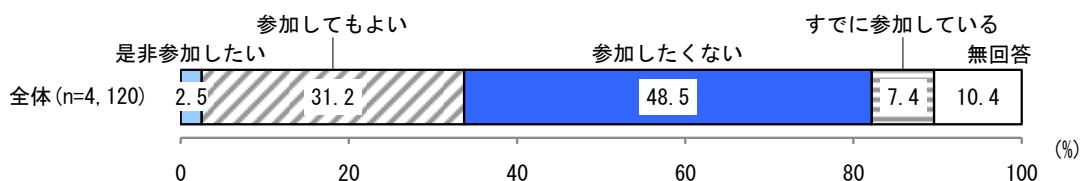


認定状況別でみると、要支援認定者等は「参加したくない」が37.8%で最も多くなっている。(図 5-2-4)

(3) 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向

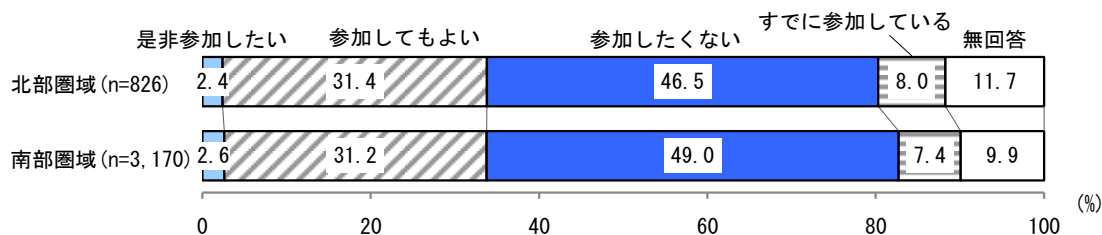
問5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○は1つ）

【図5-3 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向】



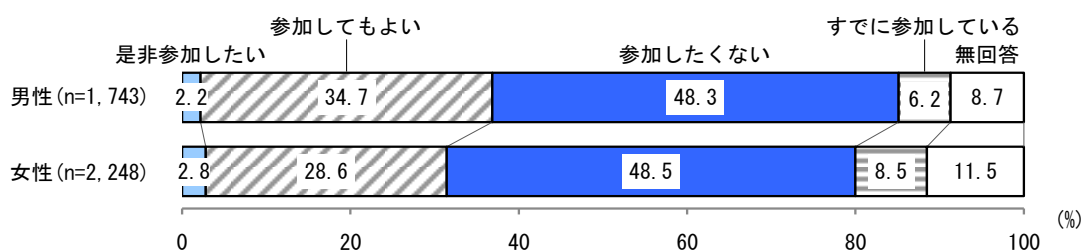
地域づくり活動の企画・運営としての参加意向については、「参加したくない」が48.5%で最も多く、次いで「参加してもよい」が31.2%となっている。(図5-3)

【図5-3-1 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向（圏域別）】



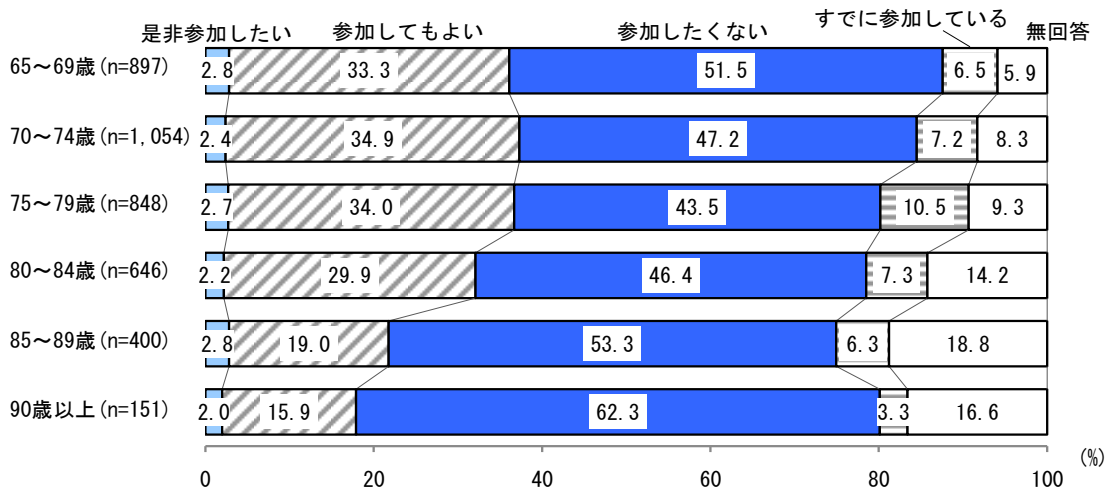
圏域別にみると、「参加したくない」割合は南部圏域のほうが2.5ポイント高くなっている。(図5-3-1)

【図5-3-2 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向（性別）】



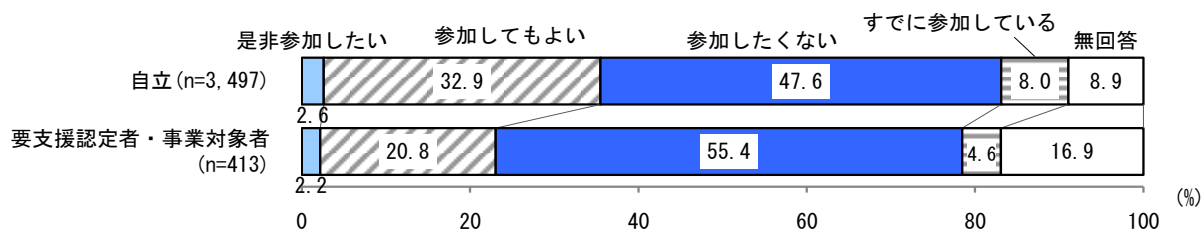
性別でみると、「参加してもよい」割合は、男性のほうが6.1ポイント高くなっている。また、「参加したくない」は、男女とも半数近くになっている。(図5-3-2)

【図5-3-3 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向（年齢別）】



年齢別でみると、「参加してもよい」割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。また「すでに参加している」割合は、75~79歳で10.5%と最も高くなっている。(図5-3-3)

【図5-3-4 地域づくり活動の企画・運営としての参加意向（認定状況別）】



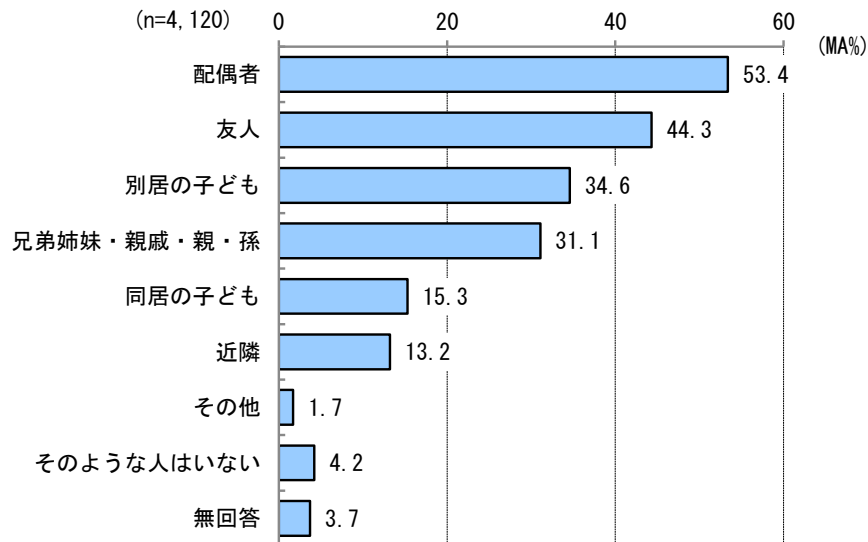
認定状況別でみると、要支援認定者等は「参加したくない」が55.4%で最も多くなっている。(図5-3-4)

6. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

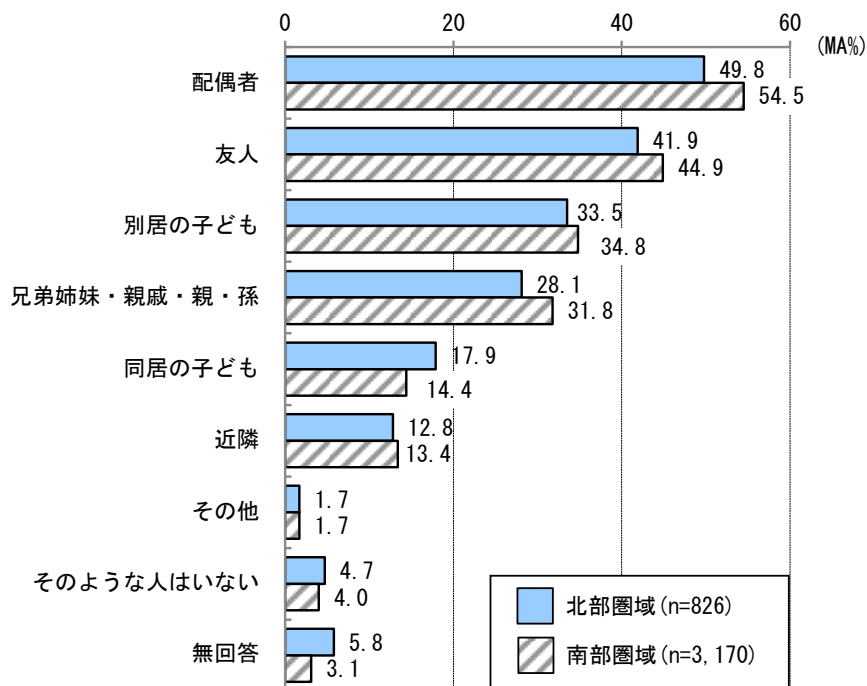
問6 (1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(○はいくつでも)

【図6-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



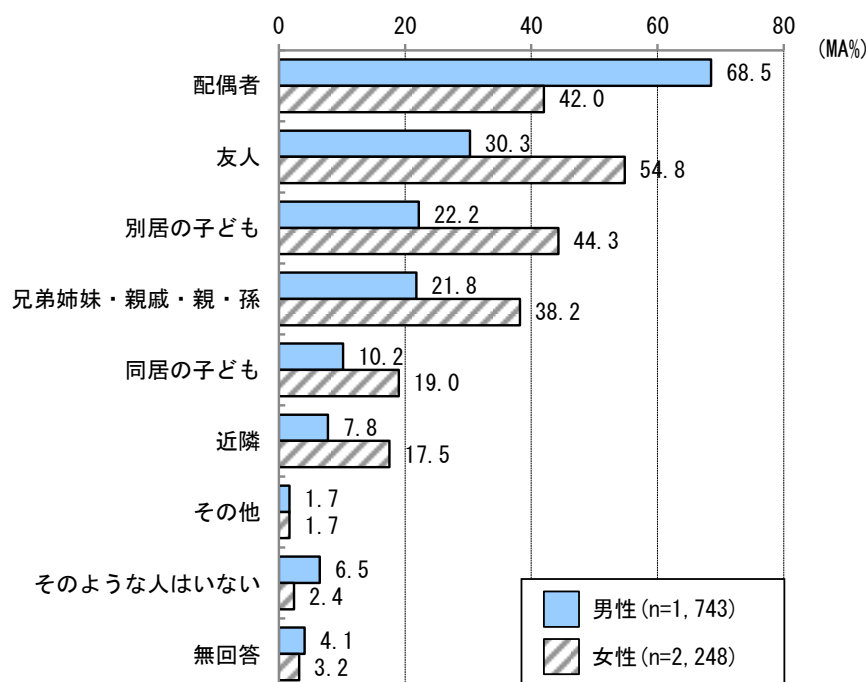
心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が53.4%で最も多く、次いで「友人」が44.3%、「別居の子ども」が34.6%となっている。(図6-1)

【図6-1-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人(圏域別)】



圏域別で見ると、「配偶者」の割合は、南部圏域のほうが4.7ポイント高くなっている。(図6-1-1)

【図6-1-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人（性別）】



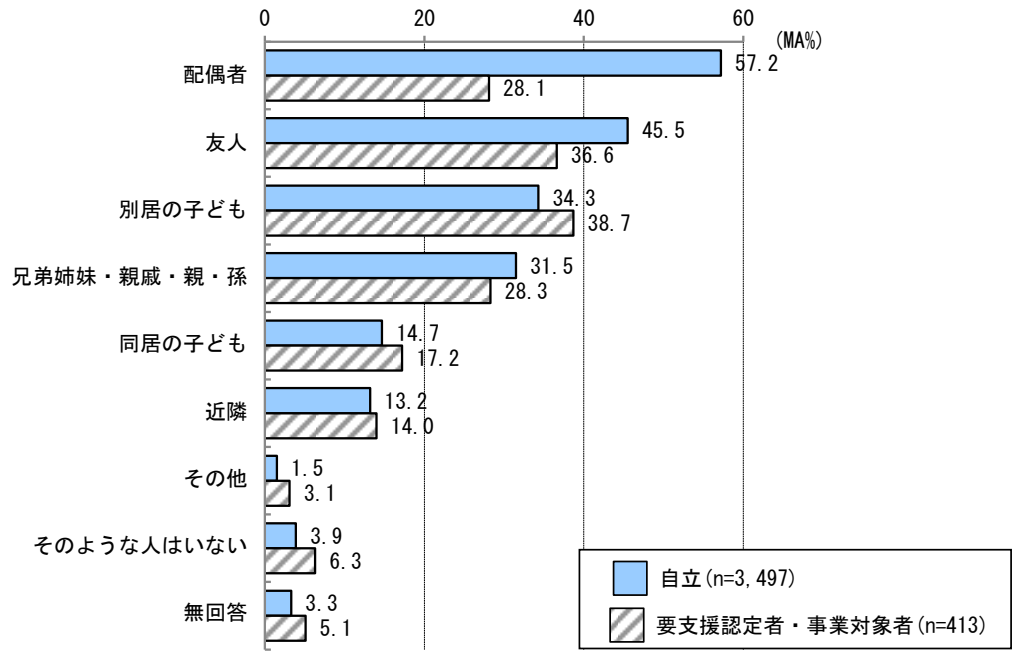
性別で見ると、「配偶者」の割合は男性のほうが高くなっているが、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。「そのような人はいない」割合は、男性のほうが4.1ポイント高くなっている。(図 6-1-2)

【表6-1-3 心配事や愚痴を聞いてくれる人（年齢別）】

	n	配偶者	友人	別居の子ども	親・兄弟姉妹・孫・親戚・	同居の子ども	近隣	その他	ない	そのような人はい	無回答
65～69歳	897	64.4	52.3	32.1	33.9	12.9	12.3	3.0	3.6	1.4	
70～74歳	1,054	64.4	48.4	30.6	32.8	13.1	13.0	0.9	3.5	2.8	
75～79歳	848	56.6	44.8	38.1	29.0	14.9	13.2	1.1	3.9	3.5	
80～84歳	646	40.2	39.6	37.8	29.9	15.9	15.2	1.5	4.8	6.2	
85～89歳	400	31.0	29.0	37.5	27.0	18.8	12.8	2.0	6.5	6.3	
90歳以上	151	12.6	21.9	36.4	27.8	30.5	14.6	2.6	6.6	6.6	

年齢別で見ると、65～84歳までは「配偶者」が最も多く、85歳以上は「別居の子ども」が最も多くなっている。(表 6-1-3)

【図6-1-4 心配事や愚痴を聞いてくれる人（認定状況別）】

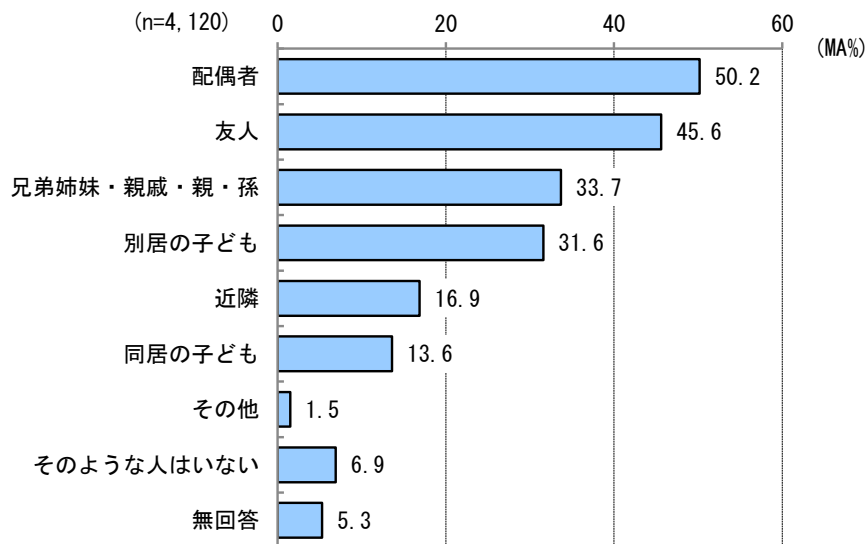


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「別居の子ども」が38.7%で最も多く、次いで「友人」が36.6%となっている。（図6-1-4）

（2）心配事や愚痴を聞いてあげる人

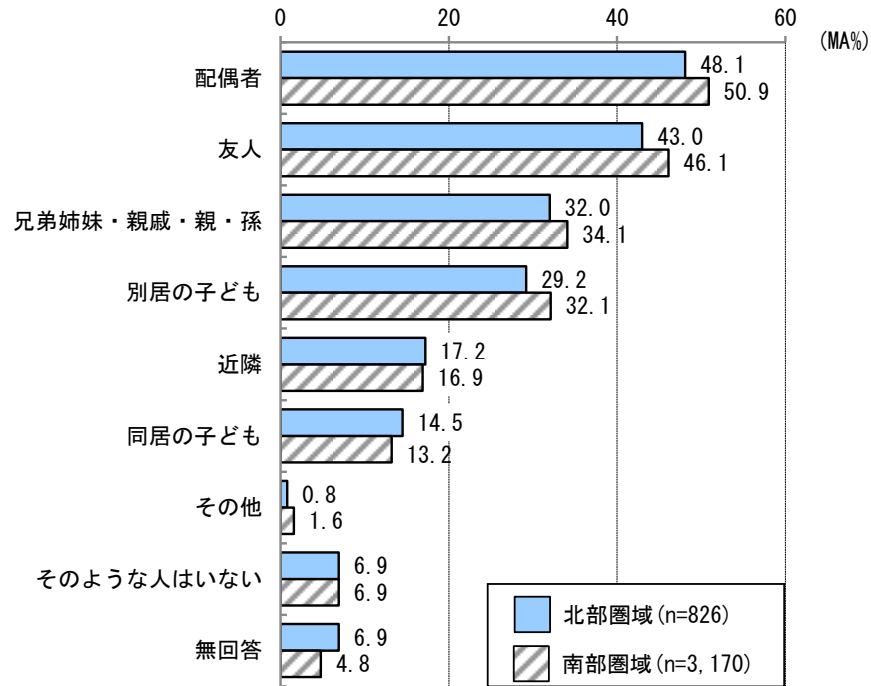
問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（〇はいくつでも）

【図6-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



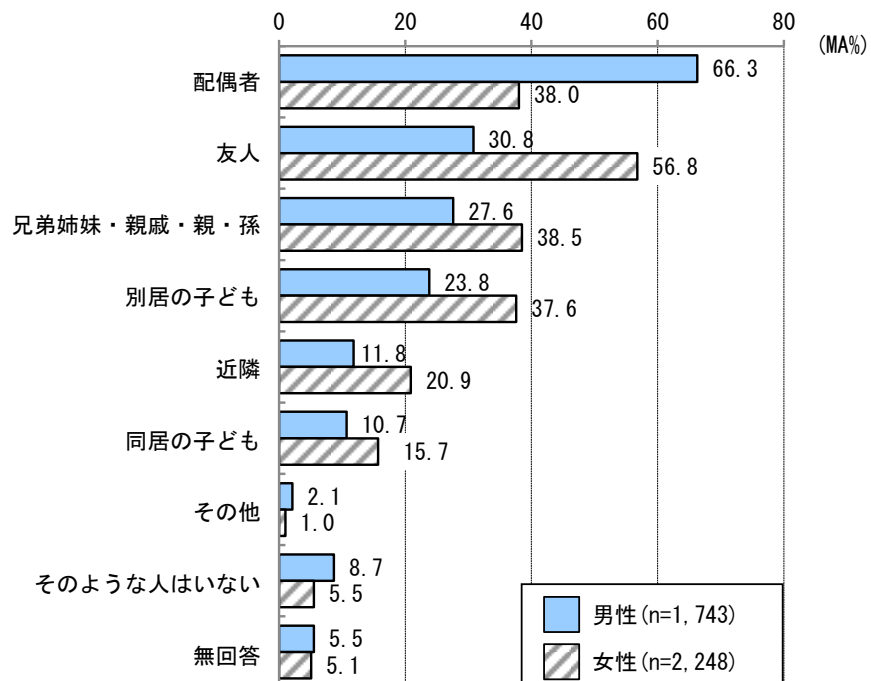
心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が50.2%で最も多く、次いで「友人」が45.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が33.7%となっている。（図6-2）

【図6-2-1 心配事や愚痴を聞いてあげる人（圏域別）】



圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 6-2-1)

【図6-2-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人（性別）】



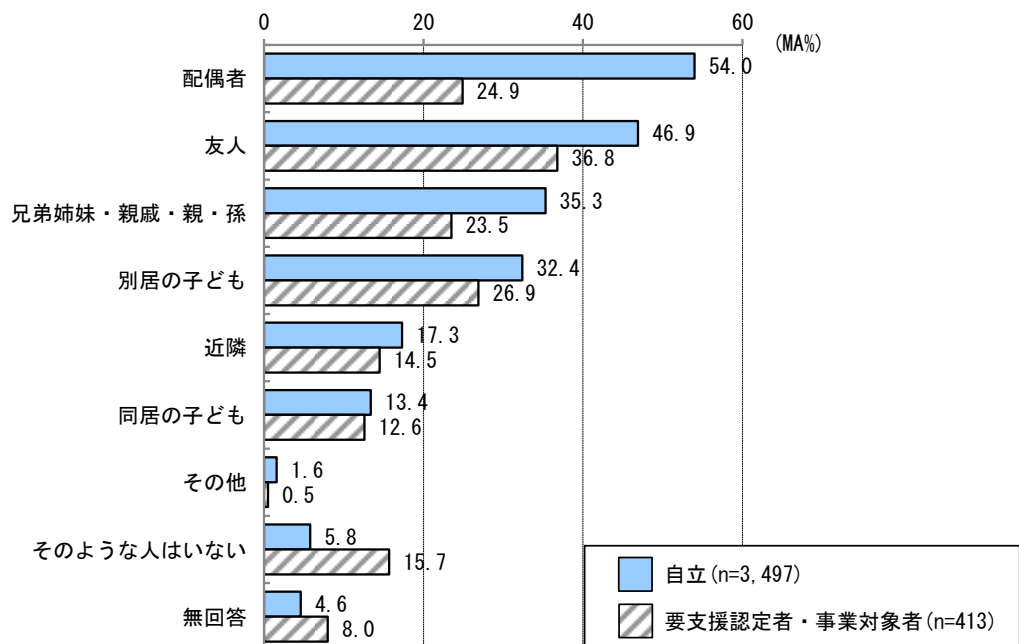
性別でみると、「配偶者」の割合は男性のほうが高くなっているが、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。「そのような人はいない」割合は男性のほうが3.2ポイント高くなっている。(図 6-2-2)

【表6-2-3 心配事や愚痴を聞いてあげる人（年齢別）】

	n	配偶者	友人	親・兄弟・孫・姉妹・親戚・	別居の子ども	近隣	同居の子ども	その他	ない	そのような人は	無回答
65～69歳	897	62.0	52.0	39.2	34.0	16.7	13.5	3.5	4.6	2.2	
70～74歳	1,054	61.1	50.0	35.7	30.9	17.4	13.2	0.9	4.4	3.4	
75～79歳	848	52.1	46.6	34.2	35.0	16.0	13.3	1.1	5.1	5.2	
80～84歳	646	37.5	42.0	31.6	30.0	20.0	13.6	0.5	7.9	7.6	
85～89歳	400	27.5	31.3	23.3	25.5	14.3	13.5	0.5	14.5	11.3	
90歳以上	151	11.3	19.9	20.5	22.5	15.2	15.9	2.6	25.2	10.6	

年齢別で見ると、65～79歳までは「配偶者」が最も多く、80～89歳では「友人」が最も多い。また、90歳以上では「別居の子ども」が最も多くなっている。（表 6-2-3）

【図6-2-4 心配事や愚痴を聞いてあげる人（認定状況別）】

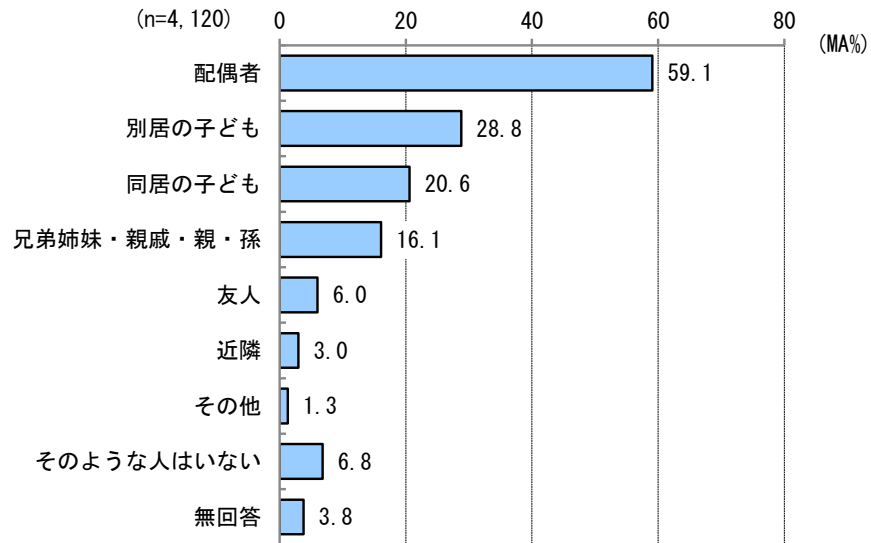


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「友人」が36.8%で最も多く、次いで「別居の子ども」が26.9%となっている。（図 6-2-4）

(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

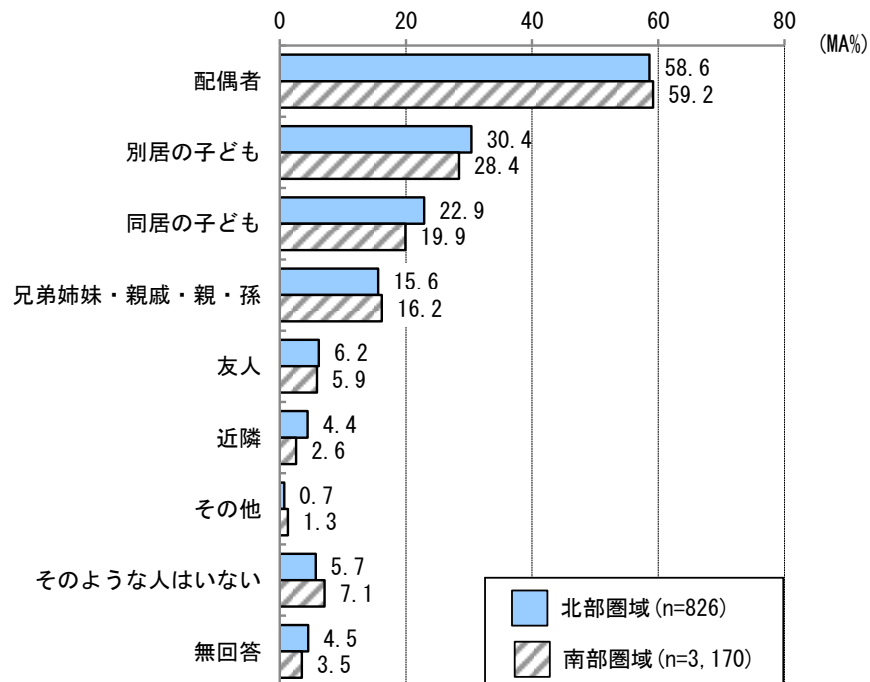
問6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)

【図6-3 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人】



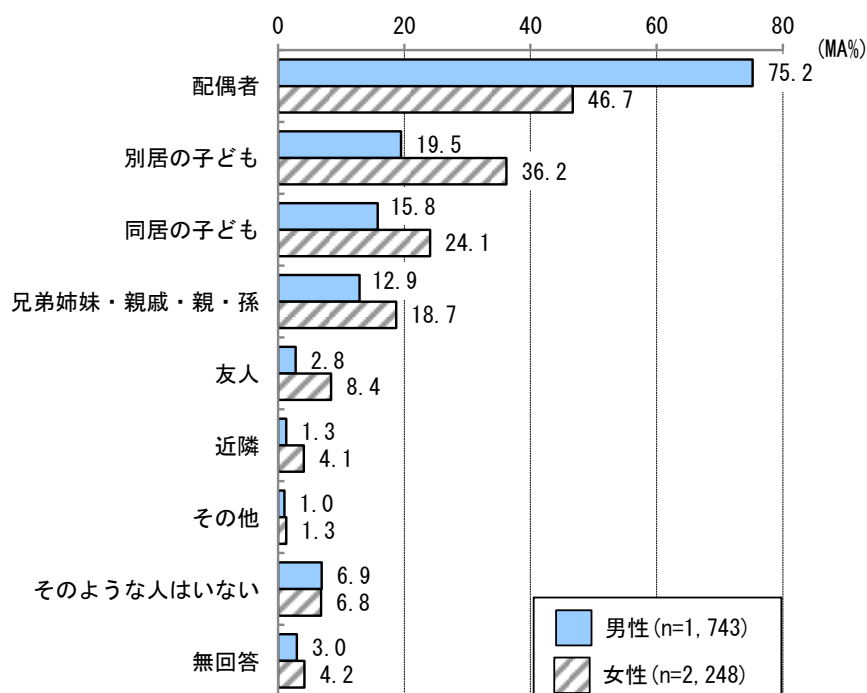
病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が59.1%で最も多く、次いで「別居の子ども」が28.8%、「同居の子ども」が20.6%となっている。(図6-3)

【図6-3-1 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (圏域別)】



圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 6-3-1)

【図6-3-2 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（性別）】



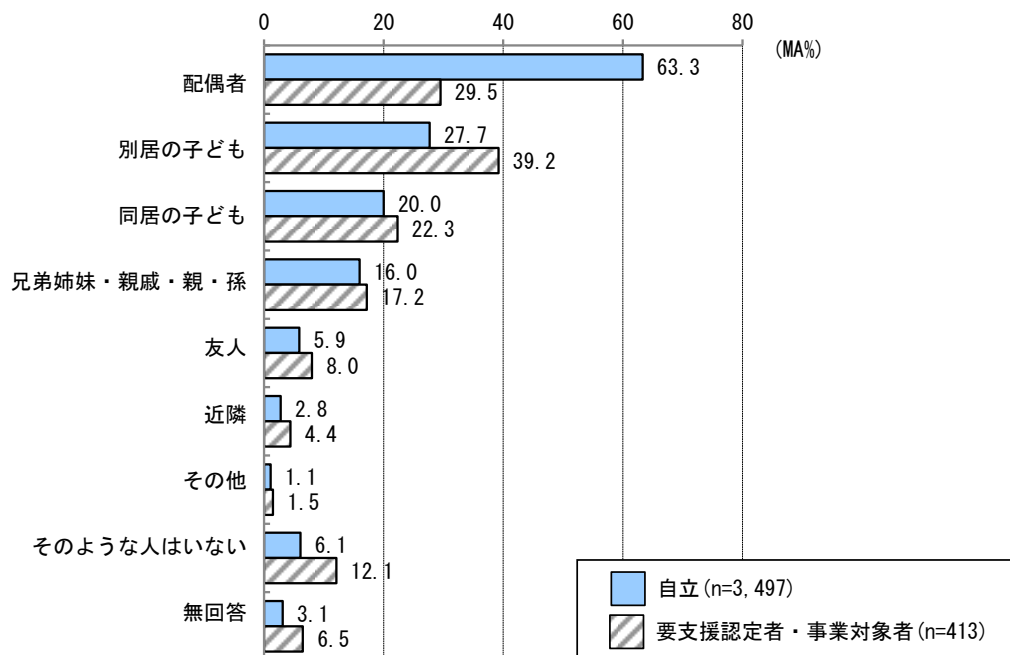
性別でみると、「配偶者」の割合は男性のほうが高くなっているが、それ以外の項目は概ね女性のほうが高くなっている。(図 6-3-2)

【表6-3-3 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（年齢別）】

	n	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	親兄弟姉妹・親戚・孫	友人	近隣	その他	ない その ような 人はい	無回答
65～69歳	897	72.1	19.6	18.5	15.4	5.9	2.6	0.9	8.0	2.2
70～74歳	1,054	72.5	26.1	15.8	14.2	6.4	2.5	0.9	5.6	2.8
75～79歳	848	61.8	30.9	18.9	15.0	7.2	2.9	0.8	6.0	3.8
80～84歳	646	42.6	34.5	24.5	20.1	5.0	3.1	1.7	7.4	5.7
85～89歳	400	33.0	38.3	27.8	16.0	5.3	4.3	1.8	7.8	5.5
90歳以上	151	13.2	42.4	37.7	22.5	2.6	5.3	2.6	7.3	6.0

年齢別でみると、65～84歳までは「配偶者」が最も多く、85歳以上では「別居の子ども」が最も多くなっている。(表 6-3-3)

【図6-3-4 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（認定状況別）】

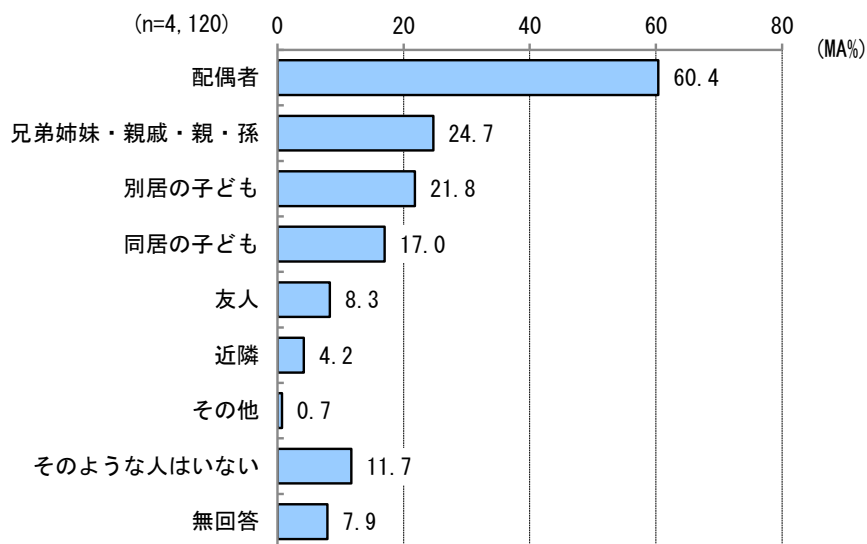


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「別居の子ども」が39.2%で最も多く、次いで「配偶者」が29.5%となっている。(図6-3-4)

(4) 看病や世話をしてあげる人

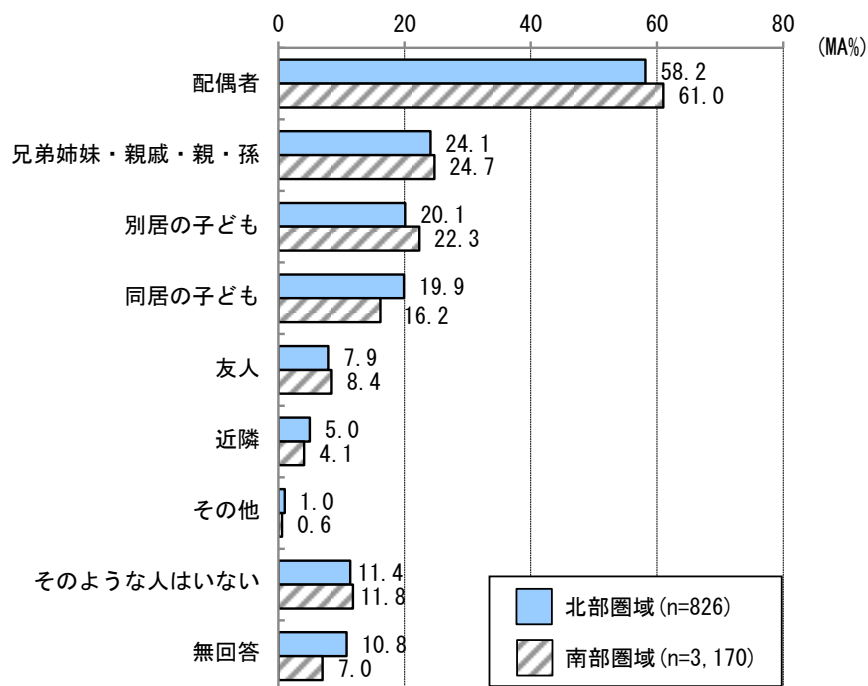
問6 (4) 反対に、看病や世話をしてあげる人 (〇はいくつでも)

【図6-4 看病や世話をしてあげる人】



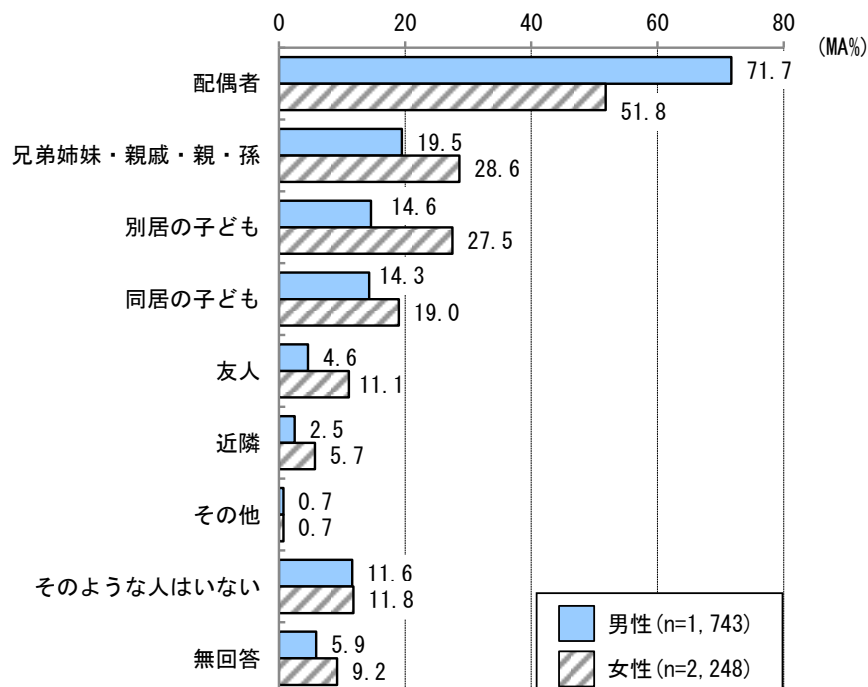
看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が60.4%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が24.7%、「別居の子ども」が21.8%となっている。(図6-4)

【図6-4-1 看病や世話をしあける人（圏域別）】



圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 6-4-1)

【図6-4-2 看病や世話をしあける人（性別）】



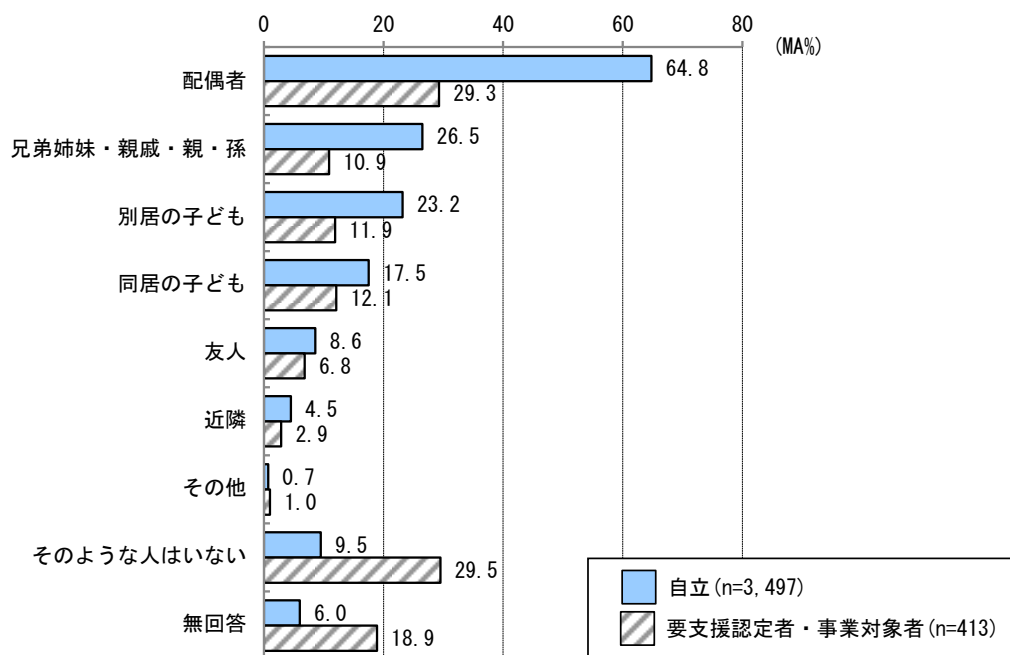
性別でみると、「配偶者」の割合は男性のほうが高くなっているが、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。(図 6-4-2)

【表6-4-3 看病や世話をしあける人（年齢別）】

	n	配偶者	親兄弟・孫姉妹・親戚・	別居の子ども	同居の子ども	友人	近隣	その他	ない	そのような人はい	無回答
65～69歳	897	71.9	34.6	26.5	18.5	9.0	4.6	0.9	7.8	2.3	
70～74歳	1,054	73.1	28.5	24.8	17.2	8.3	3.9	0.3	7.3	4.3	
75～79歳	848	64.7	21.5	24.4	17.3	9.4	4.6	0.7	9.2	5.8	
80～84歳	646	46.1	19.3	15.9	14.9	7.4	5.4	0.5	13.5	14.1	
85～89歳	400	34.0	12.5	14.0	16.0	7.0	2.8	1.3	23.3	17.5	
90歳以上	151	11.3	9.3	5.3	14.6	2.6	2.0	2.0	41.1	23.8	

年齢別で見ると、90歳以上では「同居の子ども」が最も多いが、89歳以下では「配偶者」が最も多くなっている。（表6-4-3）

【図6-4-4 看病や世話をしあける人（認定状況）】

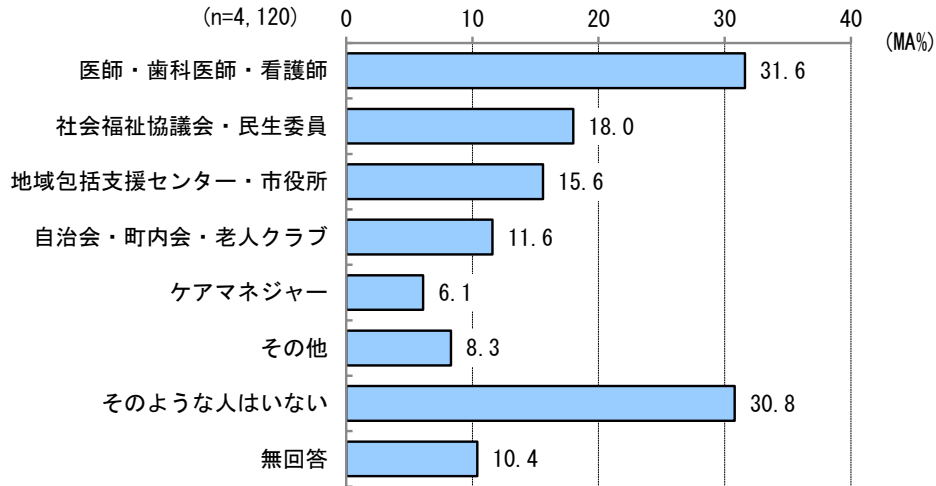


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「そのような人はいない」が29.5%で最も多く、次いで「配偶者」が29.3%となっている。（図6-4-4）

(5) 家族や友人・知人以外で相談する相手

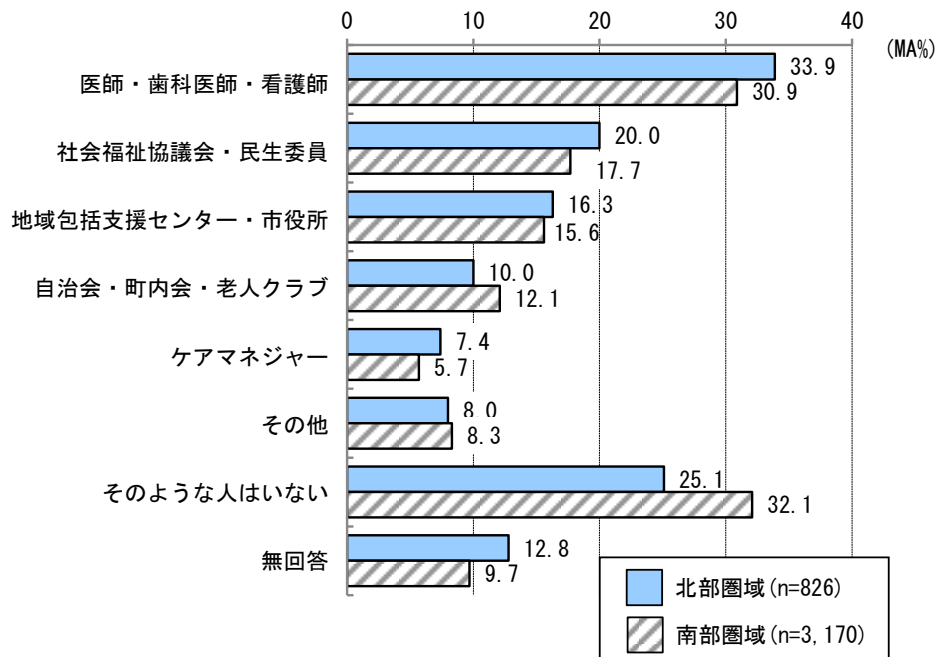
問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(〇はいくつでも)

【図6-5 家族や友人・知人以外で相談する相手】



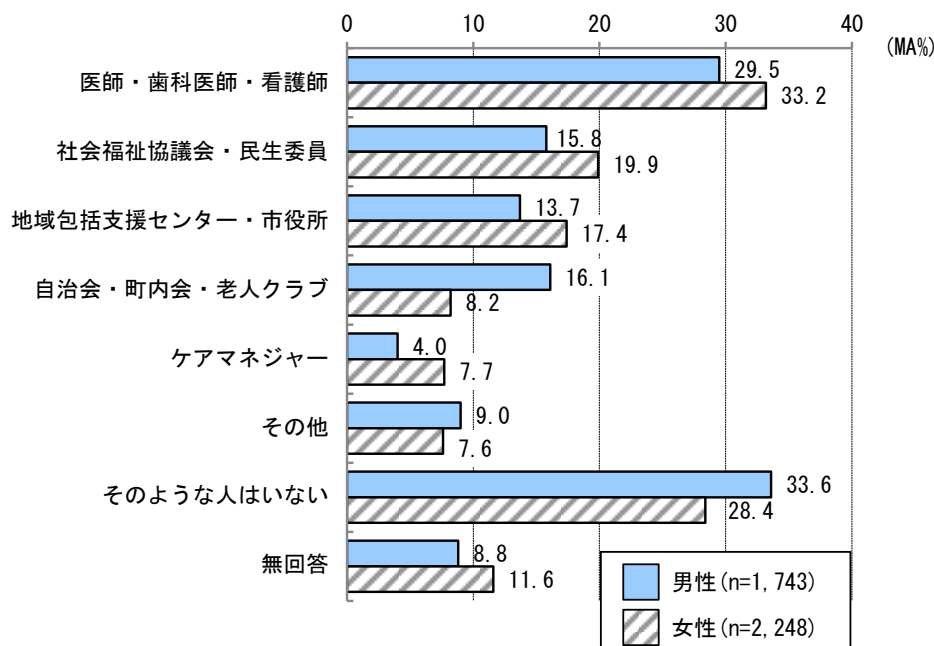
家族や友人・知人以外で相談する相手については、「医師・歯科医師・看護師」が31.6%、「社会福祉協議会・民生委員」が18.0%、「地域包括支援センター・市役所」が15.6%となっている。一方、「そのような人はいない」が30.8%となっている。(図6-5)

【図6-5-1 家族や友人・知人以外で相談する相手 (圏域別)】



圏域別でみると、「自治会・町内会・老人クラブ」の割合は南部圏域のほうが高いが、それ以外の項目は北部圏域のほうが高くなっている。「そのような人はいない」割合は、南部圏域のほうが7.0ポイント高くなっている。(図6-5-1)

【図6-5-2 家族や友人・知人以外で相談する相手（性別）】



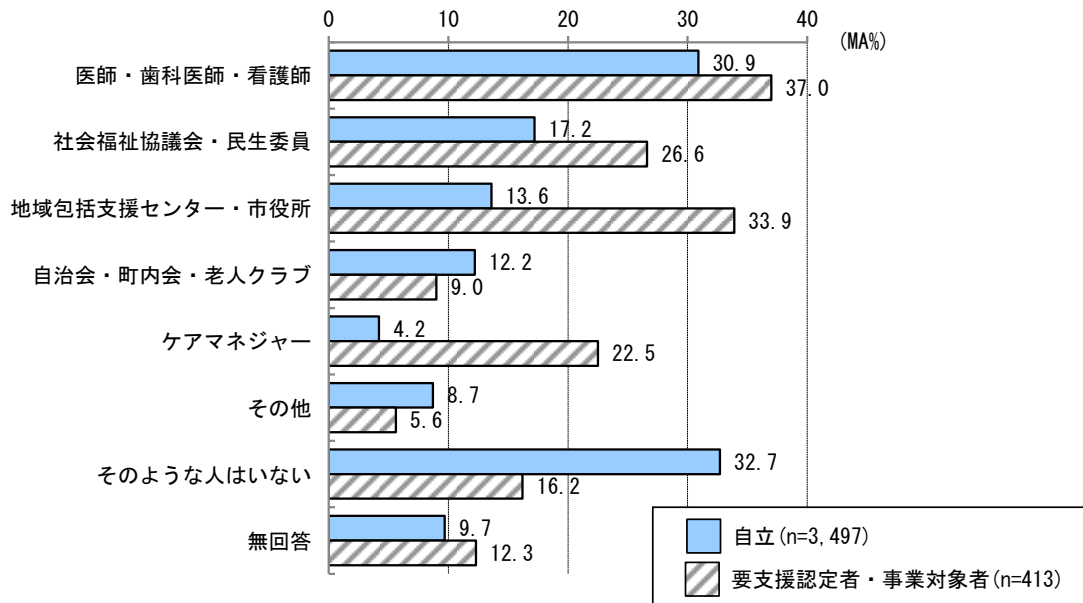
性別でみると、「自治会・町内会・老人クラブ」「その他」の割合は男性のほうが高くなっているが、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。また、「そのような人はいない」割合は、男性のほうが5.2ポイント高くなっている。(図6-5-2)

【表6-5-3 家族や友人・知人以外で相談する相手（年齢別）】

	n	看 護 師 ・ 歯 科 医 師 ・ 診 察 室 医 生	民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会	地 域 ・ 包 括 支 援 セ ン タ ー ・ 市 役 所	老 人 自 治 会 ・ 町 内 会 ・ ク ラ ブ	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	そ の 他	な い そ の よ う な 人 は い ない	無 回 答
65～69歳	897	26.4	11.7	15.6	11.8	4.1	11.8	39.0	5.7
70～74歳	1,054	30.4	14.0	13.7	10.3	3.7	8.6	36.1	9.3
75～79歳	848	33.6	19.1	15.8	12.6	6.7	6.7	27.1	11.9
80～84歳	646	33.3	24.1	16.6	11.9	6.8	6.2	24.0	14.4
85～89歳	400	36.0	27.3	18.3	11.5	12.3	6.8	19.8	14.0
90歳以上	151	38.4	31.1	19.9	14.6	10.6	3.3	21.2	11.9

年齢別でみると、すべての年齢で「医師・歯科医師・看護師」が最も多く、その割合は年齢が上がるほど高い傾向となっている。一方「そのような人はいない」は、年齢が下がるほど高い傾向となっている。(表6-5-3)

【図6-5-4 家族や友人・知人以外で相談する相手（認定状況別）】

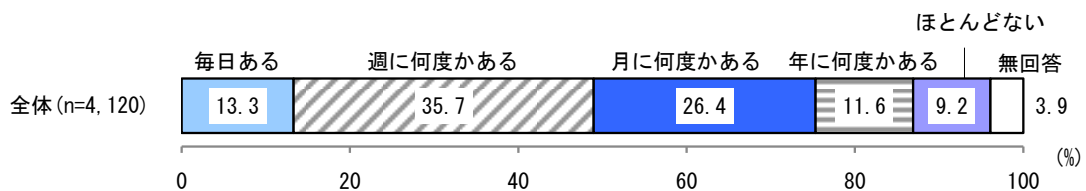


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「医師・歯科医師・看護師」が37.0%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・市役所」が33.9%となっている。（図6-5-4）

（6）友人・知人と会う頻度

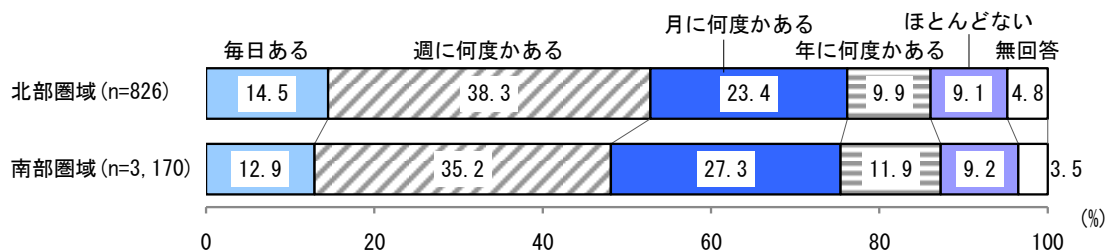
問6（6）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（○は1つ）

【図6-6 友人・知人と会う頻度】



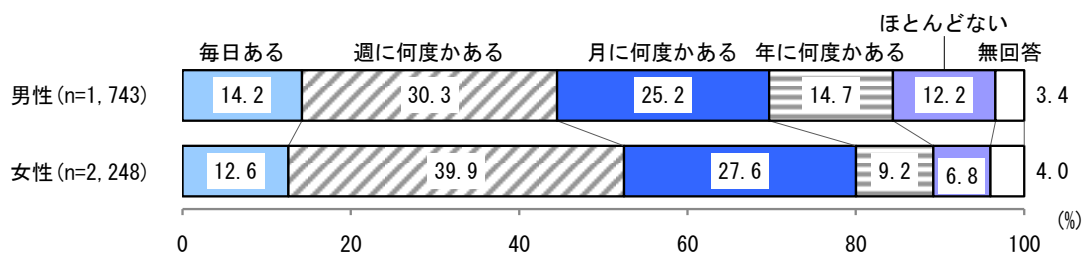
友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が35.7%で最も多く、次いで「月に何度かある」が26.4%、「毎日ある」が13.3%となっている。（図6-6）

【図6-6-1 友人・知人と会う頻度（圏域別）】



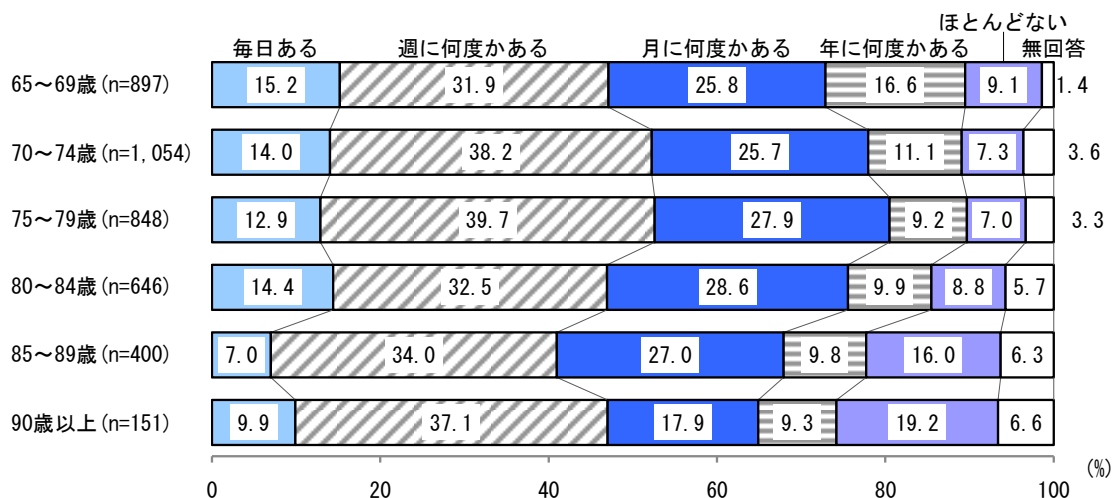
圏域別で見ると、「毎日ある」「週に何度かある」割合は、北部圏域のほうが高くなっている。（図6-6-1）

【図6-6-2 友人・知人と会う頻度（性別）】



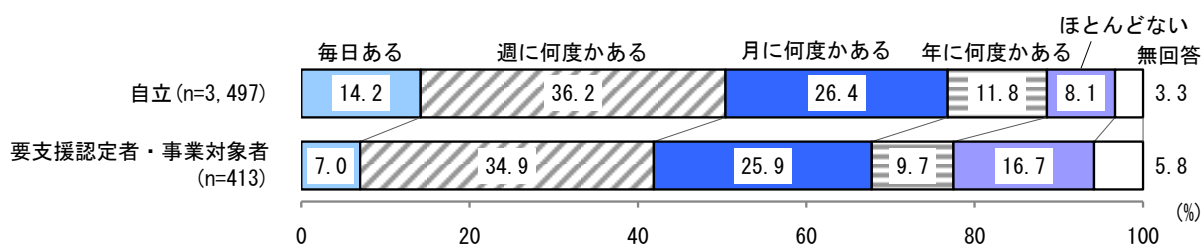
性別でみると、「ほとんどない」割合は、男性のほうが5.4ポイント高くなっている。(図6-6-2)

【図6-6-3 友人・知人と会う頻度（年齢別）】



年齢別でみると、「ほとんどない」割合は、80歳以上では年齢が上がるほど高くなっている。(図6-6-3)

【図6-6-4 友人・知人と会う頻度（認定状況別）】

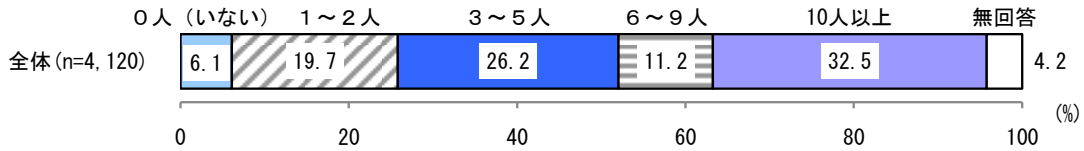


認定状況別でみると、要支援認定者等は「週に何度かある」が34.9%で最も多く、次いで「月に何度かある」が25.9%となっている。(図6-6-4)

(7) 1か月間に会った友人・知人の人数

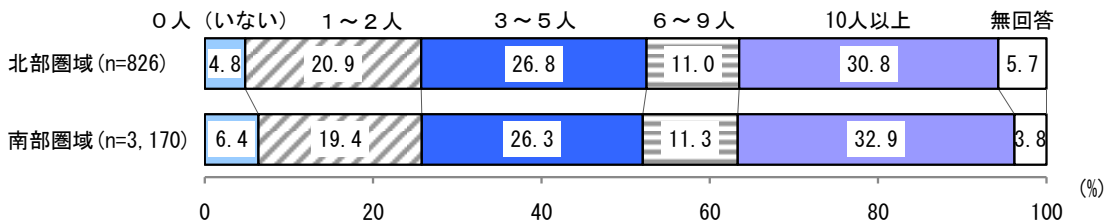
問6 (7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか (〇は1つ)
 同じ人には何度会っても1人と数えることとします

【図6-7 1か月間に会った友人・知人の人数】



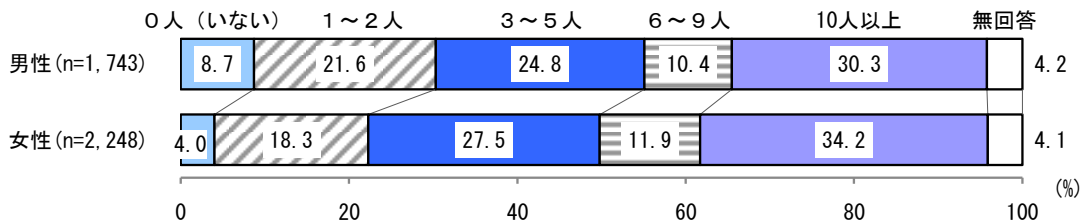
1か月間に会った友人・知人の人数については、「10人以上」が32.5%で最も多く、次いで「3~5人」が26.2%、「1~2人」が19.7%となっている。(図6-7)

【図6-7-1 1か月間に会った友人・知人の人数 (圏域別)】



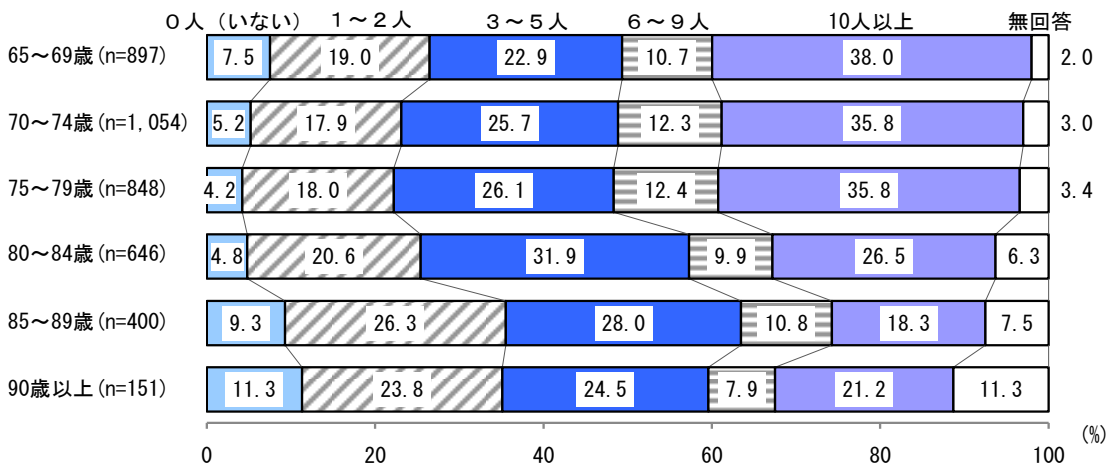
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図6-7-1)

【図6-7-2 1か月間に会った友人・知人の人数 (性別)】



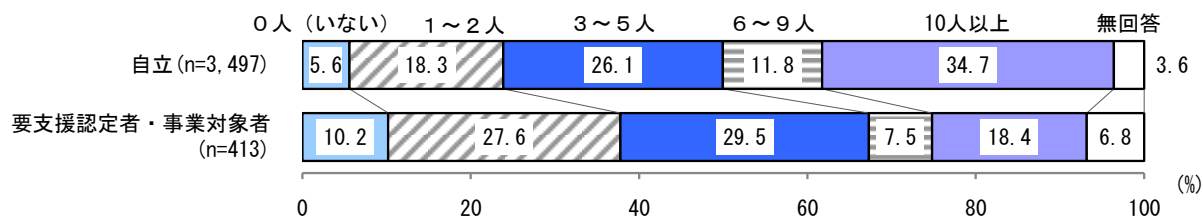
性別でみると、「0人 (いない)」割合は、男性のほうが4.7ポイント高くなっている。(図6-7-2)

【図6-7-3 1か月間に会った友人・知人の人数 (年齢別)】



年齢別でみると、「10人以上」の割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。(図6-7-3)

【図6-7-4 1か月に会った友人・知人の人数（認定状況別）】

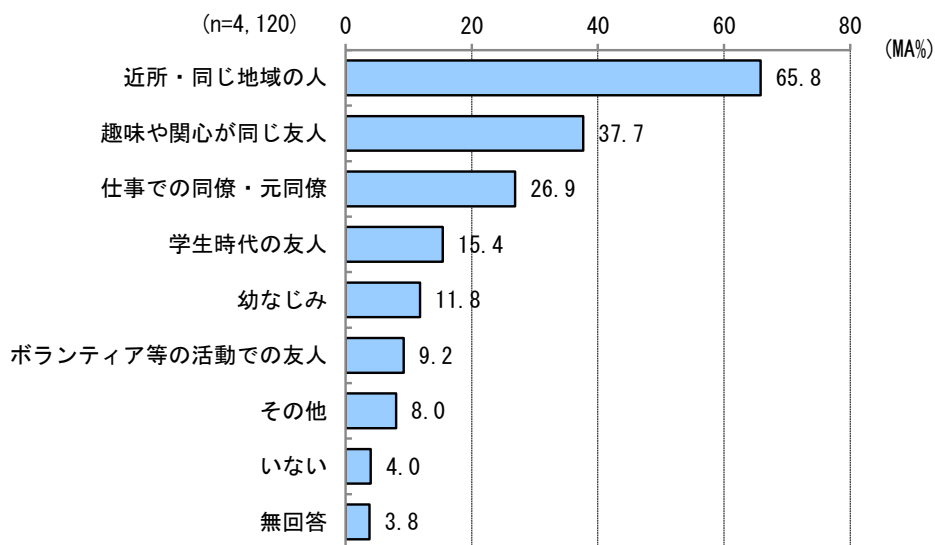


認定状況別でみると、要支援認定者等は「3～5人」が29.5%で最も多く、次いで「1～2人」が27.6%となっている。（図6-7-4）

（8）よく会う友人・知人との関係

問6（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（〇はいくつでも）

【図6-8 よく会う友人・知人との関係】



よく会う友人・知人との関係については、「近所・同じ地域の人」が65.8%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が37.7%、「仕事での同僚・元同僚」が26.9%となっている。（図6-8）

7. 健康について

(1) 主観的健康観

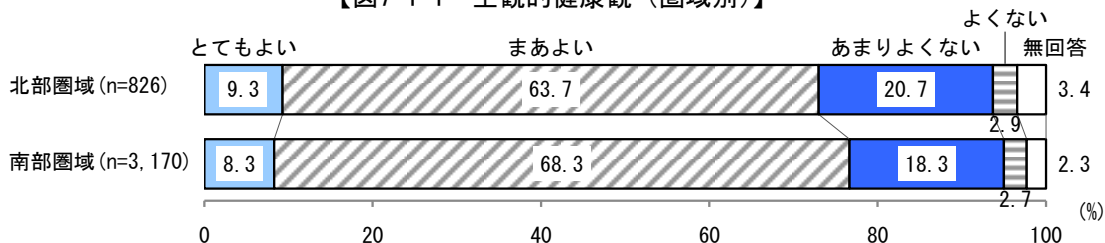
問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○は1つ)

【図7-1 主観的健康観】



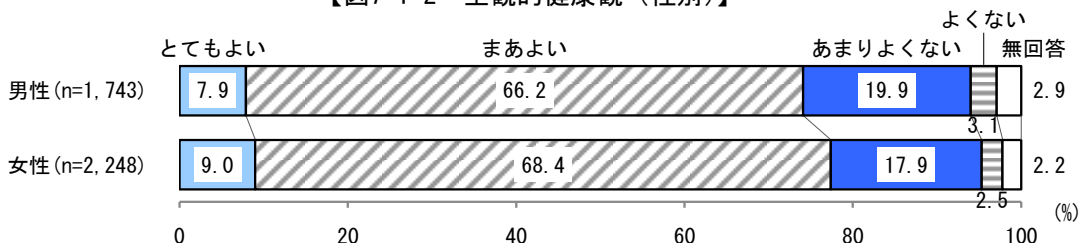
主観的健康観については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』割合は75.8%で、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』割合は21.5%となっている。(図7-1)

【図7-1-1 主観的健康観 (圏域別)】



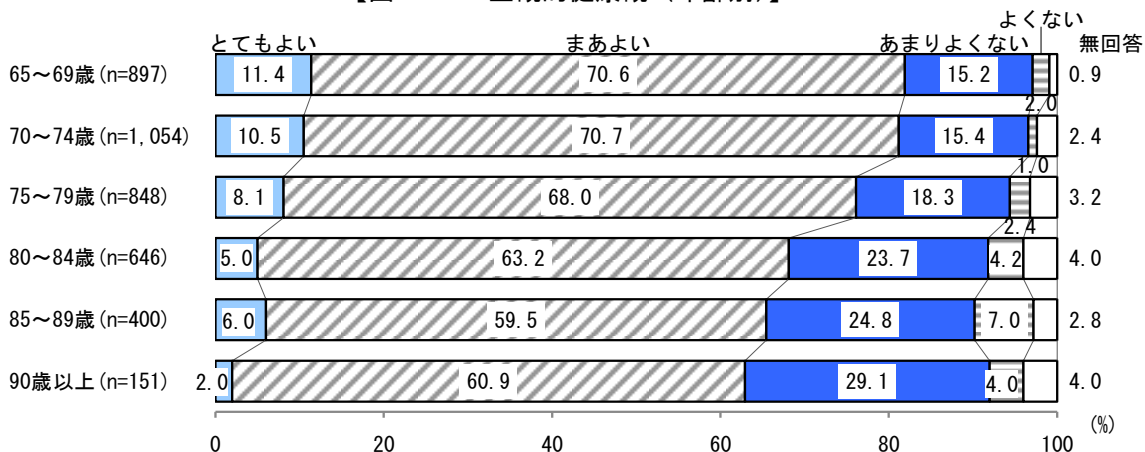
圏域別でみると、『よい』割合は、南部圏域のほうが3.6ポイント高くなっている。(図7-1-1)

【図7-1-2 主観的健康観 (性別)】



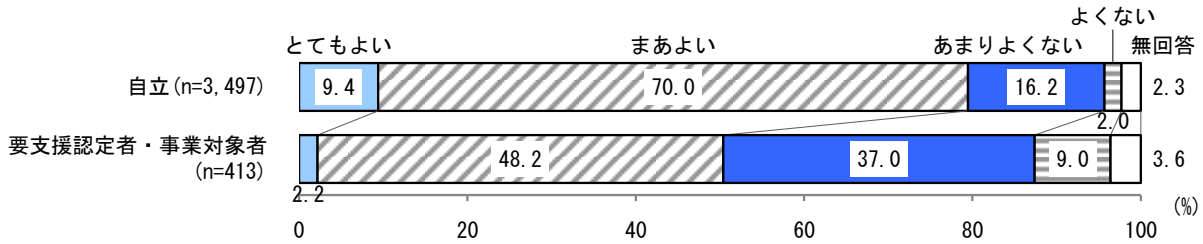
性別でみると、『よい』割合は、女性のほうが3.3ポイント高くなっている。(図7-1-2)

【図7-1-3 主観的健康観 (年齢別)】



年齢別でみると、『よい』割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図7-1-3)

【図7-1-4 主観的健康観（認定状況別）】

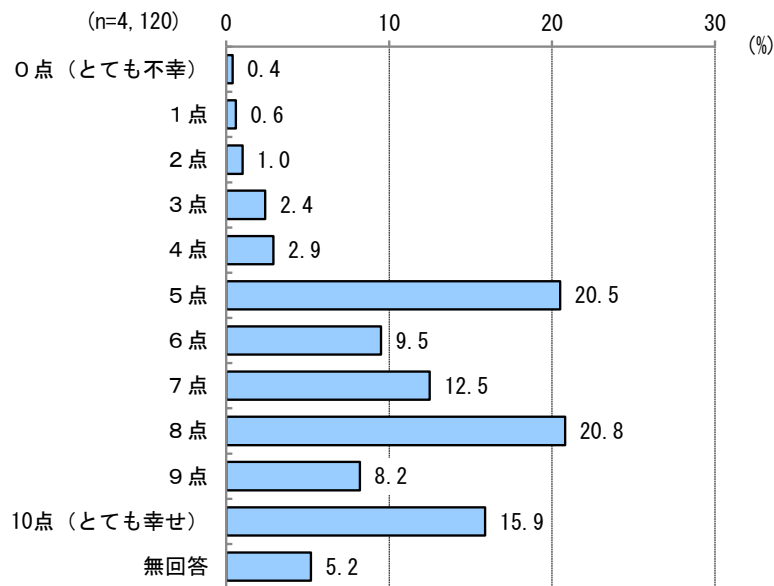


認定状況別でみると、要支援認定者等の『よい』割合は50.4%、『よくない』割合は46.0%となっている。(図7-1-4)

(2) 主観的幸福感

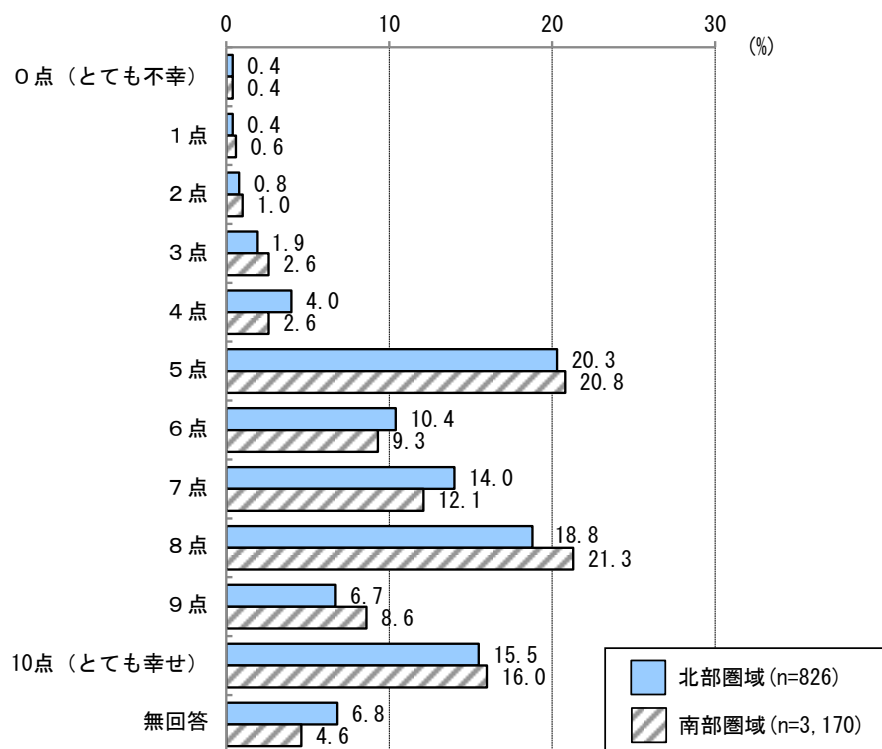
問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか。
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、該当する点数に○印を付けてください。○は1つ)

【図7-2 主観的幸福感】



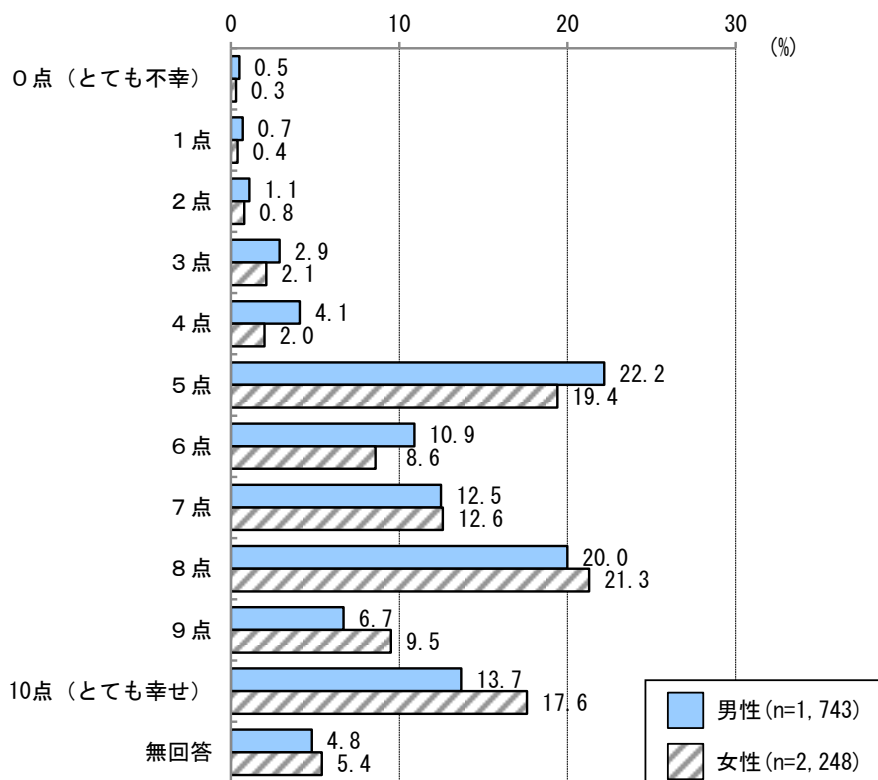
主観的幸福感については、平均は7.1点となっており、「8点」が20.8%で最も多く、次いで「5点」が20.5%、「10点 (とても幸せ)」が15.9%となっている。(図7-2)

【図7-2-1 主観的幸福感（圏域別）】



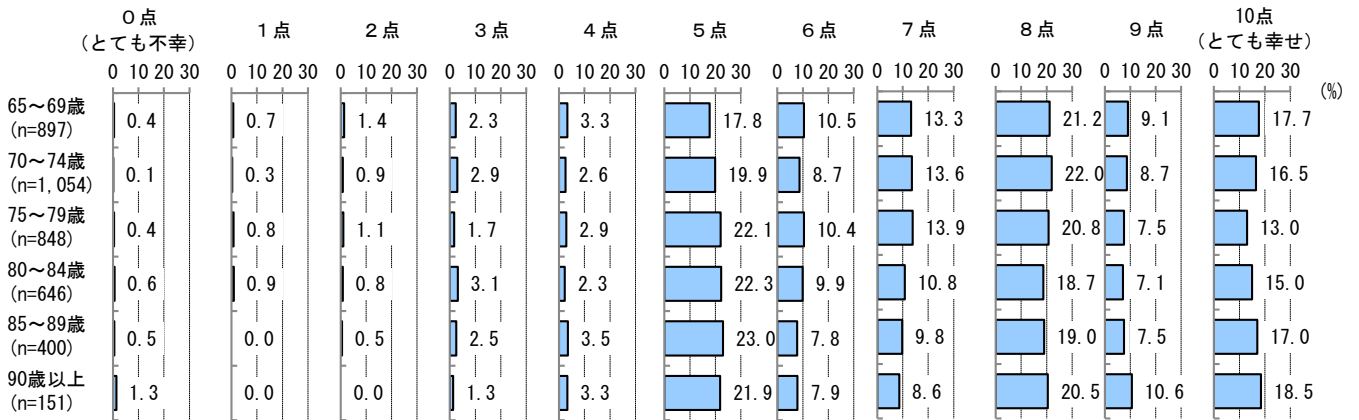
圏域別で見ると、「8点」～「10点（とても幸せ）」の割合は、南部圏域のほうが高くなっている。（図7-2-1）

【図7-2-2 主観的幸福感（性別）】



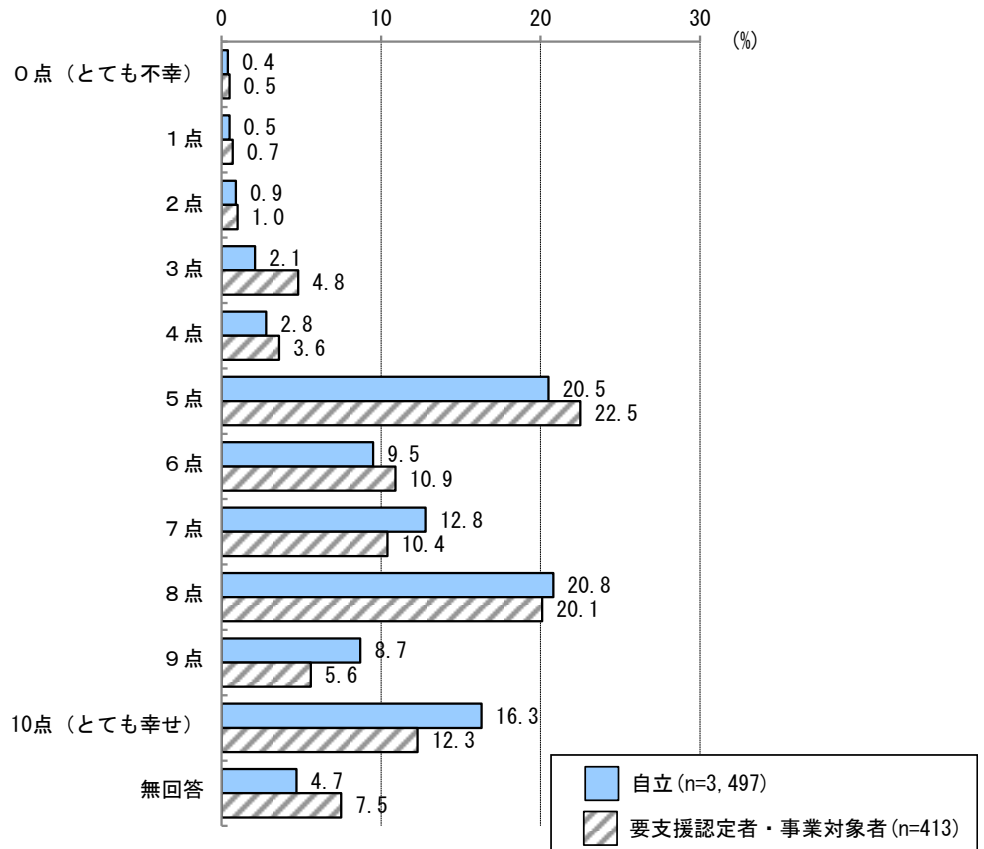
性別で見ると、「8点」～「10点（とても幸せ）」の割合は、男性より女性のほうが8.0ポイント高くなっている。（図7-2-2）

【図7-2-3 主観的幸福感（年齢別）】



年齢別で見ると、「8点」～「10点（とても幸せ）」の割合は、84歳までは年齢が上がるほど低くなり、85歳以上からは年齢が上がるほど高くなっている。（図7-2-3）

【図7-2-4 主観的幸福感（認定状況別）】

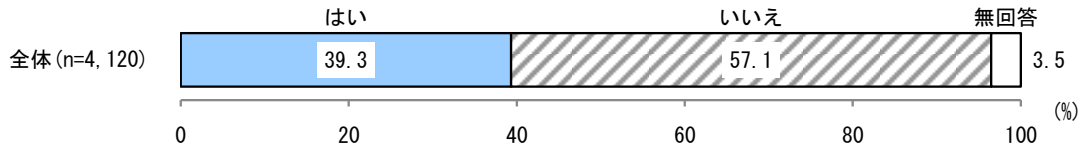


認定状況別で見ると、平均点は自立が7.1点、要支援認定者等が6.7点となっている。要支援認定者等は「5点」が22.5%で最も多く、次いで「8点」が20.1%となっている。（図7-2-4）

(3) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか

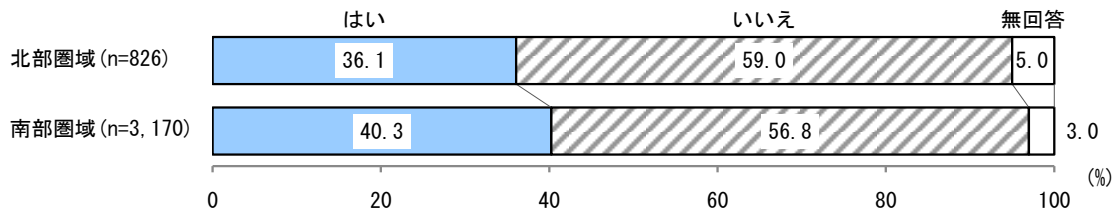
問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○は1つ)

【図7-3 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか】



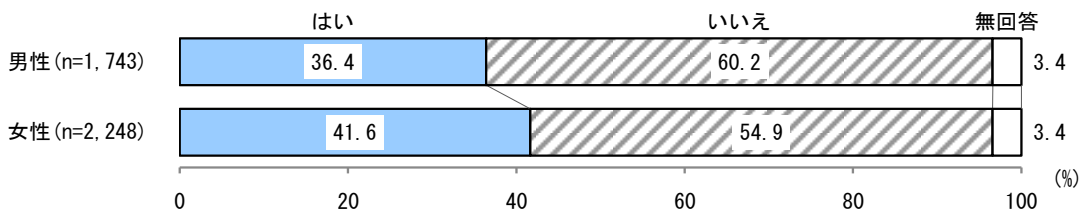
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が24.4%、「いいえ」が71.1%となっている。(図7-3)

【図7-3-1 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか (圏域別)】



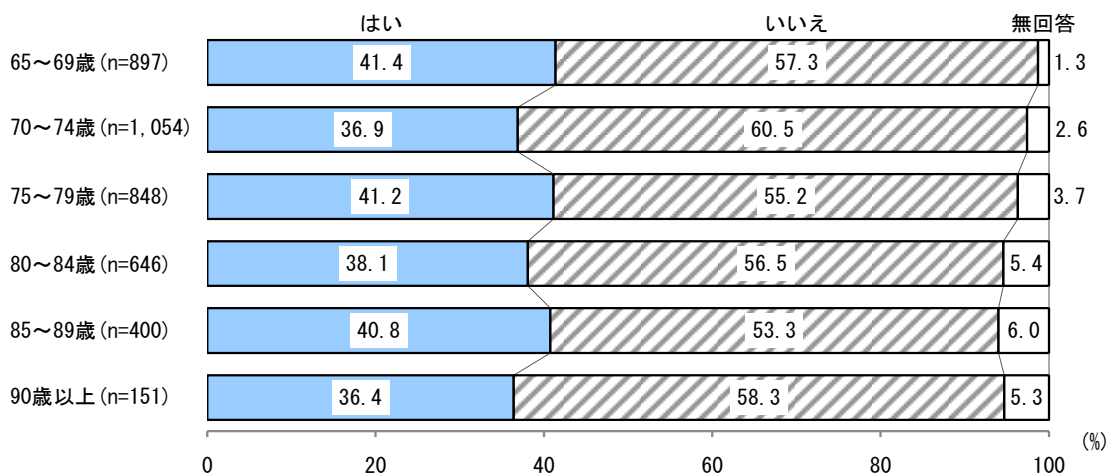
圏域別でみると、「はい」の割合は、南部圏域のほうが4.2ポイント高くなっている。(図7-3-1)

【図7-3-2 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか (性別)】



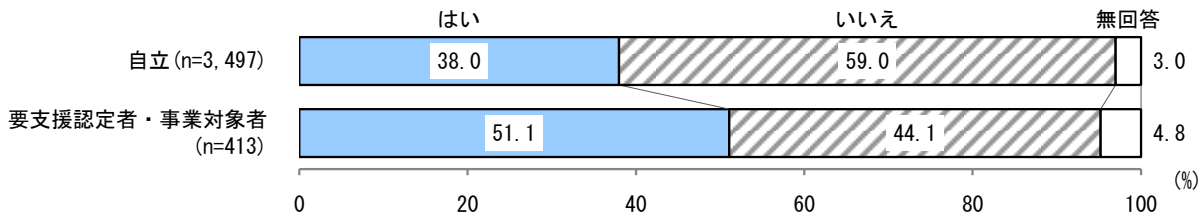
性別でみると、「はい」の割合は、女性のほうが5.2ポイント高くなっている。(図7-3-2)

【図7-3-3 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか (年齢別)】



年齢別でみると、どの年齢も「いいえ」のほうが多い。また、「はい」の割合は、65～69歳で41.4%と最も高くなっている。(図7-3-3)

【図7-3-4 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか（認定状況別）】

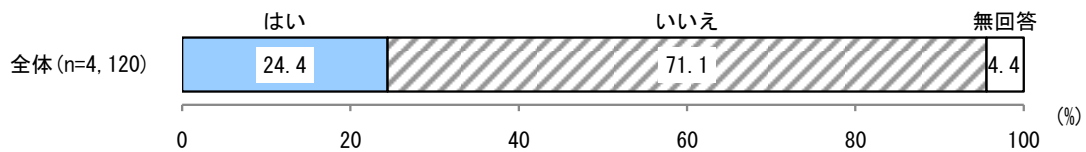


認定状況別でみると、要支援認定者等「はい」が51.1%、「いいえ」が44.1%となっている。
 (図7-3-4)

(4) 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか

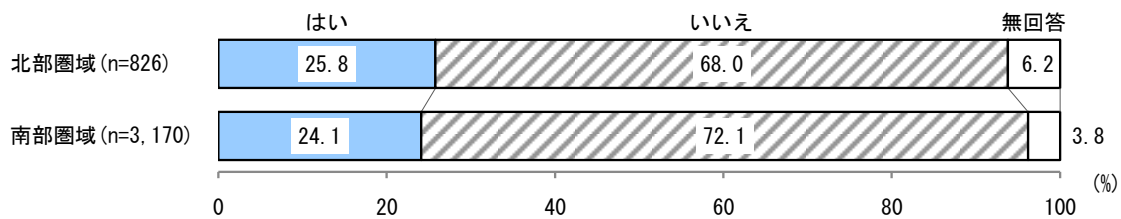
問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○は1つ)

【図7-4 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか】



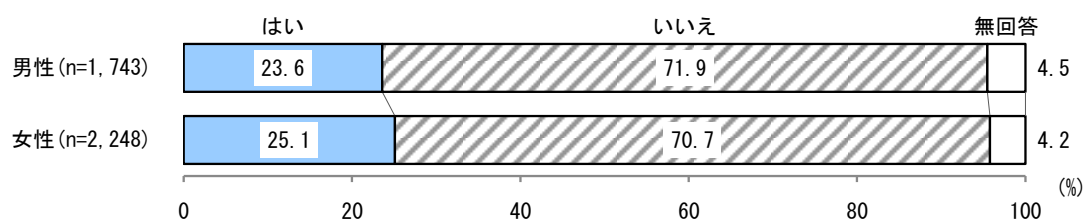
物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が24.4%、「いいえ」が71.1%となっている。(図7-4)

【図7-4-1 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか（圏域別）】



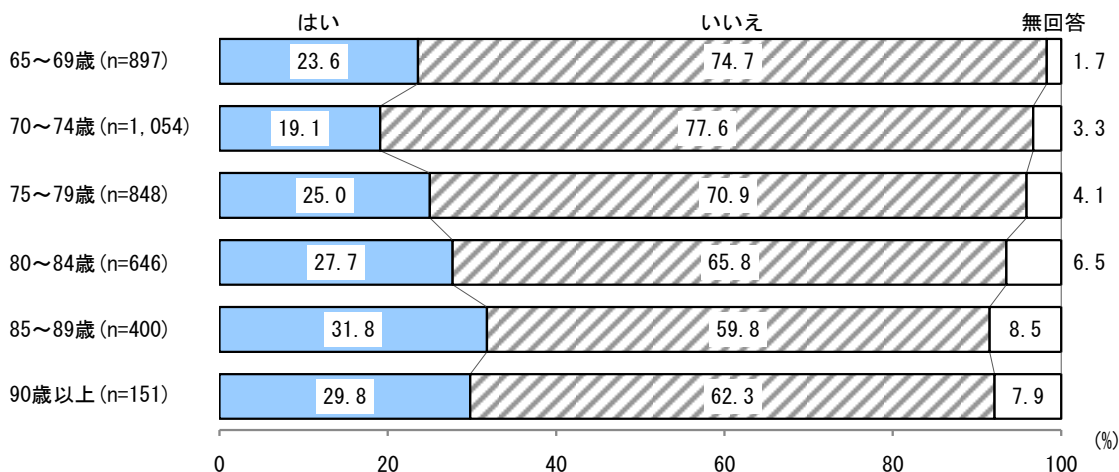
圏域別でみると、「いいえ」の割合は、南部圏域のほうが4.1ポイント高くなっている。(図7-4-1)

【図7-4-2 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか（性別）】



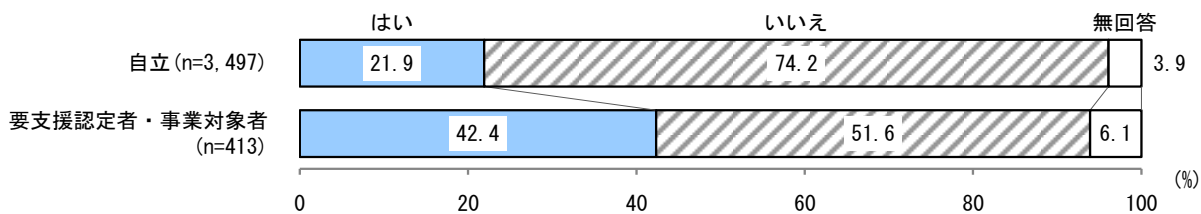
性別でみると、大きな差異はみられない。(図7-4-2)

【図7-4-3 物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか（年齢別）】



年齢別でみると、どの年齢も「いいえ」のほうが多い。また、「はい」の割合は、85~89歳で31.8%と最も高くなっている。(図7-4-3)

【図7-4-4 物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか（認定状況別）】

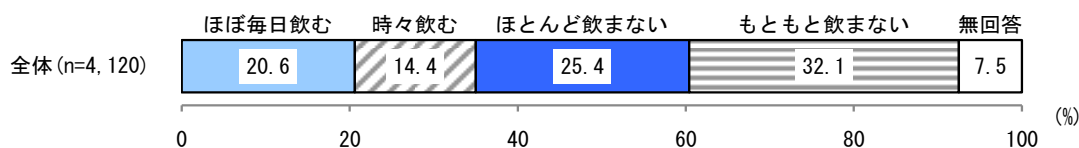


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が42.4%、「いいえ」が51.6%となっている。(図7-4-4)

(5) 飲酒習慣

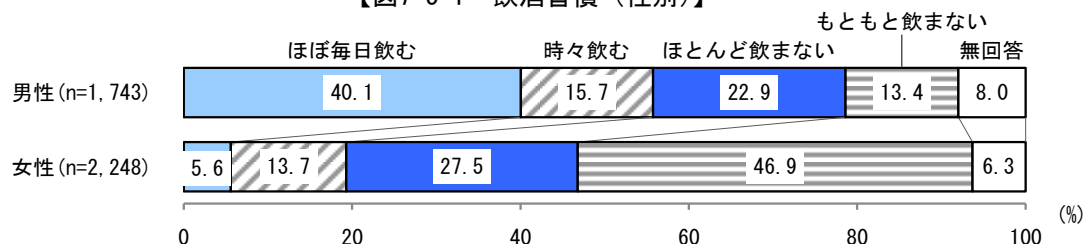
問7 (5) お酒は飲みますか (○は1つ)

【図7-5 飲酒習慣】



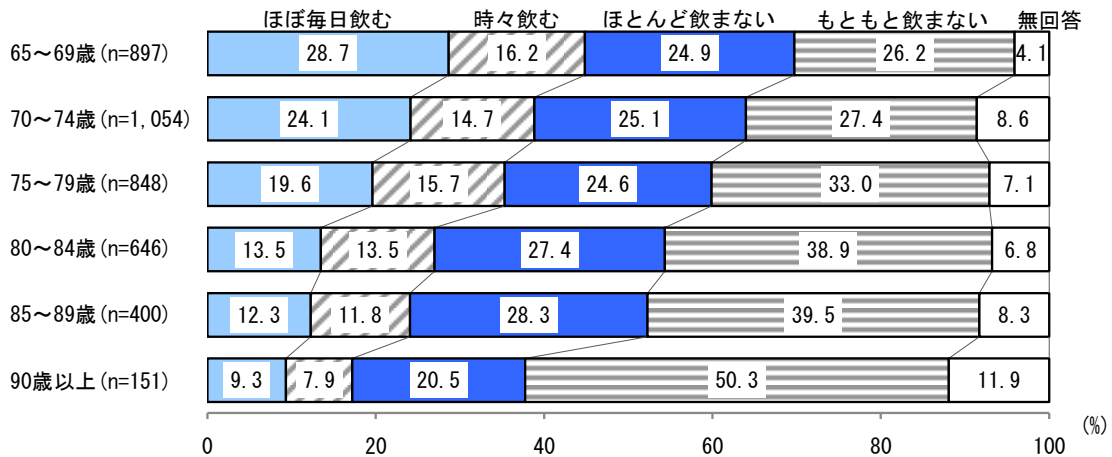
飲酒習慣については、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』が35.0%、「ほとんど飲まない」と「もともと飲まない」を合わせた『飲まない』が57.5%となっている。(図7-5)

【図7-5-1 飲酒習慣 (性別)】



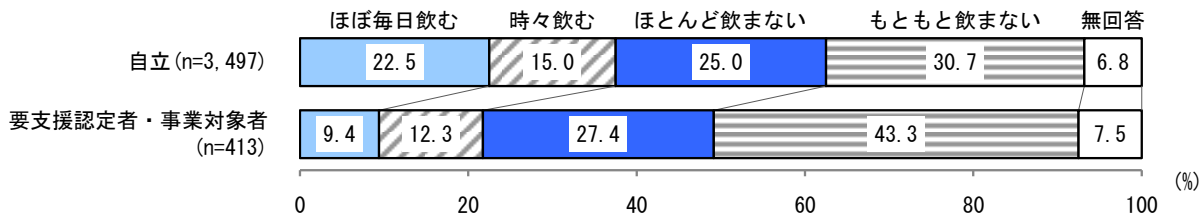
性別でみると、『飲む』割合は、男性のほうが36.5ポイント高くなっている。(図7-5-1)

【図7-5-2 飲酒習慣（年齢別）】



年齢別にみると、年齢が上がるほど『飲む』割合が低くなっている。(図7-5-2)

【図7-5-3 飲酒習慣（認定状況別）】

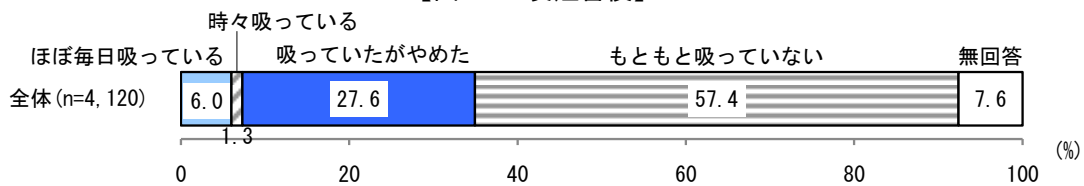


認定状況別でみると、要支援認定者等は『飲む』割合が21.7%、『飲まない』割合が70.7%となっている。(図7-5-3)

(6) 喫煙習慣

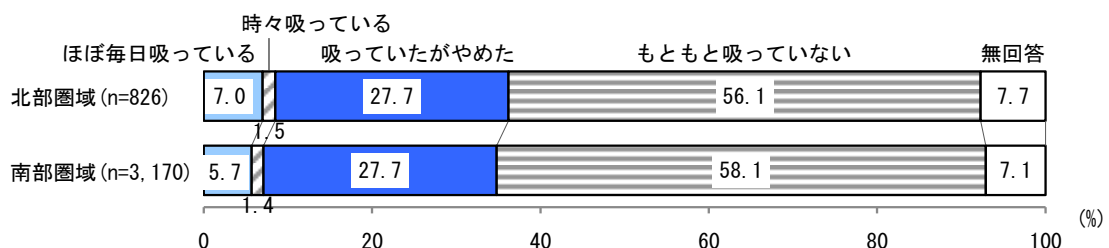
問7 (6) タバコは吸っていますか (○は1つ)

【図7-6 喫煙習慣】



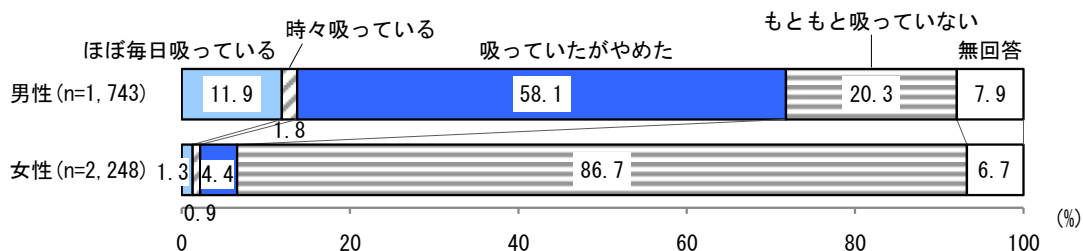
喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が57.4%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が27.6%となっている。(図7-6)

【図7-6-1 喫煙習慣（圏域別）】



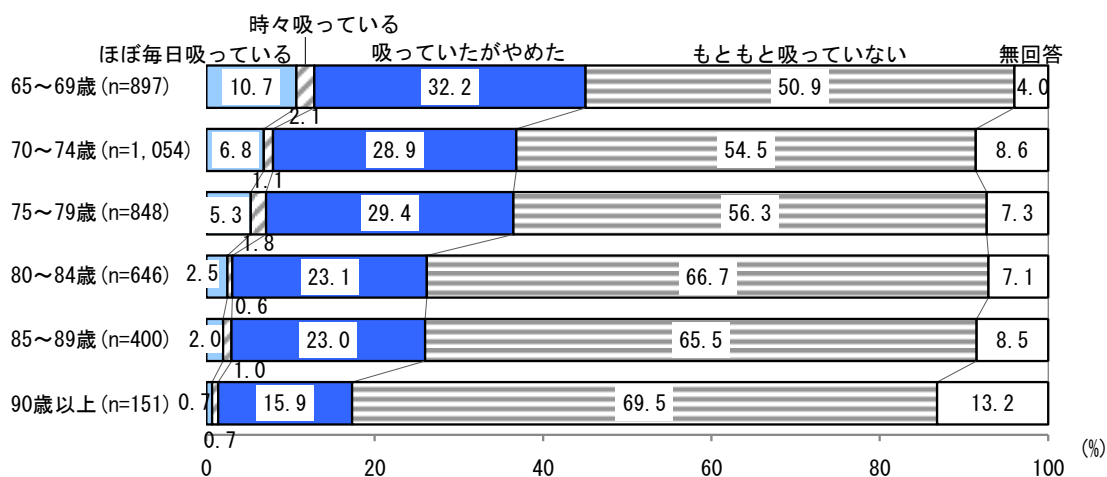
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図7-6-1)

【図7-6-2 喫煙習慣（性別）】



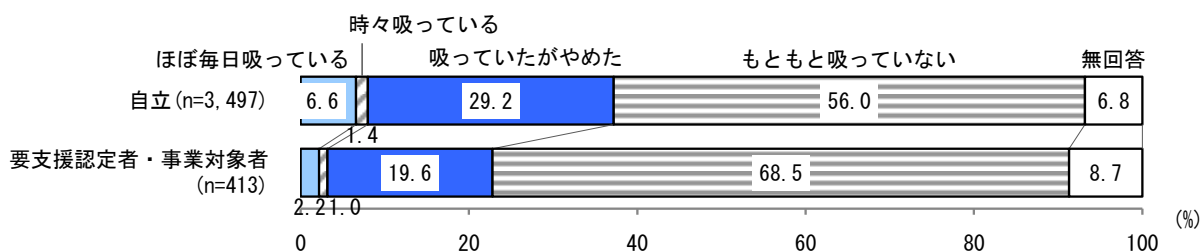
性別でみると、男性では「もともと吸っていない」と「吸っていたがやめた」を合わせた『吸っていない』割合は78.4%で、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』割合は、13.7%となっている。女性では『吸っている』割合が、2.2%となっている。(図7-6-2)

【図7-6-3 喫煙習慣（年齢別）】



年齢別でみると、『吸っている』割合は、年齢が上がるほど低くなっている。(図7-6-3)

【図7-6-4 喫煙習慣（認定状況別）】

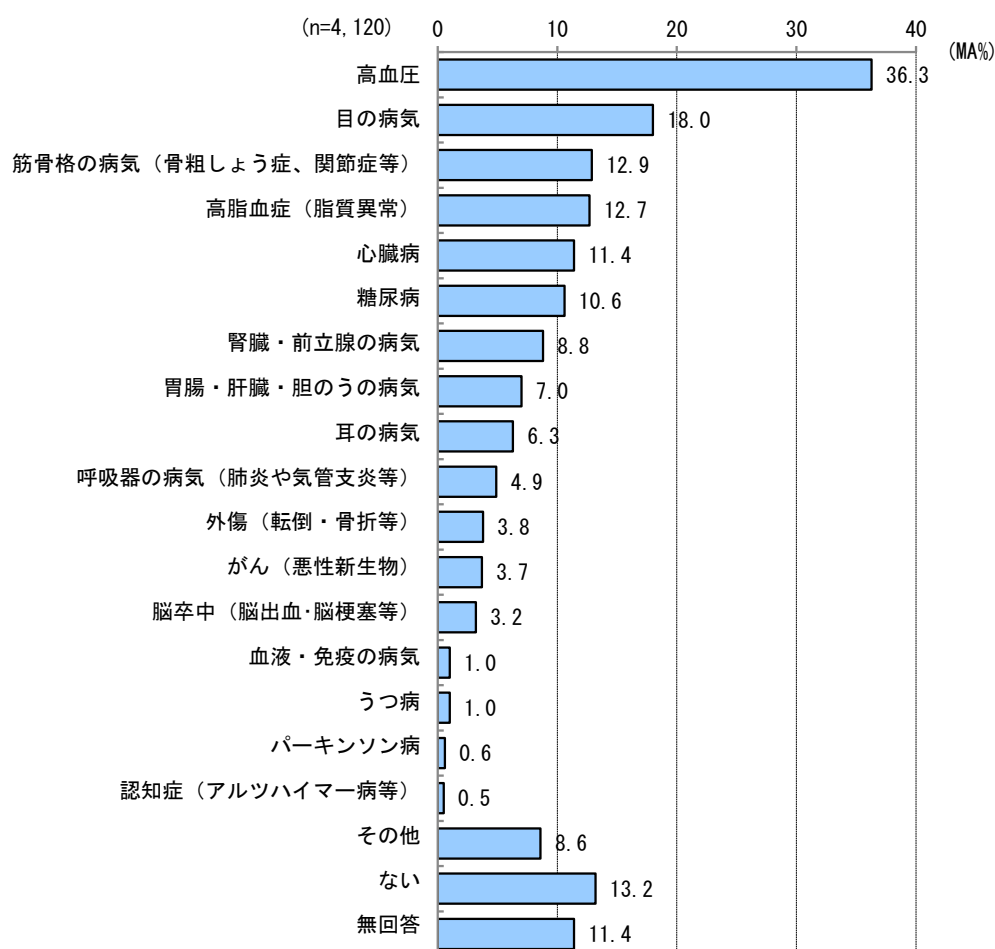


認定状況別でみると、要支援認定者等は『吸っている』割合が3.2%、『吸っていない』割合が88.1%となっている。(図7-6-4)

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気

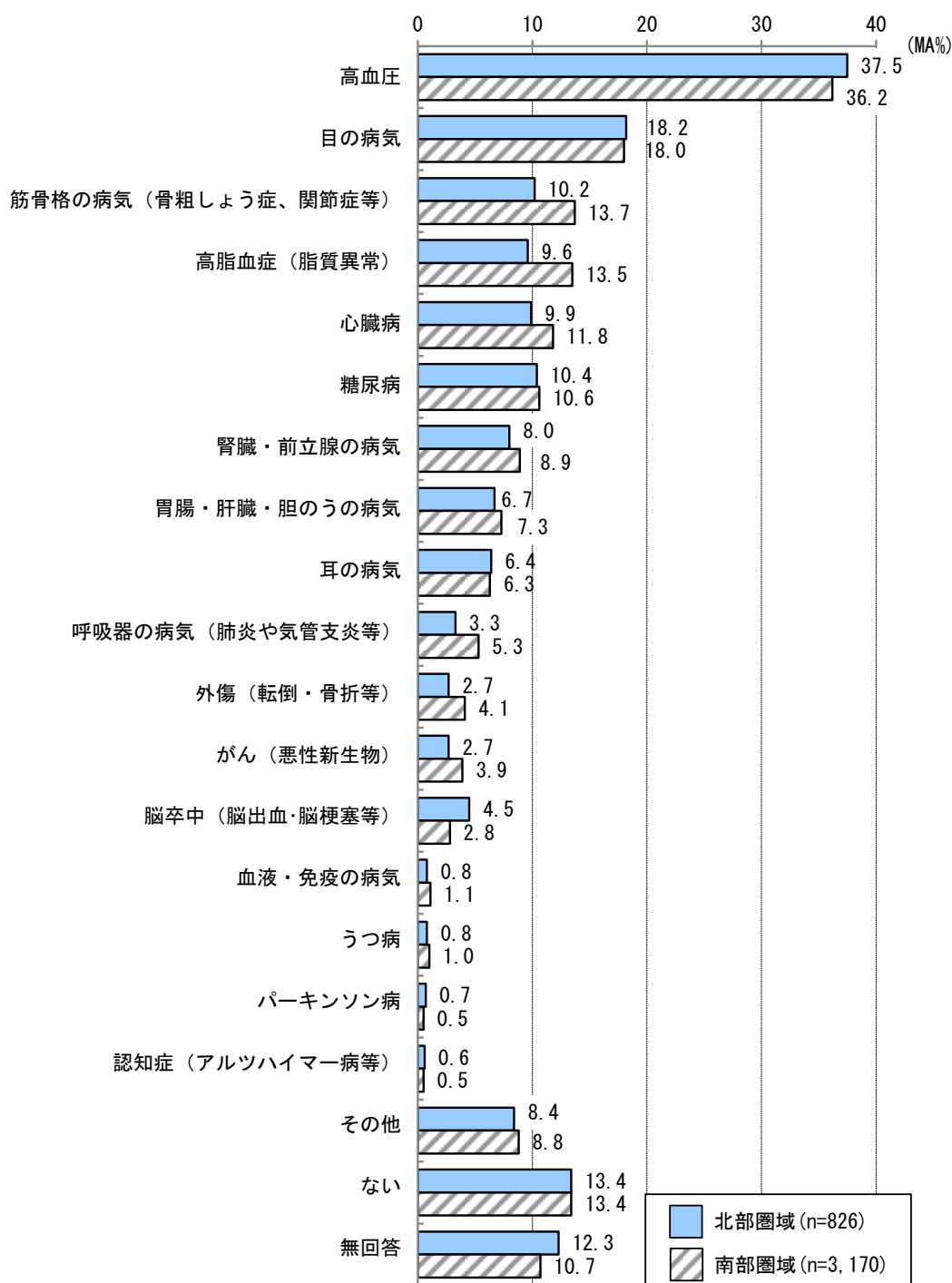
問7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (〇はいくつでも)

【図7-7 現在治療中、または後遺症のある病気】



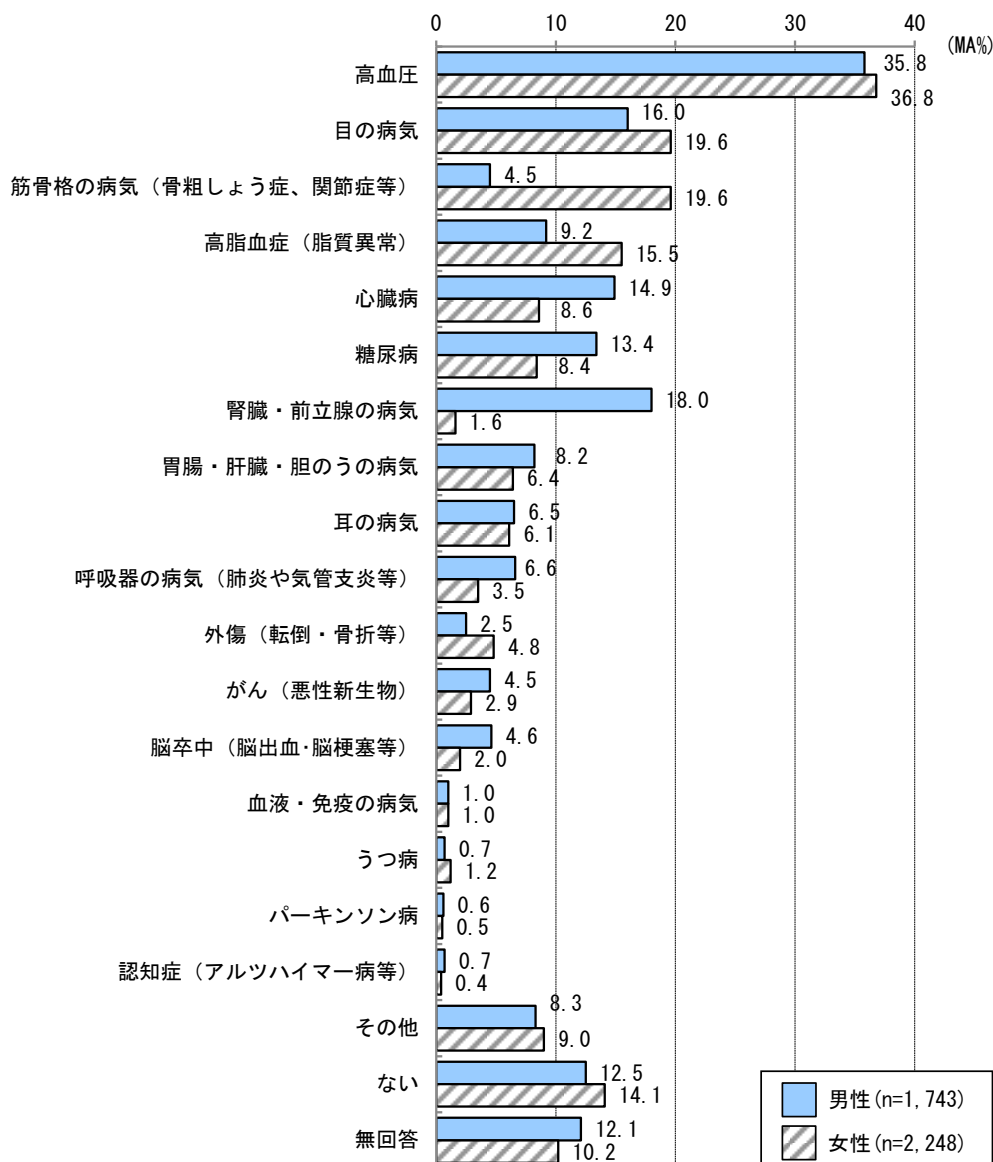
現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が36.3%で最も多く、次いで「目の病気」が18.0%、「筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)」が12.9%となっている。(図7-7)

【図7-7-1 現在治療中、または後遺症のある病気（圏域別）】



圏域別でみると、「高血圧」と「目の病気」は大きな差異はみられないが、南部地域のほうが「筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)」で3.5ポイント、「高脂血症 (脂質異常)」で3.9ポイント高くなっている。(図 7-7-1)

【図7-7-2 現在治療中、または後遺症のある病気（性別）】



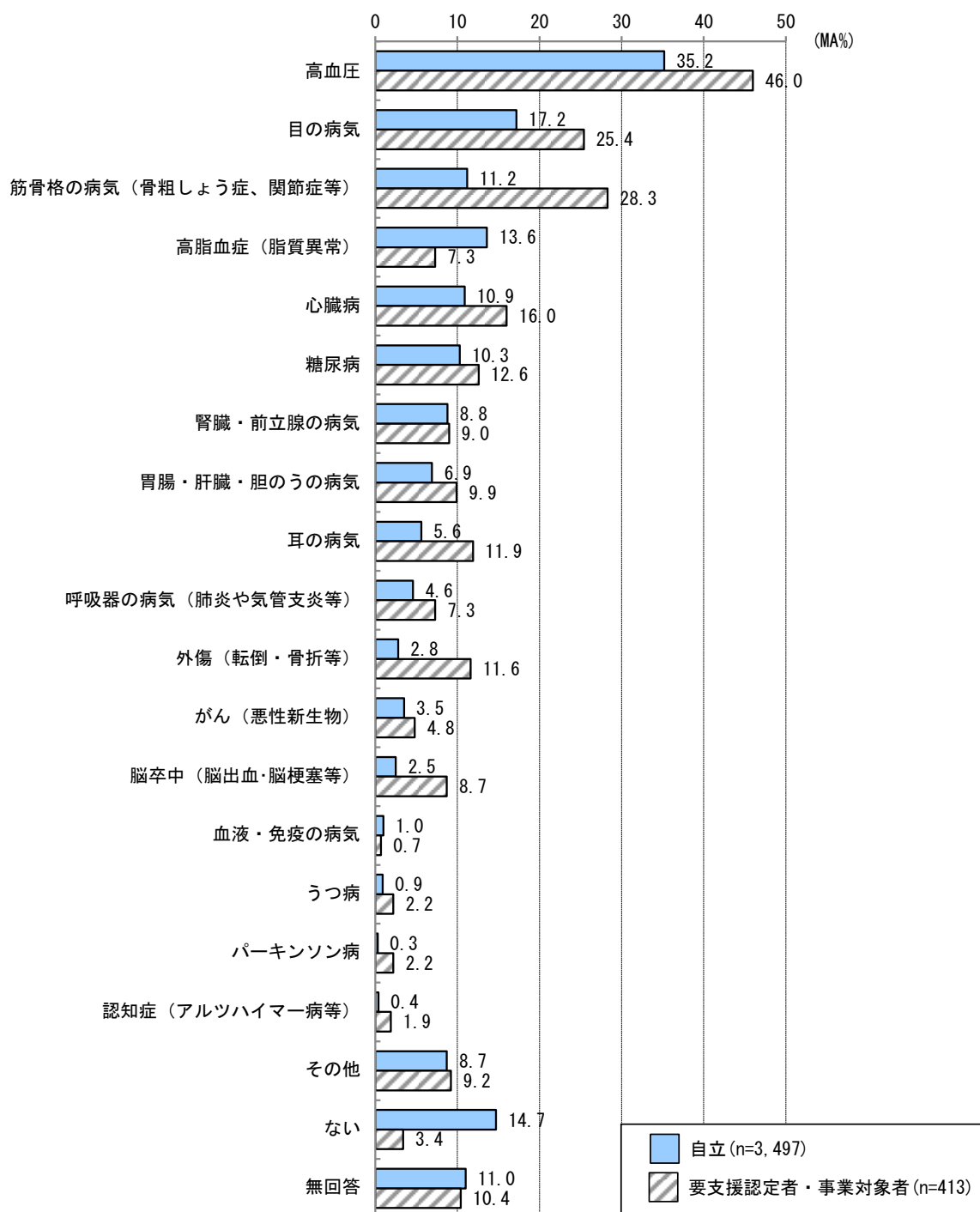
性別でみると、男性では「腎臓・前立腺の病気」は16.4ポイント、「心臓病」で6.3ポイント、女性より高くなっている。一方、女性では「筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)」で15.1ポイント、「高脂血症 (脂質異常)」で6.3ポイント、男性より高くなっている。(図7-7-2)

【表7-7-3 現在治療中、または後遺症のある病気（年齢別）】

	n	高血圧	目の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	高脂血症 (脂質異常)	心臓病	糖尿病	腎臓・前立腺の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	耳の病気	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	血液・免疫の病気	うつ病	パーキンソン病	認知症 (アルツハイマー病等)	その他	ない	無回答
65～69歳	897	29.8	14.7	8.4	16.1	7.6	8.9	6.0	6.7	4.0	4.3	2.2	3.0	1.9	1.1	1.3	0.6	0.1	10.9	21.2	7.8
70～74歳	1,054	34.0	16.0	9.7	15.4	8.7	11.0	7.3	6.1	4.9	4.1	2.8	4.6	3.5	0.9	1.2	0.4	0.4	9.2	14.8	13.5
75～79歳	848	39.2	16.7	13.1	12.6	11.0	11.8	10.1	7.5	5.2	5.8	3.1	3.8	3.7	0.8	0.8	0.6	0.4	7.9	11.7	10.7
80～84歳	646	42.3	21.7	19.2	9.1	15.6	10.7	10.1	7.7	8.2	5.0	6.0	3.6	3.1	1.7	0.8	0.6	1.1	7.6	7.3	10.5
85～89歳	400	39.5	24.5	20.0	6.8	18.3	10.8	13.8	8.5	13.0	6.0	6.8	2.8	4.3	0.5	0.5	1.3	1.5	7.3	7.8	12.3
90歳以上	151	43.7	25.2	17.2	6.6	19.9	7.3	7.3	9.3	9.9	4.6	6.6	2.0	2.6	1.3	0.0	0.0	0.7	4.6	9.3	14.6

年齢別でみると、どの年代も「高血圧」が最も多くなっている。「目の病気」「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」「心臓病」「外傷（転倒・骨折等）」は、概ね年齢が上がるほど高くなっている。また、「糖尿病」は70代後半までは高くなり、80代以降は概ね低くなる傾向にあり、「高脂血症（脂質異常）」は年齢が下がるほど高くなっている。（表7-7-3）

【図7-7-4 現在治療中、または後遺症のある病気（認定状況別）】

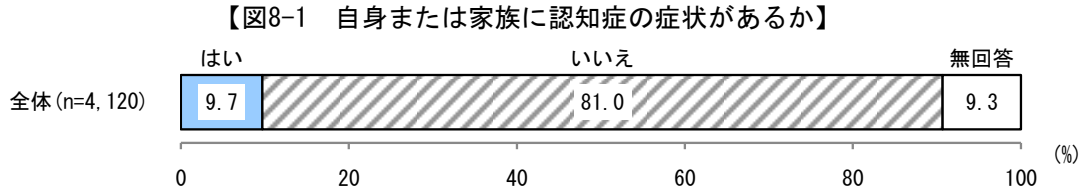


認定状況別でみると、要支援認定者等は「高血圧」が46.0%で最も多く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が28.3%となっている。（図7-7-4）

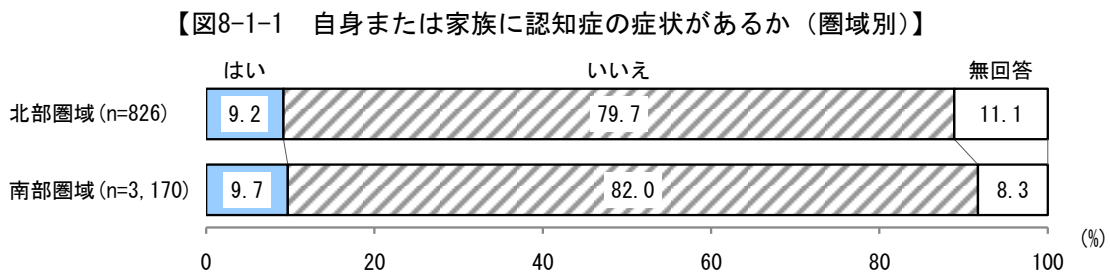
8. 認知症のことについて

(1) 自身または家族に認知症の症状があるか

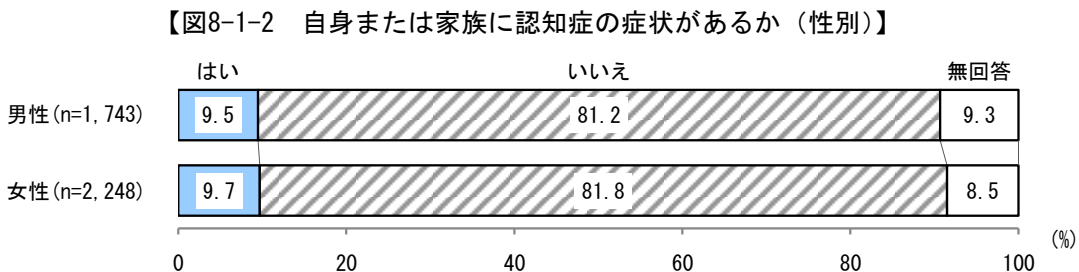
問8 (1) 認知症の症状がありますか、または家族に認知症の症状がある人がいますか



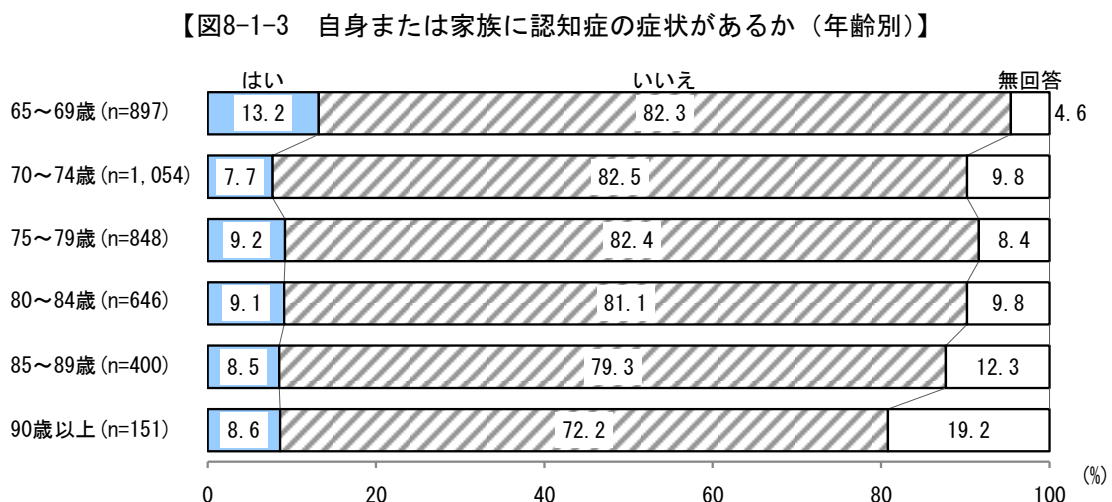
自身または家族に認知症の症状があるかについては、「はい」が9.7%、「いいえ」が81.0%となっている。(図8-1)



圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図8-1-1)

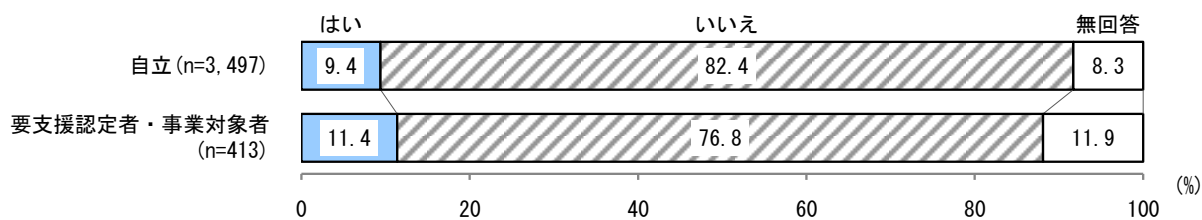


性別でみると、大きな差異はみられない。(図8-1-2)



年齢別でみると、「はい」の割合は65～69歳で13.2%と最も高くなっている。(図8-1-3)

【図8-1-4 自身または家族に認知症の症状があるか（認定状況別）】

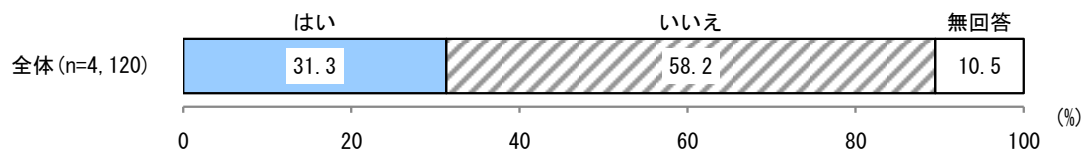


認定状況別でみると、大きな差異はみられない。(図 8-1-4)

(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

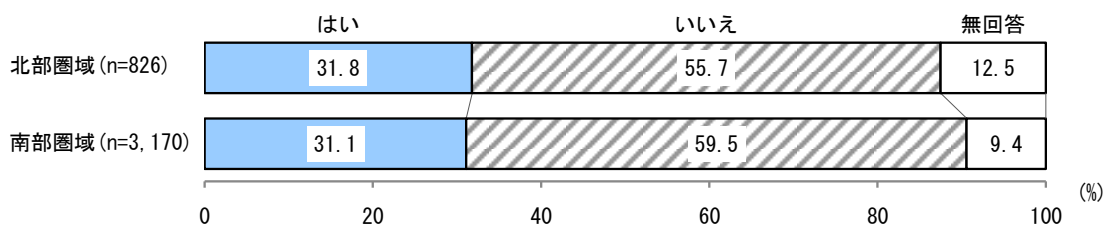
問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

【図8-2 認知症に関する相談窓口を知っているか】



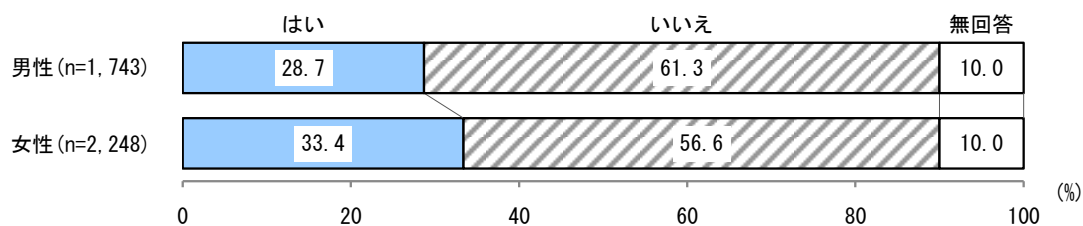
認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が31.3%、「いいえ」が58.2%となっている。(図8-2)

【図8-2-1 認知症に関する相談窓口を知っているか（圏域別）】



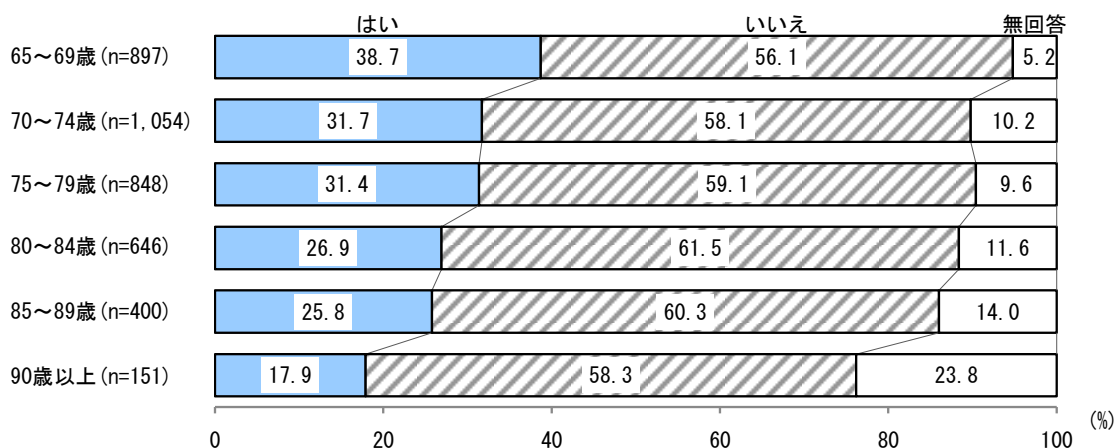
圏域別でみると、「いいえ」の割合は南部圏域のほうが3.8ポイント高くなっている。(図 8-2-1)

【図8-2-2 認知症に関する相談窓口を知っているか（性別）】



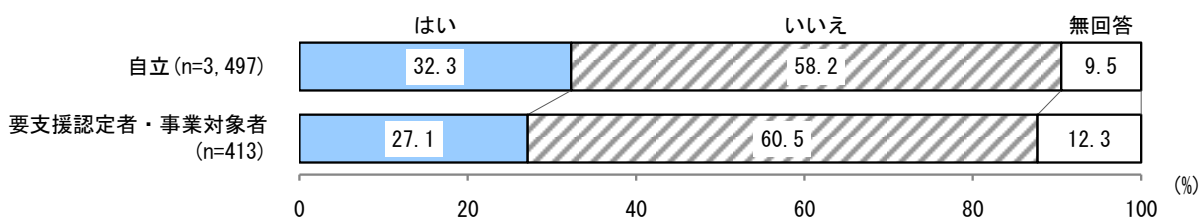
性別でみると、「はい」は女性のほうが4.7ポイント高くなっている。(図 8-2-2)

【図8-2-3 認知症に関する相談窓口を知っているか（年齢別）】



年齢別でみると、「はい」の割合は年齢が上がるほど低くなっている。(図8-2-3)

【図8-2-4 認知症に関する相談窓口を知っているか（認定状況別）】

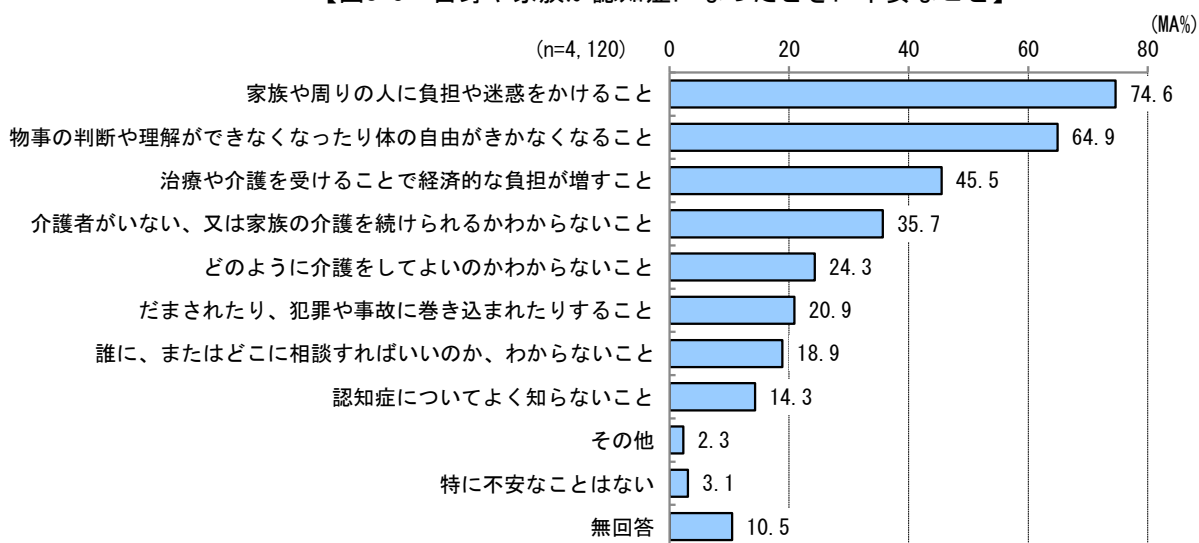


認定状況別でみると、要支援認定者等は「はい」が27.1%、「いいえ」が60.5%となっている。(図8-2-4)

(3) 自身や家族が認知症になったときに不安なこと

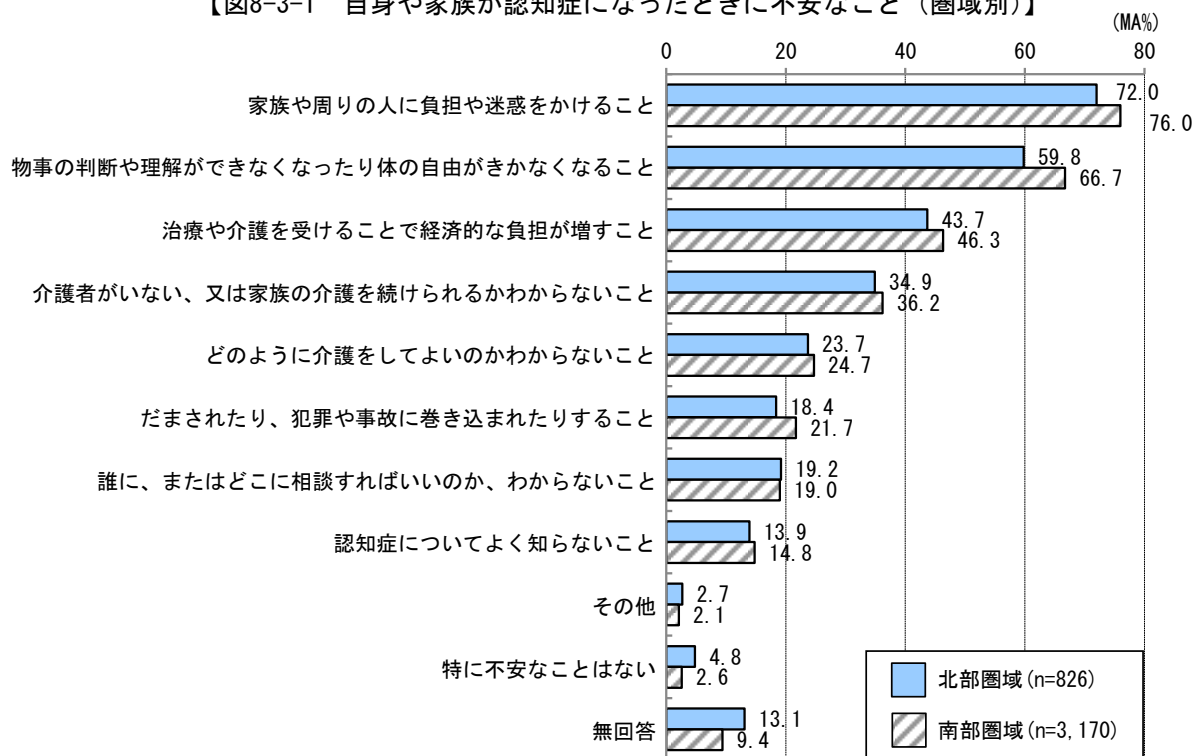
問8(3) あなたやあなたの家族が認知症になったとき、不安なことは何ですか。(〇はいくつでも)

【図8-3 自身や家族が認知症になったときに不安なこと】



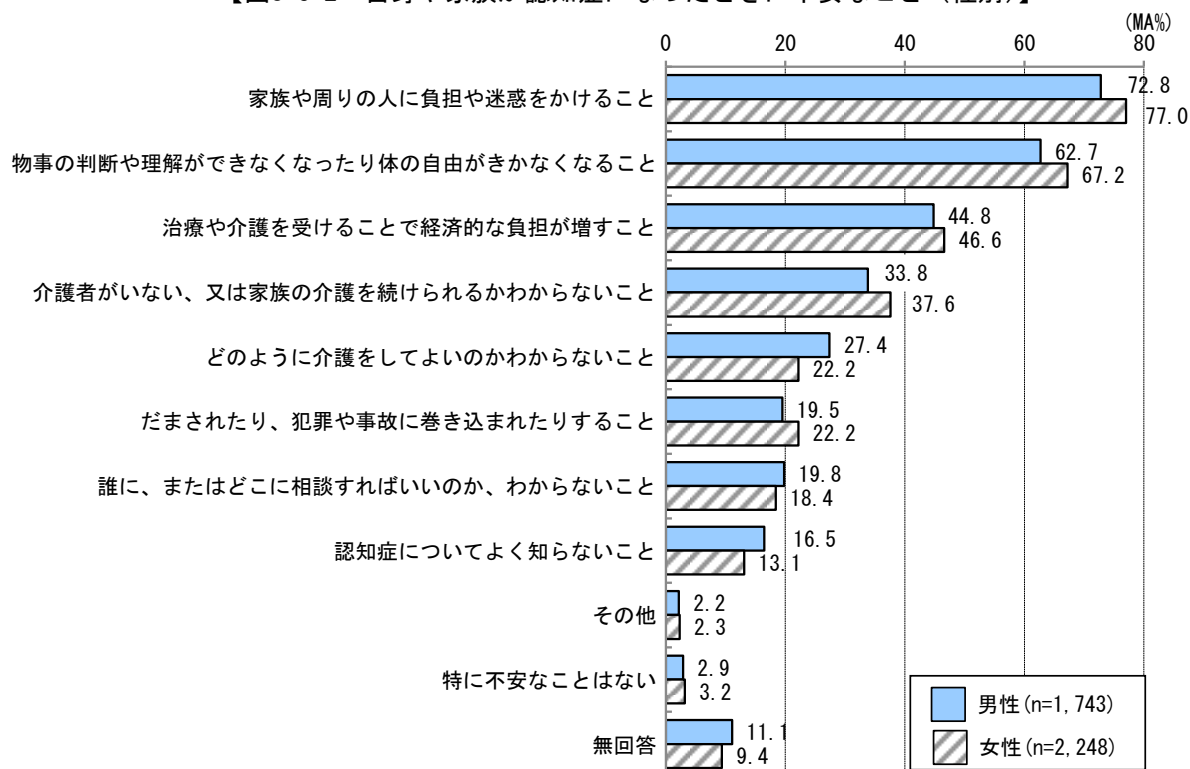
自身や家族が認知症になったときに不安なことについては、「家族や周りの人に負担や迷惑をかけること」が74.6%、「物事の判断や理解ができなくなったり体の自由がきかなくなる」が64.9%となっている。(図8-3)

【図8-3-1 自身や家族が認知症になったときに不安なこと（圏域別）】



圏域別でみると、「物事の判断や理解ができなくなったり体の自由がきかなくなる」の割合は、南部圏域のほうが6.9ポイント高くなっている。(図8-3-1)

【図8-3-2 自身や家族が認知症になったときに不安なこと（性別）】



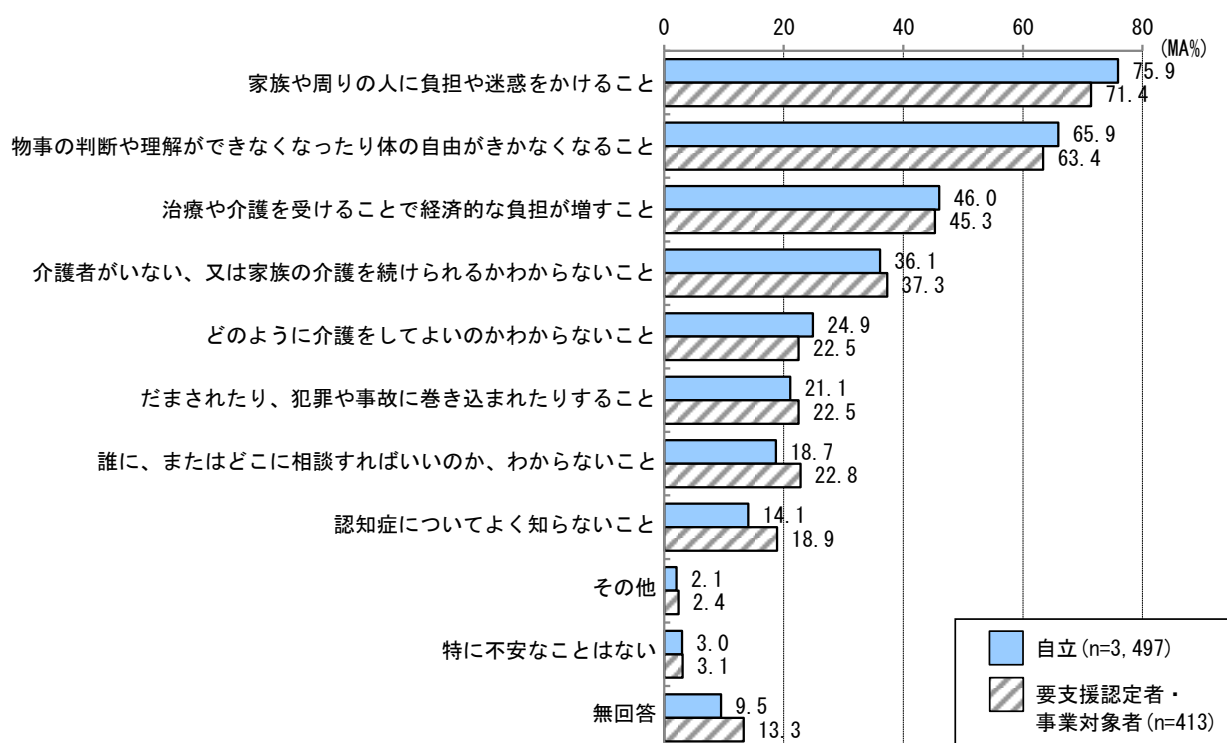
性別でみると、女性では「家族や周りの人に負担や迷惑をかけること」の割合が4.2ポイント、「物事の判断や理解ができなくなったり体の自由がきかなくなる」の割合が4.5ポイント、男性より高くなっている。「どのように介護をしてよいかかわからないこと」の割合は、男性のほうが5.2ポイント高くなっている。(図8-3-2)

【表8-3-3 自身や家族が認知症になったときに不安なこと（年齢別）】

	n	家族や周りの人に負担や迷惑をかけること	物事の判断や理解ができなくなったり体の自由がきかなくなる	治療や介護を受けることで経済的な負担が増すこと	介護者がいない、又は家族の介護を続けられないこと	どのように介護をしてよいかわからないこと	だまされたり、犯罪や事故に巻き込まれたりすること	誰に、またはどこに相談すればいいかわからないこと	認知症についてよく知らないこと	その他	特に不安なことはない	無回答
65～69歳	897	80.6	71.9	49.9	38.5	25.2	22.2	17.2	12.6	2.3	2.8	5.5
70～74歳	1,054	74.9	65.0	47.2	34.7	23.2	20.0	17.0	12.4	1.4	2.8	10.3
75～79歳	848	75.8	67.1	47.3	40.3	26.1	21.0	21.5	15.9	2.2	3.1	9.7
80～84歳	646	74.1	63.3	43.7	32.5	24.8	21.8	20.3	16.7	1.9	3.3	11.0
85～89歳	400	68.0	55.0	38.0	33.8	24.5	19.0	21.8	18.0	4.5	2.8	17.0
90歳以上	151	65.6	52.3	34.4	25.8	17.9	23.8	17.2	16.6	2.6	4.6	18.5

年齢別でみると、どの年代でも「家族や周りの人に負担や迷惑をかけること」が最も多い。また、「家族や周りの人に負担や迷惑をかけること」「物事の判断や理解ができなくなったり体の自由がきかなくなること」は、年齢が下がるほど高い傾向がある。「だまされたり、犯罪や事故に巻き込まれたりすること」は、90歳以上が最も高くなっている。（表8-3-3）

【図8-3-4 自身や家族が認知症になったときに不安なこと（認定状況別）】



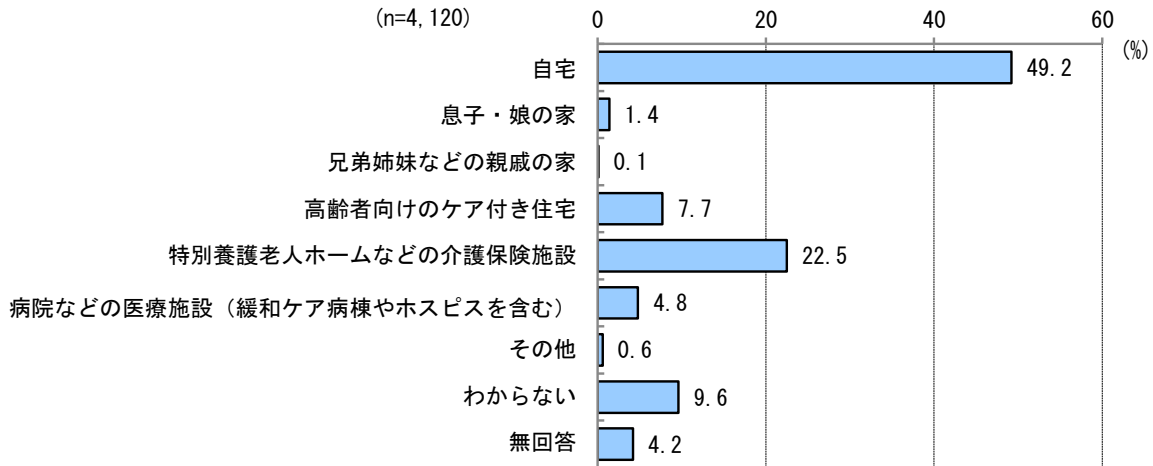
認定状況別でみると、大きな差異はみられない。（図8-3-4）

9. これからの生活について

(1) 介護が必要になったときに暮らしたい場所

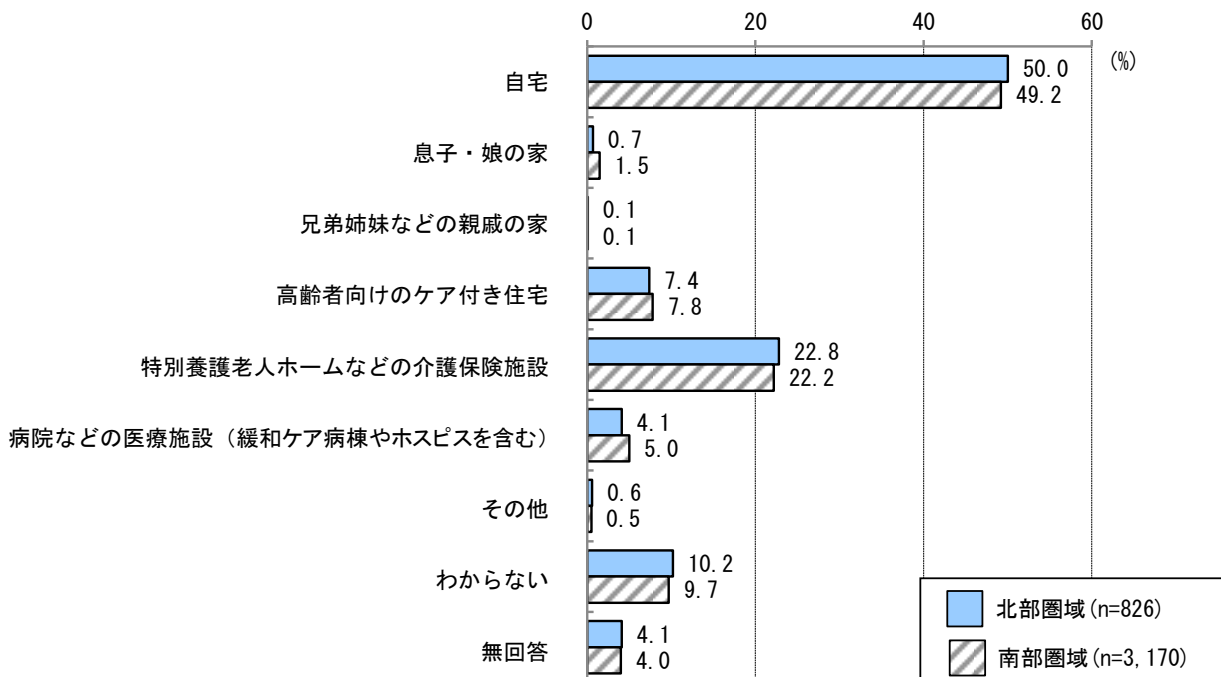
問9 (1) 仮に介護が必要になったとき、どこで暮らしたいと思いますか (〇は1つ)

【図9-1 介護が必要になったときに暮らしたい場所】



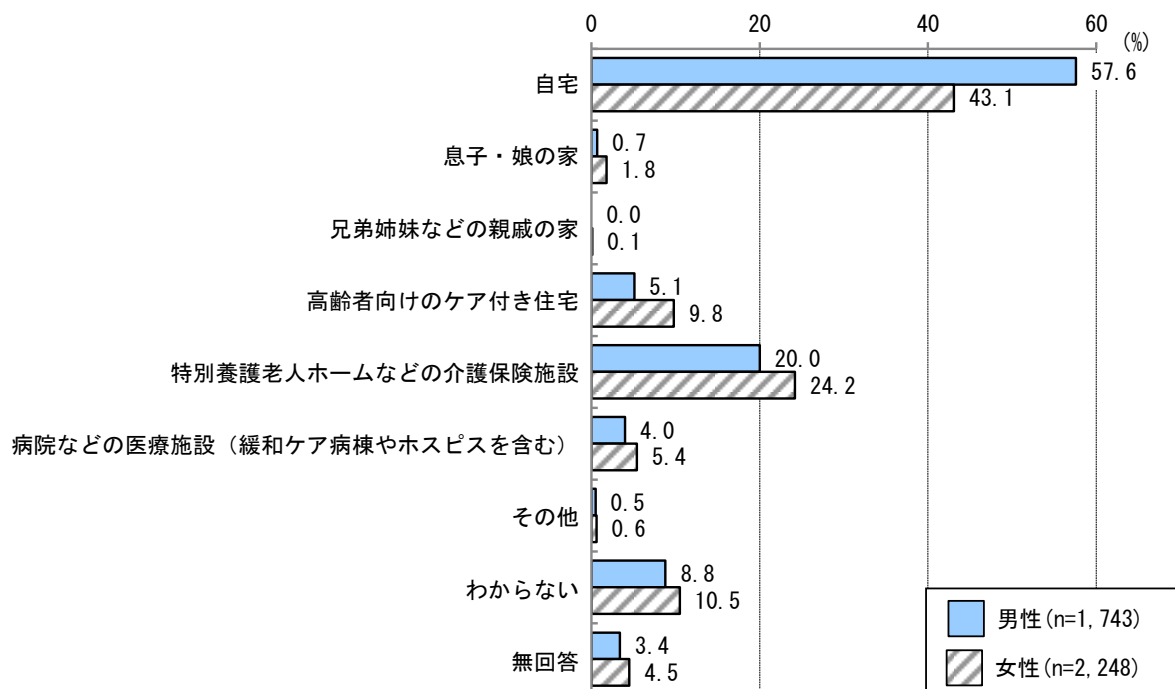
介護が必要になったときに暮らしたい場所については、「自宅」が49.2%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」が22.5%となっている。(図9-1)

【図9-1-1 介護が必要になったときに暮らしたい場所 (圏域別)】



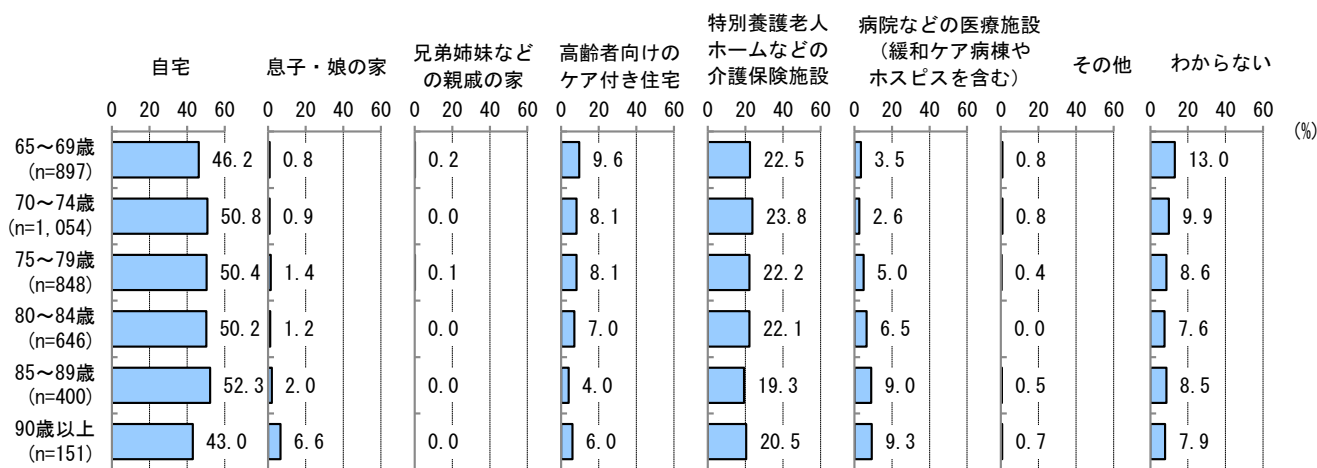
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図9-1-1)

【図9-1-2 介護が必要になったときに暮らしたい場所（性別）】



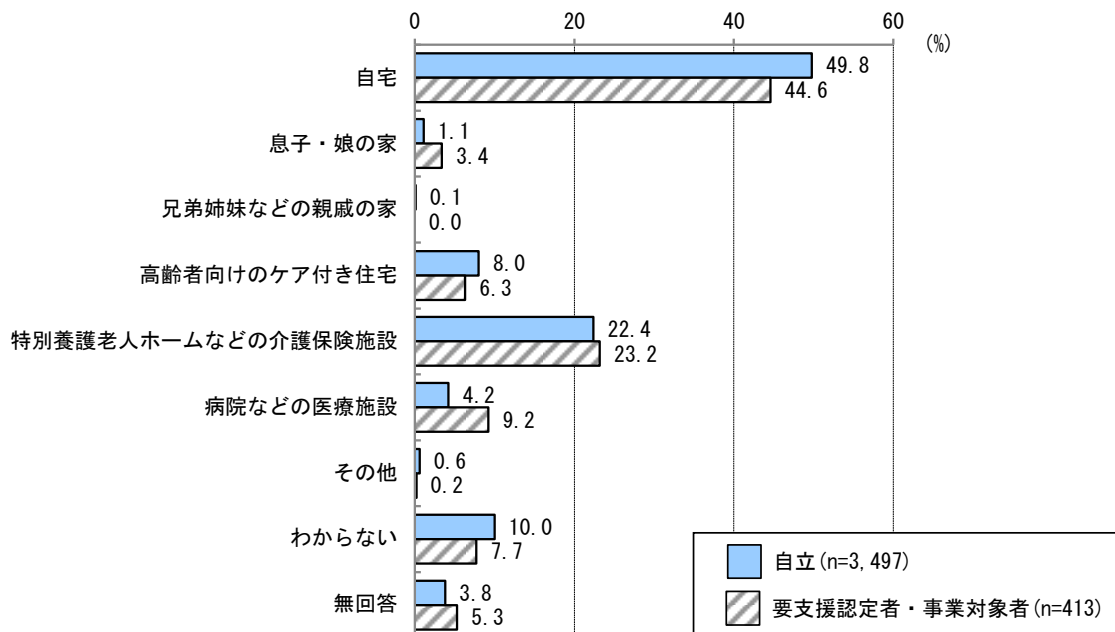
性別で見ると、「自宅」の割合は、男性のほうが14.5ポイント高くなっている。「高齢者向けケア付き住宅」「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」の割合は、女性のほうが4ポイント以上高くなっている。(図9-1-2)

【図9-1-3 介護が必要になったときに暮らしたい場所（年齢別）】



年齢別で見ると、「自宅」の割合は、90歳以上で最も低くなっている。一方、「息子・娘の家」「病院などの医療施設」は、90歳以上で最も高くなっている。(図9-1-3)

【図9-1-4 介護が必要になったときに暮らしたい場所（認定状況別）】

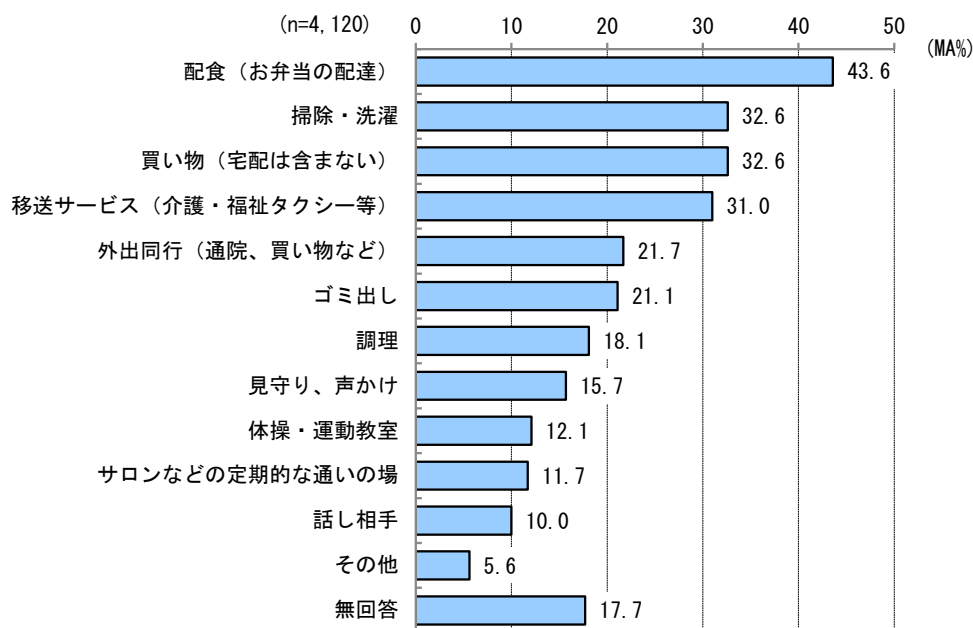


認定状況別でみると、いずれの認定状況も「自宅」が最も多くなっている。(図9-1-4)

(2) 在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組

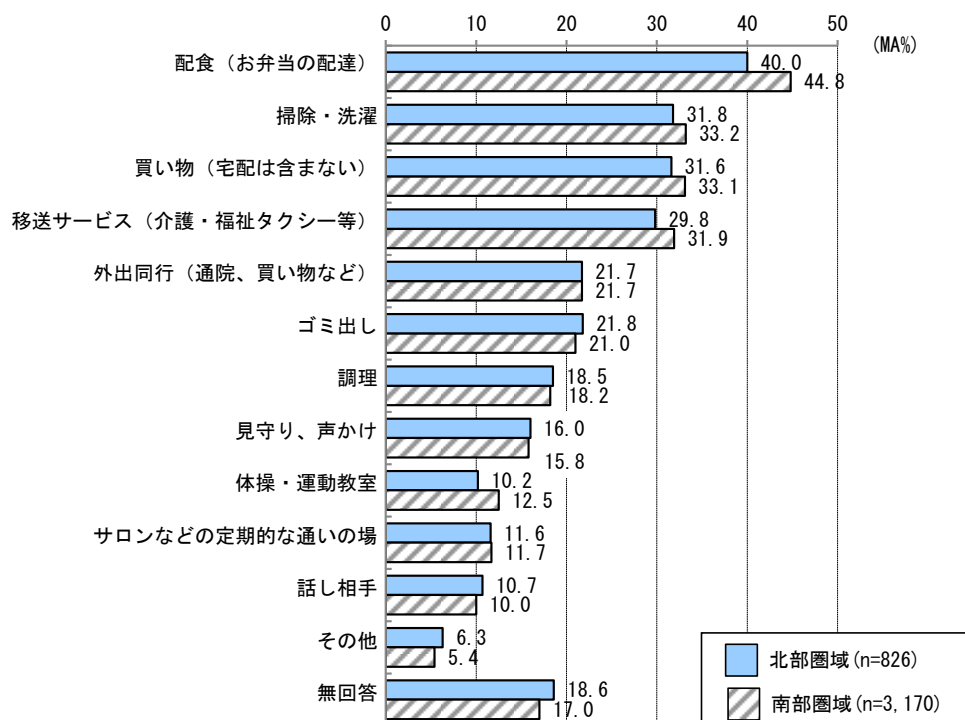
問9 (2) 在宅生活を続けるうえで、今後利用したいと思うサービス・取組は何ですか (〇はいくつでも)

【図9-2 在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組】



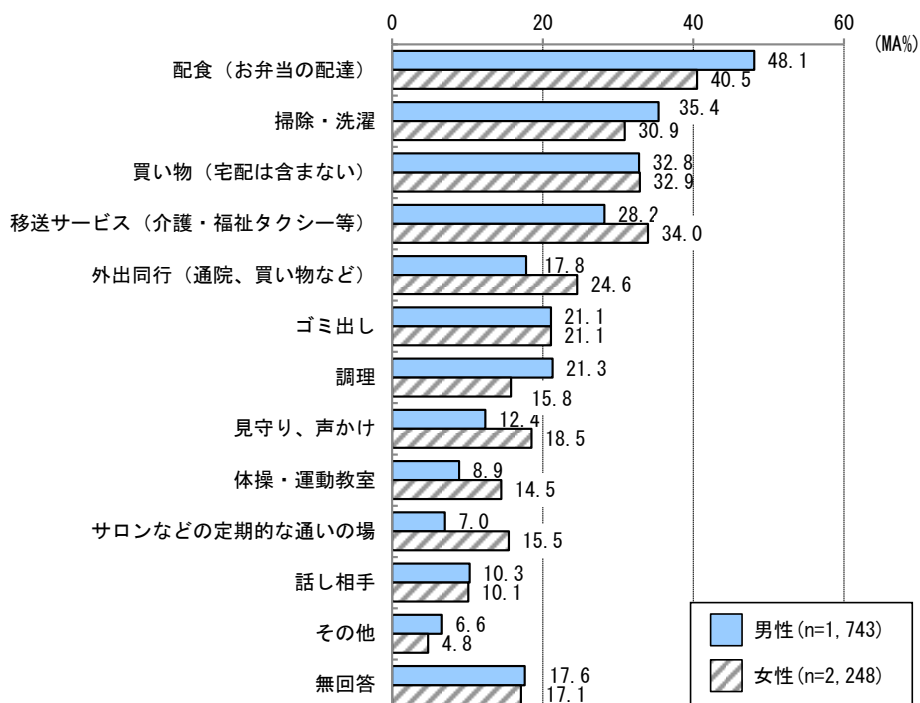
在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組については、「配食 (お弁当の配達)」が43.6%、「掃除・洗濯」「買い物 (宅配は含まない)」が32.6%、「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」が31.0%となっている。(図9-2)

【図9-2-1 在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組（圏域別）】



圏域別でみると、「配食（お弁当の配達）」の割合は、南部圏域のほうが4.8ポイント高くなっている。（図9-2-1）

【図9-2-2 在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組（性別）】



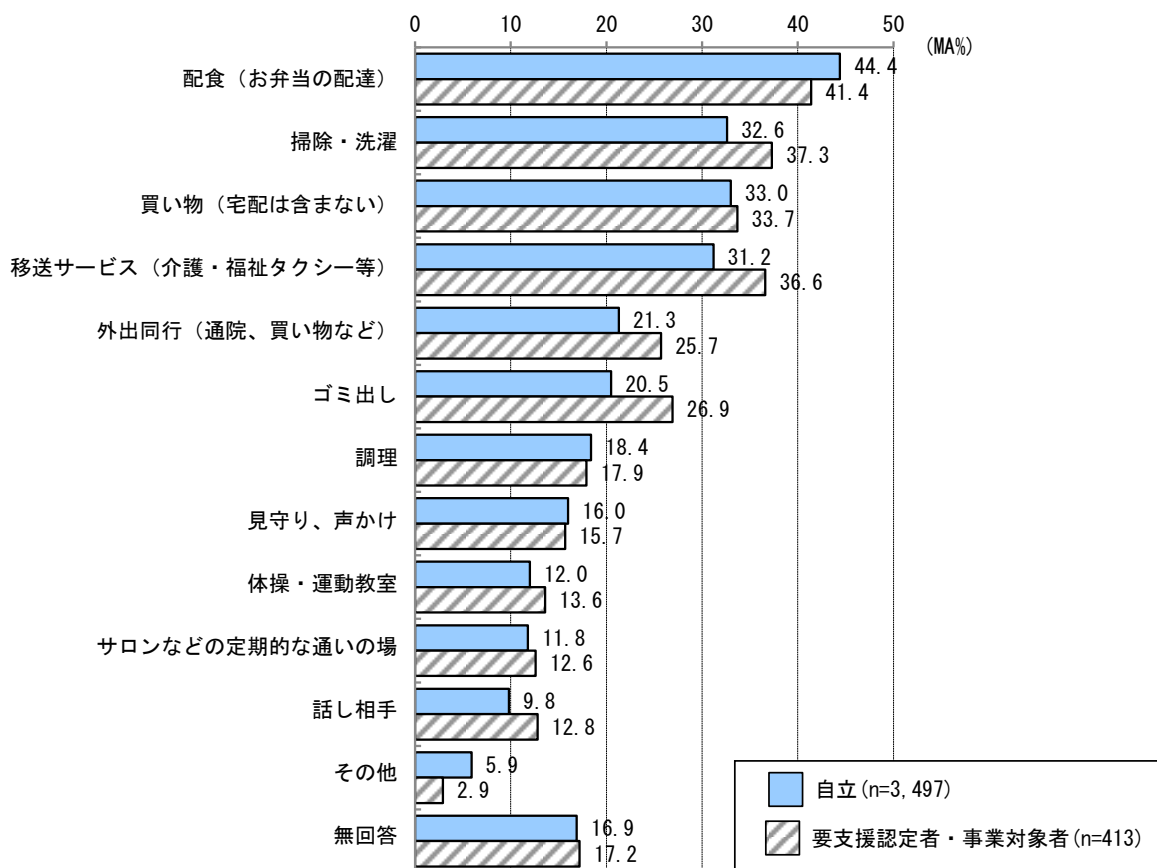
性別でみると、「配食（お弁当の配達）」「掃除・洗濯」「調理」の割合は、男性のほうが高く、「配食（お弁当の配達）」は7.6ポイント高くなっている。一方、「移送サービス（介護・福祉タクシー）」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」「体操・運動教室」「サロンなどの定期的な通いの場」の割合は女性のほうが高く、「サロンなどの定期的な通いの場」は8.5ポイント高くなっている。（図9-2-2）

【表9-2-3 在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組（年齢別）】

	n	配食（お弁当の配達）	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	外出同行（通院、買い物など）	ゴミ出し	調理	見守り、声かけ	体操・運動教室	通いの場	サロンの定期的な通いの場	話し相手	その他	無回答
65～69歳	897	44.0	34.9	35.0	34.1	23.1	22.6	21.1	17.3	15.6	13.3	11.7	8.5	15.6	
70～74歳	1,054	46.7	33.6	34.3	32.7	20.6	22.3	19.5	14.2	9.8	9.8	9.2	5.7	15.7	
75～79歳	848	44.9	30.5	31.3	31.8	21.7	17.8	16.3	16.6	11.8	10.8	8.5	4.6	17.3	
80～84歳	646	42.4	31.1	30.3	29.4	22.0	20.1	15.2	13.8	12.2	14.2	8.8	3.7	20.1	
85～89歳	400	39.3	35.8	31.3	28.3	21.5	23.3	18.8	17.8	12.0	13.5	14.0	3.5	17.8	
90歳以上	151	33.8	28.5	32.5	21.9	19.9	22.5	15.2	17.9	6.6	6.6	10.6	6.0	27.8	

年齢別で見ると、どの年代も「配食（お弁当の配達）」が最も多い。また、「移送サービス（介護・福祉タクシー）」は、年齢が上がるほど低くなっている。（表9-2-3）

【図9-2-4 在宅生活を続けるうえで今後利用したいサービスや取組（認定状況別）】

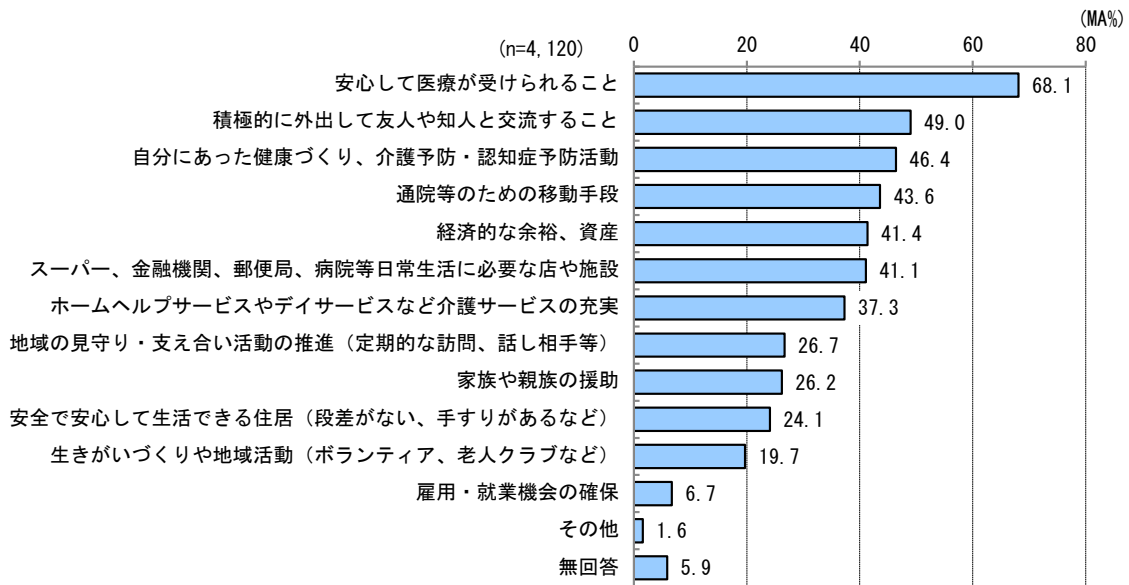


認定状況別で見ると、要支援認定者等は「配食（お弁当の配達）」が41.4%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」が37.3%となっている。（図9-2-4）

(3) 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと

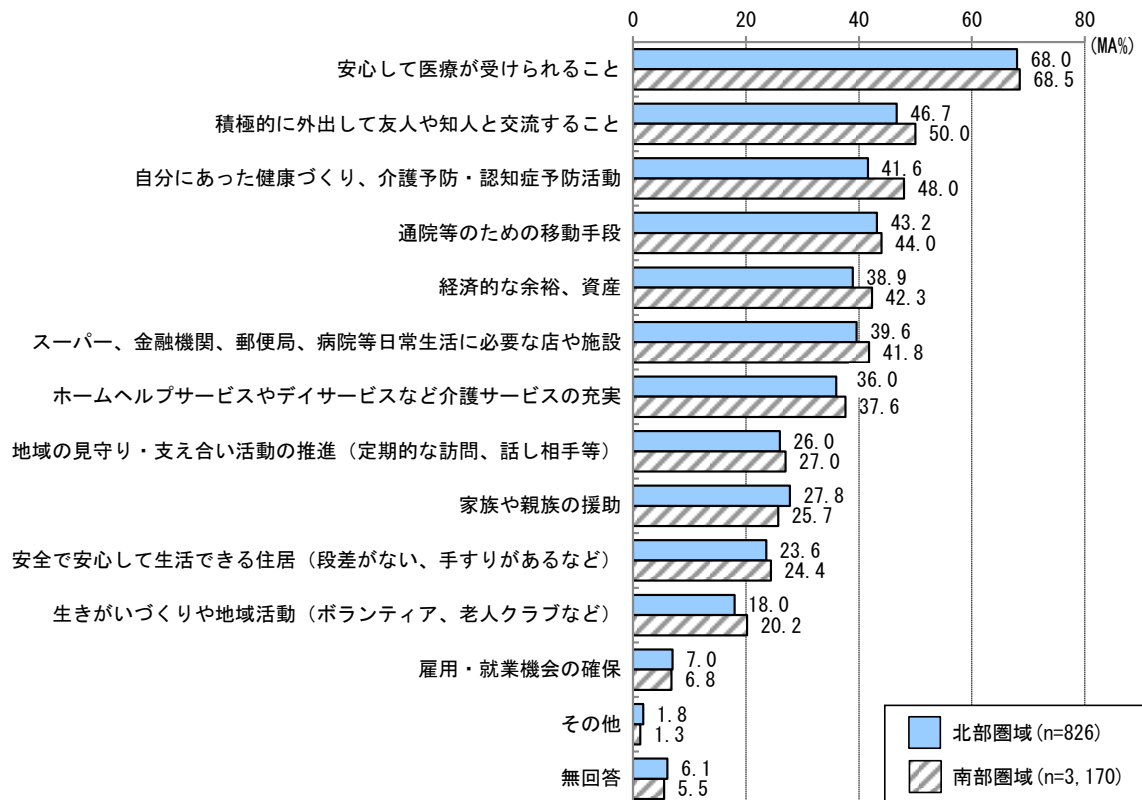
問9 (3) 住み慣れた地域で、いつまでも安心して過ごすには何が必要だと思いますか (〇はいくつでも)

【図9-3 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと】



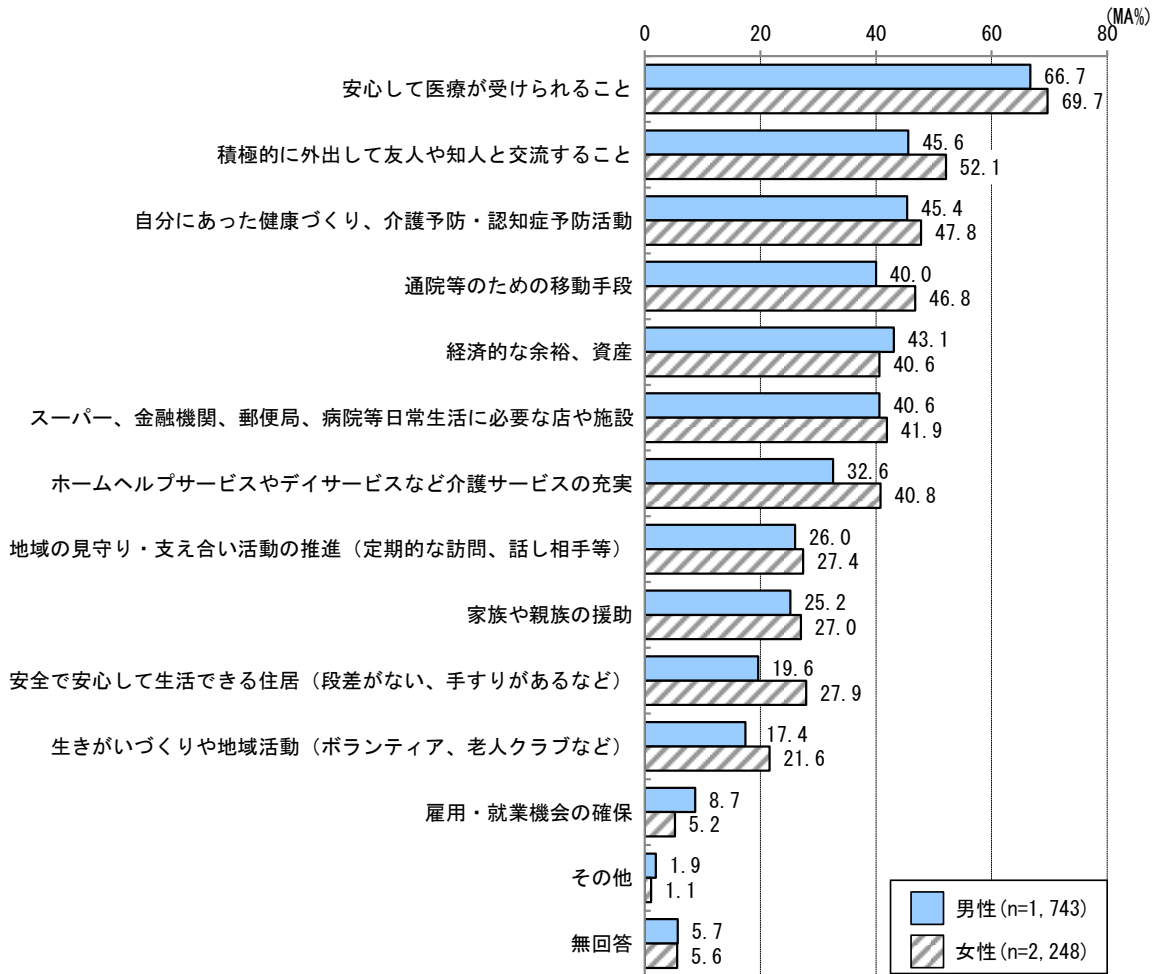
住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なことについては、「安心して医療が受けられること」が68.1%で最も多く、次いで「積極的に外出して友人や知人と交流すること」が49.0%、「自分にあった健康づくり、介護予防・認知症予防活動」が46.4%となっている。(図9-3)

【図9-3-1 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと (圏域別)】



圏域別でみると、「自分にあった健康づくり、介護予防・認知症予防活動」の割合は、南部圏域のほうが6.4ポイント高くなっている。(図9-3-1)

【図9-3-2 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと（性別）】



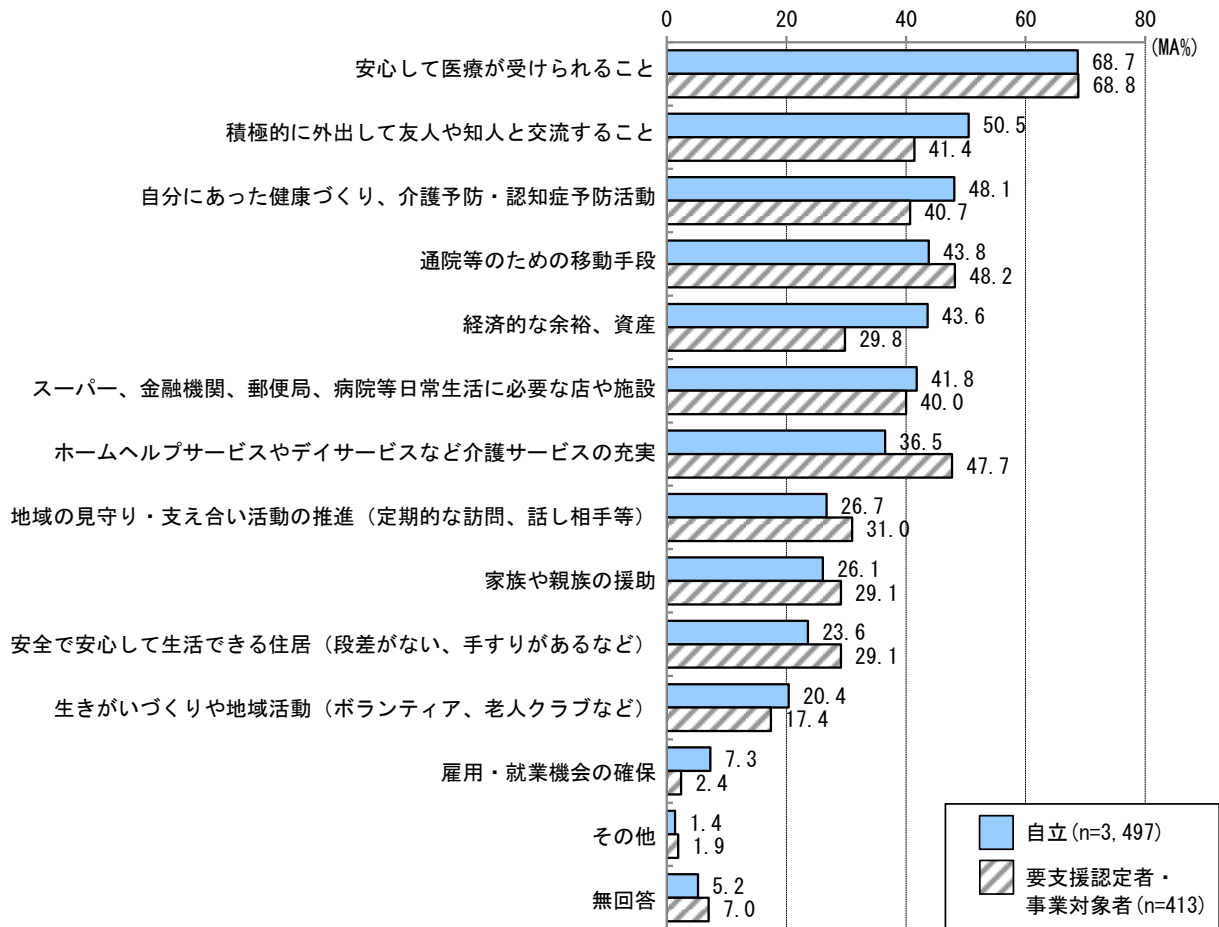
性別でみると、「積極的に外出して友人や知人と交流すること」「通院等のための移動手段」の割合は、女性のほうが6ポイントほど高く、「ホームヘルプサービスやデイサービスなど介護サービスの充実」「安全で安心して生活できる住居（段差がない、手すりがあるなど）」の割合も、女性のほうが8ポイントほど高くなっている。（図9-3-2）

【表9-3-3 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと（年齢別）】

	n	安心して医療が受けられること	積極的に外出して友人や知人と交流すること	自分にあった健康づくり、介護予防・認知症予防活動	通院等のための移動手段	経済的な余裕、資産	必要な店や施設	スーパー、金融機関、郵便局、病院等日常生活に必要な店や施設	ホームヘルプサービスやデイサービスなど介護サービスの充実	地域の見守り・支え合い活動の推進（定期的な訪問、話し相手等）	家族や親族の援助	安全で安心して生活できる住居（段差がない、手すりがあるなど）	生きがいづくりや地域活動（ボランティア、老人クラブなど）	雇用・就業機会の確保	その他	無回答
65～69歳	897	66.3	49.4	51.6	40.2	57.4	45.9	39.7	27.9	27.6	25.0	21.6	13.5	2.1	3.8	
70～74歳	1,054	69.2	48.5	48.2	43.2	44.1	41.8	35.5	24.0	23.5	21.5	19.3	8.6	1.4	4.8	
75～79歳	848	71.0	54.6	49.6	47.6	39.4	41.7	38.1	28.1	25.1	22.4	21.8	3.8	0.8	5.1	
80～84歳	646	70.0	48.5	41.0	45.5	30.8	38.1	37.5	27.2	26.8	27.9	20.1	2.3	0.6	7.7	
85～89歳	400	63.8	46.3	40.8	46.0	27.8	36.5	34.5	26.8	29.8	26.3	15.0	2.0	2.8	8.0	
90歳以上	151	64.9	35.8	30.5	35.8	25.2	35.8	37.7	29.8	28.5	28.5	11.9	2.6	0.7	9.9	

年齢別でみると、どの年代も「安心して医療が受けられること」が最も多く、「自分にあった健康づくり、介護予防・認知症予防活動」「経済的な余裕、資産」「スーパー、金融機関、郵便局、病院等日常生活に必要な店や施設」は概ね年齢が下がるほど高くなっている。（表9-3-3）

【図9-3-4 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと（認定状況別）】



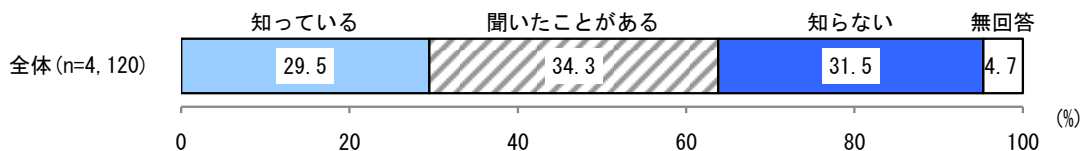
認定状況別で見ると、要支援認定者等は「安心して医療が受けられること」が68.8%で最も多く、次いで「通院等のための移動手段」が48.2%、「ホームヘルプサービスやデイサービスなど介護サービスの充実」が47.7%となっている。(図9-3-4)

10. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

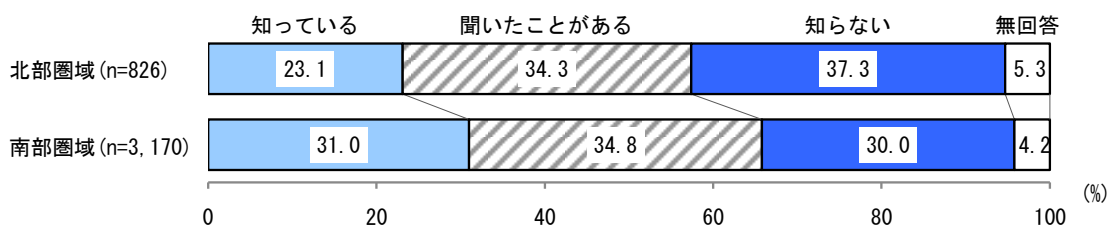
問10(1) あなたは、高齢者の権利を守る制度の一つである「成年後見制度」を知っていますか
(○は1つ)

【図10-1 成年後見制度の認知度】



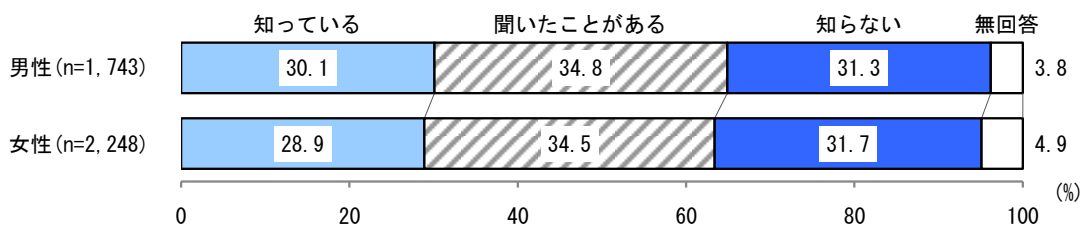
成年後見制度の認知度については、「知っている」が29.5%、「聞いたことがある」が34.3%、「知らない」が31.5%となっている。(図10-1)

【図10-1-1 成年後見制度の認知度(圏域別)】



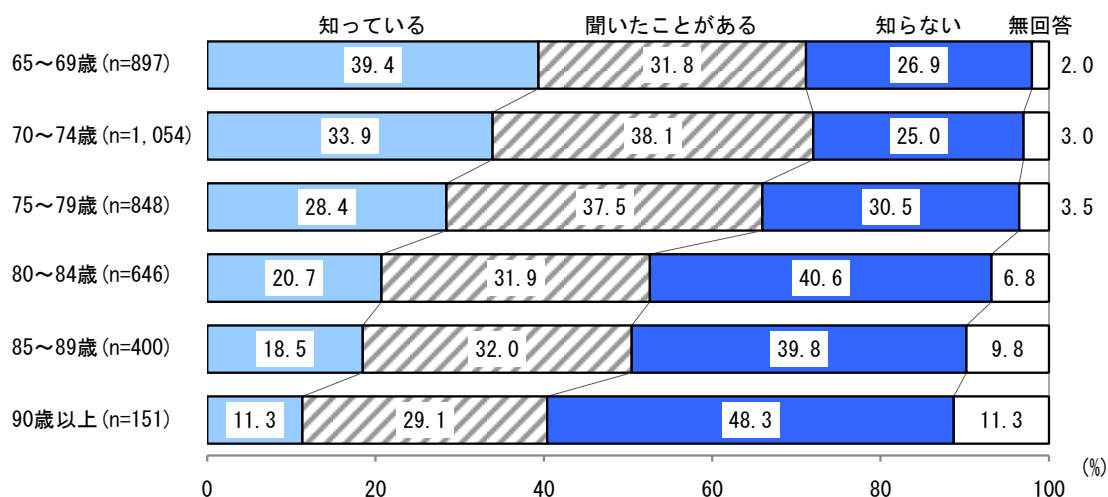
圏域別でみると、「知っている」割合は、南部圏域のほうが7.9ポイント高くなっている。(図10-1-1)

【図10-1-2 成年後見制度の認知度(性別)】



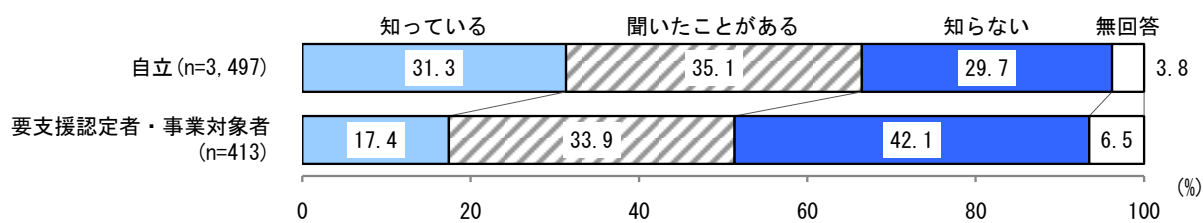
性別でみると、大きな差異はみられない。(図10-1-2)

【図10-1-3 成年後見制度の認知度（年齢別）】



年齢別でみると、年齢が上がるほど「知っている」割合は低くなっている。(図 10-1-3)

【図10-1-4 成年後見制度の認知度（認定状況別）】



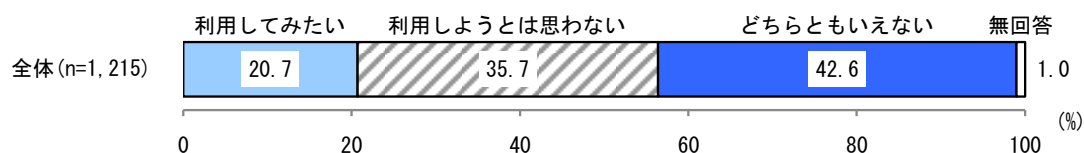
認定状況別でみると、要支援認定者等は「知っている」が17.4%、「聞いたことがある」33.9%、「知らない」が42.1%となっている。(図 10-1-4)

(2) 自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいか

問10 (2) 【(1) で「1. 知っている」に○をした方のみ】

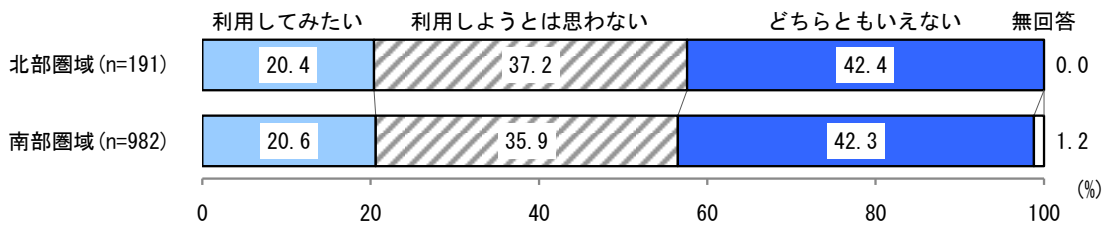
あなたやあなたの家族が、認知症などで判断能力が衰えたときに、成年後見制度を利用してみたいと思いますか (○は1つ)

【図10-2 自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいか】



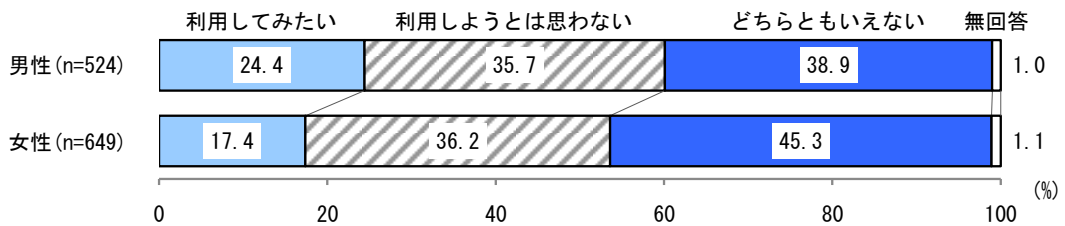
知っていると回答した方に、自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいかをたずねたところ、「利用してみたい」が20.7%、「利用しようとは思わない」が35.7%、「どちらともいえない」が42.6%となっている。(図10-2)

【図10-2-1 自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいか（圏域別）】



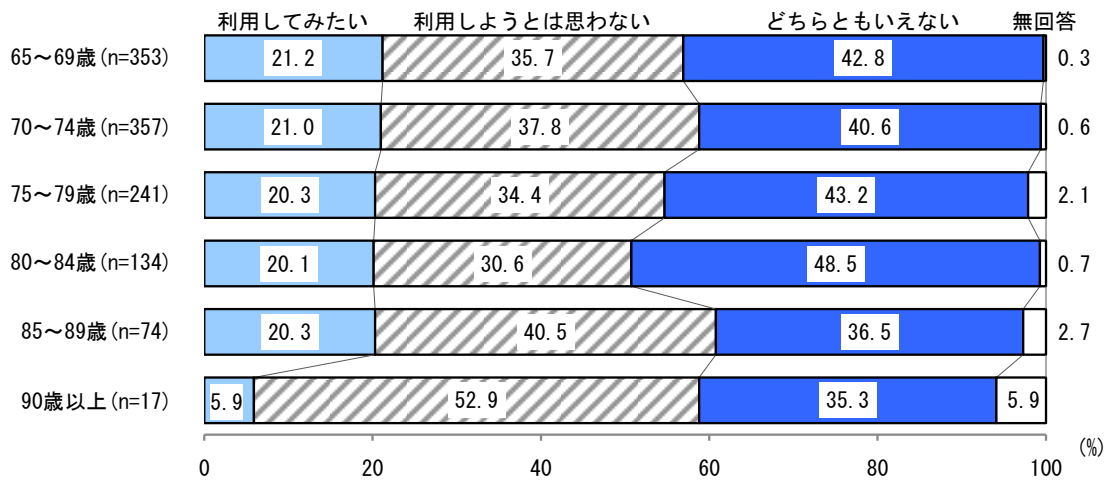
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 10-2-1)

【図10-2-2 自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいか（性別）】



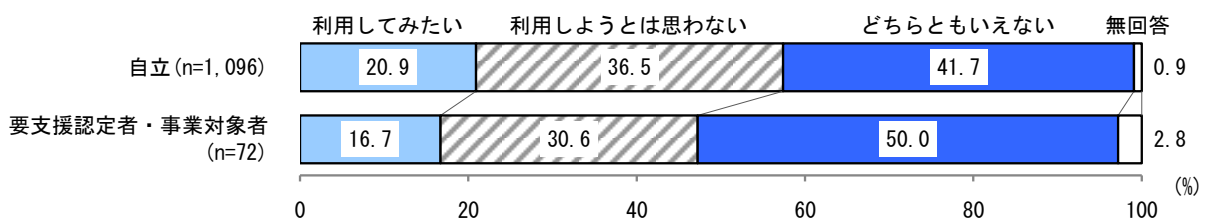
性別でみると、「利用してみたい」割合は、男性のほうが7.0ポイント高くなっている。(図 10-2-2)

【図10-2-3 自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいか（年齢別）】



年齢別でみると、「利用してみたい」割合は、90歳以上で最も低く、それ以外の年齢では2割程度となっている。(図 10-2-3)

【図10-2-4 自身や家族の判断能力が衰えたときに成年後見制度を利用したいか（認定状況別）】

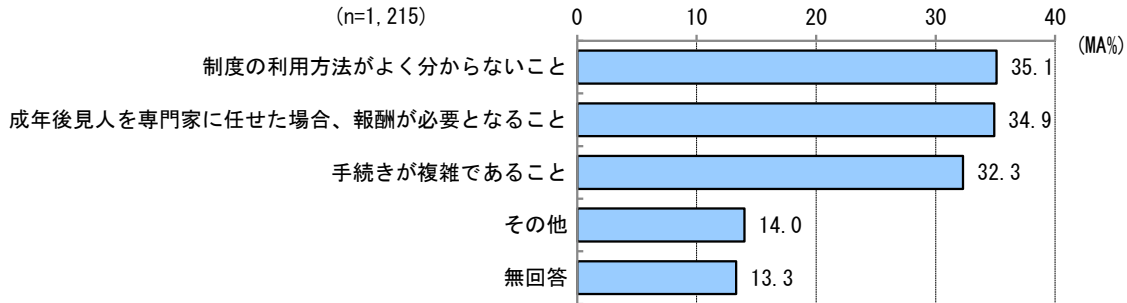


認定状況別でみると、要支援認定者等は「利用してみたい」が16.7%、「利用したいとは思わない」が30.6%、「どちらともいえない」が50.0%となっている。(図 10-2-4)

(3) 成年後見制度の利用にあたり問題となること

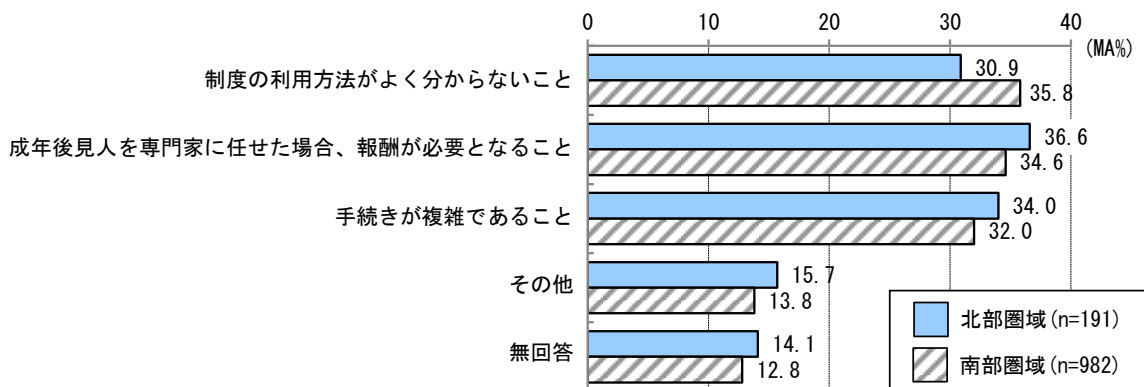
問10 (3) 【(1) で「1. 知っている」に○をした方のみ】
 成年後見制度を利用するにあたって問題となることは何ですか (○はいくつでも)

【図10-3 成年後見制度の利用にあたり問題となること】



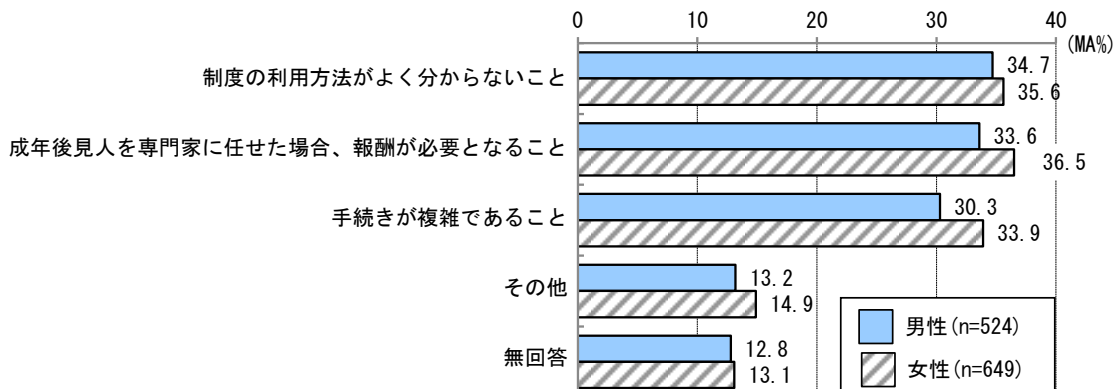
知っているとは回答した方に、成年後見制度を利用するにあたって問題になることをたずねたところ、「制度の利用方法がよく分からないこと」が35.1%、「成年後見人を専門家に任せた場合、報酬が必要となること」が34.9%、「手続きが複雑であること」が32.3%となっている。(図10-3)

【図10-3-1 成年後見制度の利用にあたり問題となること (圏域別)】



圏域別でみると、「制度の利用方法がよくわからないこと」の割合は、南部圏域のほうが4.9ポイント高くなっている。(図10-3-1)

【図10-3-2 成年後見制度の利用にあたり問題となること (性別)】



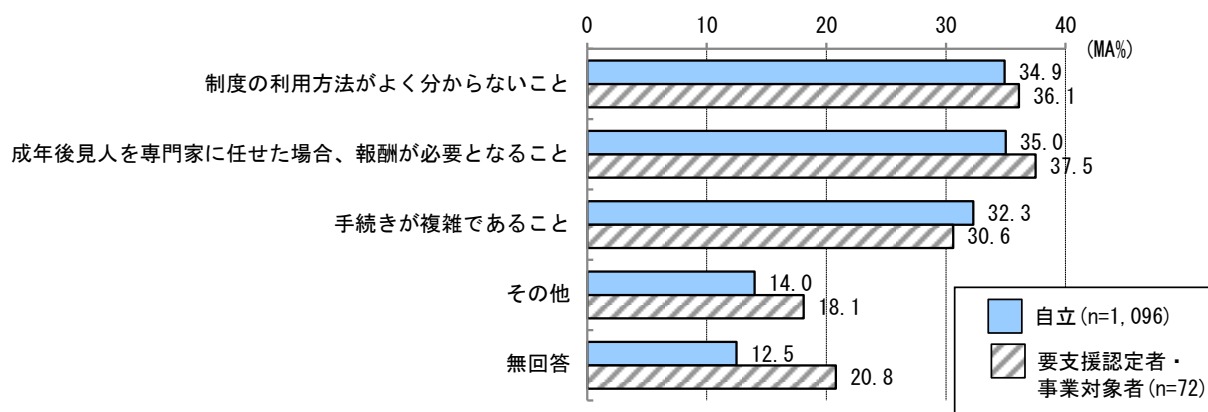
性別でみると、「手続きが煩雑であること」の割合は、女性のほうが3.6ポイント高くなっている。(図10-3-2)

【表10-3-3 成年後見制度の利用にあたり問題となること（年齢別）】

	n	分制 か ら の 利 用 方 法 が よ く	要 と せ た 場 合 、 報 酬 が 必 に	成 年 後 見 人 を 専 門 家 に	と 手 続 き が 複 雑 で あ る こ	そ の 他	無 回 答
65～69歳	353	38.2	33.4	33.7	17.3	6.5	
70～74歳	357	29.7	34.2	34.7	14.6	14.6	
75～79歳	241	39.8	35.3	29.0	10.8	16.2	
80～84歳	134	30.6	41.8	32.8	9.7	17.9	
85～89歳	74	44.6	33.8	24.3	10.8	17.6	
90歳以上	17	11.8	41.2	35.3	35.3	11.8	

年齢別で見ると、65～69歳、75～79歳、85～89歳では「制度の利用方法がよく分からないこと」が、80～84歳と90歳以上では「成年後見人を専門家に任せた場合、報酬が必要となること」が、70～74歳では「手続きが煩雑であること」が、それぞれ最も多くなっている。（表10-3-3）

【図10-3-4 成年後見制度の利用にあたり問題となること（認知状況別）】



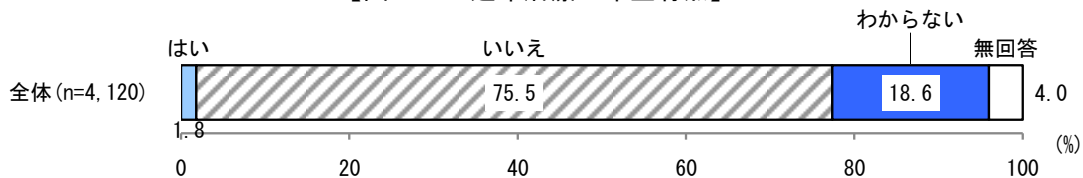
認知状況別で見ると、要支援認定者等は「成年後見人を専門家に任せた場合、報酬が必要となること」が37.5%で最も多く、次いで「制度の利用方法がよく分からないこと」が36.1%となっている。（図10-3-4）

11. 延命治療について

(1) 延命治療の希望有無

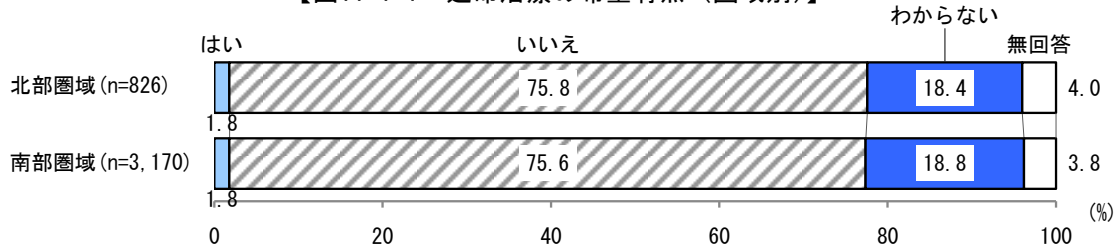
問11(1) 将来、治る見込みがなく死期が迫っている(6か月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、延命治療を望みますか(○は1つ)

【図11-1 延命治療の希望有無】



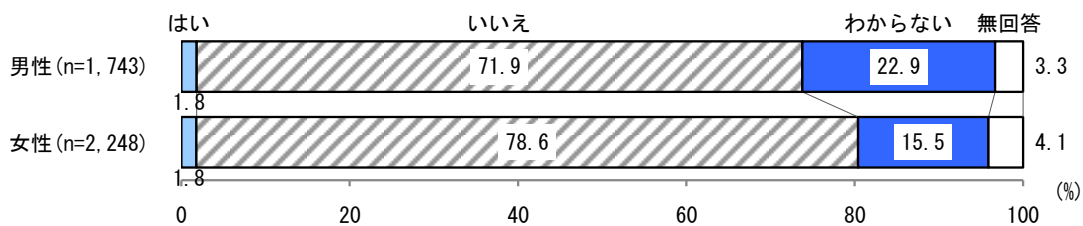
延命治療を望むかについては、「はい」が1.8%、「いいえ」が75.5%、「わからない」が18.6%となっている。(図11-1)

【図11-1-1 延命治療の希望有無(圏域別)】



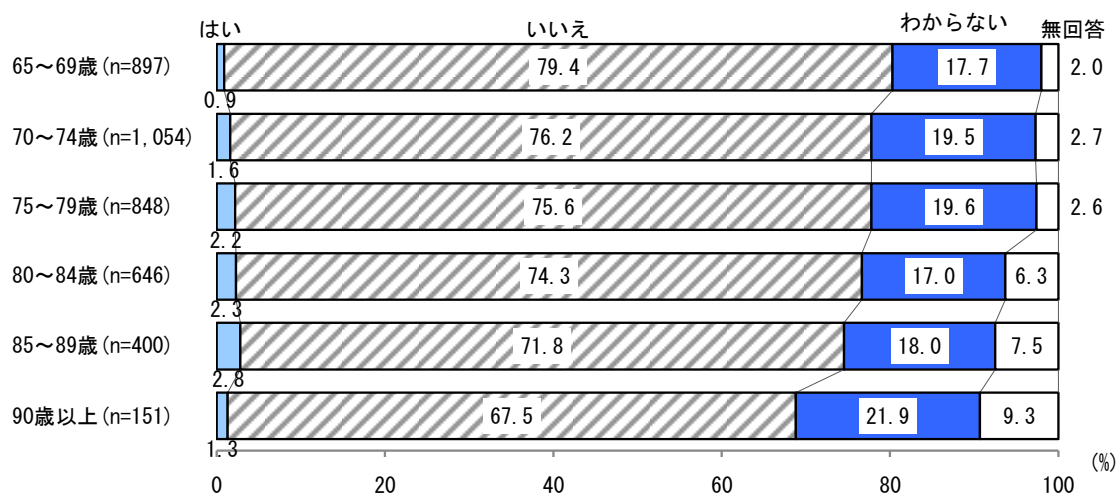
圏域別でみると、大きな差異はみられない。(図 11-1-1)

【図11-1-2 延命治療の希望有無(性別)】



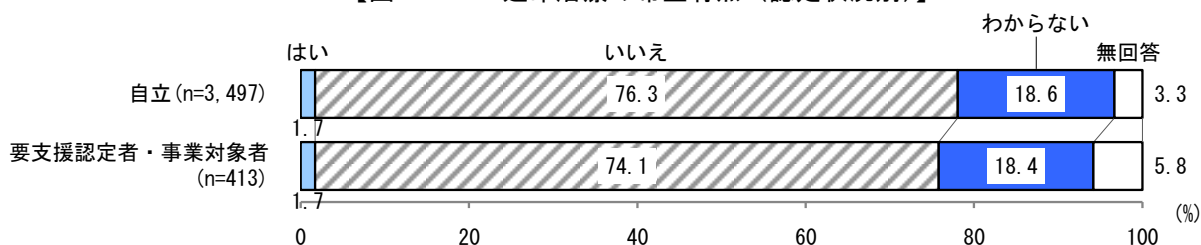
性別でみると、「いいえ」の割合は、女性のほうが6.7ポイント高くなっている。(図 11-1-2)

【図11-1-3 延命治療の希望有無（年齢別）】



年齢別でみると、「いいえ」の割合は、年齢が下がるほど高くなっている。（図 11-1-3）

【図11-1-4 延命治療の希望有無（認定状況別）】

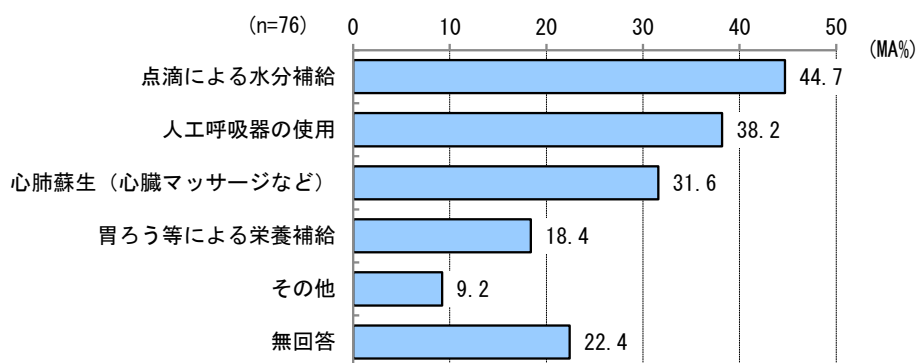


認定状況別でみると、認定状況にかかわらず「いいえ」が多くなっている。（図 11-1-4）

（2）希望する延命治療の内容

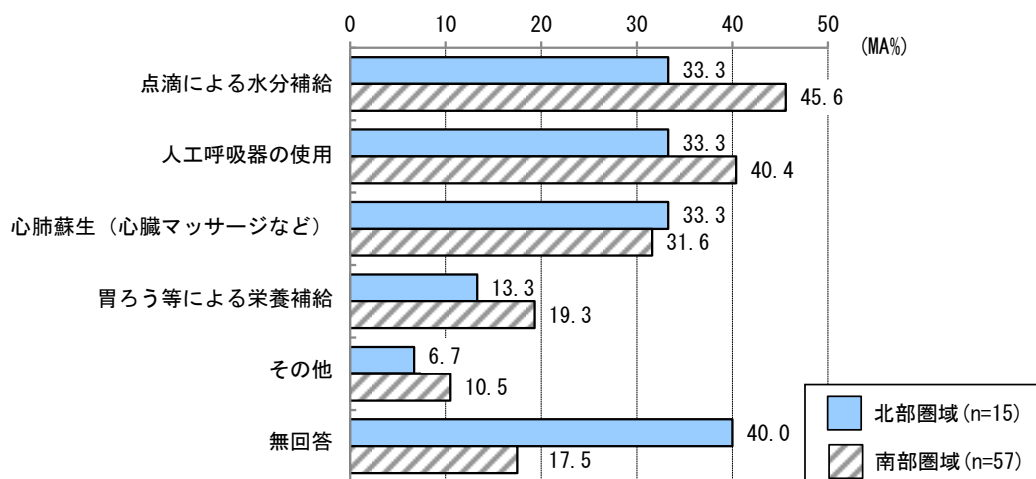
問11（2）【（1）で「1. はい」（延命治療を望む）に○をした方のみ】
 どのような延命治療を望みますか（○はいくつでも）

【図11-2 希望する延命治療の内容】



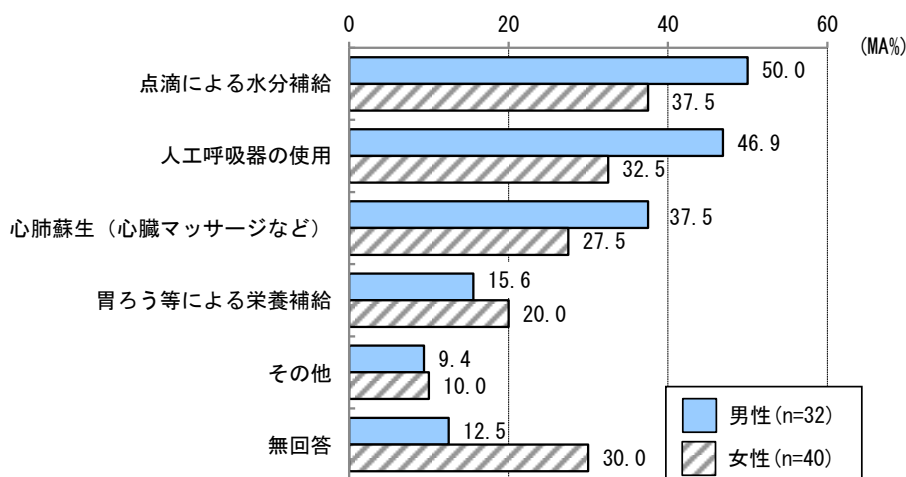
延命治療を望むと回答された方に、希望する延命治療の内容にたずねたところ、「点滴による水分補給」が44.7%、「人工呼吸器の使用」が38.2%、「心肺蘇生（心臓マッサージなど）」が31.6%となっている。（図11-2）

【図11-2-1 希望する延命治療の内容（圏域別）】



圏域別でみると、「心肺蘇生（心臓マッサージなど）」の割合は北部圏域のほうが高いが、それ以外の項目は南部圏域のほうが高くなっている。（図 11-2-1）

【図11-2-2 希望する延命治療の内容（性別）】



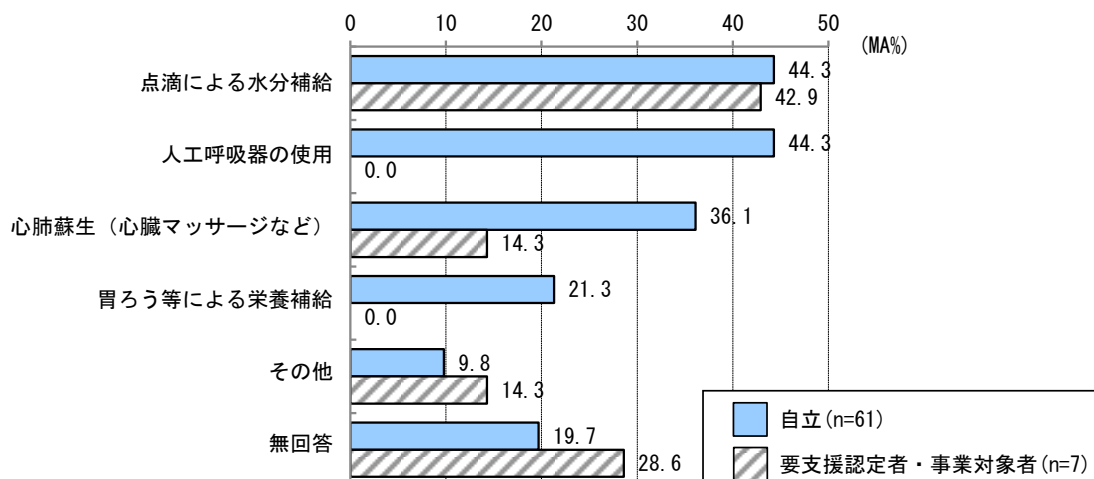
性別でみると、「胃ろう等による栄養補給」の割合は女性のほうが高くなっているが、それ以外の項目は男性のほうが高い。（図 11-2-2）

【表11-2-3 希望する延命治療の内容（年齢別）】

	n	点滴による水分補給	人工呼吸器の使用	心肺蘇生（心臓マッサージなど）	胃ろう等による栄養補給	その他	無回答
65～69歳	8	50.0	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0
70～74歳	17	64.7	76.5	58.8	23.5	5.9	0.0
75～79歳	19	47.4	15.8	10.5	15.8	10.5	26.3
80～84歳	15	6.7	26.7	13.3	13.3	13.3	46.7
85～89歳	11	45.5	27.3	54.5	18.2	9.1	18.2
90歳以上	2	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0

※回答数が少ないため
コメントは省略

【図11-2-4 希望する延命治療の内容（認定状況別）】

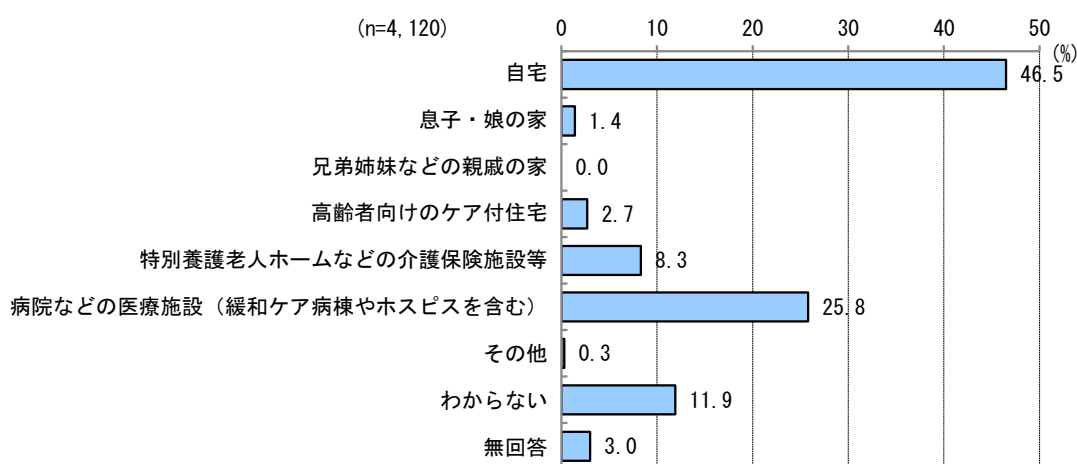


認定状況別で見ると、自立は「点滴による水分補給」と「人工呼吸器の使用」が44.3%となっている。（図11-2-4）

（3）希望する療養生活の場所

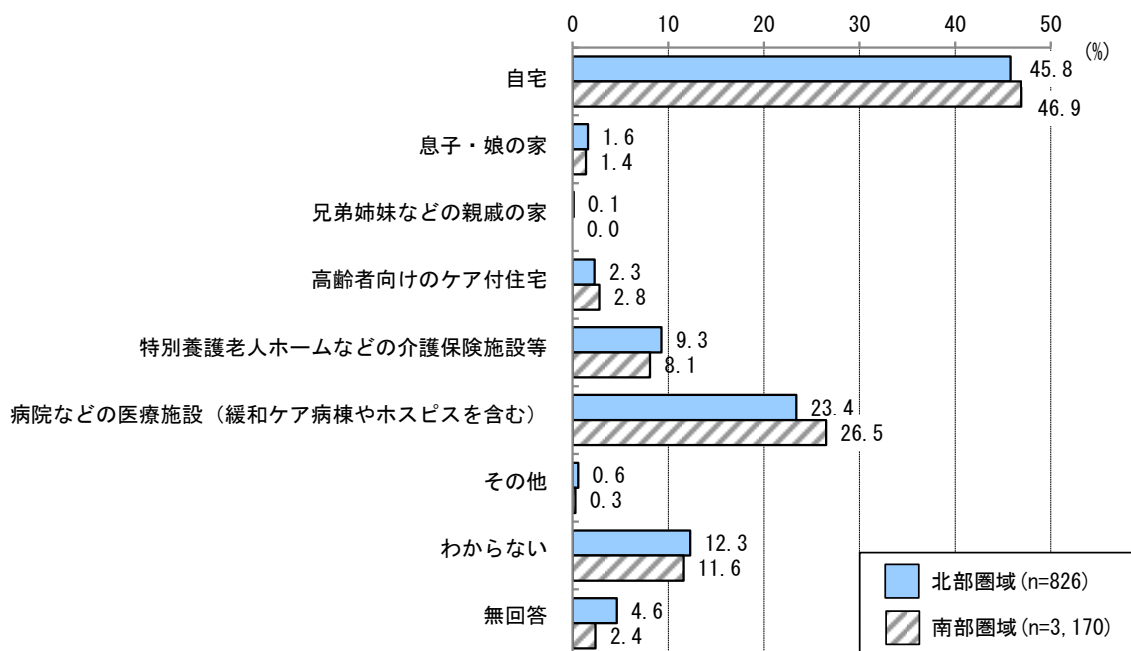
問11（3）将来、治る見込みがなく死期が迫っている（6か月程度あるいはそれより短い期間を想定）と告げられた場合、どこで療養生活を望みますか（○は1つ）

【図11-3 希望する療養生活の場所】



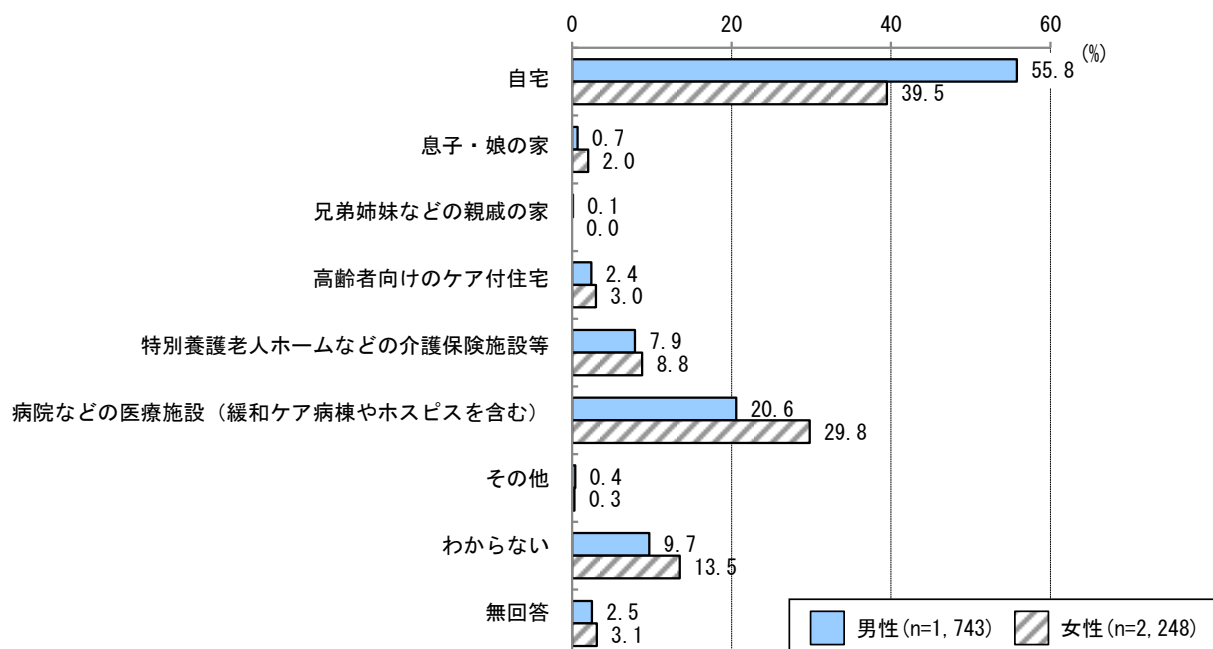
希望する療養生活の場所については、「自宅」が46.5%で最も多く、次いで「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピスを含む）」が25.8%となっている。（図11-3）

【図11-3-1 希望する療養生活の場所（圏域別）】



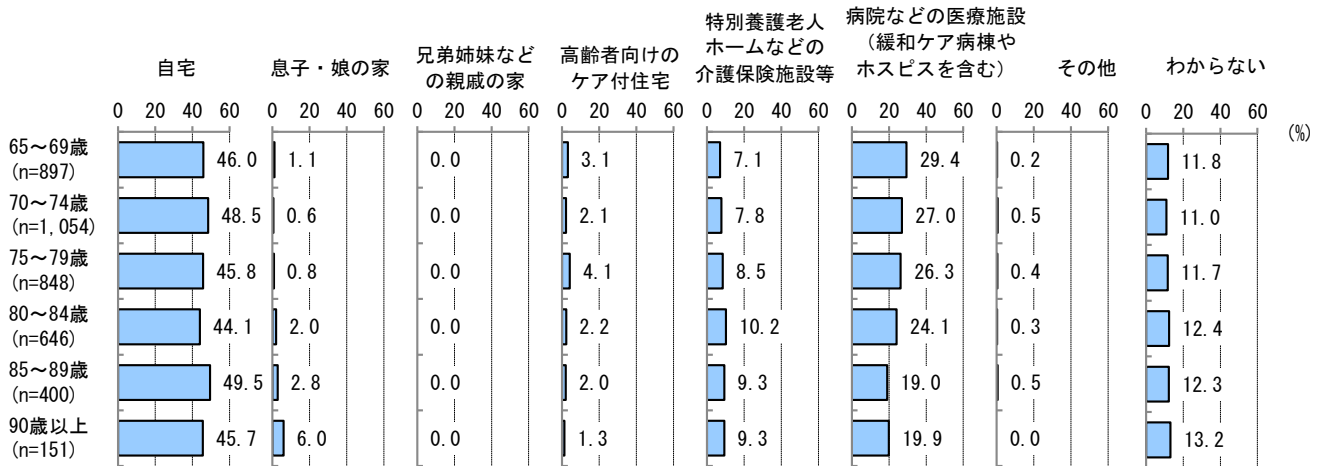
圏域別でみると、「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピスを含む）」の割合は、南部地域のほうが3.1ポイント高くなっている。（図11-3-1）

【図11-3-2 希望する療養生活の場所（性別）】



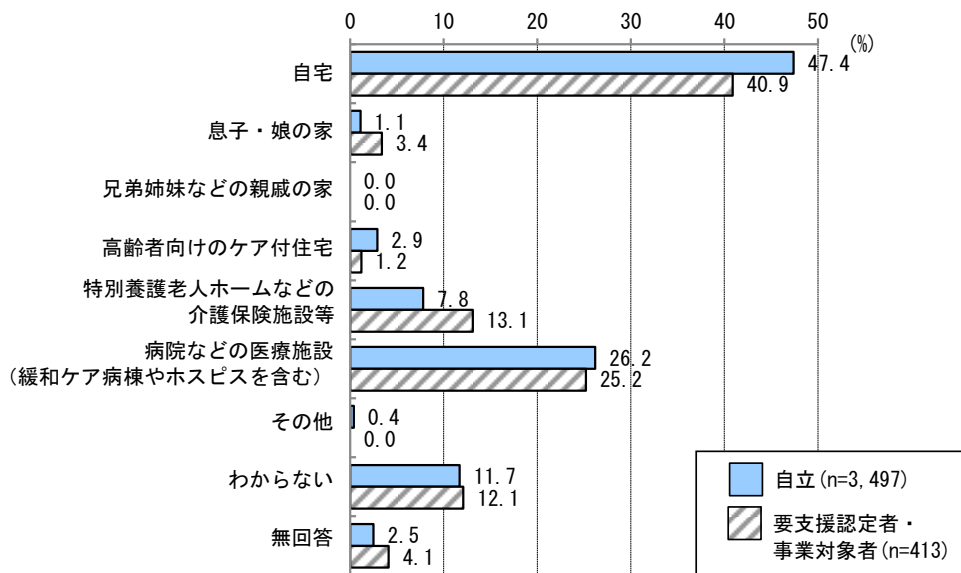
性別でみると、「自宅」の割合は男性のほうが16.3ポイント高く、「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピスを含む）」の割合は女性のほうが9.2ポイント高くなっている。（図11-3-2）

【図11-3-3 希望する療養生活の場所（年齢別）】



年齢別でみると、「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピスを含む）」の割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。（図 11-3-3）

【図11-3-4 希望する療養生活の場所（認定状況別）】

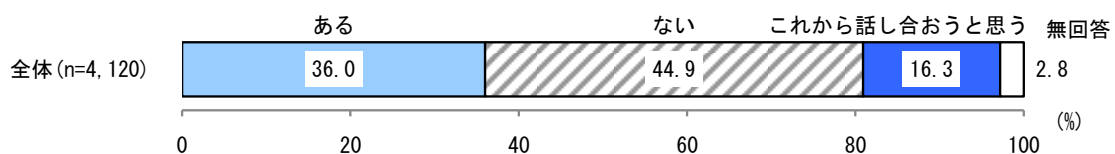


認知状況別でみると、認定状況にかかわらず、「自宅」と「病院」が多くなっている。（図 11-3-4）

（４）延命治療についての話し合いを家族としたことの有無

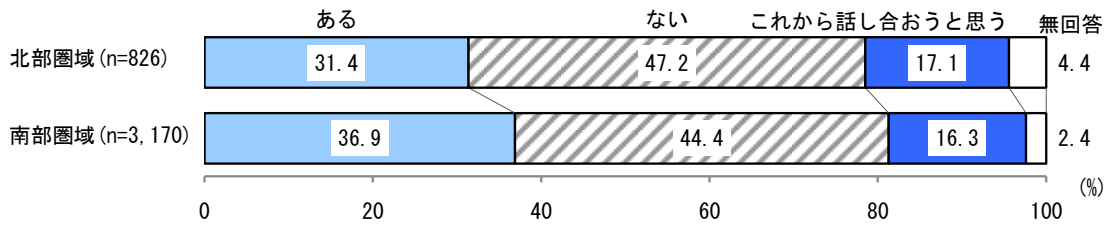
問11（４）延命治療について家族と話し合ったことはありますか（○は1つ）

【図11-4 延命治療についての話し合いを家族としたことの有無】



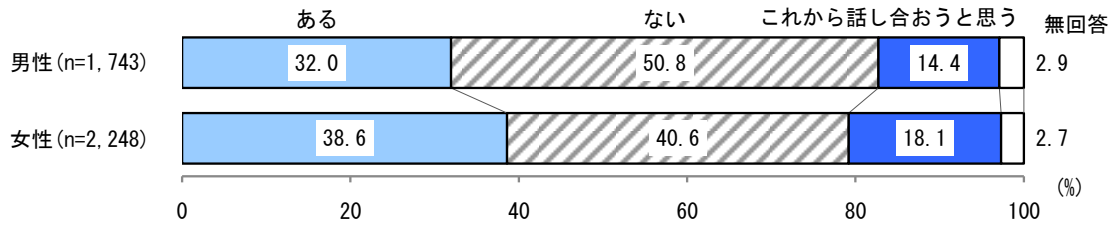
延命治療についての話し合いを家族としたことの有無については、「ある」が36.0%、「ない」が44.9%、「これから話し合おうと思う」が16.3%となっている。（図11-4）

【図11-4-1 延命治療についての話し合いを家族としたことの有無（圏域別）】



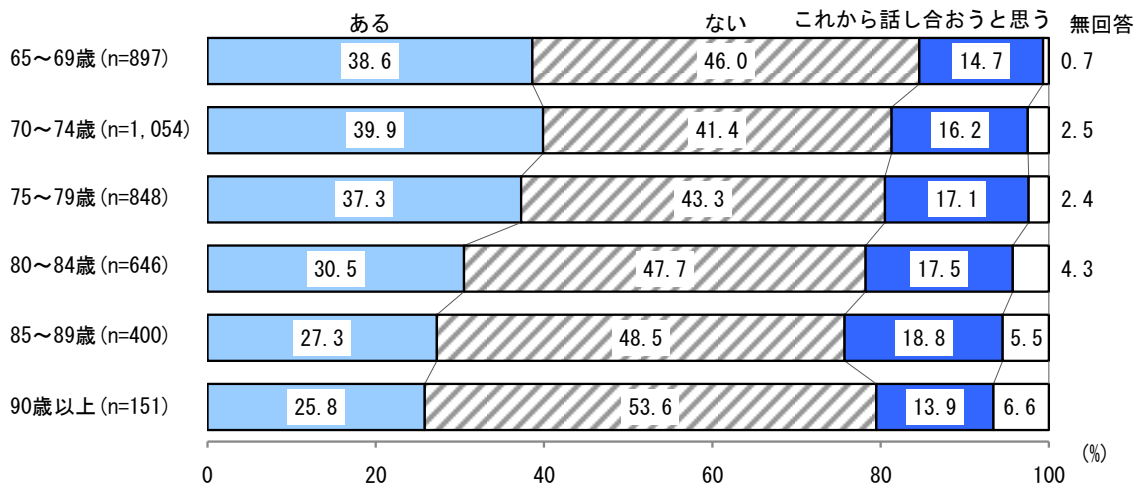
圏域別でみると、「ある」割合は、南部圏域のほうが5.5ポイント高くなっている。(図11-4-1)

【図11-4-2 延命治療についての話し合いを家族としたことの有無（性別）】



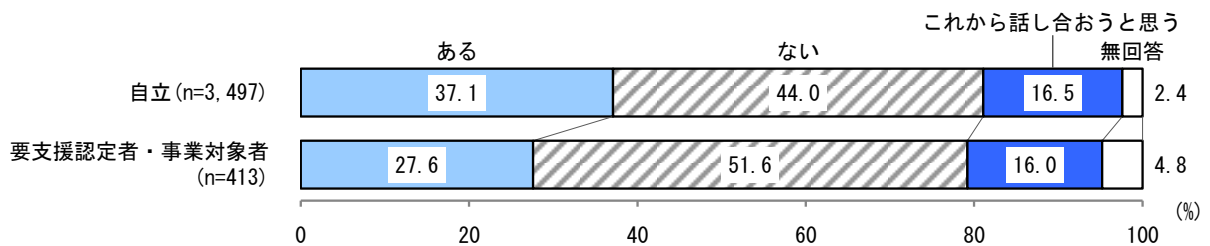
性別でみると、「ある」割合は、女性のほうが6.6ポイント高くなっている。(図11-4-2)

【図11-4-3 延命治療についての話し合いを家族としたことの有無（年齢別）】



年齢別でみると、「ある」割合は、概ね年齢が上がるほど低くなっている。(図11-4-3)

【図11-4-4 延命治療についての話し合いを家族としたことの有無（認定状況別）】



認定状況別でみると、要支援認定者等は「ある」が27.6%、「ない」が51.6%となっている。(図11-4-4)

12. リスク評価

今回の調査では、地域の高齢者の課題や必要なサービス等をよりの確に把握するため、前回の調査と同様、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れています。

「日常生活圏域ニーズ調査」では、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（IADL）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されています。

本報告書の「リスク評価」では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定を行っていきます。

（1）生活機能評価

生活機能が低下している人の状況を把握します。

その方法として「基本チェックリスト」^{*1}に関する調査項目により、生活機能の状況について把握します。

「基本チェックリスト」では、①運動機能の低下、②転倒、③閉じこもり、④低栄養、⑤咀嚼機能の低下、⑥口腔機能の低下、⑦認知機能の低下、⑧うつなどのリスクがあるかを判定します。

※1 基本チェックリストは、65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない方を対象にした、介護予防の必要性をチェックするための質問票のことです。介護の原因となりやすい生活機能低下の危険性がないかどうかという視点で、運動、栄養、口腔、物忘れ、うつ病、閉じこもり等の全25項目について、「はい」、「いいえ」等で記入します。

（2）日常生活評価

活動的な日常を送るための能力（手段的自立度：IADL^{*2}）が低下している人の状況を把握します。

IADLの判定については、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる「老研式活動能力指標」^{*3}による判定を用いています。

※2 買物、洗濯、電話、薬の管理など、「日常生活動作（Activity of Daily Living：ADL、食事、排泄、更衣、整容、入浴など日常生活を送るために必要な基本動作のことをいう。）」より複雑で高度な動作を行える自立度の程度を示す指標を「手段的自立度（Instrument Activity of Daily Living：IADL）」といいます。

※3 老研式活動能力指標は、社会的な生活機能を測る指標であり、「バスや電車で一人で外出しているか」、「友人の家を訪ねているか」など13の質問項目により構成されています。その内容は、「（1）活動的な日常生活をおくるための動作能力（IADL）、（2）余暇や造作などの積極的な知的活動能力、（3）地域で社会的な役割を果たす能力の3つとなっています。

（3）社会参加評価

余暇や創作など生活を楽しむ能力（知的能動性）や、地域で社会的な役割を果たす能力（社会的役割）が低下している人の状況を把握します。

手段的自立度（IADL）の評価判定で用いた「老研式活動能力指標」では、IADLのほか、知的能動性、社会的役割といった評価をすることができます。

「老研式活動能力指標」の知的能動性、社会的役割に関する調査項目により、社会参加の評価を行うことができます。

(1) 生活機能評価

【設問とリスク判定基準】

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の設問に対する回答からリスクを判定しています。

①運動機能の低下に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「できない」	5問のうち3問以上に該当すれば、運動機能の低下の「リスクあり」に該当
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「できない」	
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「できない」	
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」 「一度ある」	
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」 「やや不安である」	

②転倒リスクに関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」 「1度ある」	左記の選択肢に該当すれば、転倒の「リスクあり」に該当

③閉じこもり傾向に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」 「週1回」	2問のうち2問ともに該当すれば、閉じこもり傾向の「リスクあり」に該当
問2(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「とても減っている」 「減っている」	

④低栄養に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問3(1)	身長・体重 BMI値=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))	BMI値18.5未満	2問のうち2問ともに該当すれば、低栄養の「リスクあり」に該当
問3(7)	6箇月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「はい」	

⑤咀嚼機能の低下に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」	左記の選択肢に該当すれば、咀嚼機能の低下の「リスクあり」に該当

⑥口腔機能の低下に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「はい」	3問のうち2問以上に該当すれば、口腔機能の低下の「リスクあり」に該当
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「はい」	
問3(4)	口の渴きが気になりますか	「はい」	

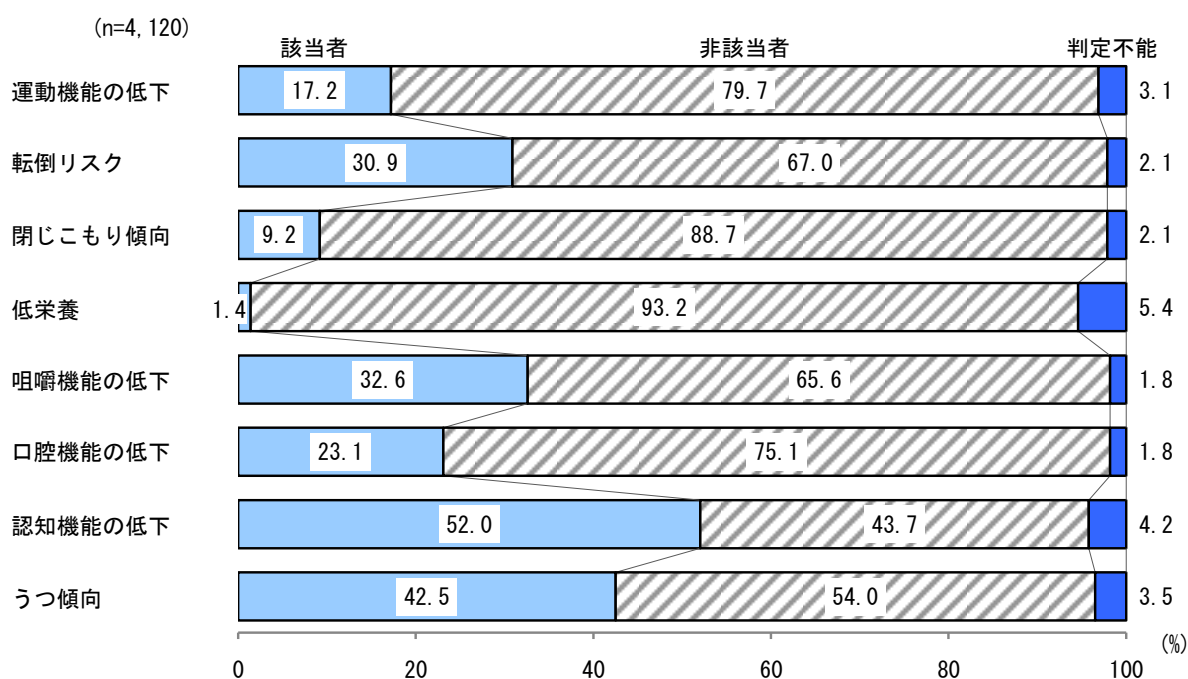
⑦認知機能の低下に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	「はい」	3問のうち1問以上に該当すれば、認知機能の低下の「リスクあり」に該当
問4(2)	自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか	「いいえ」	
問4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「はい」	

⑧うつ傾向に関する設問

問番号	設問	該当する選択肢	判定基準
問7(3)	この1箇月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「はい」	2問のうち1問以上に該当すれば、うつ傾向の「リスクあり」に該当
問7(4)	この1箇月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「はい」	

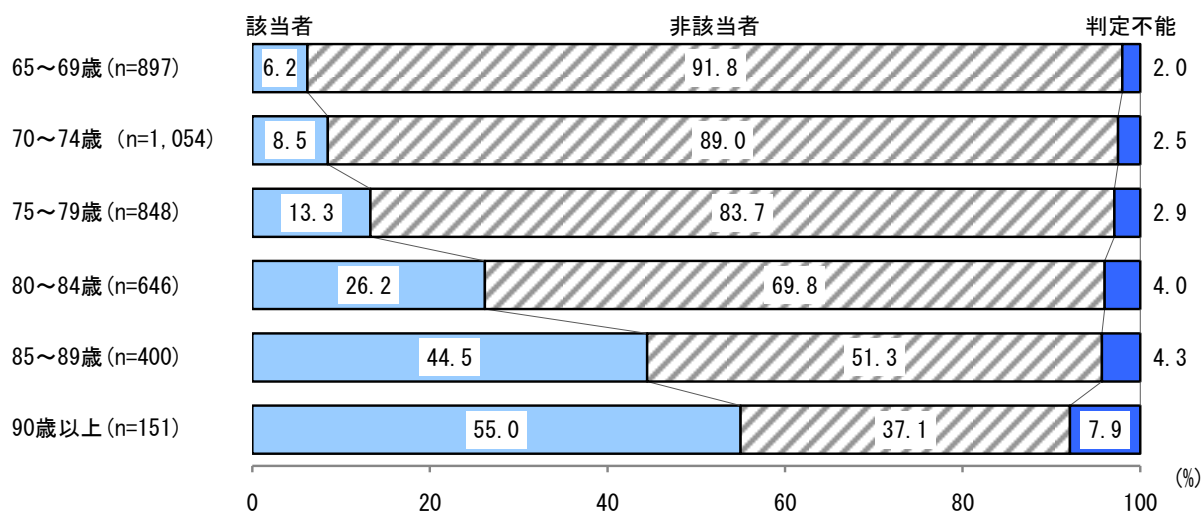
【評価結果】



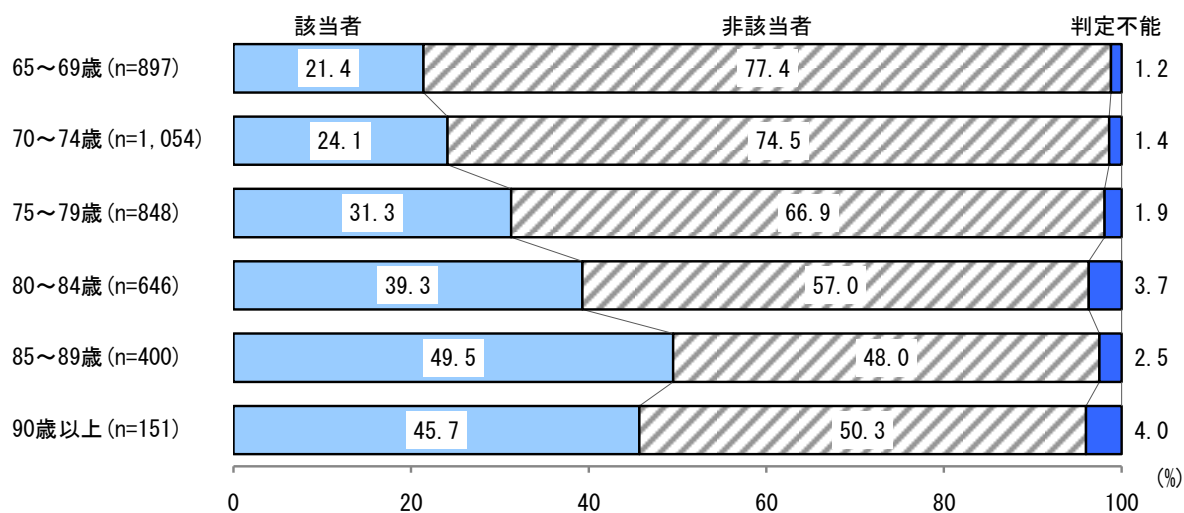
- ①運動機能の低下については、「該当者」が17.2%、「非該当者」が79.7%となっています。
- ②転倒リスクについては、「該当者」が30.9%、「非該当者」が67.0%となっています。
- ③閉じこもり傾向については、「該当者」が9.2%、「非該当者」が88.7%となっています。
- ④低栄養については、「該当者」が1.4%、「非該当者」が93.2%となっています。
- ⑤咀嚼機能の低下については、「該当者」が32.6%、「非該当者」が65.6%となっています。
- ⑥口腔機能の低下については、「該当者」が23.1%、「非該当者」が75.1%となっています。
- ⑦認知機能の低下については、「該当者」が52.0%、「非該当者」が43.7%となっています。
- ⑧うつ傾向については、「該当者」が42.5%、「非該当者」が54.0%となっています。

【評価結果 年齢別】

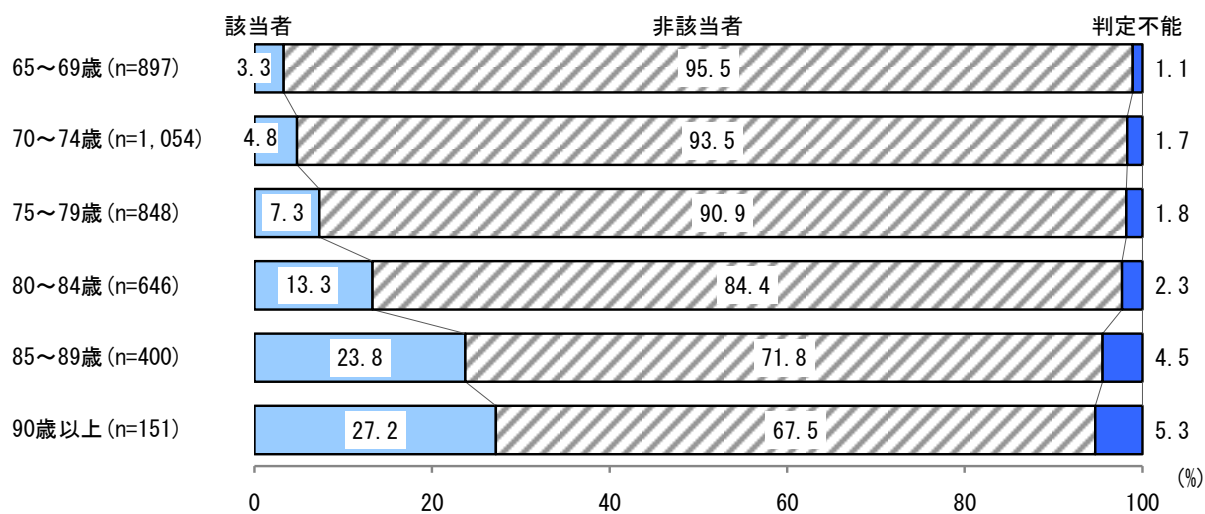
①運動機能の低下（年齢別）



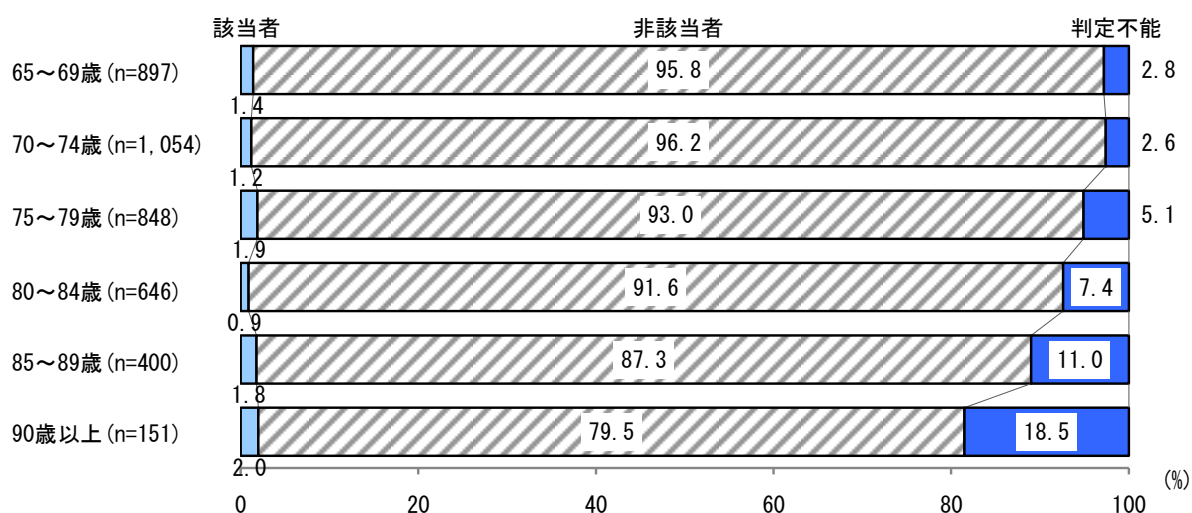
②転倒リスク（年齢別）



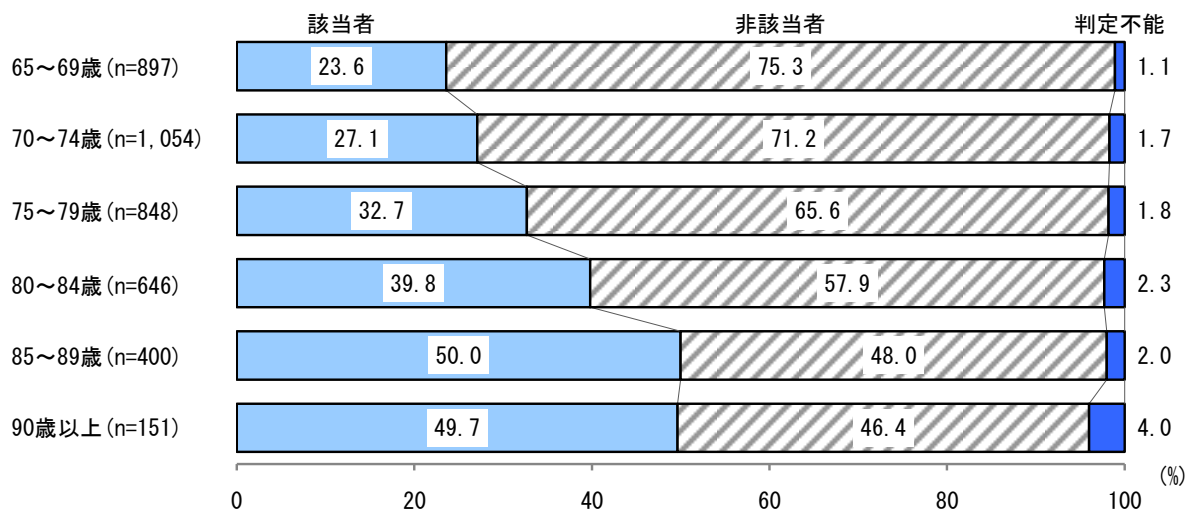
③閉じこもり傾向（年齢別）



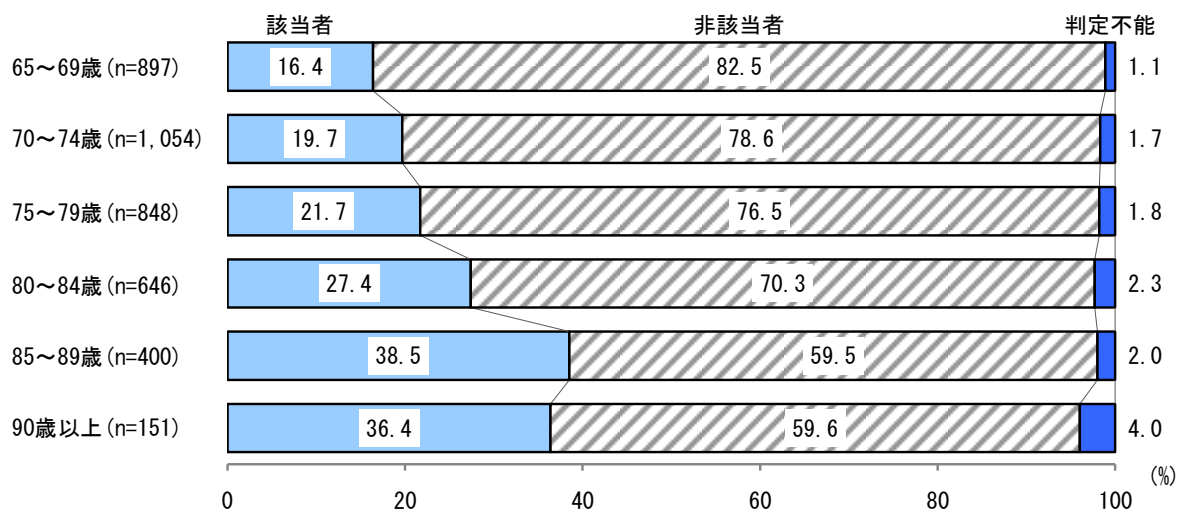
④低栄養（年齢別）



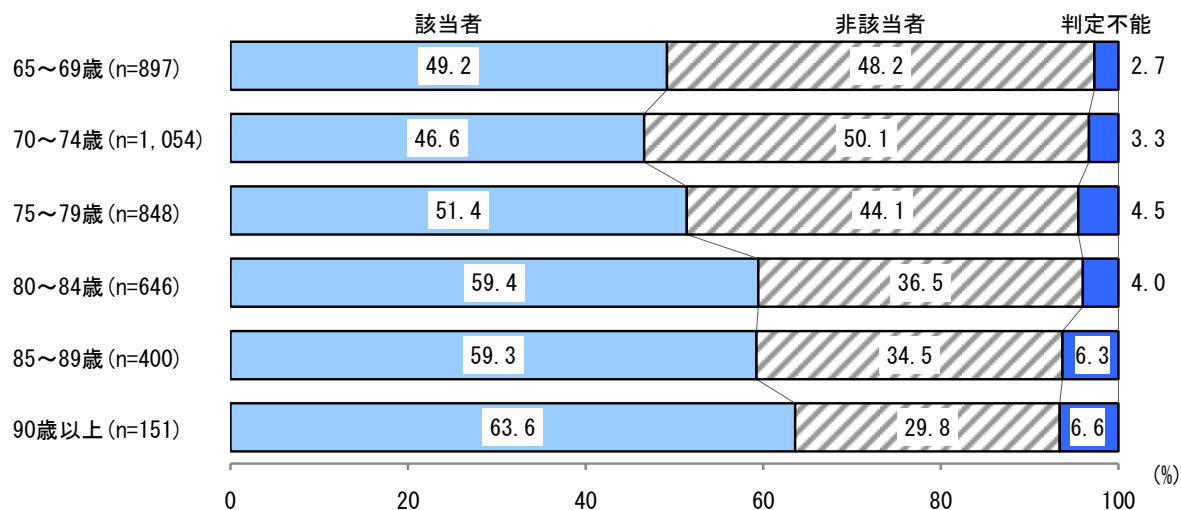
⑤咀嚼機能の低下（年齢別）



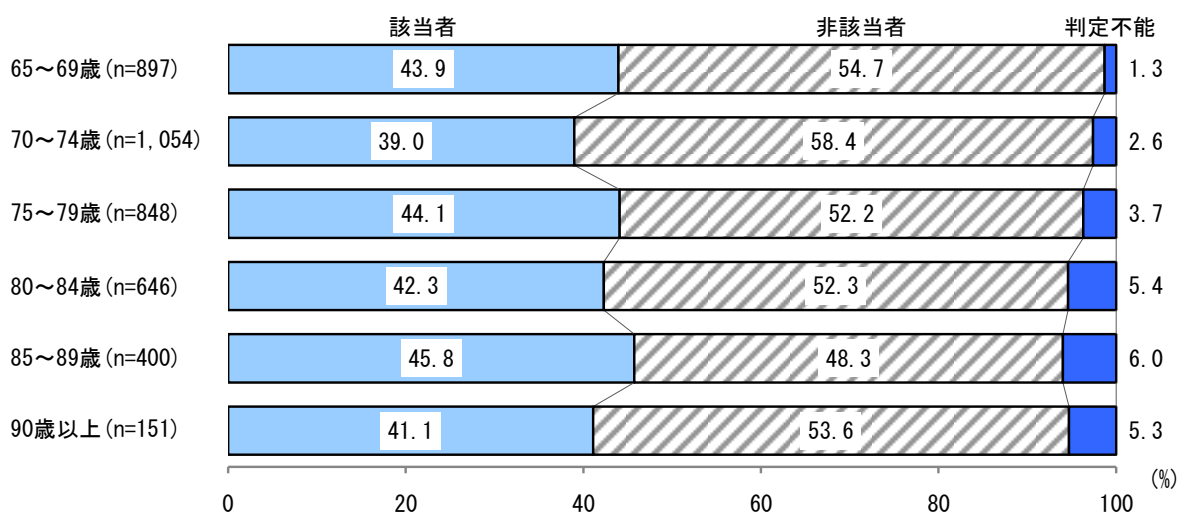
⑥口腔機能の低下（年齢別）



⑦認知機能の低（年齢別）



⑧うつ傾向（年齢別）



(2) 日常生活評価

【設問とリスク判定基準】

①手段的自立度（IADL）

今回の調査票には、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。そのうち、手段的自立度（問4（4）～（8））に関する設問とリスク判定基準は次のとおりです。

各設問の「できるし、している」または「できるけどしていない」を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価し、4点以下の「やや低い」と「低い」に該当する場合に、手段的自立度（IADL）の低下のリスクありと判定されます。

手段的自立度に関する設問とリスク判定基準（老研指標）

問番号	設問	判定基準
問4（4）	バスや電車を使って一人で外出していますか	「できるし、している」「できるけどしていない」を1点とした各問の合計
問4（5）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4（6）	自分で食事の用意をしていますか	
問4（7）	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4（8）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

(3) 社会参加評価

①知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価し、3点以下の「やや低い」と「低い」に該当する場合に、知的能動性の低下のリスクありと判定されます。

知的能動性に関する設問（老研指標）

問番号	設問	判定基準
問4（9）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」を1点とした各問の合計
問4（10）	新聞を読んでいますか	
問4（11）	本や雑誌を読んでいますか	
問4（12）	健康についての記事や番組に関心がありますか	

②社会的役割

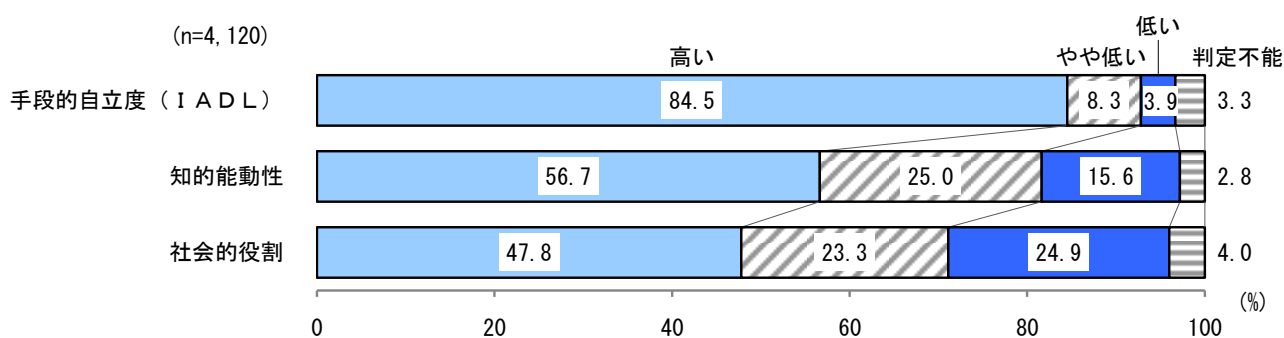
老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています。

評価は、知的能動性と同様に、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価し、3点以下の「やや低い」と「低い」に該当する場合に、社会的役割の低下のリスクありと判定されます。

社会的役割に関する設問（老研指標）

問番号	設問	判定基準
問4(13)	友人の家を訪ねていますか	「はい」を1点とした各問の合計
問4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	
問4(15)	病人を見舞うことができますか	
問4(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	

【評価結果】



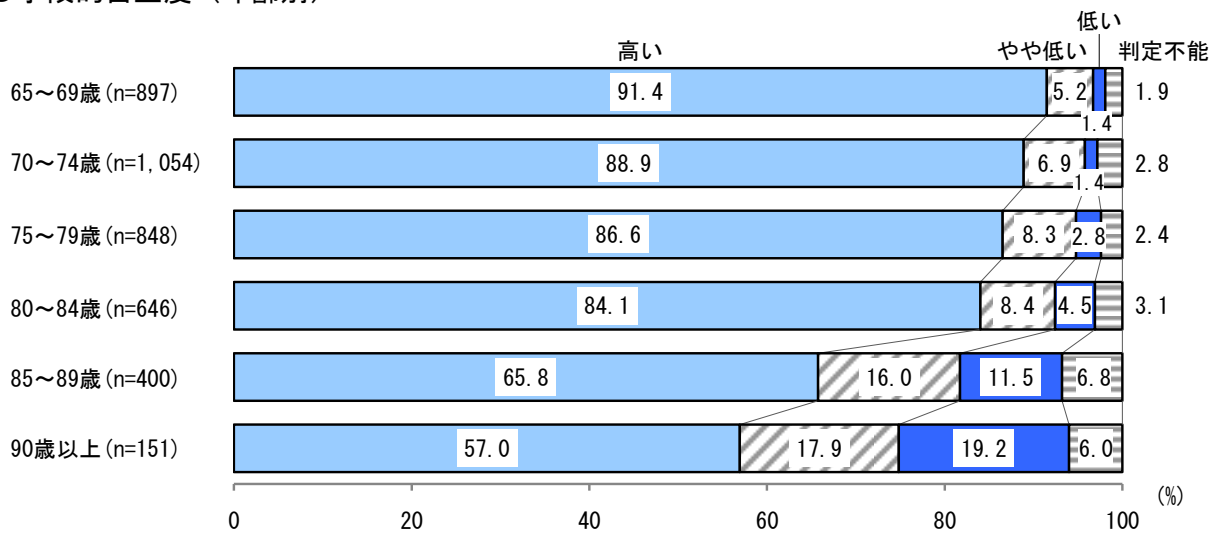
○手段的自立度 (IADL) については、『リスクあり』（「やや低い」 + 「低い」）は12.2%となっています。

○知的能動性については、『リスクあり』（「やや低い」 + 「低い」）は40.6%となっています。

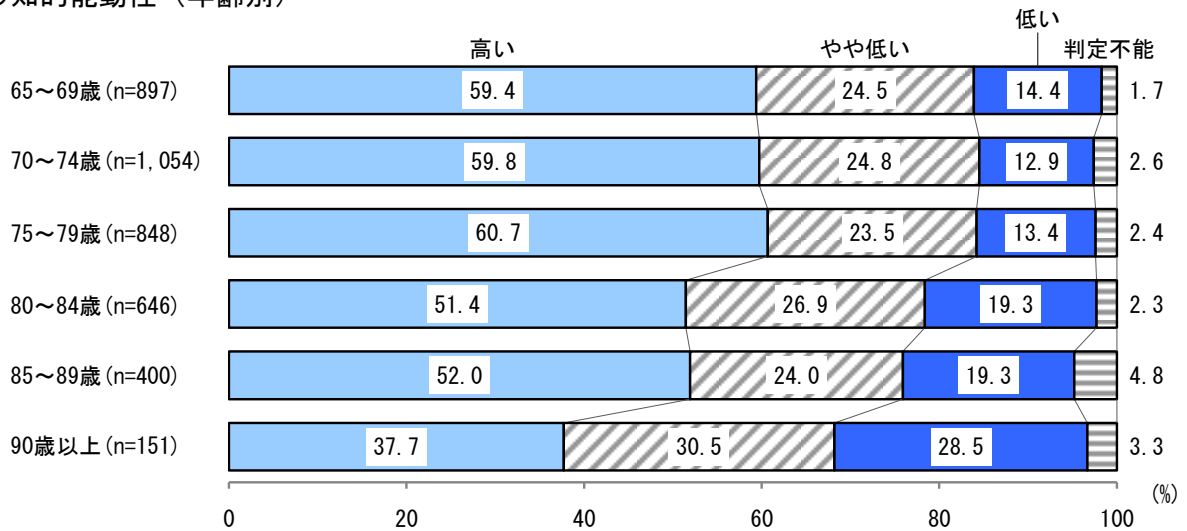
○社会的役割については、『リスクあり』（「やや低い」 + 「低い」）は48.2%となっています。

【評価結果（年齢別）】

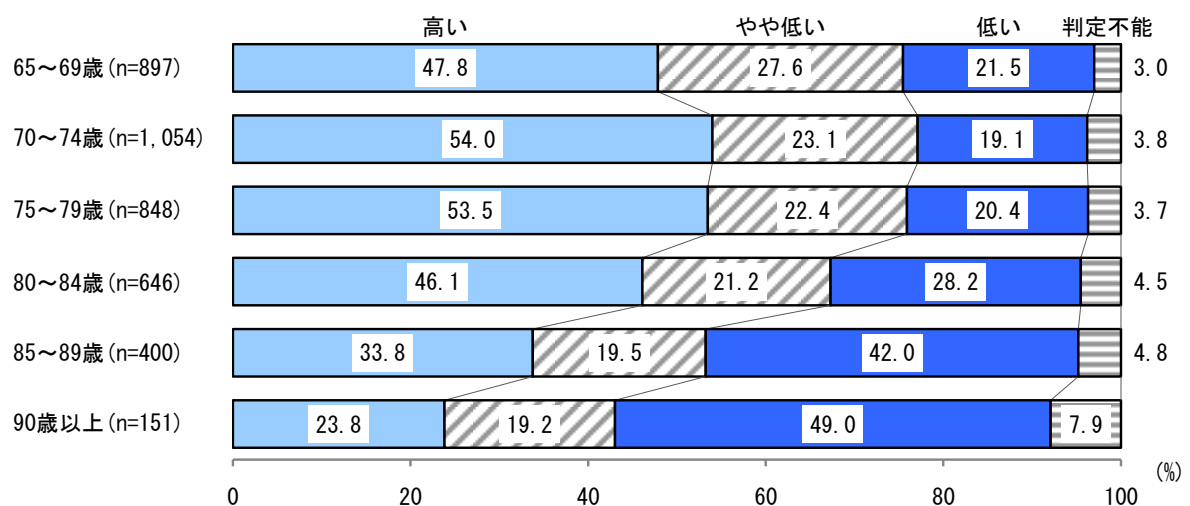
○手段的自立度（年齢別）



○知的能動性（年齢別）

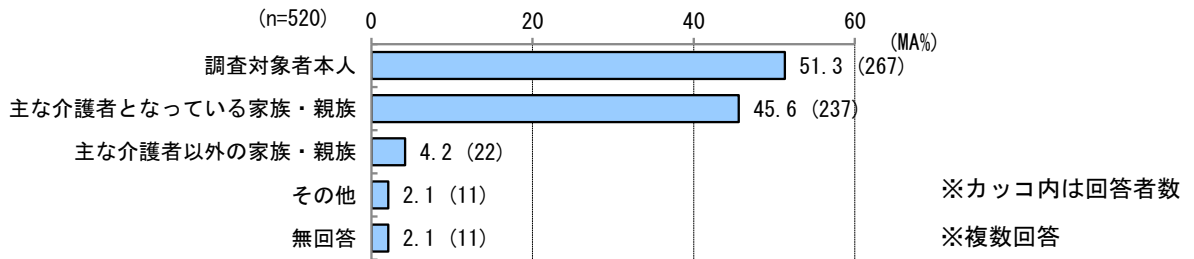


○社会的役割（年齢別）



Ⅲ 在宅介護実態調査 調査結果

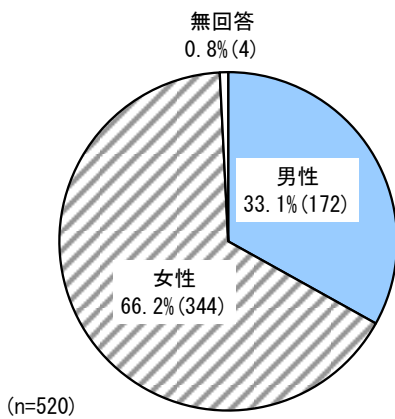
調査票の記入者



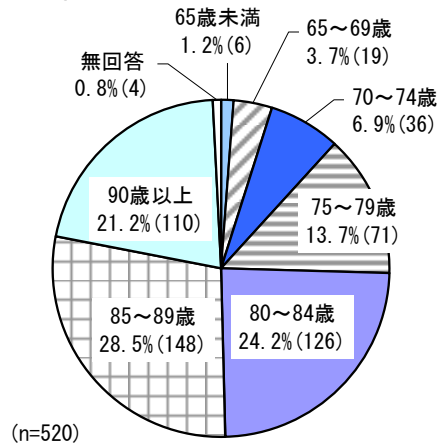
1. A票 調査対象者本人について

■ 基本属性

(1) 性別

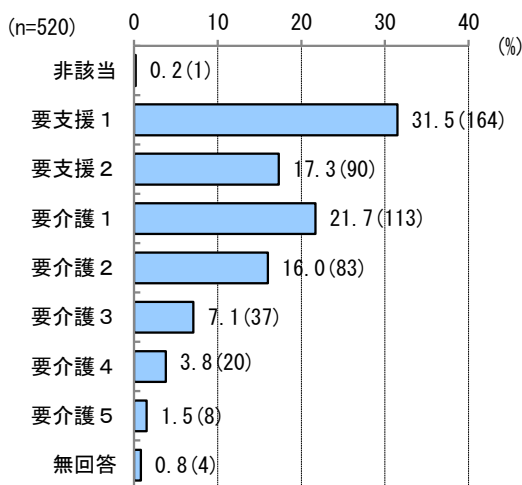


(2) 年齢構成

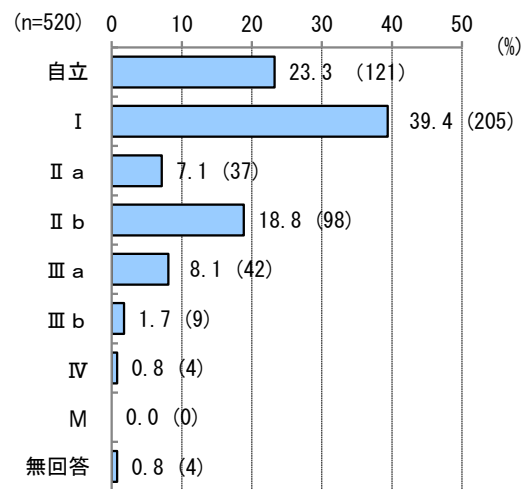


※カッコ内は回答者数

(3) 要介護度

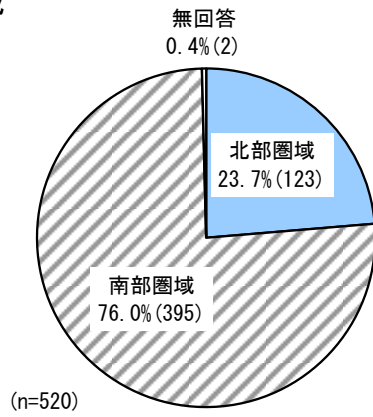


(4) 日常生活自立度別



※カッコ内は回答者数

(5) 居住圏域

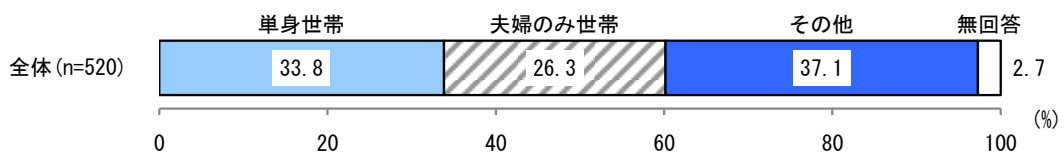


※カッコ内は回答者数

(1) 世帯類型

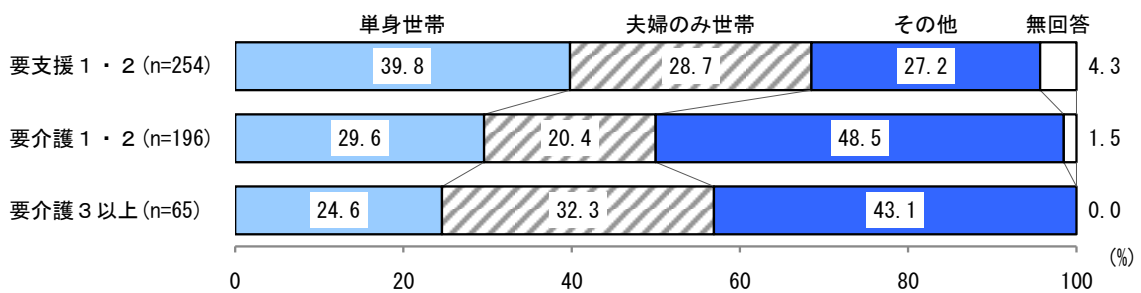
問1 世帯類型について、ご回答ください。(1つを選択)

【図1-1 世帯類型】



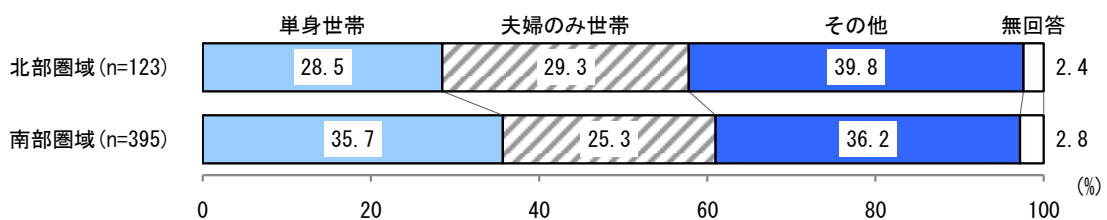
世帯類型は「単身世帯」が33.8%、「夫婦のみ世帯」が26.3%、「その他」が37.1%となっている。(図1-1)

【図1-1-1 世帯類型 (要介護度別)】



要介護度別でみると、「単身世帯」の割合は要支援1・2が39.8%で最も高くなっている。また「夫婦のみ世帯」の割合は要介護3以上が32.3%で最も高くなっている。(図1-1-1)

【図1-1-3 世帯類型 (圏域別)】

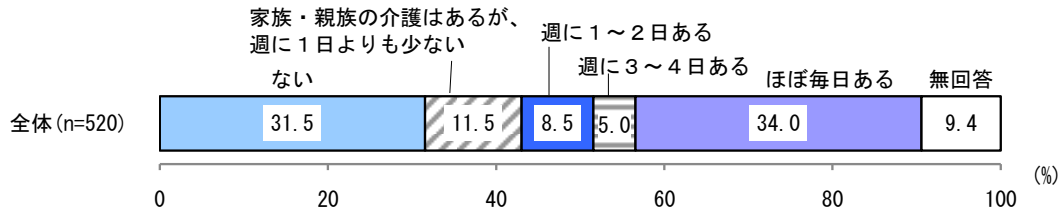


圏域別でみると、「単身世帯」の割合は南部圏域のほうが7.2ポイント高くなっている。(図1-1-3)

(2) 家族や親族の介護の頻度

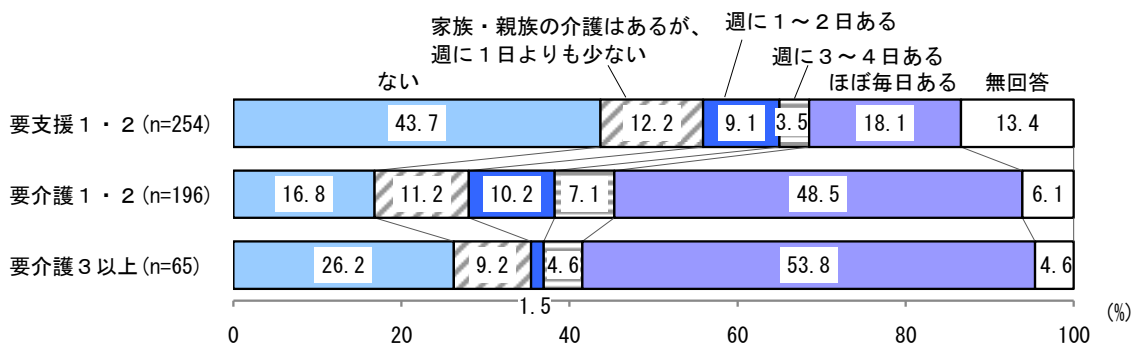
問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

【図1-2 家族や親族の介護の頻度】



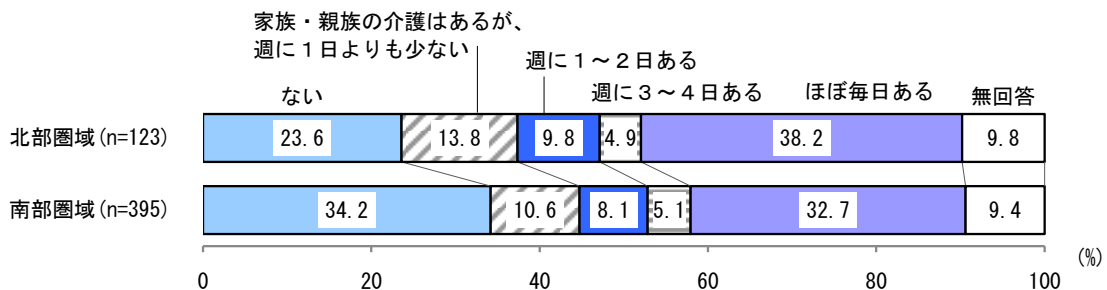
家族や親族の介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が34.0%で最も多く、次いで「ない」が31.5%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」が11.5%となっている。(図1-2)

【図1-2-1 家族や親族の介護の頻度(要介護度別)】



要介護度別で見ると、「ほぼ毎日ある」割合は、要介護度が上がるほど高く、要介護3以上で53.8%となっている。一方「ない」割合は要支援1・2で43.7%と最も低くなっている。(図1-2-1)

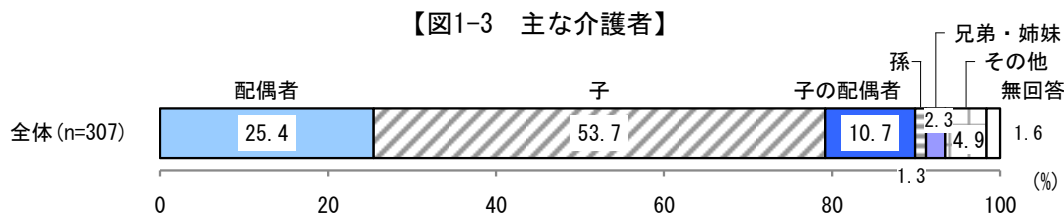
【図1-2-2 家族や親族の介護の頻度(圏域別)】



要介護度別で見ると、「ほぼ毎日ある」割合は北部圏域のほうが5.5ポイント高くなっている。一方「ない」割合は南部圏域のほうが10.6ポイント高くなっている。(図1-2-2)

(3) 主な介護者

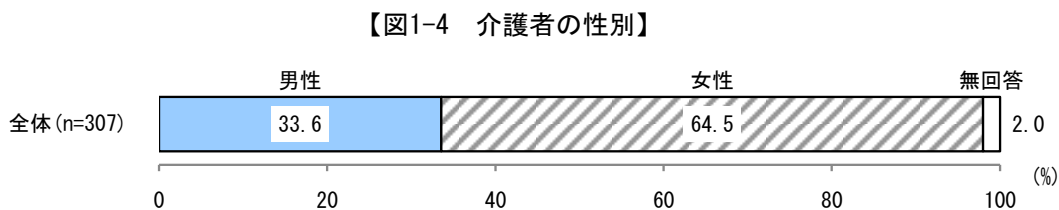
問3 【問2で「ない」以外に○をした方】
 主な介護者の方は、どなたですか。(1つを選択)



介護があると回答した方に主な介護者についてたずねたところ、「子」が53.7%で最も多く、次いで「配偶者」が25.4%、「子の配偶者」が10.7%となっている。(図1-3)

(4) 介護者の性別

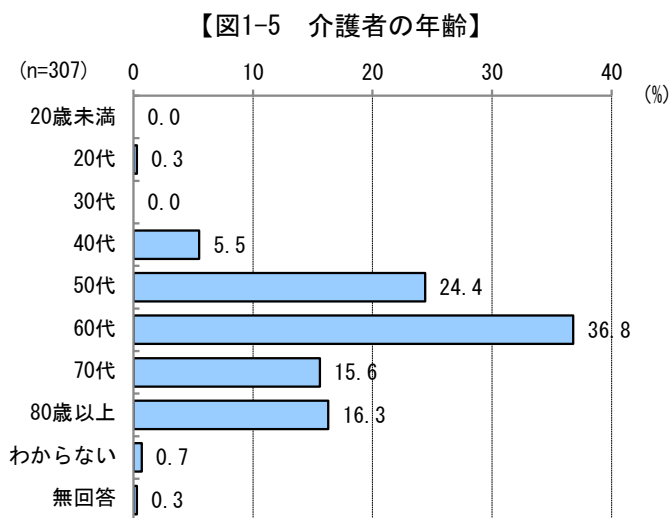
問4 【問2で「ない」以外に○をした方】
 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つを選択)



介護者の性別については、「男性」が33.6%、「女性」が64.5%となっている。(図1-4)

(5) 介護者の年齢

問5 【問2で「ない」以外に○をした方】
 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)



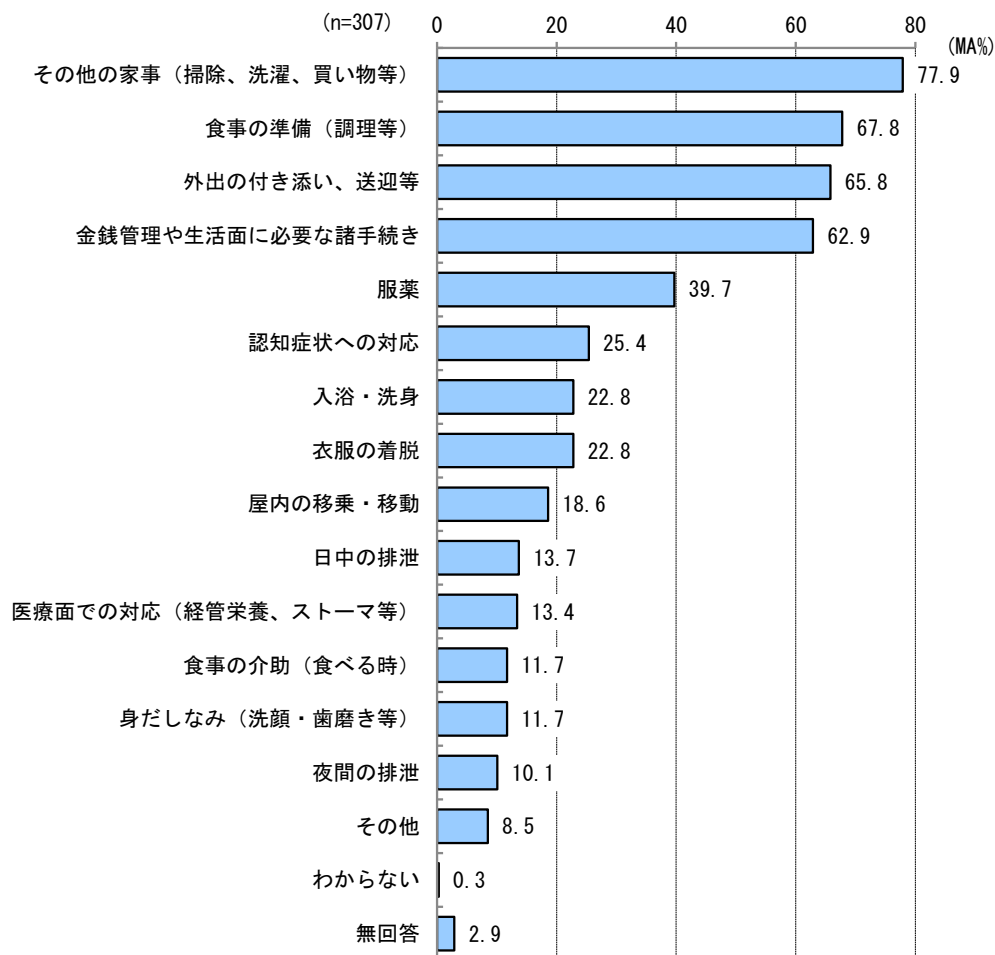
介護者の年齢については、「60代」が36.8%で最も多く、次いで「50代」が24.4%、「80歳以上」が16.3%となっている。(図1-5)

(6) 介護者が行っている介護等

問6 【問2で「ない」以外に○をした方】

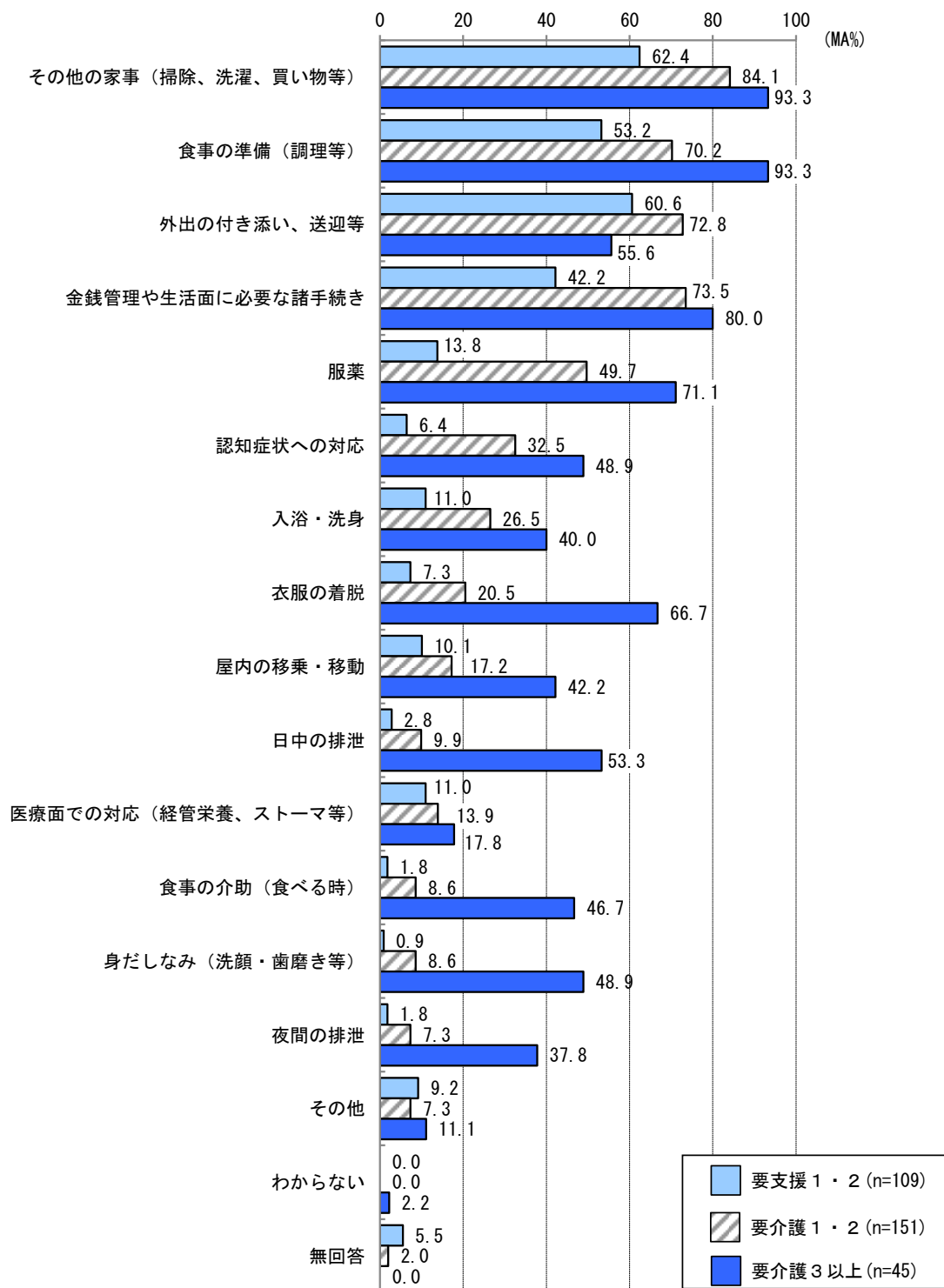
現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(いくつでも選択可)

【図1-6 介護者が行っている介護等】



介護者が行っている介護等については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が77.9%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」が67.8%、「外出の付き添い、送迎等」が65.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が62.9%となっている。（図1-6）

【図1-6-1 介護者が行っている介護等（要介護度別）】



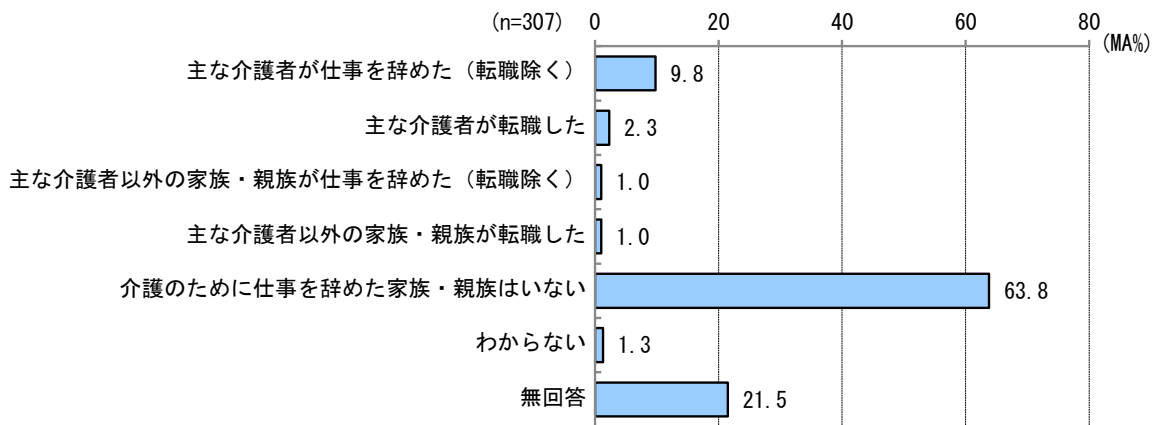
要介護度別で見ると、いずれの要介護度も「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も多く、また要介護3以上では「食事の準備（調理等）」も多くなっている。次いで要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」が、要介護1・2と要介護3以上では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が多くなっている。「外出の付き添い、送迎等」を除くすべての項目で、要介護度が上がるほど割合が高くなっている。（図1-6-1）

(7) 介護を理由に仕事を辞めた介護者の有無

問7 【問2で「ない」以外に○をした方】

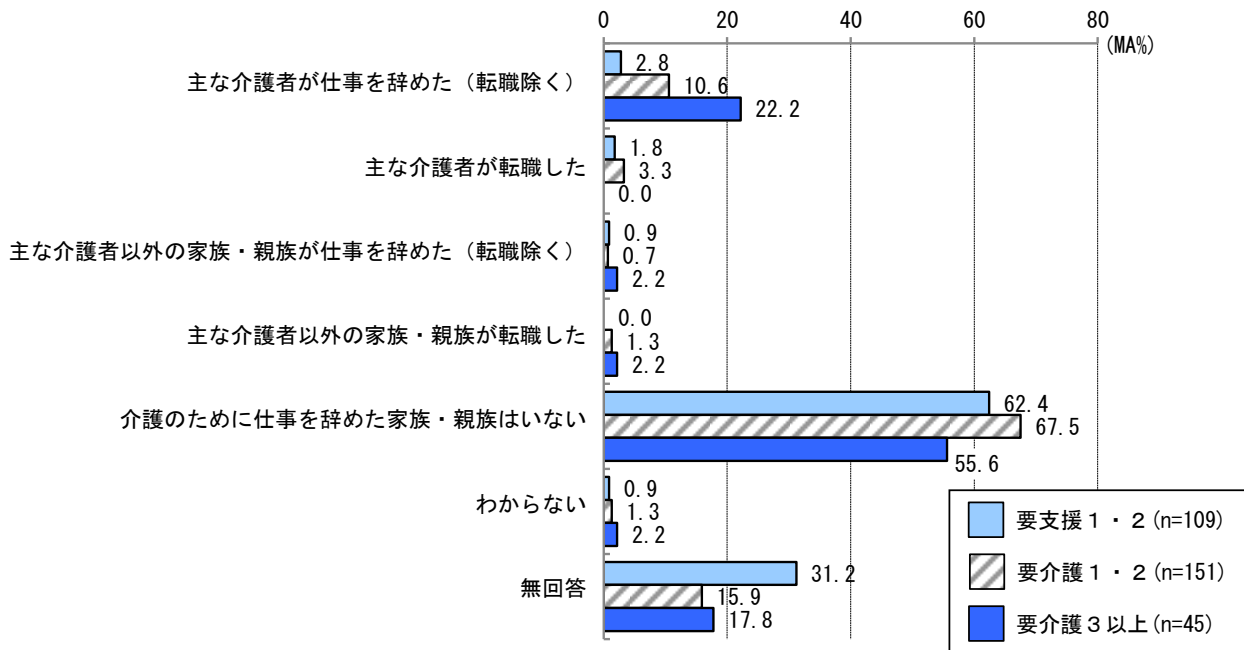
ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）
（いくつでも選択可）

【図1-7 介護を理由に仕事を辞めた介護者の有無】



介護を理由に仕事を辞めた介護者の有無については、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が9.8%、「主な介護者が転職した」が2.3%となっている。一方、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は63.8%となっている。（図1-7）

【図1-7-1 介護を理由に仕事を辞めた介護者の有無（要介護度別）】

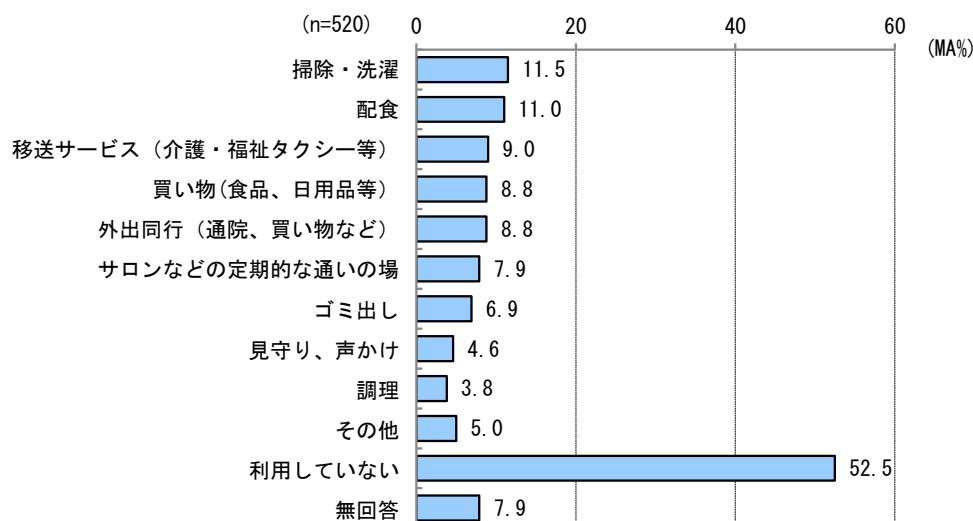


要介護度別でみると、いずれの要介護度も「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も多くなっている。「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」割合は、要介護3以上で22.2%と最も高くなっている（図1-7-1）

(8) 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも選択可)

【図1-8 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス】

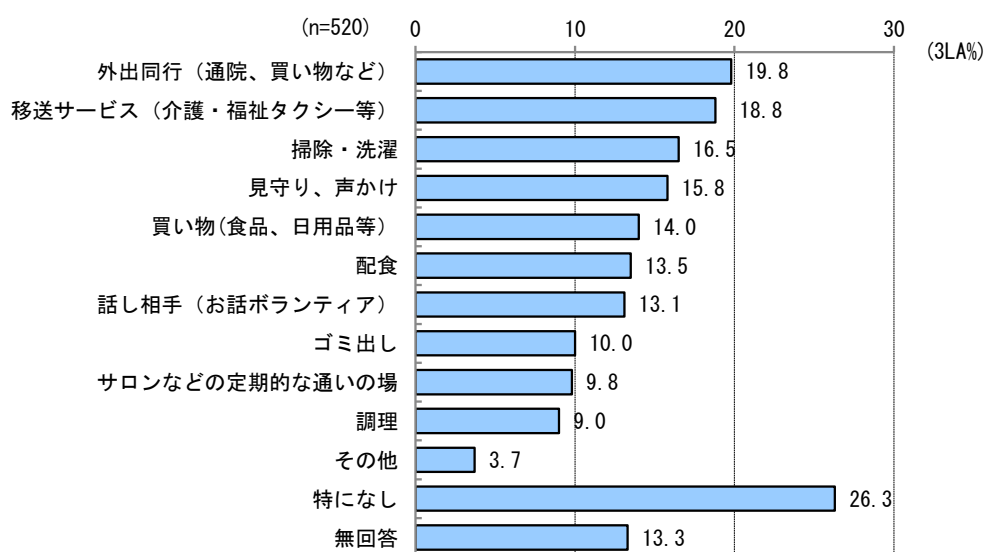


現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについては、「掃除・洗濯」が11.5%、「配食」が11.0%、「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」が9.0%となっている。一方、「利用していない」は52.5%となっている。(図1-8)

(9) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

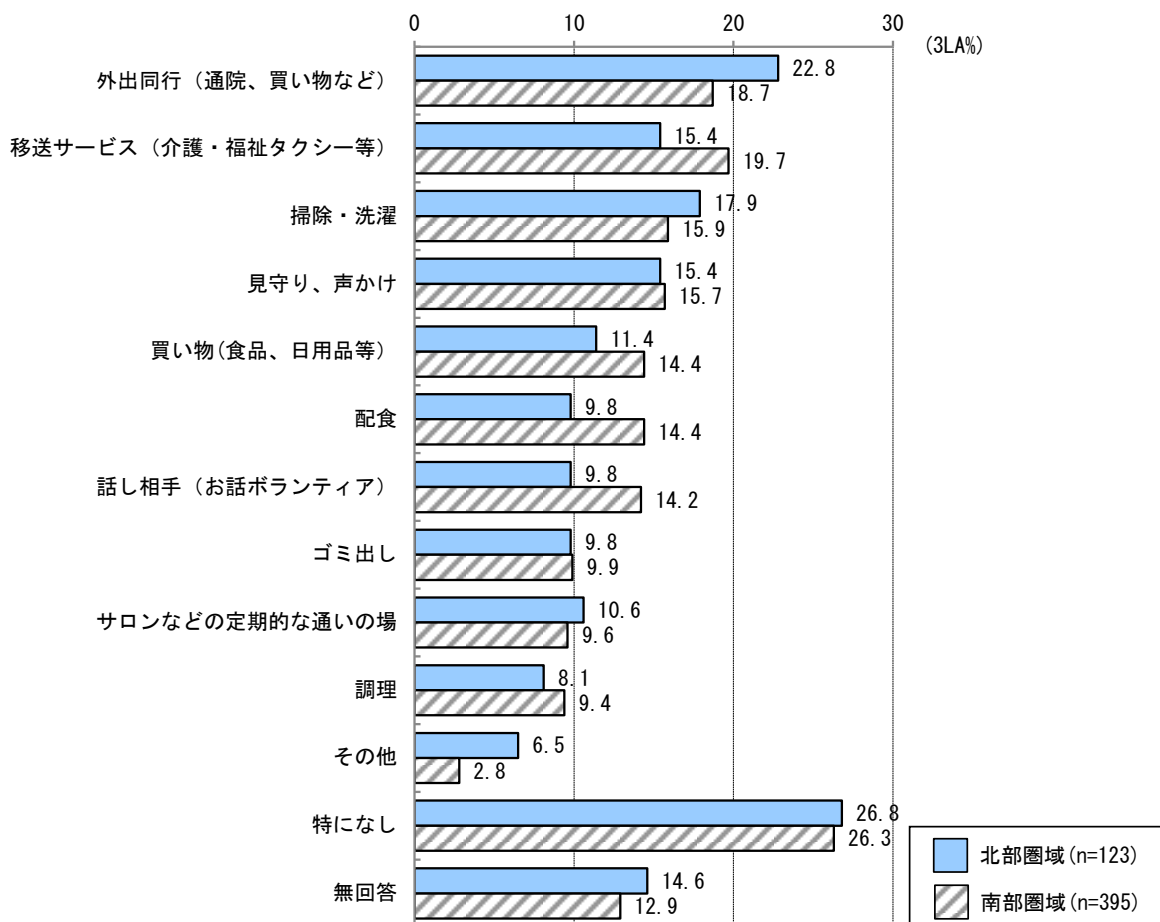
問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む) について、ご回答ください。(3つまで選択可)

【図1-9 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「外出同行 (通院、買い物など)」が19.8%で最も多く、次いで「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」が18.8%、「掃除・洗濯」が16.5%となっている。一方、「特になし」は26.3%となっている。(図1-9)

【図1-9-1 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（要介護度別）】

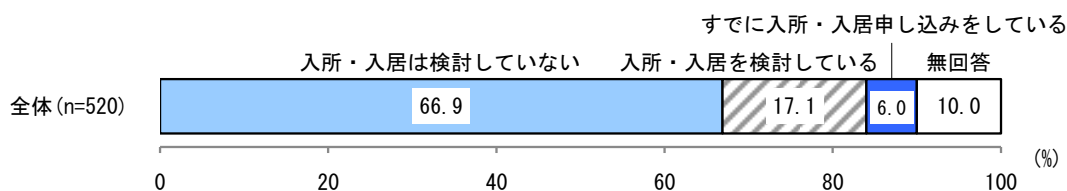


圏域別でみると、北部圏域では「外出同行（通院・買い物など）」が22.8%で最も多く、南部圏域（18.7%）より4.1ポイント高い割合となっている。南部圏域では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.7%で最も多く、北部圏域（15.4%）より4.3ポイント高い割合となっている。（図1-9-1）

（10）施設等への入所・入居の検討状況

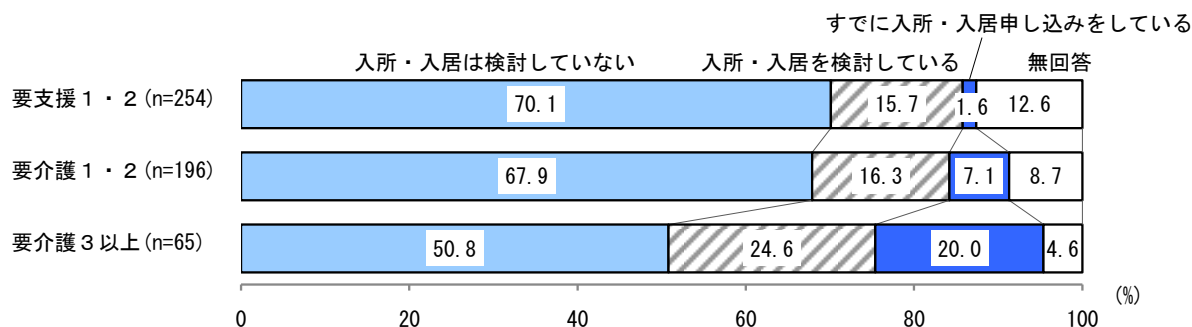
問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つを選択）

【図1-10 施設等への入所・入居の検討状況】



施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居を検討していない」が66.9%、「入所・入居を検討している」が17.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が6.0%となっている。（図1-10）

【図1-10-1 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別）】

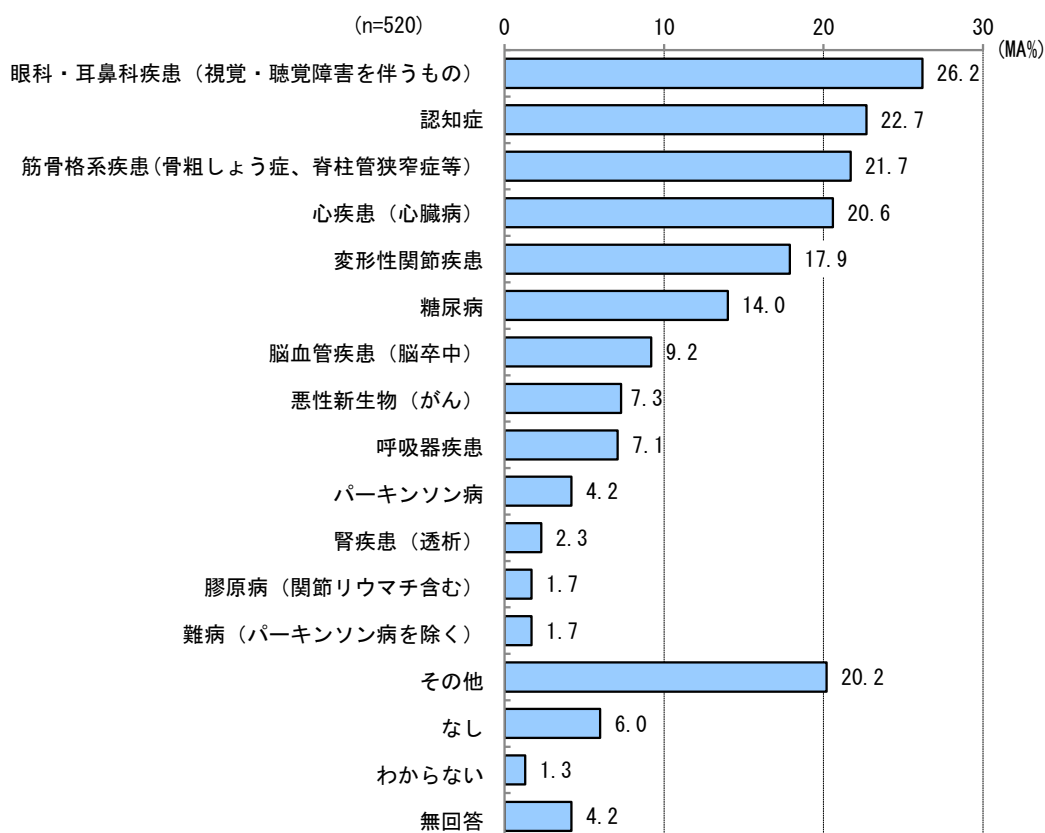


要介護度別で見ると、「入所・入居を検討していない」割合は要支援1・2で70.1%と最も高くなっている。「入所・入居を検討している」と「すでに申し込みをしている」割合は要介護度が上がるほど高く、要介護3以上でそれぞれ24.6%、20.0%となっている。(図1-10-1)

(11) 本人（調査対象者）が現在抱えている傷病

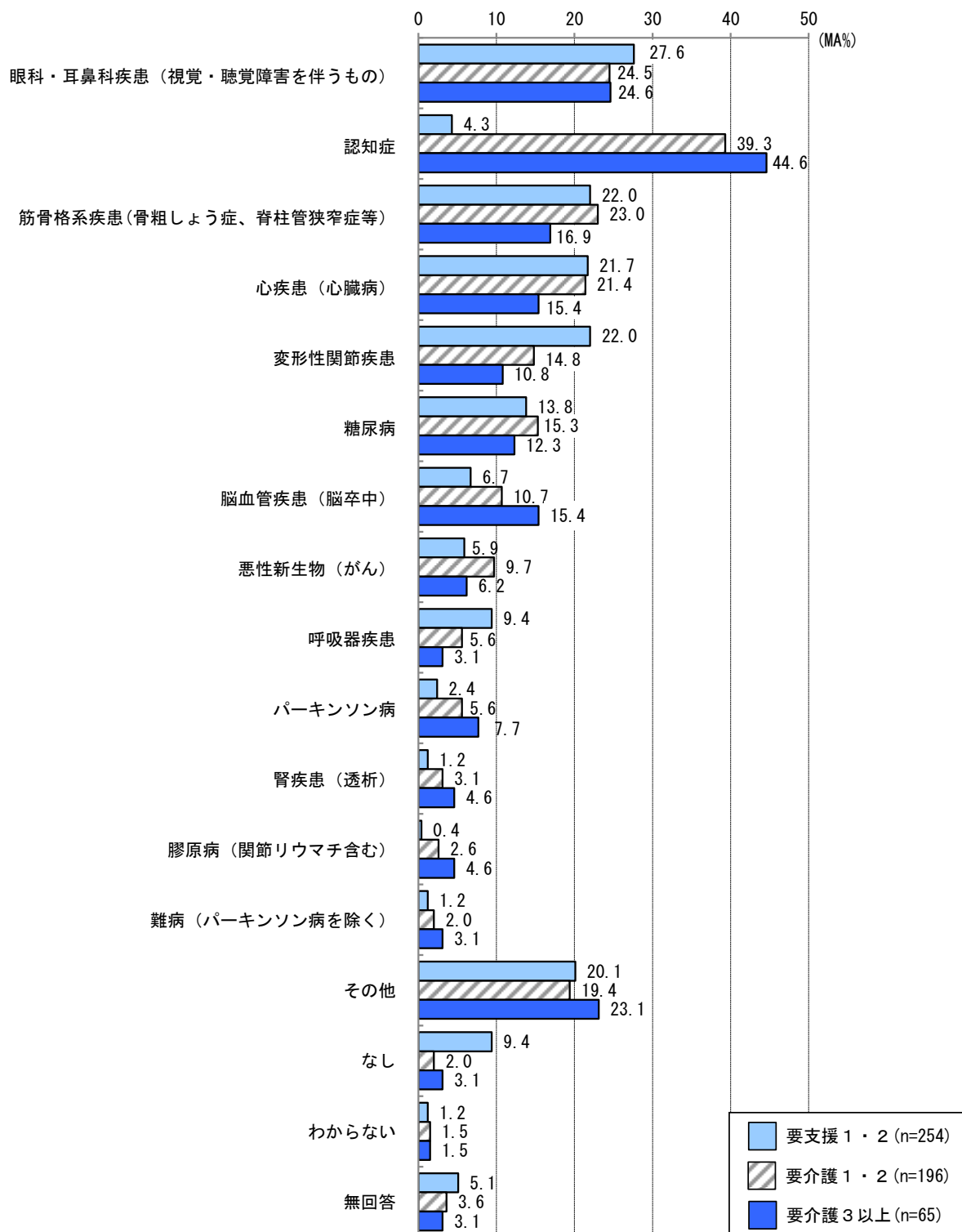
問11 ご本人（調査対象者）が現在抱えている傷病について、ご回答ください。
（いくつでも選択可）

【図1-11 本人（調査対象者）が現在抱えている傷病】



本人（調査対象者）が現在抱えている傷病については、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が26.2%で最も多く、次いで「認知症」が22.7%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.7%となっている。(図1-11)

【図1-11-1 本人（調査対象者）が現在抱えている傷病（要介護度別）】

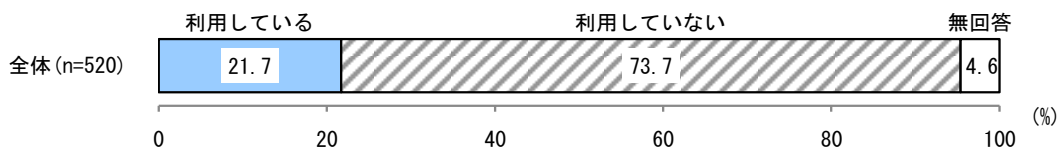


要介護度別でみると、要支援1・2では「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」と「変形性関節疾患」が多くなっている。要介護1・2と要介護3以上では「認知症」が最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が多くなっている。（図1-11-1）

(12) 訪問診療の利用有無

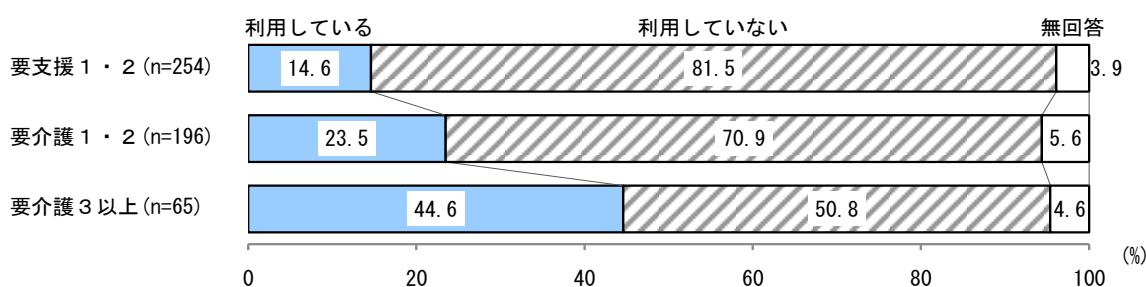
問12 ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（1つを選択）
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません

【図1-12 訪問診療の利用有無】



訪問診療の利用有無については、「利用している」が21.7%、「利用していない」が73.7%となっている。（図1-12）

【図1-12-1 訪問診療の利用有無（要介護度別）】

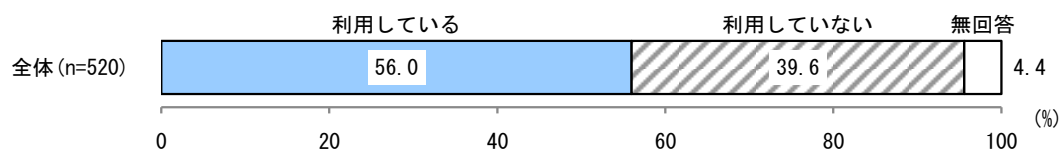


要介護度別でみると、「利用している」割合は要介護度が上がるほど高く、要介護3以上で44.6%となっている。（図1-12-1）

(13) 介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用状況

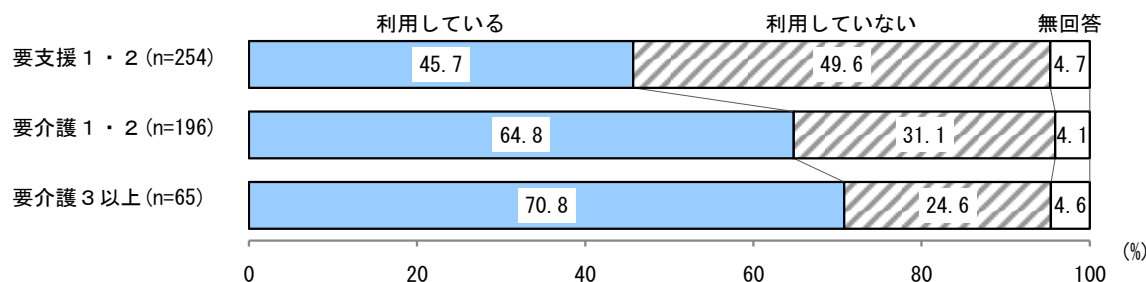
問13 現在（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。

【図1-13 介護保険サービスの利用状況】



介護保険サービスの利用状況については、「利用している」が56.0%、「利用していない」が39.6%となっている。（図1-13）

【図1-13-1 介護保険サービスの利用状況（要介護度別）】

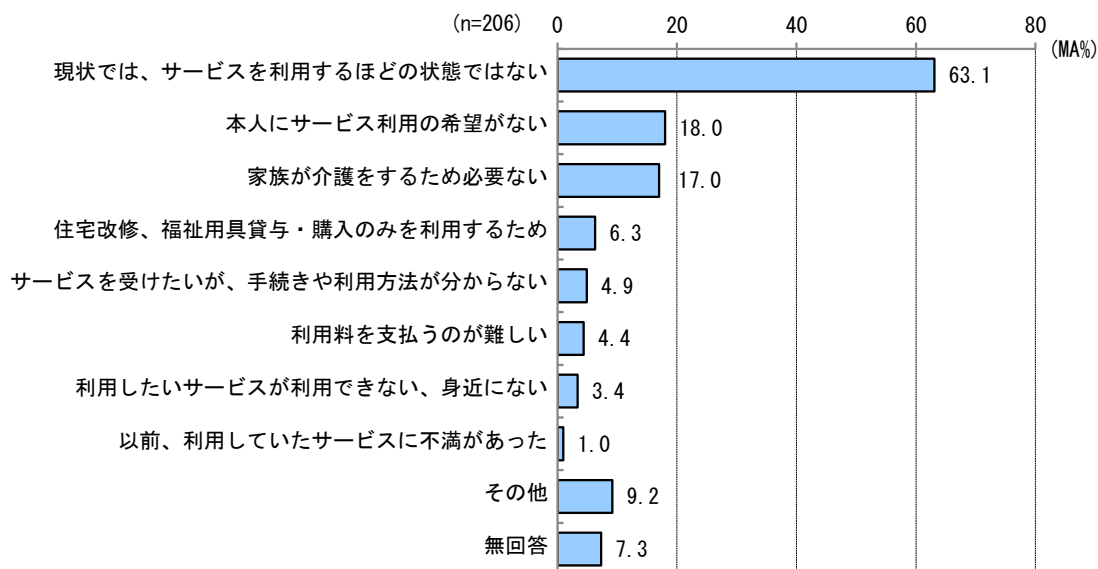


要介護度別でみると、「利用している」割合は要介護度が上がるほど高く、要介護3以上で70.8%となっている。（図1-13-1）

(14) 介護保険サービスを利用していない理由

問14 【問13で「2. 利用していない」と回答した方にお伺いします。】
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(いくつでも選択可)

【図1-14 介護保険サービスを利用していない理由】

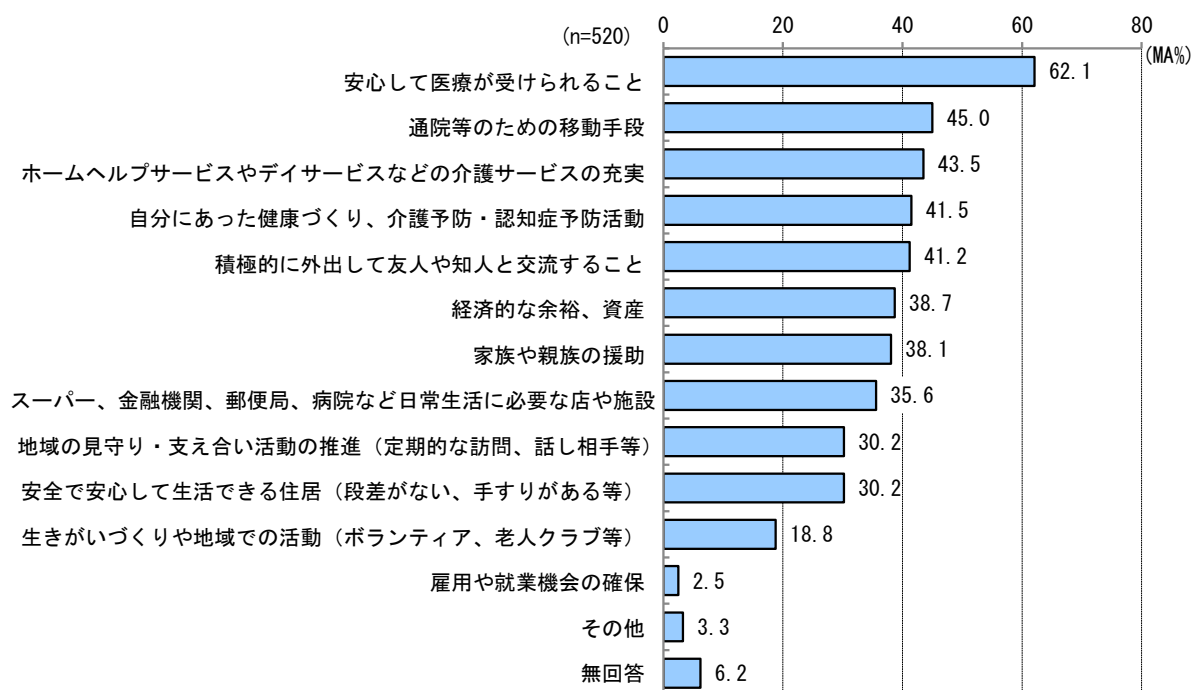


現在介護保険サービスを利用していないと回答した方に、その理由についてたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が63.1%、「本人にサービス利用の希望がない」が18.0%、「家族が介護するため必要ない」が17.0%となっている。(図1-14)

(15) 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと

問15 住み慣れた地域でいつまでも安心して過ごすには何が必要だと思いますか。(いくつでも選択可)

【図1-15 住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと】

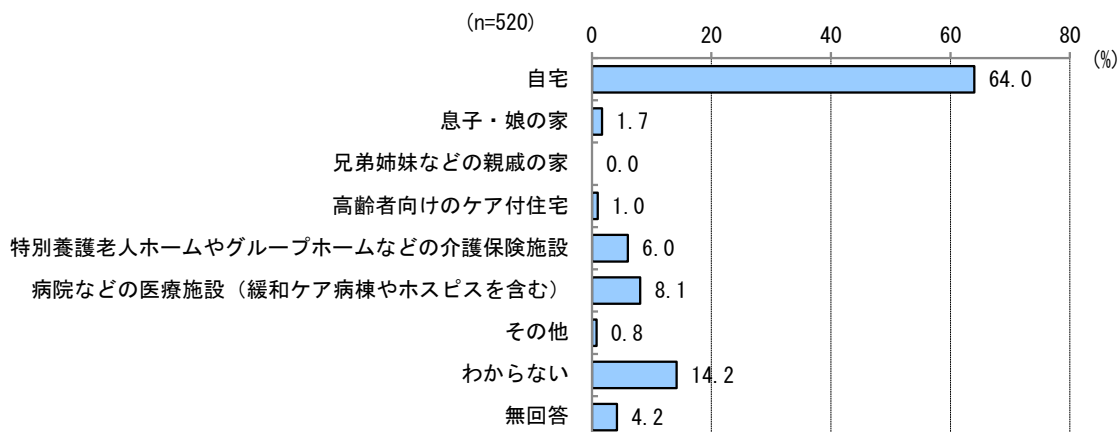


住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なことについては、「安心して医療が受けられること」が62.1%で最も多く、次いで「通院等のための移動手段」が45.0%、「ホームヘルプサービスやデイサービスなどの介護サービスの充実」が43.5%となっている。(図1-15)

(16) 本人が人生の最期を迎えたい場所

問16 ご本人（調査対象者）は、人生の最期をどこで迎えたいですか。（1つを選択）

【図1-16 本人が人生の最期を迎えたい場所】

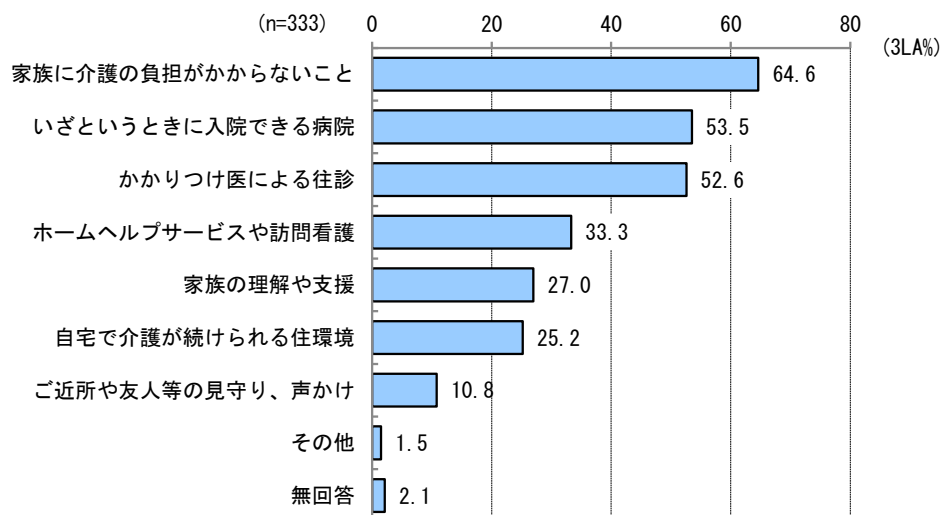


本人が人生の最期を迎えたい場所については、「自宅」が64.0%で最も多く、次いで「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピスを含む）」が8.1%、「特別養護老人ホームやグループホームなどの介護保険施設」が6.0%となっている。(図1-16)

(17) 最期まで自宅で過ごすために必要なこと

問17 【問16で「1. 自宅」と回答した方にお伺いします。
最期まで自宅で過ごすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択可）

【図1-17 最期まで自宅で過ごすために必要なこと】

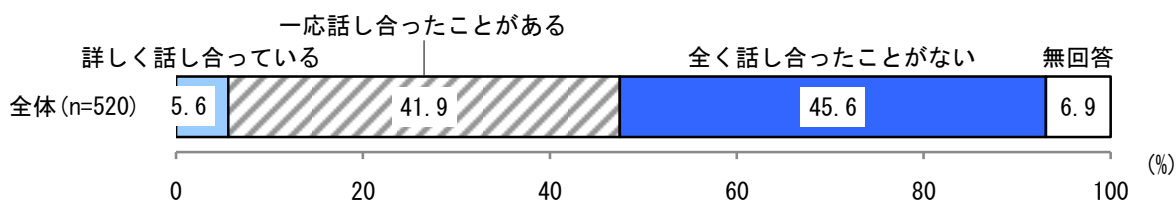


人生の最期を自宅で迎えたいと回答した方に、最期まで自宅で過ごすために必要なことについてたずねたところ、「家族に介護の負担がかからないこと」が64.6%、「いざというときに入院できる病院」が53.5%、「かかりつけ医による往診」が52.6%となっている。（図1-17）

(18) 人生の最終段階での医療について家族と話し合った経験の有無

問18 人生の最終段階における医療についてお聞きします。ご自身の死が近づいた場合に受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。（1つを選択）

【図1-18 人生の最終段階での医療について家族と話し合った経験の有無】



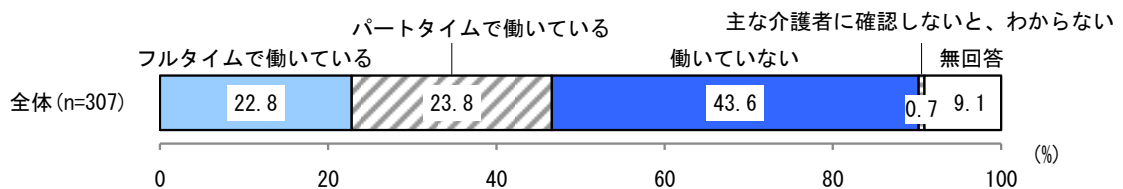
人生の最終段階での医療について家族と話し合った経験の有無については、「全く話し合ったことがない」が45.6%で最も多く、次いで「一応話し合ったことがある」が41.9%、「詳しく話し合っている」が5.6%となっている。（図1-18）

2. B票 主な介護者について

(1) 勤務形態

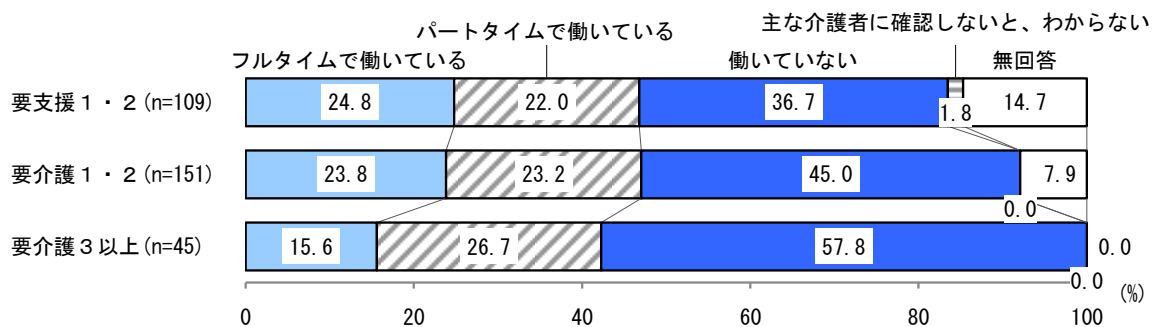
問1 主な介護者の方の現在の勤務形態についてご回答ください。(1つを選択)

【図2-1 勤務形態】



勤務形態については、「働いていない」が43.6%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が23.8%、「フルタイムで働いている」が22.8%となっている。(図2-1)

【図2-1-1 勤務形態（要介護度別）】

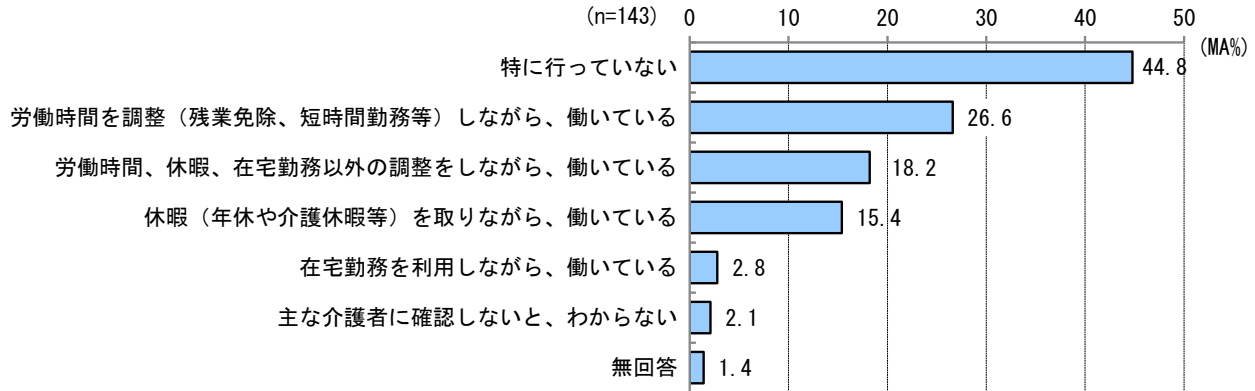


要介護度別で見ると、『働いている』（「フルタイムで働いている」＋「パートタイムで働いている」）割合は、いずれの要介護度も4割台となっている。「働いていない」割合は要介護度が上がるほど高く、要介護3以上で57.8%となっている。(図2-1-1)

(2) 働き方についての調整等

問2 【問1で「1」「2」(働いている)と回答した方にお伺いします。】主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(いくつでも選択可)

【図2-2 働き方についての調整等】

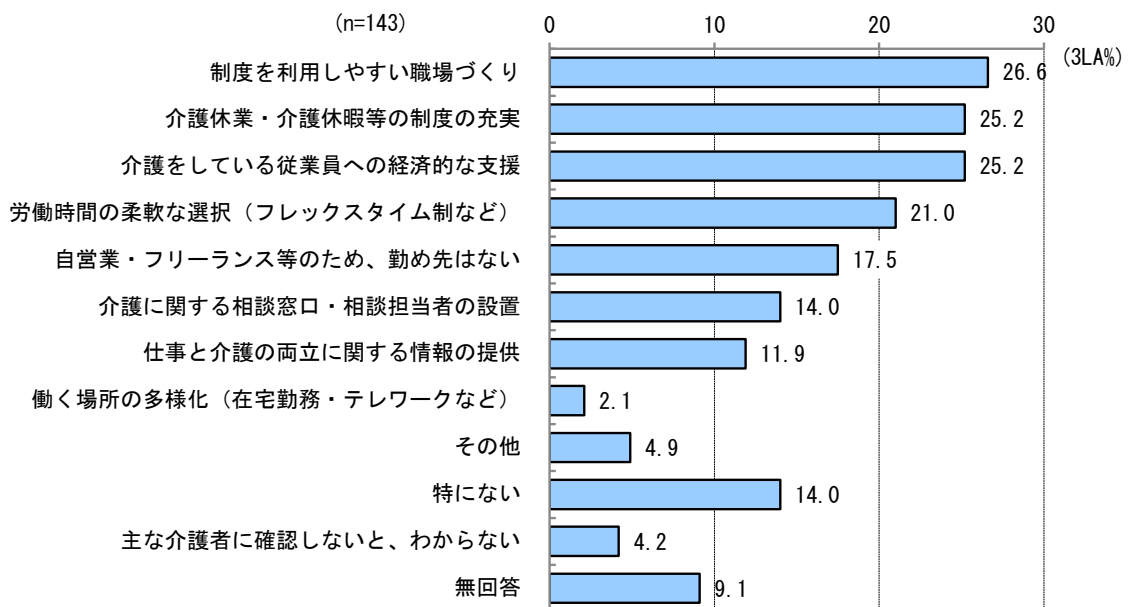


働いていると回答した方に、働き方の調整等を行っているかをたずねたところ、「特に行っていない」が44.8%で最も多く、次いで「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務等）しながら、働いている」が26.6%、「労働時間、休暇、在宅勤務以外の調整をしながら、働いている」が18.2%（図2-2）

(3) 仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援

問3 【問1で「1」「2」(働いている)と回答した方にお伺いします。】主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)

【図2-3 仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援】

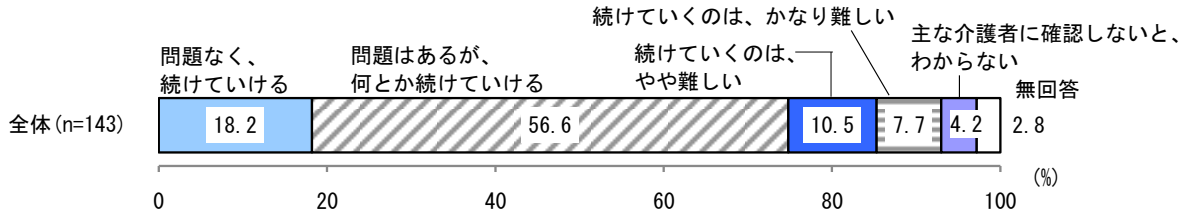


働いていると回答した方に、仕事と介護の両立に効果的と思う勤め先からの支援についてたずねたところ、「制度を利用しやすい職場づくり」が26.6%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「介護をしている従業員への経済的な支援」がそれぞれ25.2%となっている。（図2-3）

(4) 仕事と介護の両立の継続意向

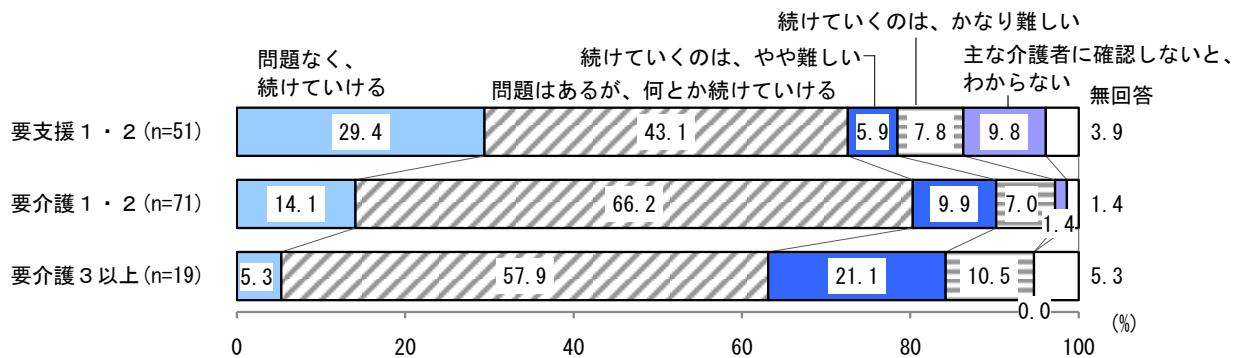
問4 【問1で「1」「2」(働いている)と回答した方にお伺いします。】
 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

【図2-4 仕事と介護の両立の継続意向】



働いていると回答した方に、仕事と介護の両立の継続意向についてたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が56.6%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が18.2%と、4分の3の人は『続けていける』と回答しているが、『続けていくのは難しい』（「続けていくのは、やや難しい」＋「続けていくのは、かなり難しい」）も18.2%となっている。（図2-4）

【図2-4-1 仕事と介護の両立の継続意向（要介護度別）】

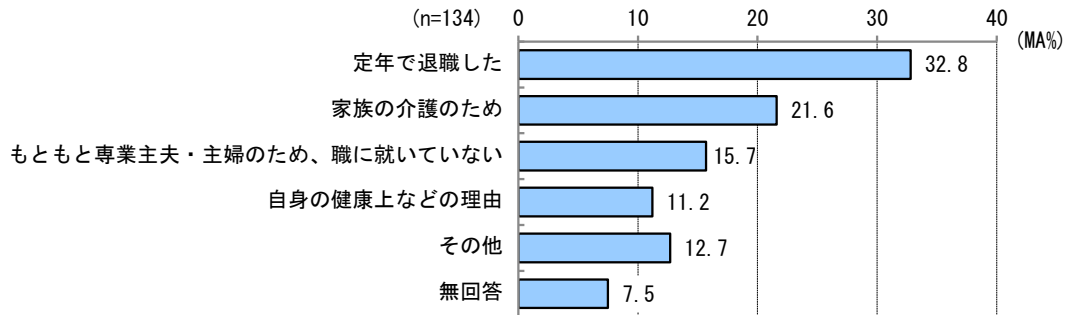


要介護度別でみると、『続けていける』（「問題なく、続けていける」＋「問題はあるが、何とか続けていける」）割合は、要介護1・2で80.3%と最も高くなっている。『続けていくのは難しい』の割合は、要介護度が上がるほど高く、要介護3以上で31.6%となっている。（図2-4-1）

(5) 主な介護者が働いていない理由

問5 【問1で「3. 働いていない」と回答した方にお伺いします。】
 主な介護者の方の働いていない理由は、何ですか。(1つを選択)

【図2-5 主な介護者が働いていない理向】



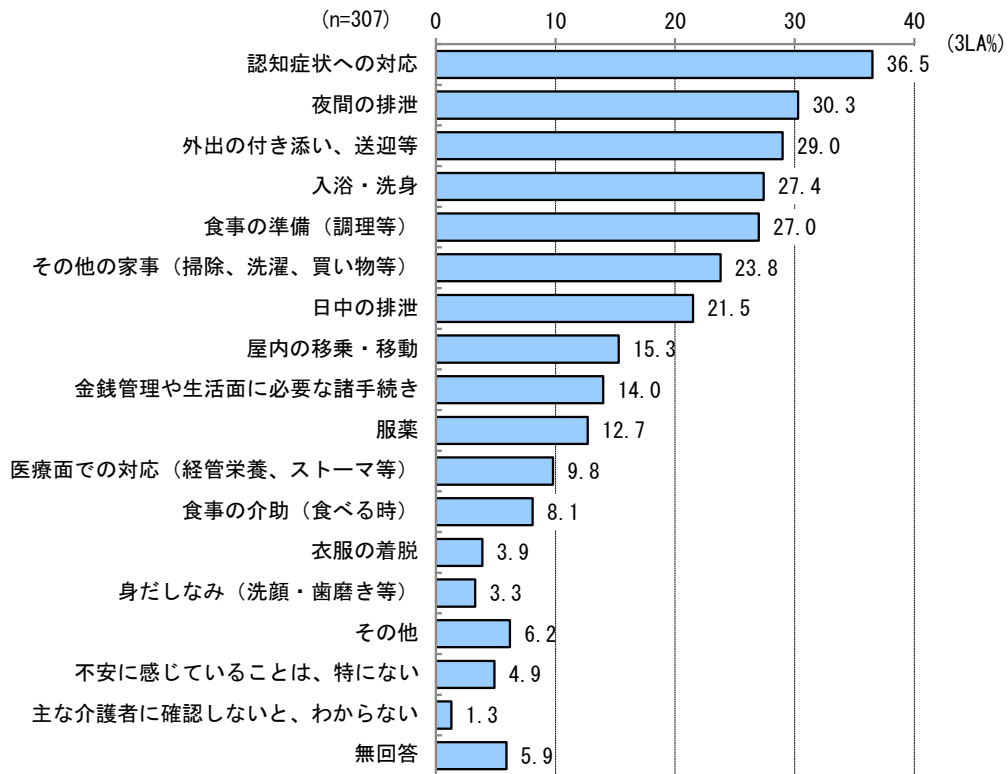
* 複数の回答があったため、すべての回答を有効とする

働いていないと回答した方にその理由をたずねたところ、「定年で退職した」が32.8%でも最も多く、次いで「家族の介護のため」が21.6%となっている。(図2-5)

(6) 現在の生活を継続するうえで介護者が不安に感じる介護等

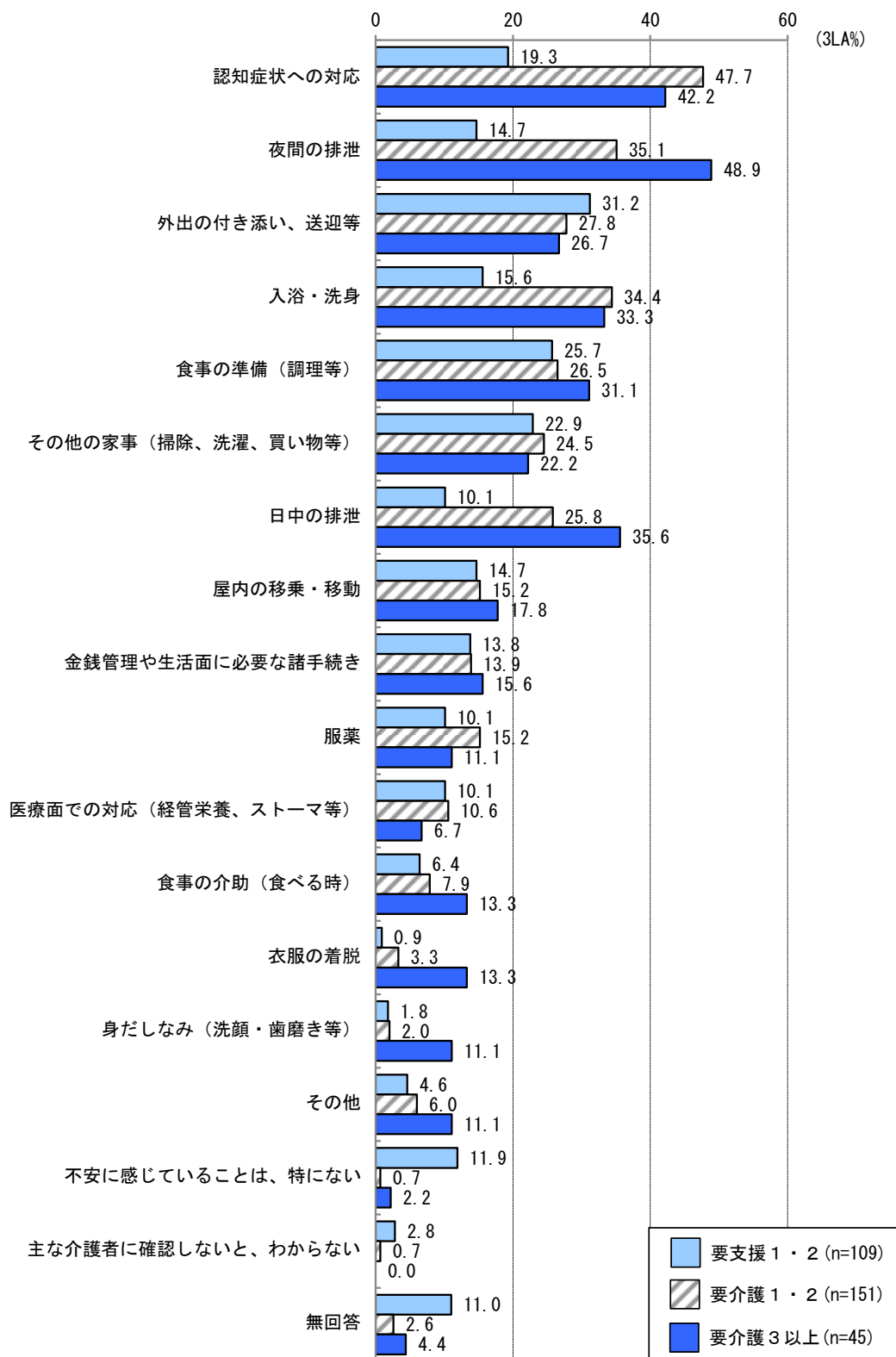
問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。(現状で行っているか否かは問いません。)(3つまで選択可)

【図2-6 現在の生活を継続するうえで介護者が不安に感じる介護等】



介護者が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が36.5%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が30.3%、「外出の付き添い、送迎等」が29.0%となっている。(図2-6)

【図2-6-1 現在の生活を継続するうえで介護者が不安を感じる介護等（要介護度別）】

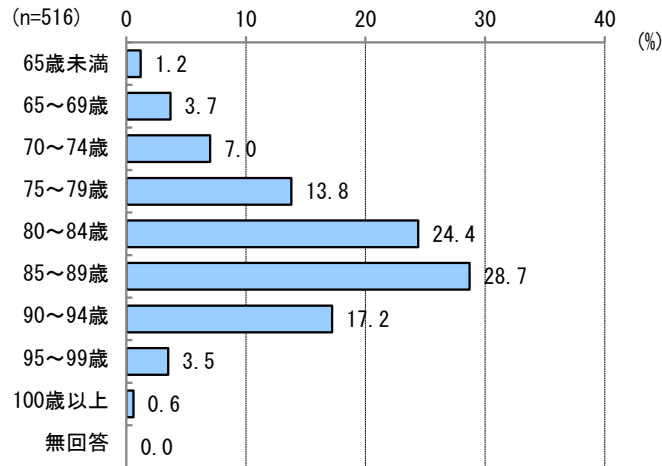


要介護度別で見ると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」が最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」が多くなっている。要介護1・2では「認知症状への対応」が最も多く、次いで「夜間の排泄」が多くなっている。要介護3以上では「夜間の排泄」が最も多く、次いで「認知症状への対応」が多くなっている。（図2-6-1）

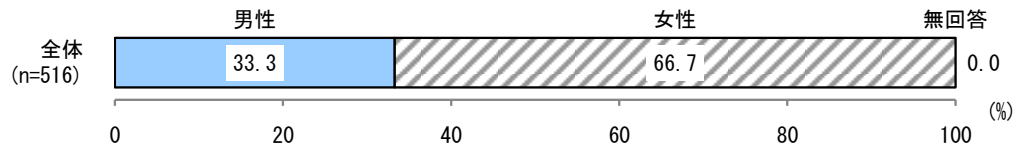
3. 要介護認定データ

※ここからの集計結果については、国から提供された「自動集計分析ソフト」による集計値を引用しており、その値は、n数から無回答を除いた人数で集計を行っているため、『在宅介護実態調査 調査結果』とはn数が異なっている場合がある。

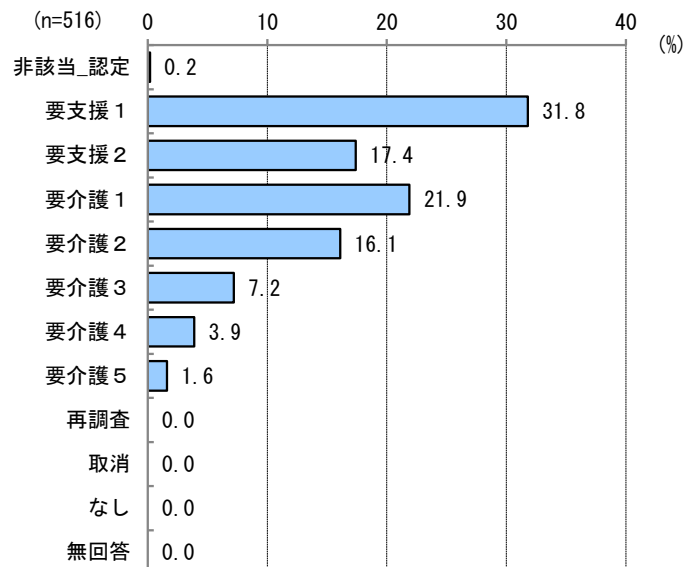
(1) 年齢



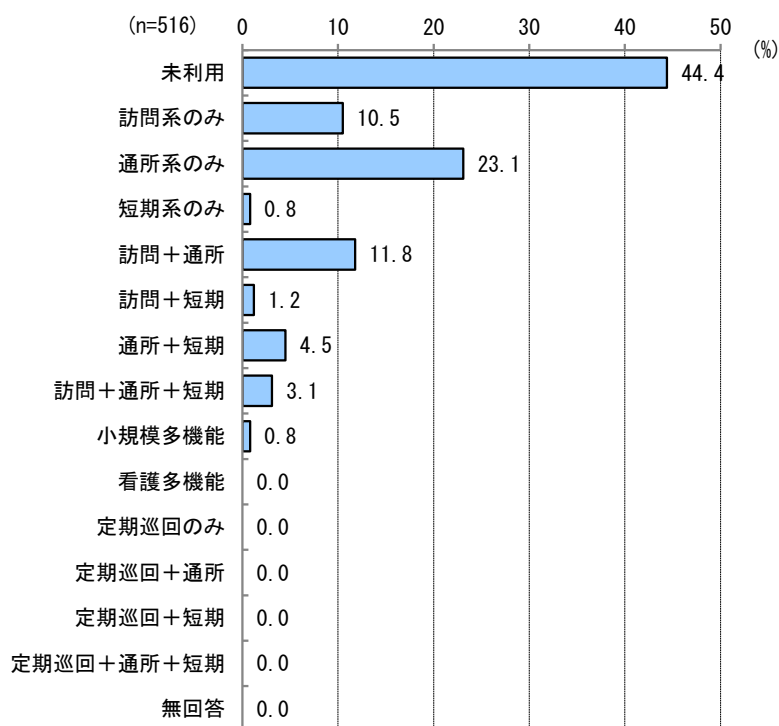
(2) 性別



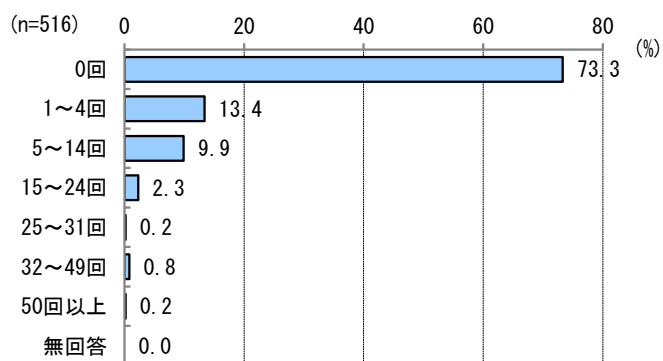
(3) 二次判定結果（要介護度）



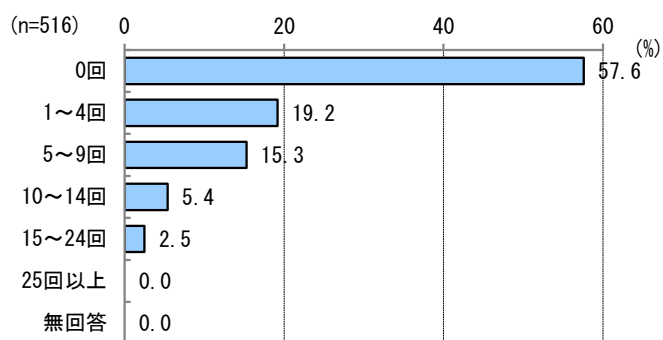
(4) サービス利用の組み合わせ



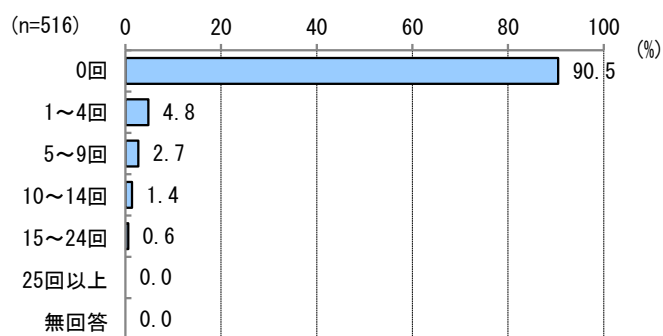
(5) 訪問系サービスの合計利用回数



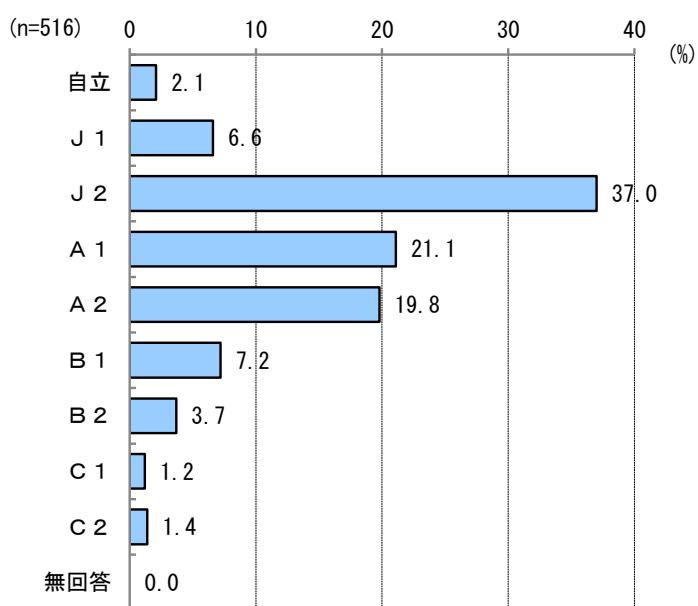
(6) 通所系サービスの合計利用回数



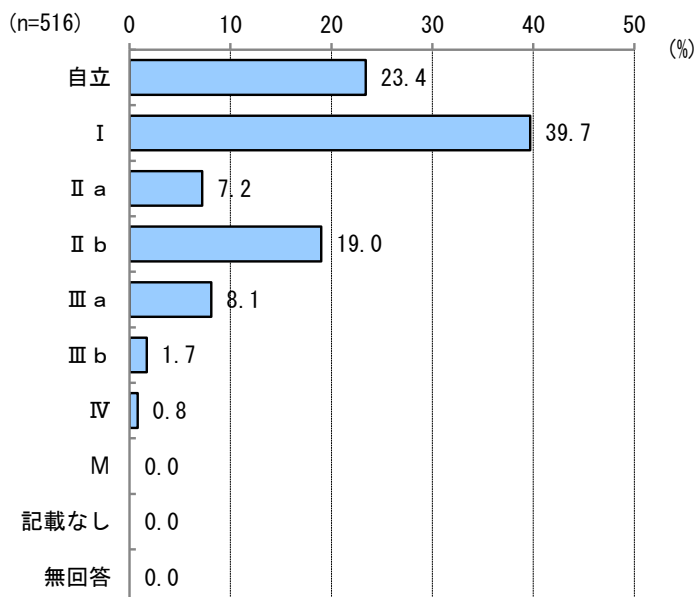
(7) 短期系サービスの合計利用回数



(8) 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知高齢者の日常生活自立度



4. クロス集計結果（自動集計分析ソフトによる集計）

※ここからの集計結果については、国から提供された「自動集計分析ソフト」による集計値を引用しており、その値は、n数から無回答を除いた人数で集計を行っているため、『在宅介護実態調査 調査結果』とはn数が異なっている場合がある。

（1）在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

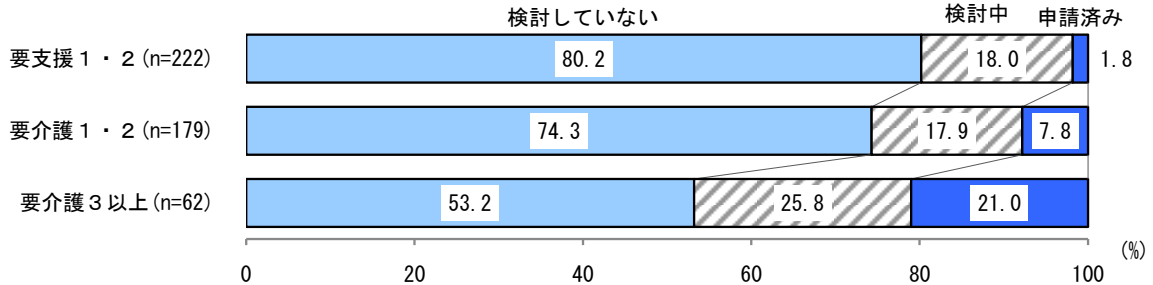
ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点から集計を行っている。

また、どのようなサービス利用の場合に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するため、「サービス利用の組み合わせ」とのクロス集計を行っている。

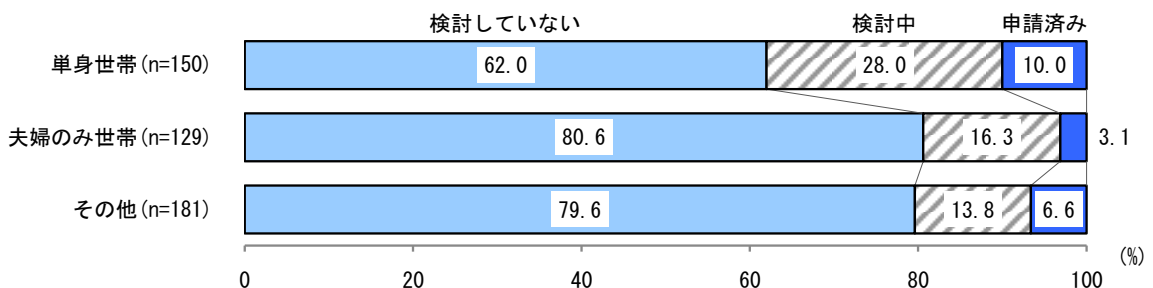
①基礎集計（施設等検討の状況）

施設等を検討している要介護者は、重度化に伴って割合が高くなり、また単身世帯で高い割合になっている。

【要介護度別・施設等検討の状況】



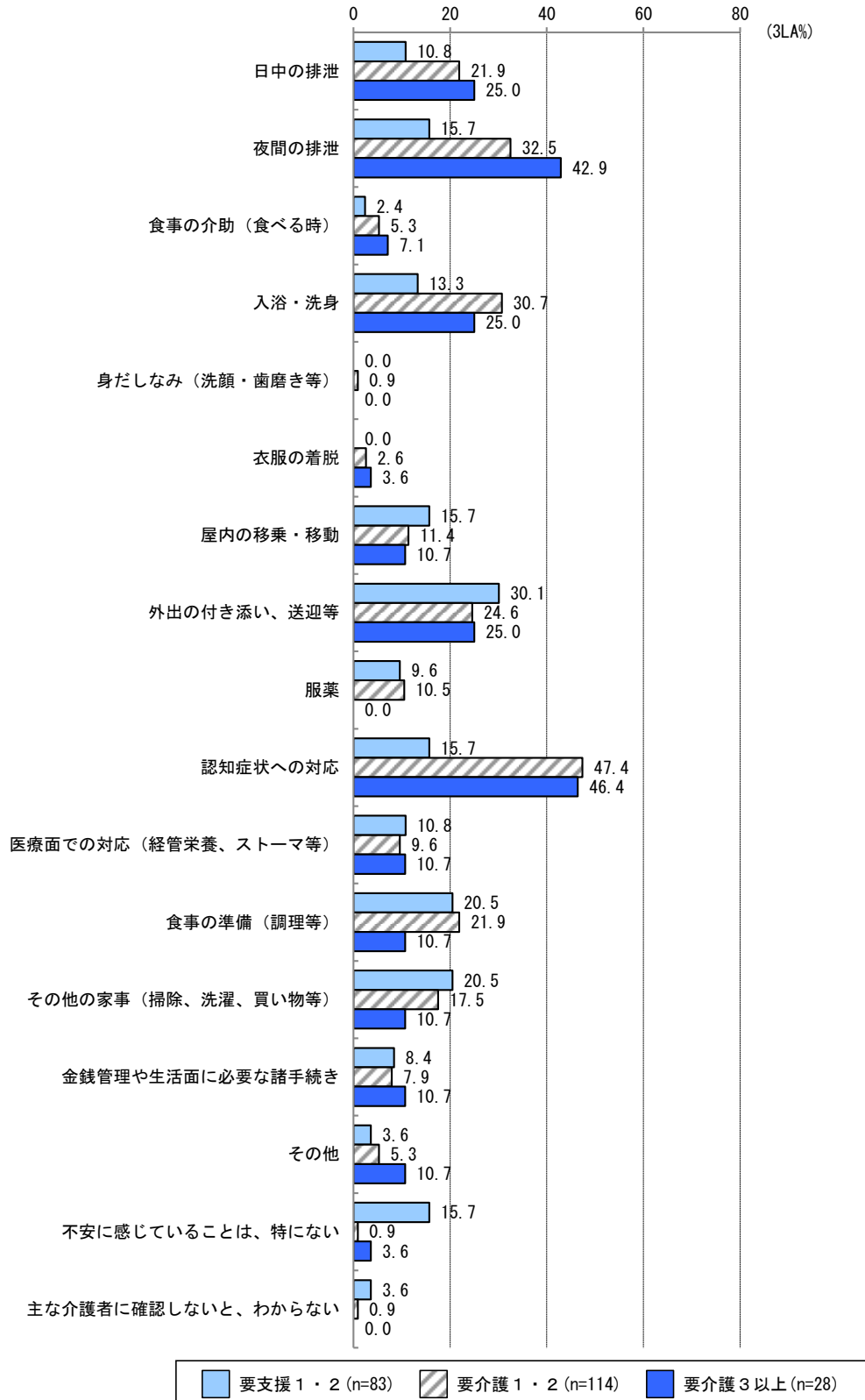
【世帯類型別・施設等検討の状況】



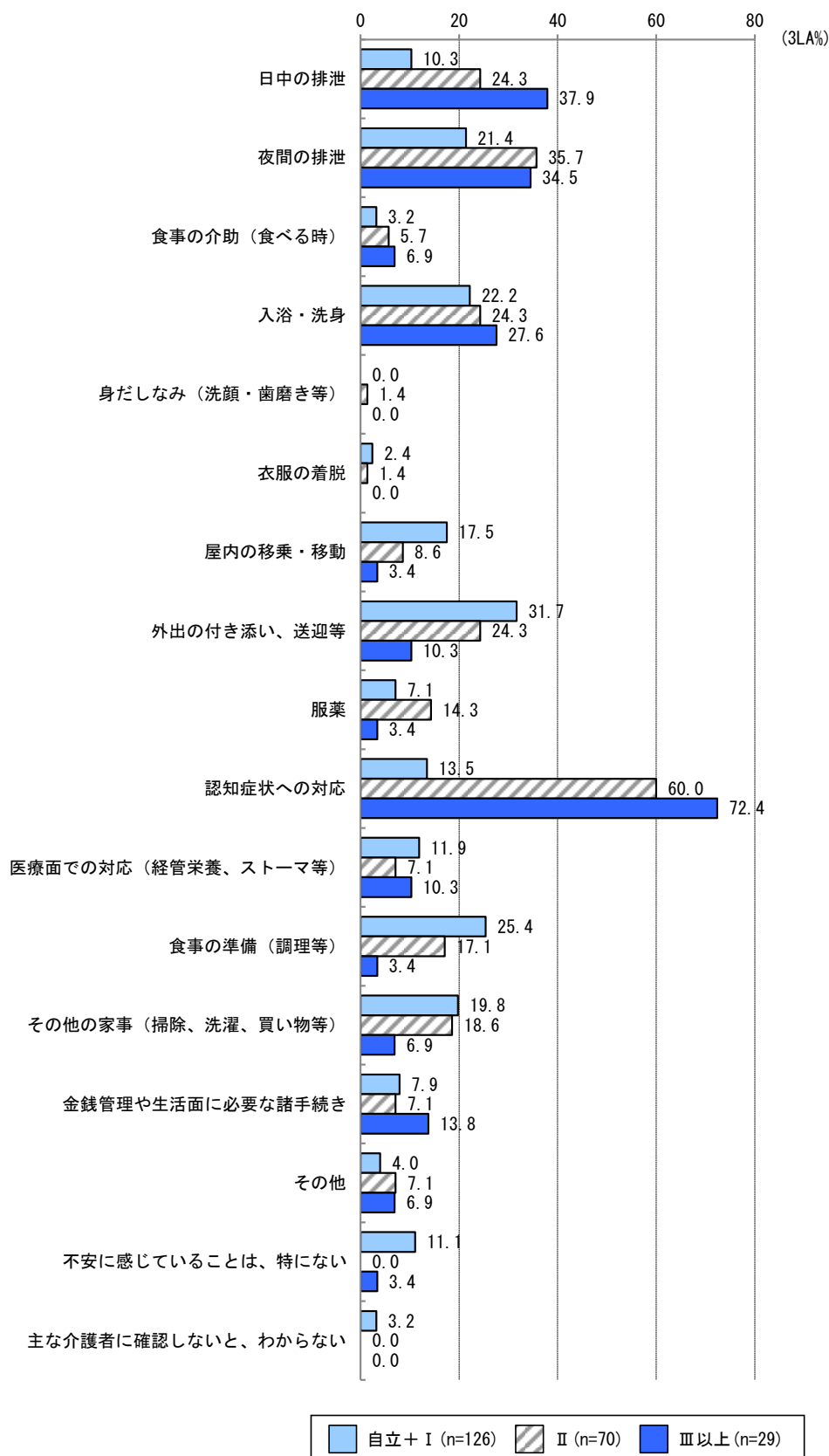
②要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

重度化に伴って「日中の排泄」「夜間の排泄」「入浴・洗身」といった清潔保持の介護や「認知症状への対応」の割合が高くなっており、特に「夜間の排泄」と「認知症状への対応」に対して、介護者の不安が大きくみられる。在宅生活の継続には、清潔ケアや認知症状への支援がポイントになると考えられる。

【要介護度別・介護者が不安を感じる介護】



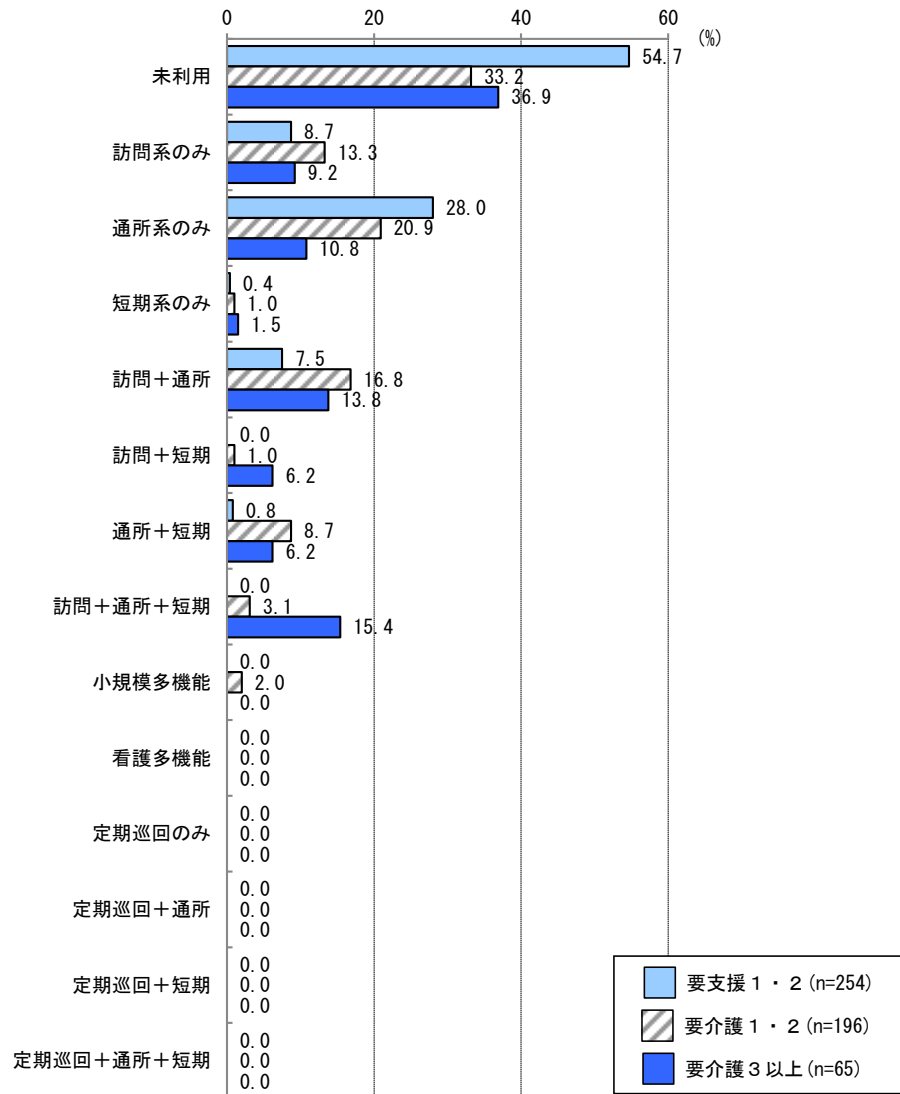
【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】



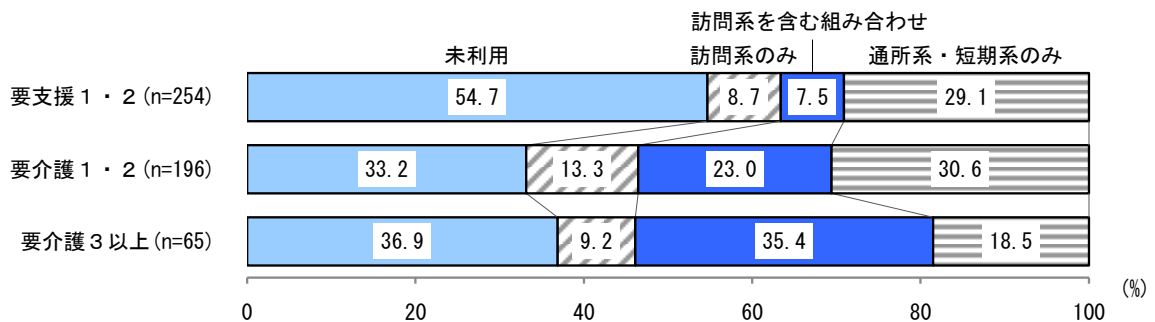
③要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

サービス利用の組み合わせをみると、重度化に伴って「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなり、サービス単体のみを利用する割合は低くなっている。訪問系を含む複数の支援・サービスを組み合わせたサービス提供が、在宅限界点の向上のために重要なポイントになると考えられる。

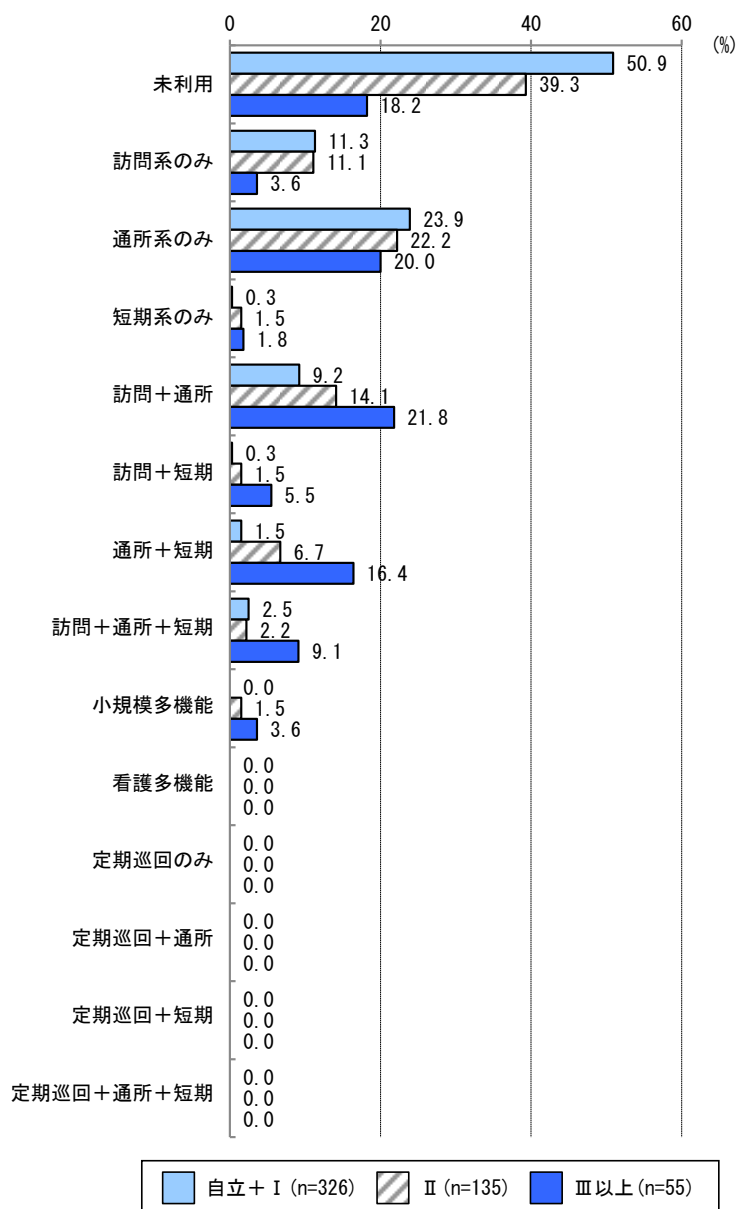
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】



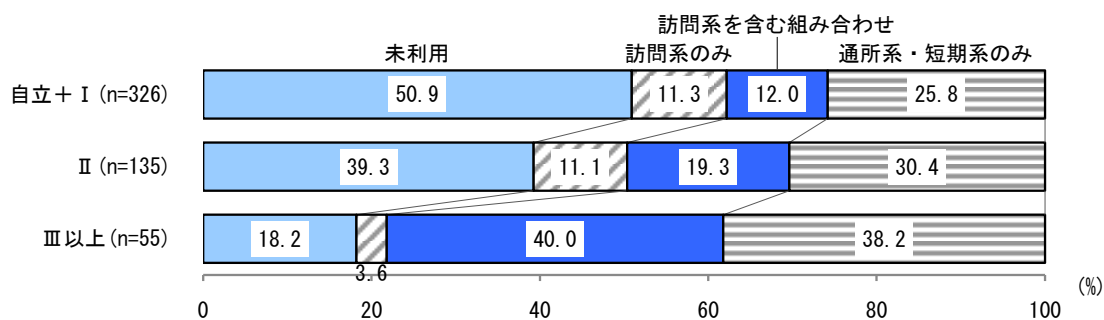
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（サービス類型）】



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】



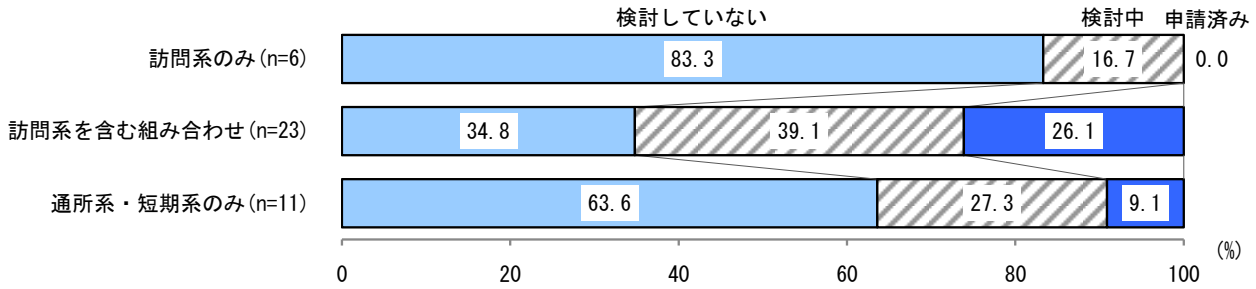
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（サービス類型）】



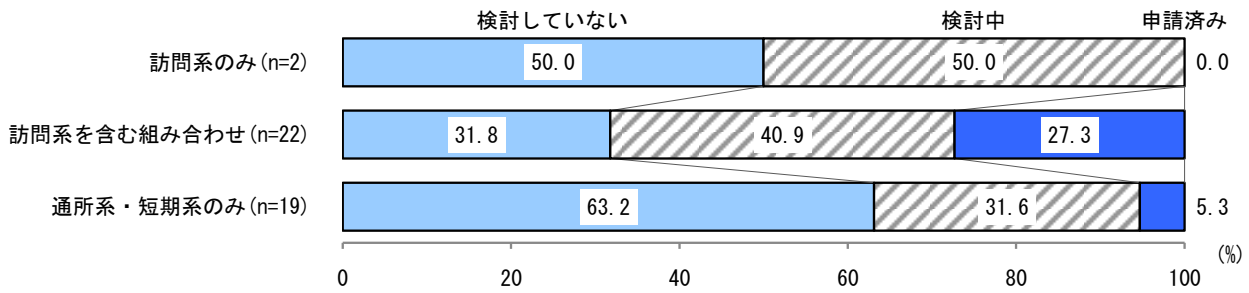
④「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

訪問系を含むサービスを組み合わせで利用している重度の要介護者は、施設等を検討していないと回答した人より、施設等の検討・申請をしていると回答した人のほうが多くなっている。複数の支援・サービスを利用しても、重度の要介護者には在宅生活の困難さがうかがえる。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】



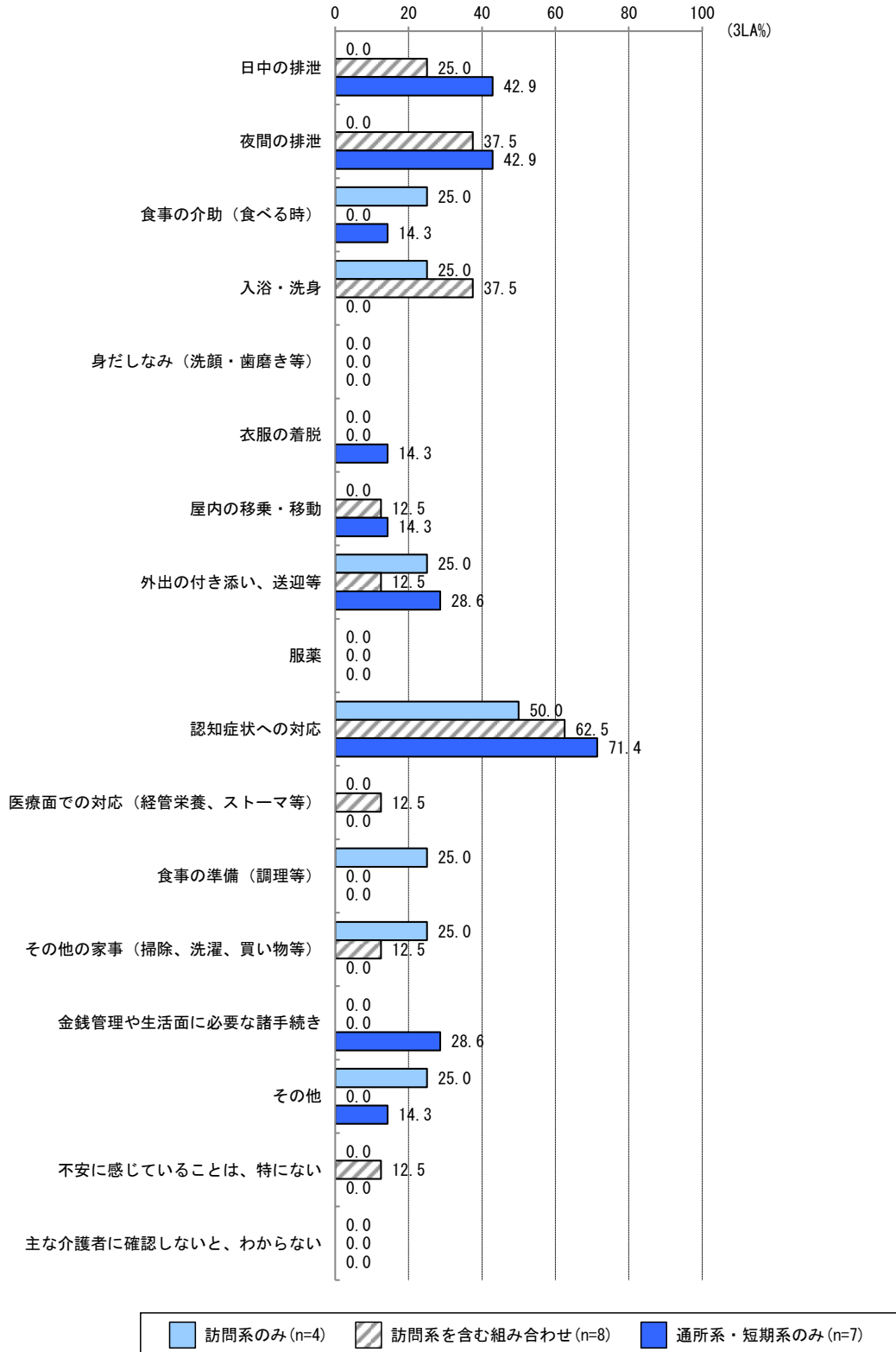
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】



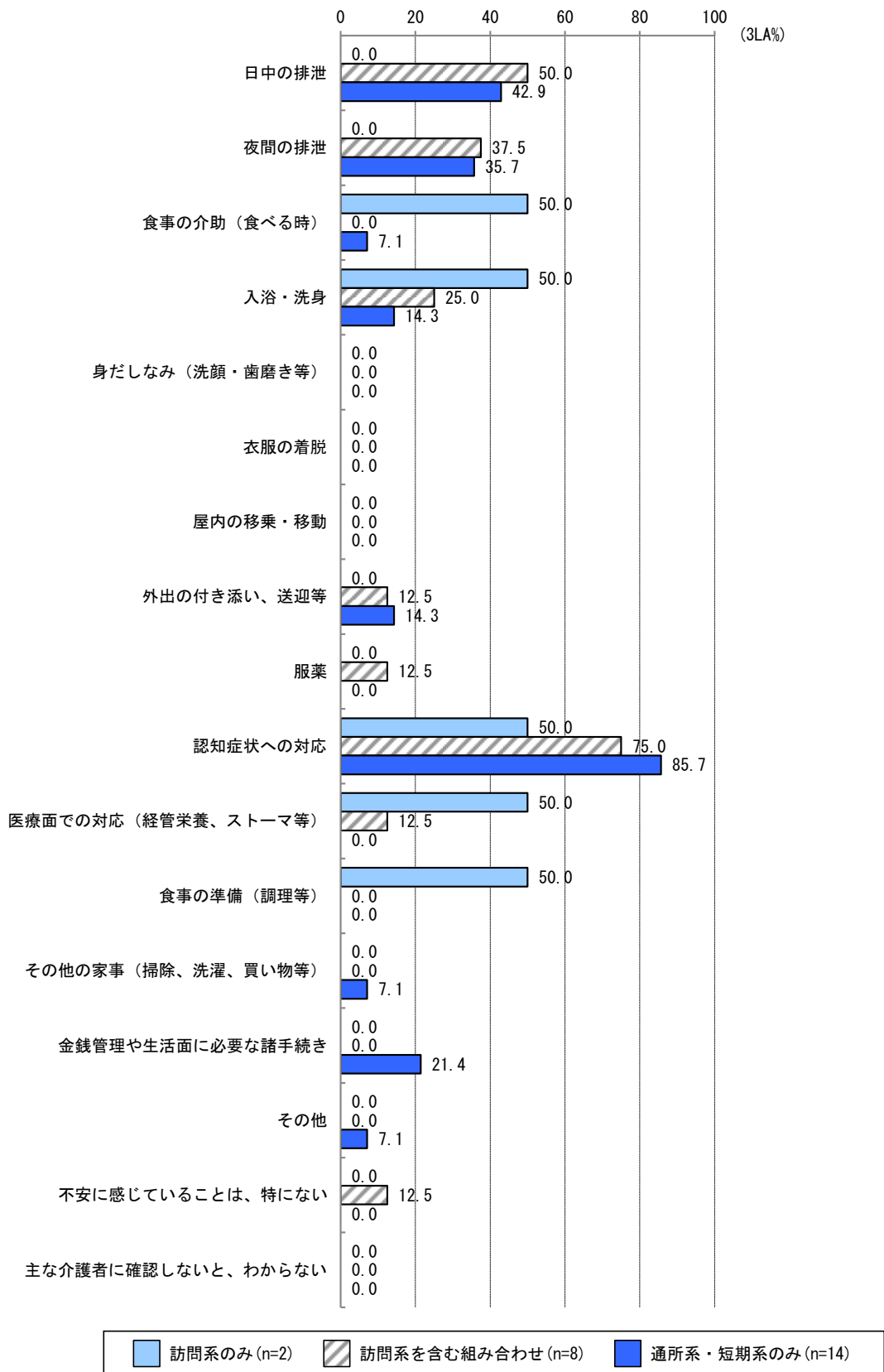
⑤「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

重度の要介護者を介護している介護者では、「認知症状への対応」に対して不安を感じる人が多くなっている。しかし、通所系・短期系のみでのサービス利用者に対しては、訪問系サービスの利用者の方が低い割合になっている。訪問系サービスを利用することで、「認知症状への対応」に係る介護者への不安が軽減される傾向がみられる。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】



(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制の検討

ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況別」と「主な介護者の就労継続見込み別」の2つの視点から集計を行っている。

具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに注目し、就労している介護者の属性や介護の状況を集計・分析している。

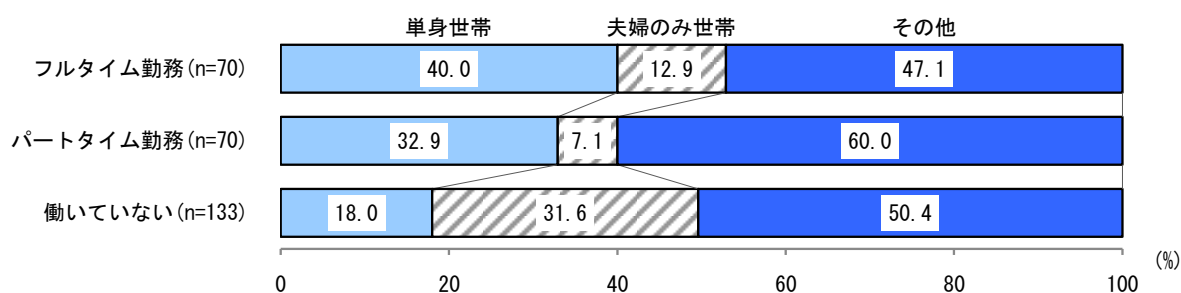
さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っている。

①基礎集計（主な介護者の属性）

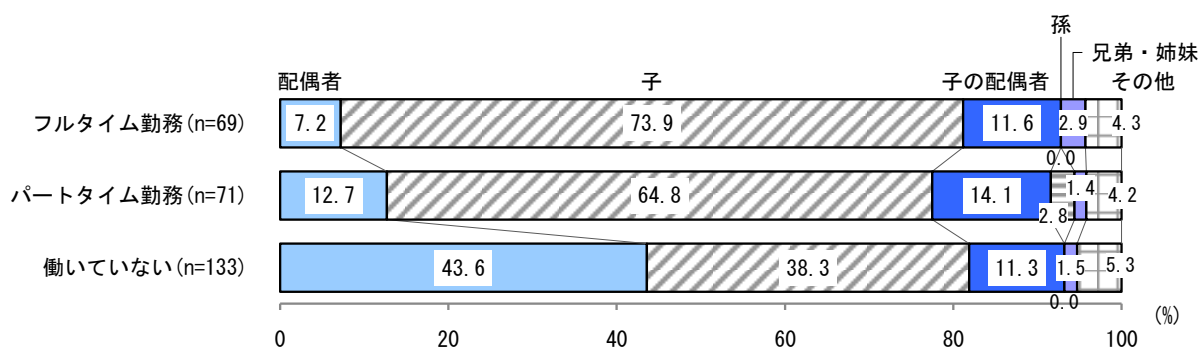
働いている介護者（フルタイム勤務・パートタイム勤務）では、「子」世代が多くみられる。また、「単身世帯」の要介護者を介護する割合が働いていない介護者に比べて高いことから、働きながら通い介護をしている介護者が多くみられる。

要介護度でみると、パートタイム勤務のほうが要介護者の介護度が高い傾向にある。

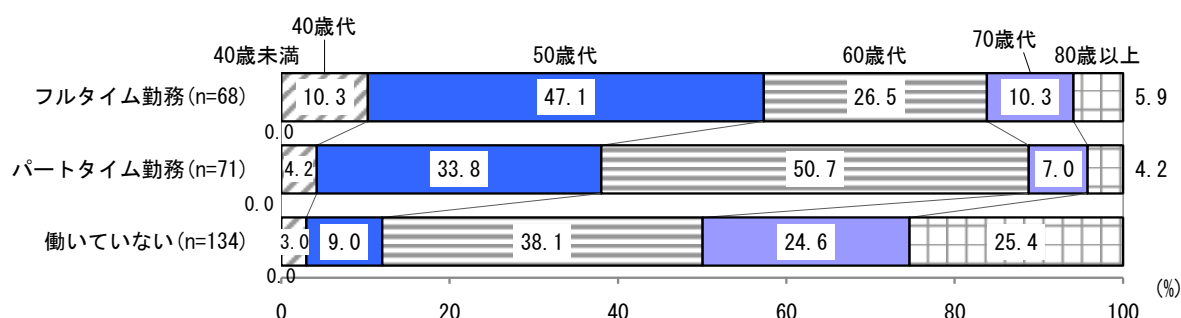
【就労状況別・世帯類型】



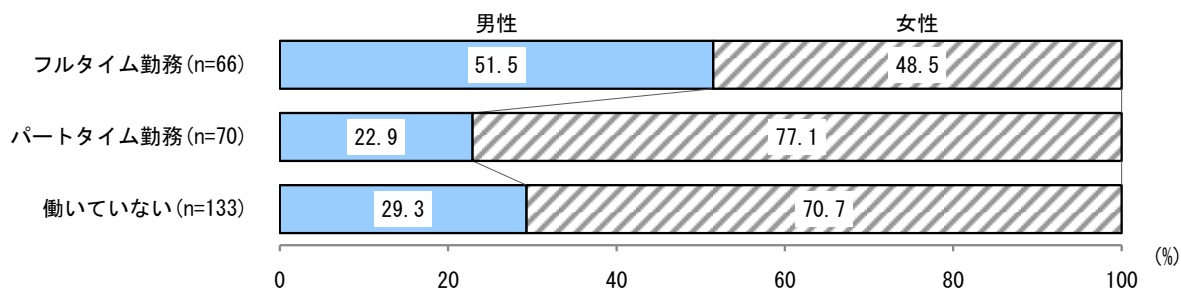
【就労状況別・主な介護者の本人との関係】



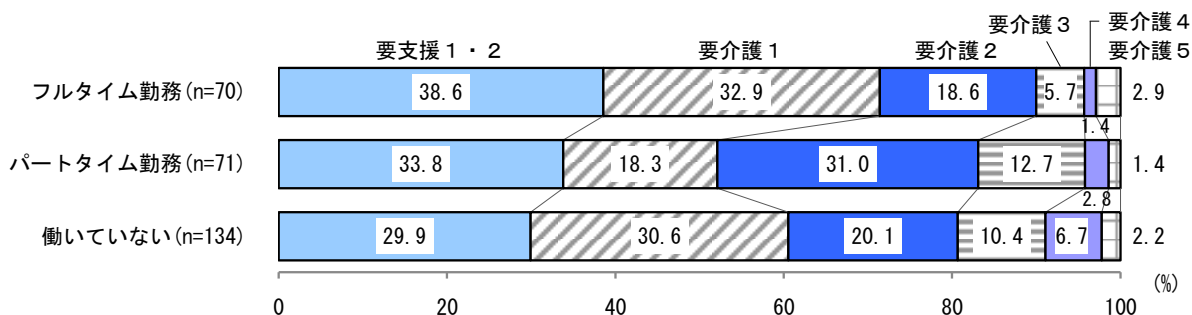
【就労状況別・主な介護者の年齢】



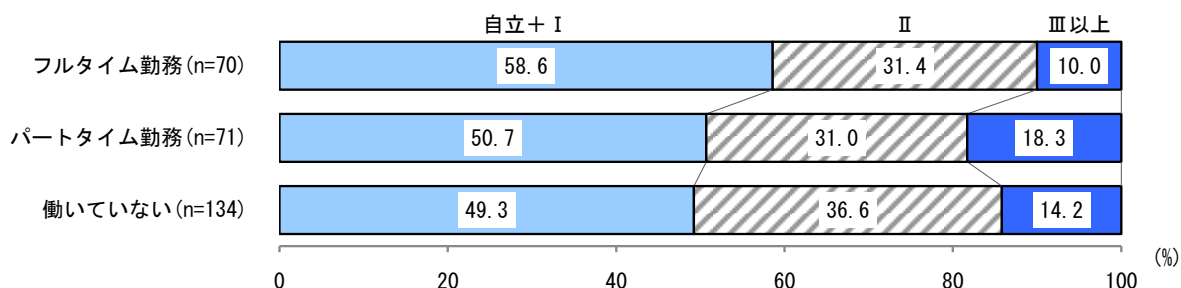
【就労状況別・主な介護者の性別】



【就労状況別・要介護度】



【就労状況別・認知症自立度】

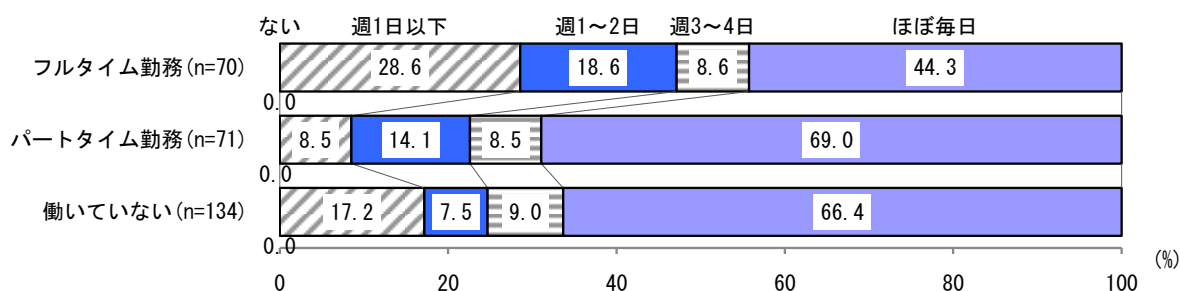


②就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

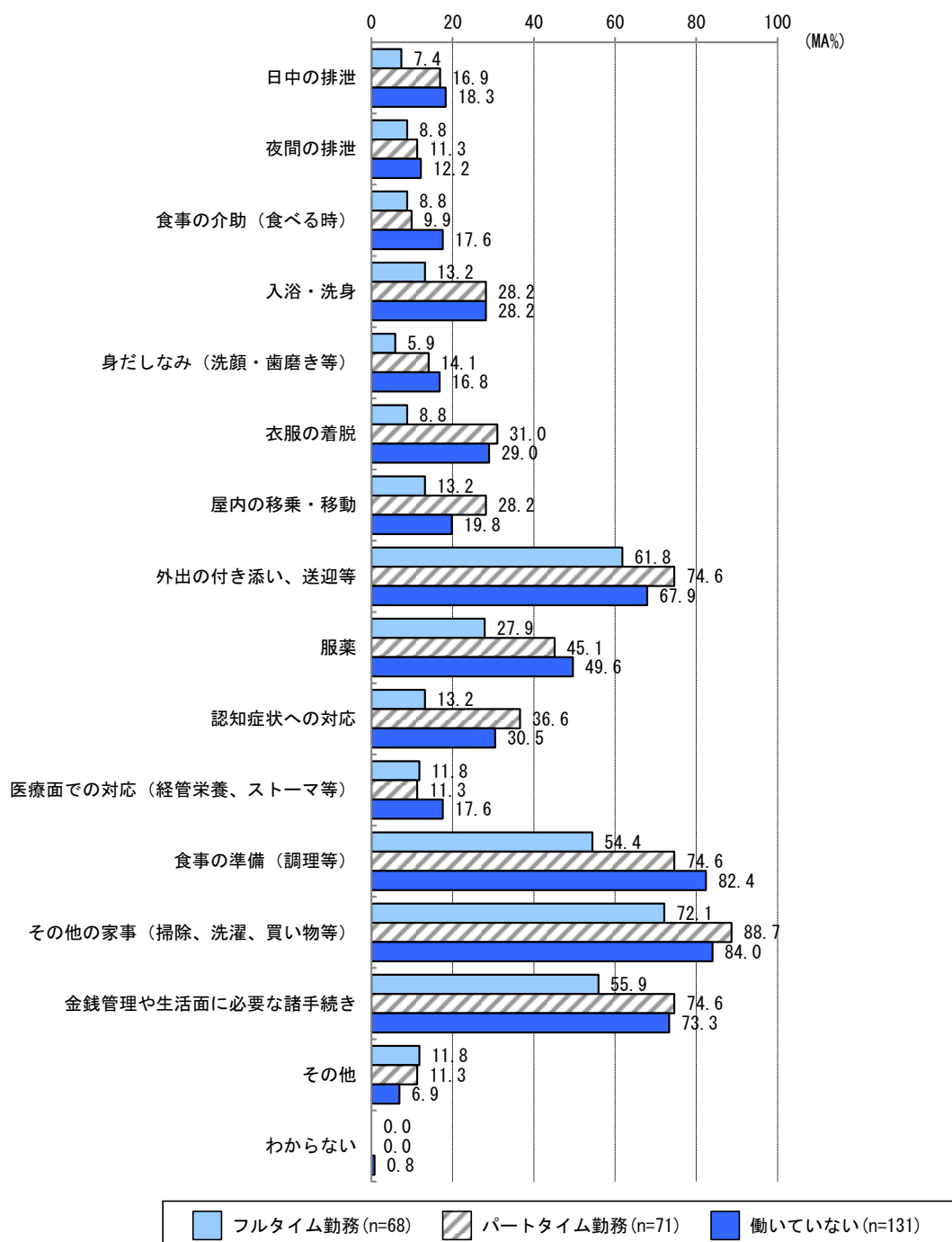
介護頻度をみると、「ほぼ毎日」がフルタイム勤務の介護者で44.3%、パートタイム勤務の介護者で69.0%と最も多くなっているが、フルタイム勤務の介護者のほうが24.7ポイント低い割合になっている。また、就労時間が長い介護者ほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「服薬」「食事の準備（調理等）」を行う割合が低くなる傾向がみられる。

就労継続見込みについては、フルタイム勤務とパートタイム勤務の割合に大きな差はみられないが、要介護者の重度化に伴って就労の継続が困難と考える人が増加する傾向がみられる。

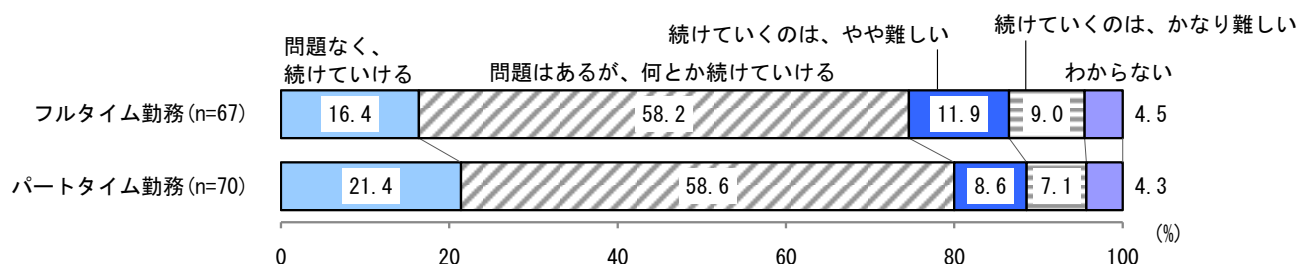
【就労状況別・家族等による介護の頻度】



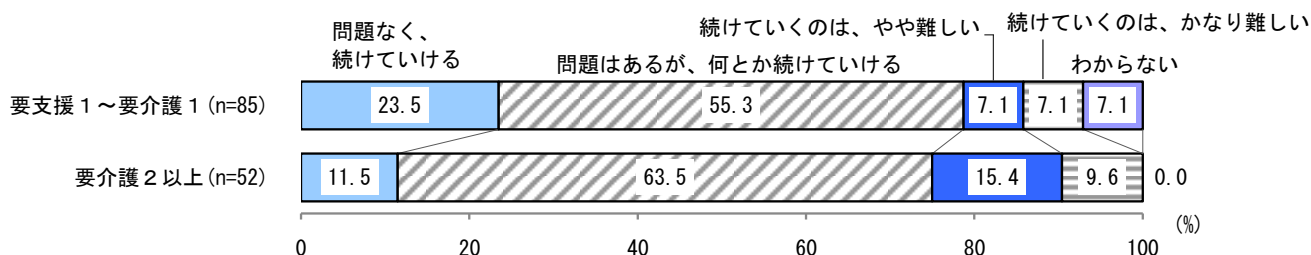
【就労状況別・主な介護者が行っている介護】



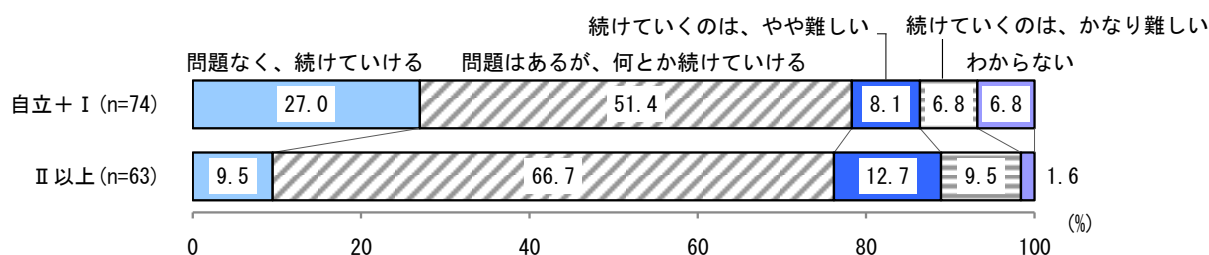
【就労状況別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

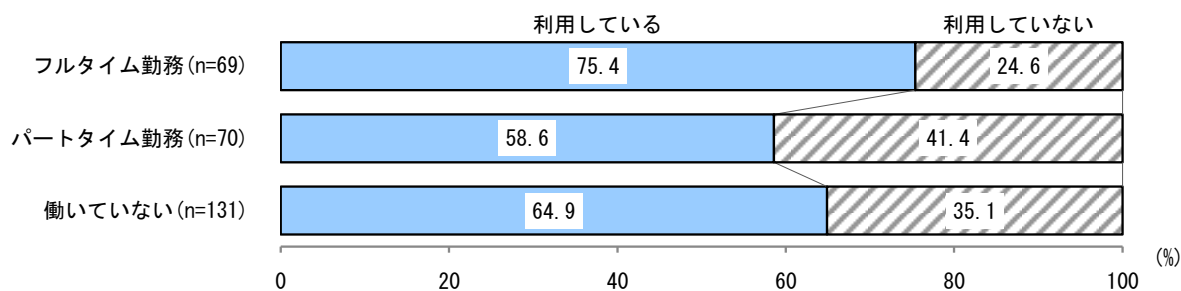


③ 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

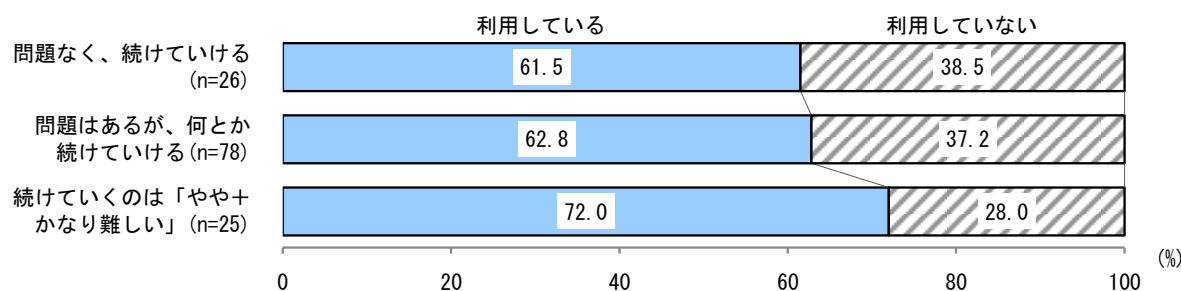
介護保険サービスを「利用している」割合は、フルタイム勤務の介護者が75.4%と高く、パートタイム勤務の介護者（58.6%）に比べて16.8ポイント高い割合になっている。また、就労継続が困難な介護者ほどサービスを「利用している」割合が高くなっている。一方、サービスを利用していない理由については、就労の継続が見込める介護者で「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、就労継続が困難な介護者で「本人にサービス利用の希望がない」が、それぞれ最も多くなっている。

就労している介護者が不安に感じる介護について、就労継続が困難な介護者ほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が高くなる傾向がみられた。特に「日中の排泄」の割合は、就労の継続が見込める介護者と困難な介護者との差が大きくなっている。これらの介護不安の増加を抑えることが、介護者に“在宅生活を継続しながらの就労継続”を判断するポイントになると考えられる。

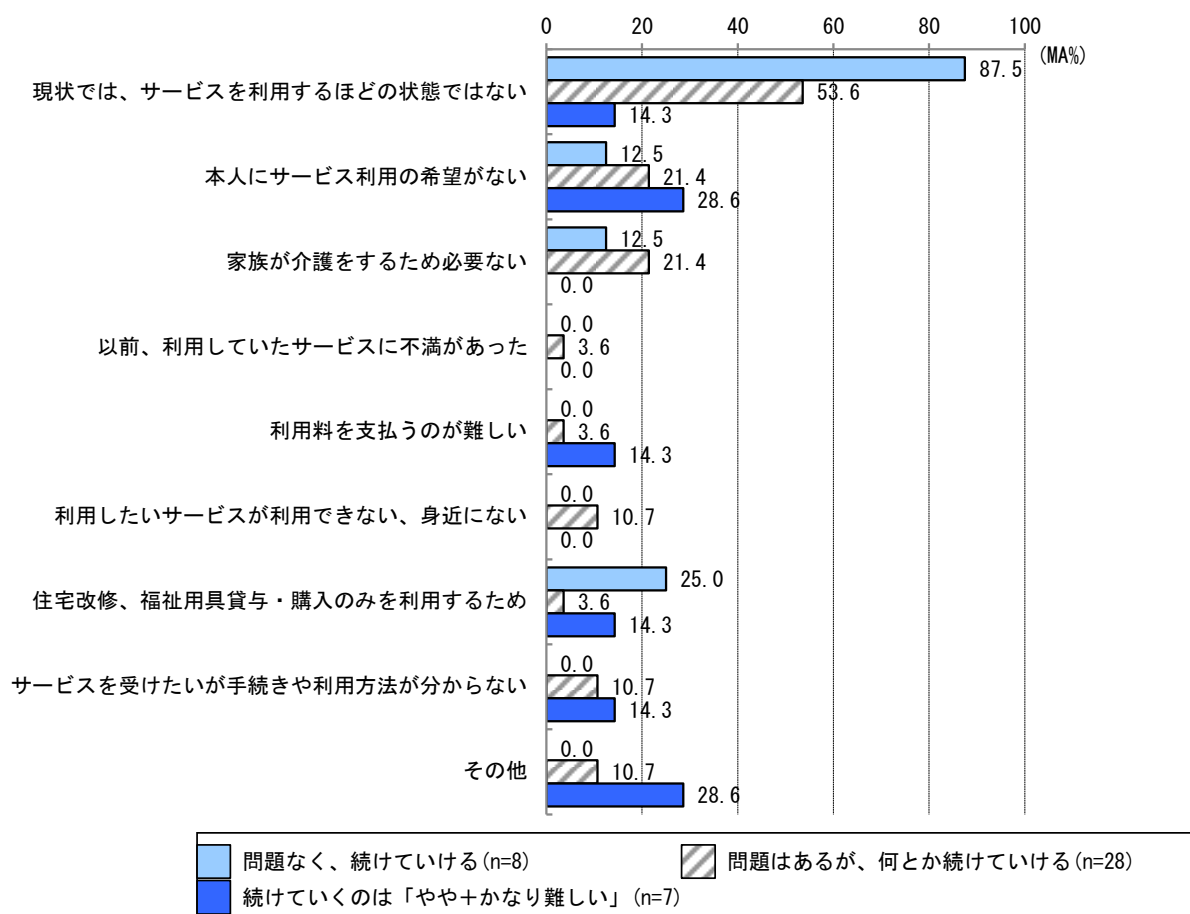
【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】



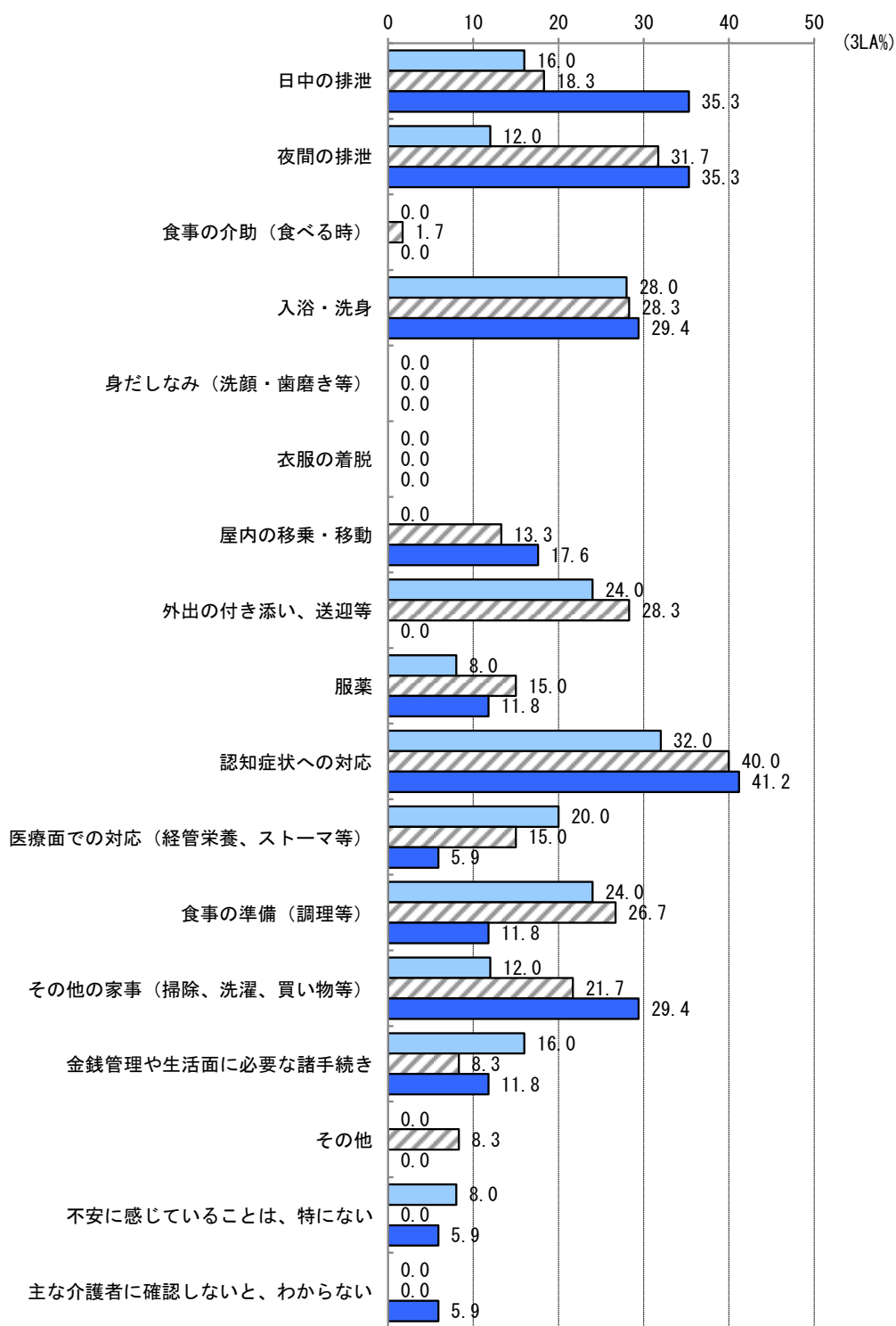
【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無 (フルタイム勤務+パートタイム勤務)】



【就労継続見込み別・サービス未利用の理由 (フルタイム勤務+パート勤務)】



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



問題なく、続けていける (n=25)
 問題はあるが、何とか続けていける (n=60)
 続けていくのは「やや+かなり難しい」 (n=17)

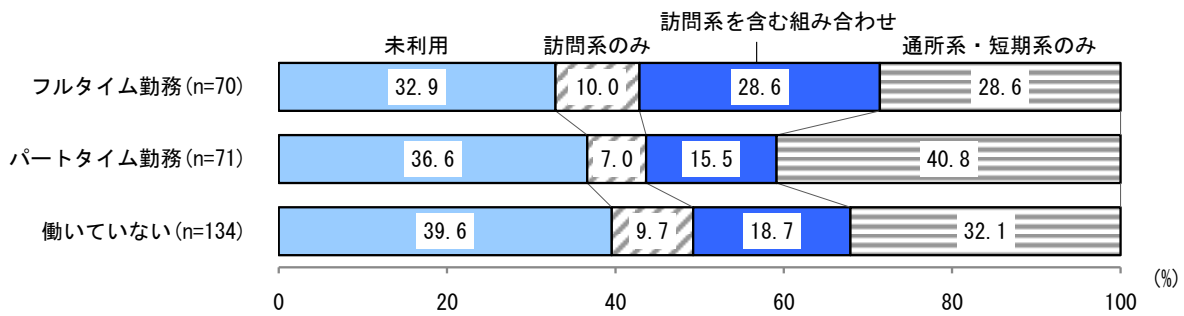
④「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

フルタイム勤務の介護者は、訪問系サービスの利用割合が高く、「訪問系を含む組み合わせ」では28.6%となっている。

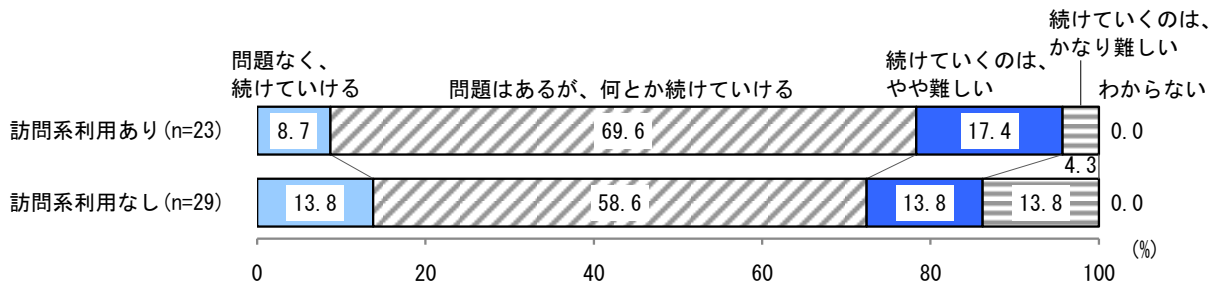
また、就労しながら要介護2以上の要介護者を介護している人で、訪問系サービスの利用有無別で比較すると、利用していない人に比べて、利用している人のほうが就労の継続を見込める割合は高くなっており、「続けていくのは、かなり難しい」が9.5ポイント低い割合になっている。

就労継続が可能と考える介護者は、訪問系サービスを利用する割合が高い傾向がみられる。

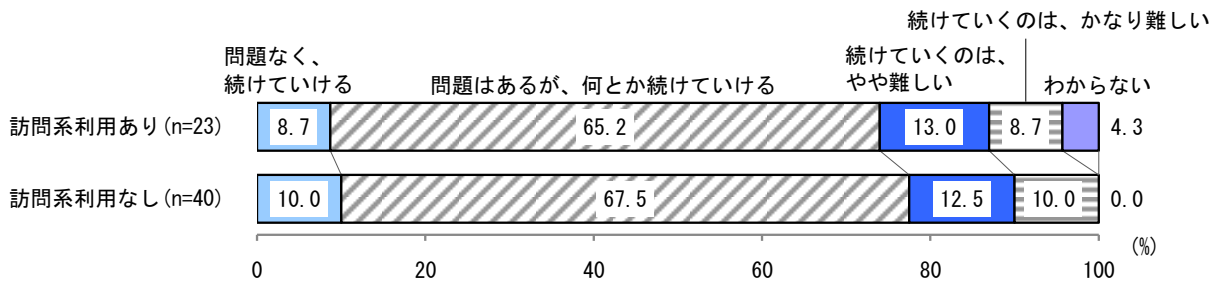
【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

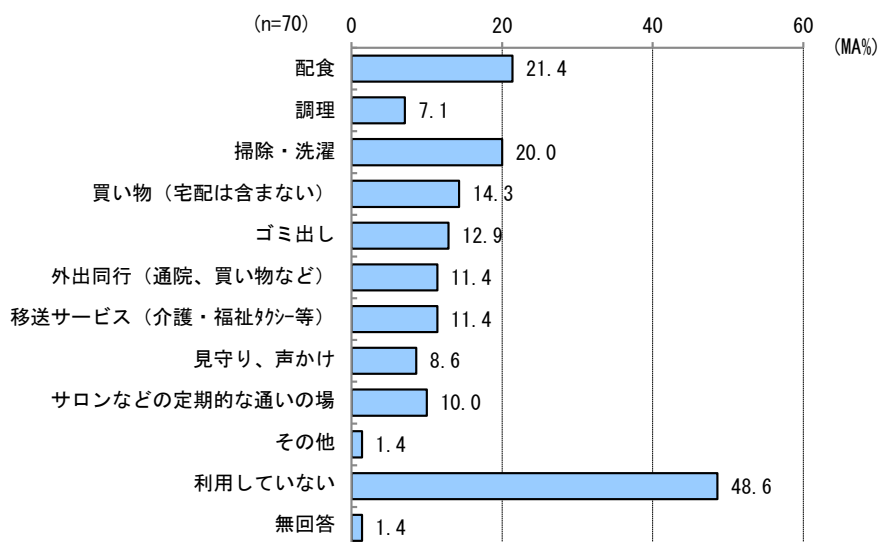


⑤就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

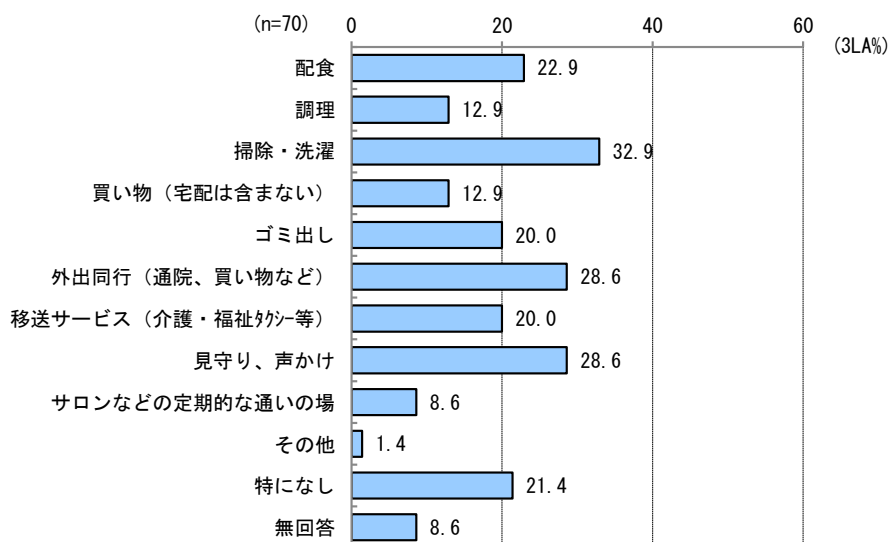
フルタイム勤務の介護者の保険外の“利用している支援・サービス”と“必要と感じる支援・サービス”を比べると、「掃除・洗濯」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り・声かけ」において大きな差がみられ、必要と感じているが実際には利用していない状況がうかがえる。

施設等の入所・入居を検討している割合では、働いていない介護者に比べて就労している介護者のほうが高い割合になっており、就労継続が困難な介護者ほど割合が高くなる傾向がみられる。

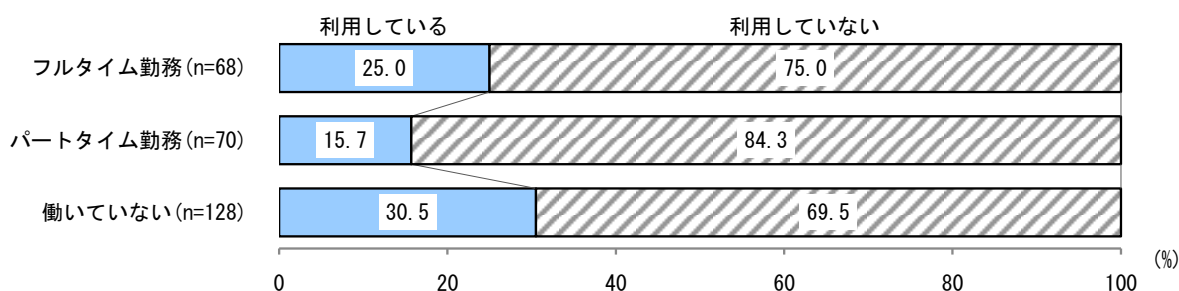
【利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）】



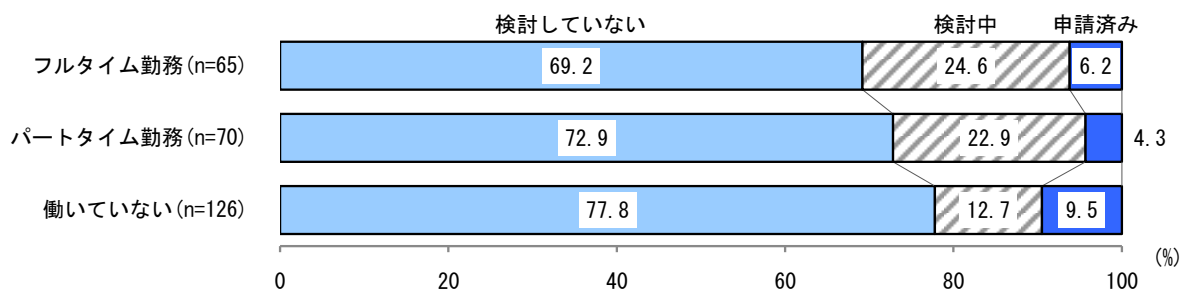
【在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】



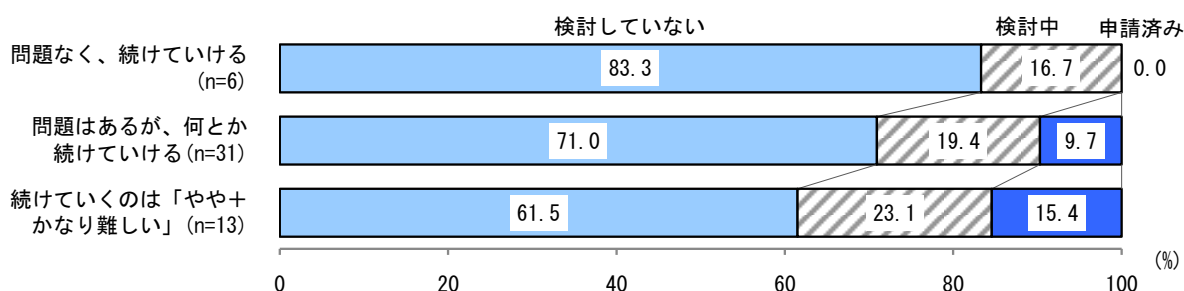
【就労状況別・訪問診療の利用の有無】



【就労状況別・施設等検討の状況】



【就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

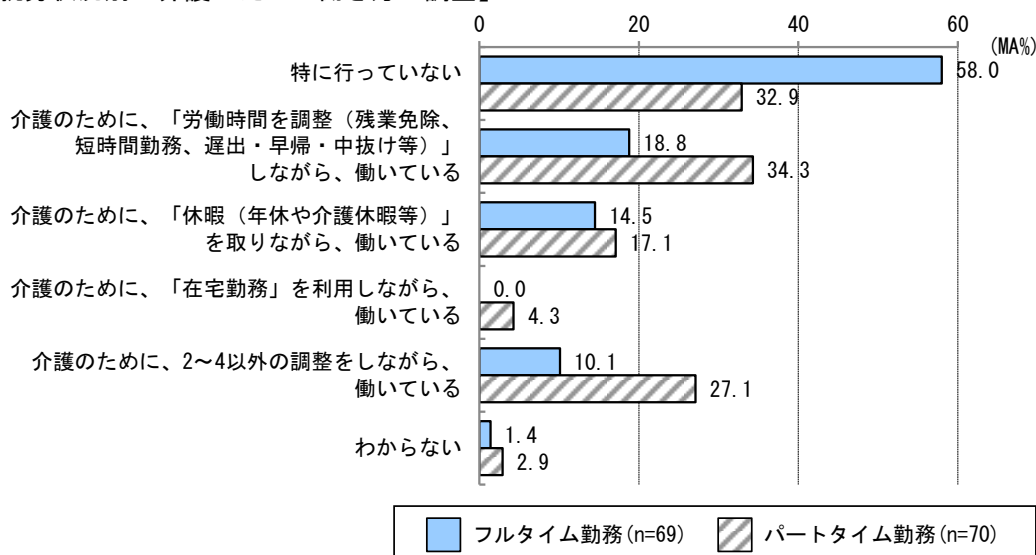


⑥就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

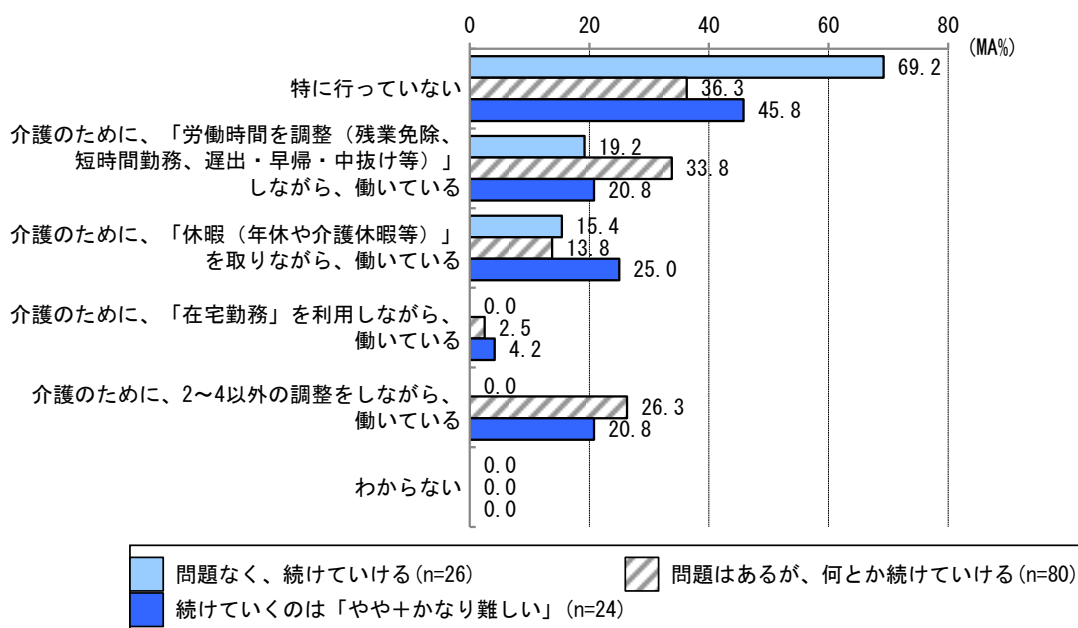
働き方の調整について、「介護のために、休暇（年休や介護休暇等）を取りながら、働いている」の割合は、就労継続を見込める介護者に比べて困難な介護者のほうが高い割合になっている。

また、効果的な勤め先からの支援として、就労継続が困難な介護者ほど「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が高くなる一方で、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合は低くなっている。仕事と介護の両立に向けて、就労継続が困難な介護者には、介護のための休暇取得が最も効果的であり、制度の充実が求められている。また、「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が、就労継続が困難な介護者ほど高くなっていることから、職場環境の見直しも視野に入れた取組が望まれる。

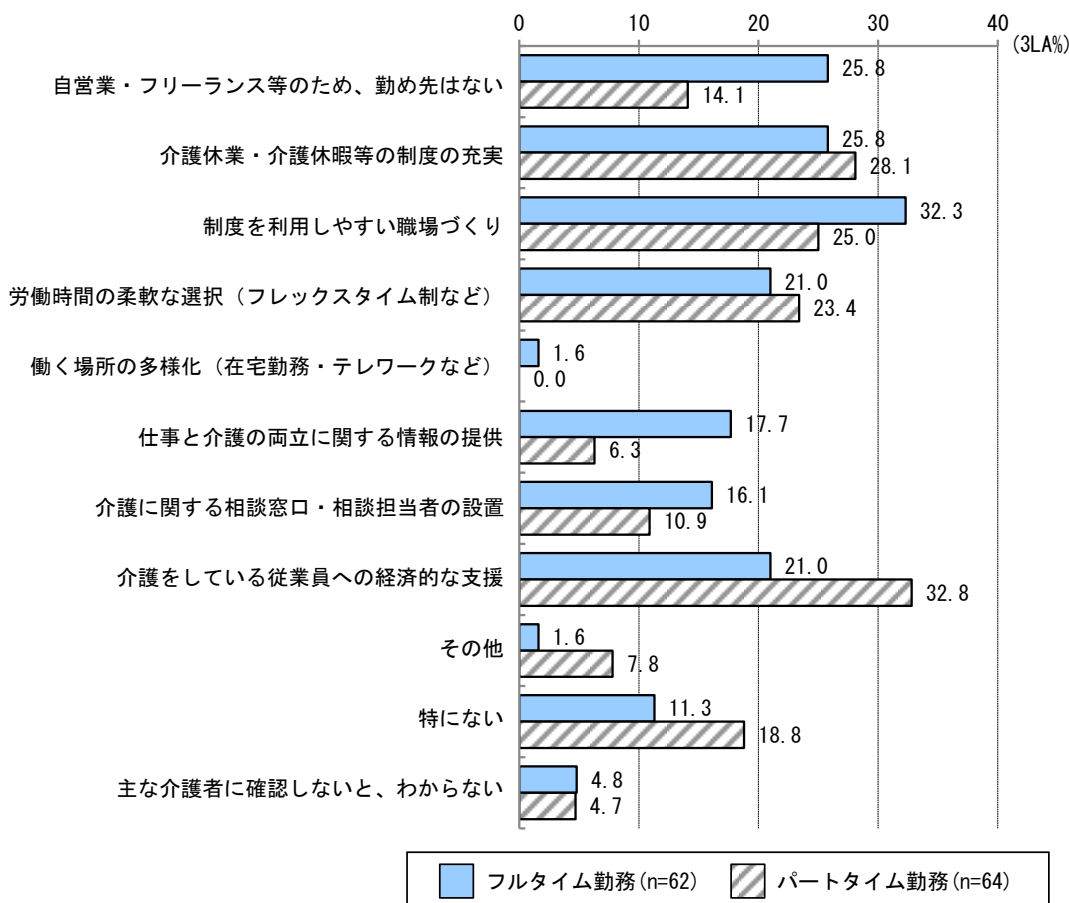
【就労状況別・介護のための働き方の調整】



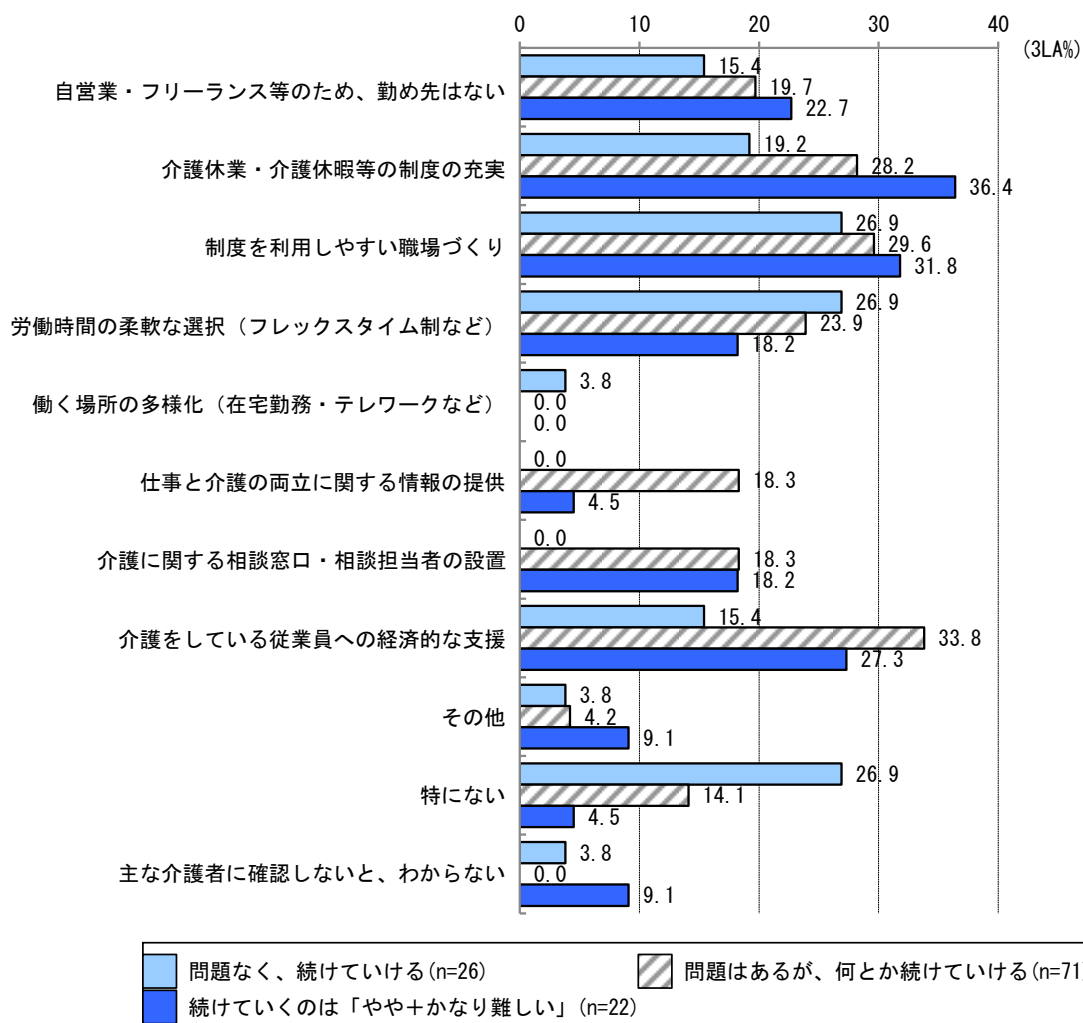
【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】



【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】



【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

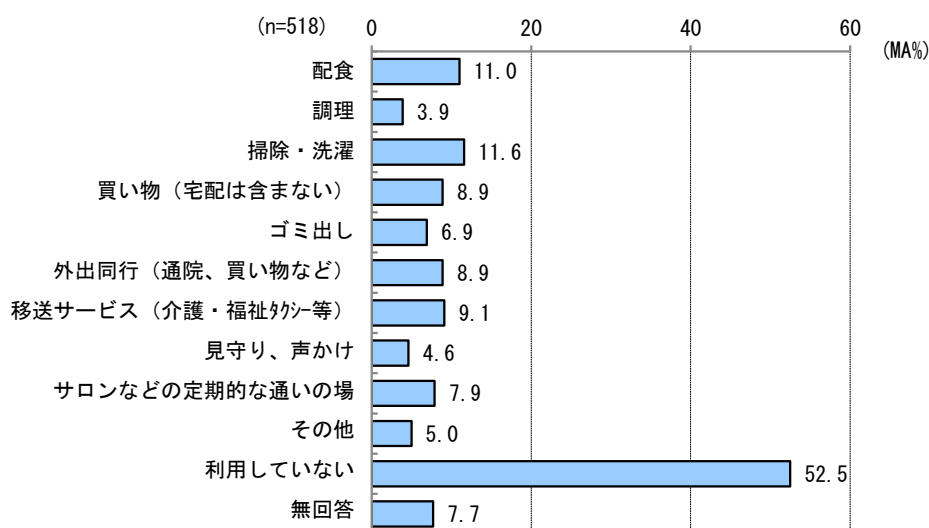
ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っている。

具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行っている。

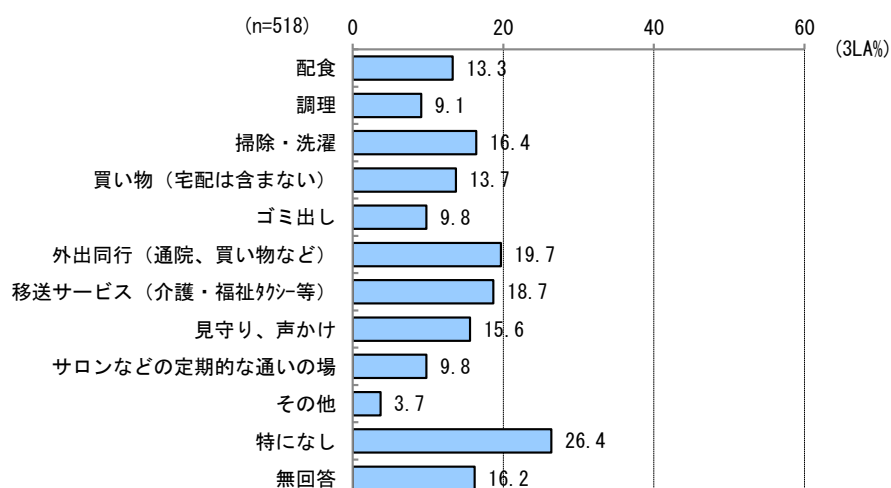
①基礎集計

保険外の支援・サービスについて、“利用している支援・サービス”と“必要と感じる支援・サービス”を比べると、「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り・声かけ」において大きな差がみられ、さらなる支援の充実が求められる。

【保険外の支援・サービスの利用状況】



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

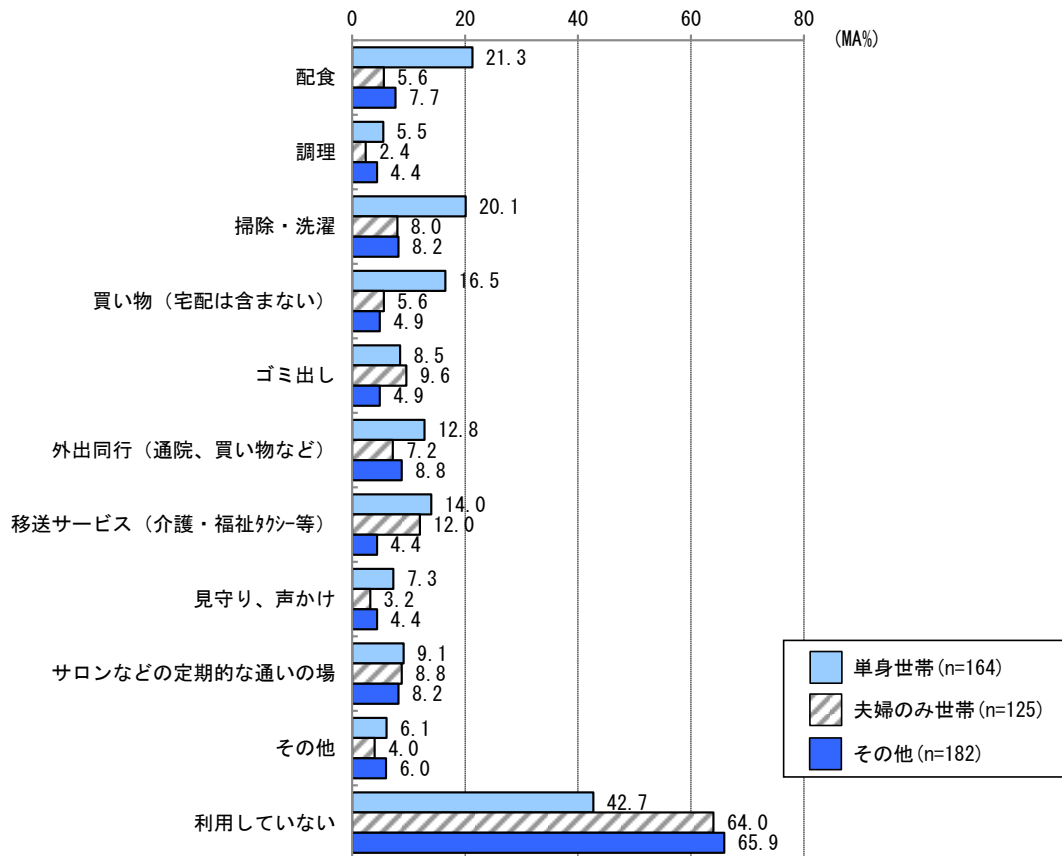


②世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

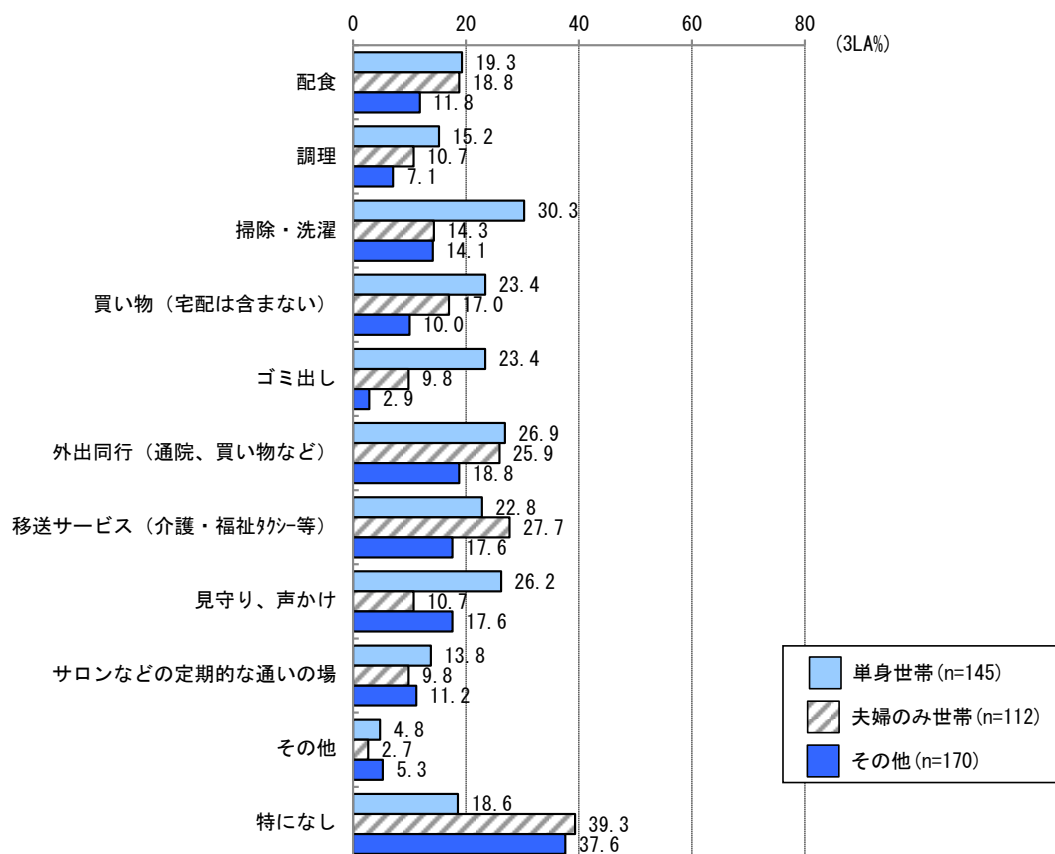
保険外の支援・サービスの利用状況について、同居者のいる世帯に比べて単身世帯のほうが、多くの支援・サービスを利用している割合が高くなっている。

必要と感じる支援・サービスの割合についても、単身世帯のほうが高い傾向がみられ、特に「掃除・洗濯」「ゴミ出し」「見守り・声かけ」のニーズが高くなっている。また「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」は同居者の有無にかかわらず、ニーズの高い支援・サービスとなっている。

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



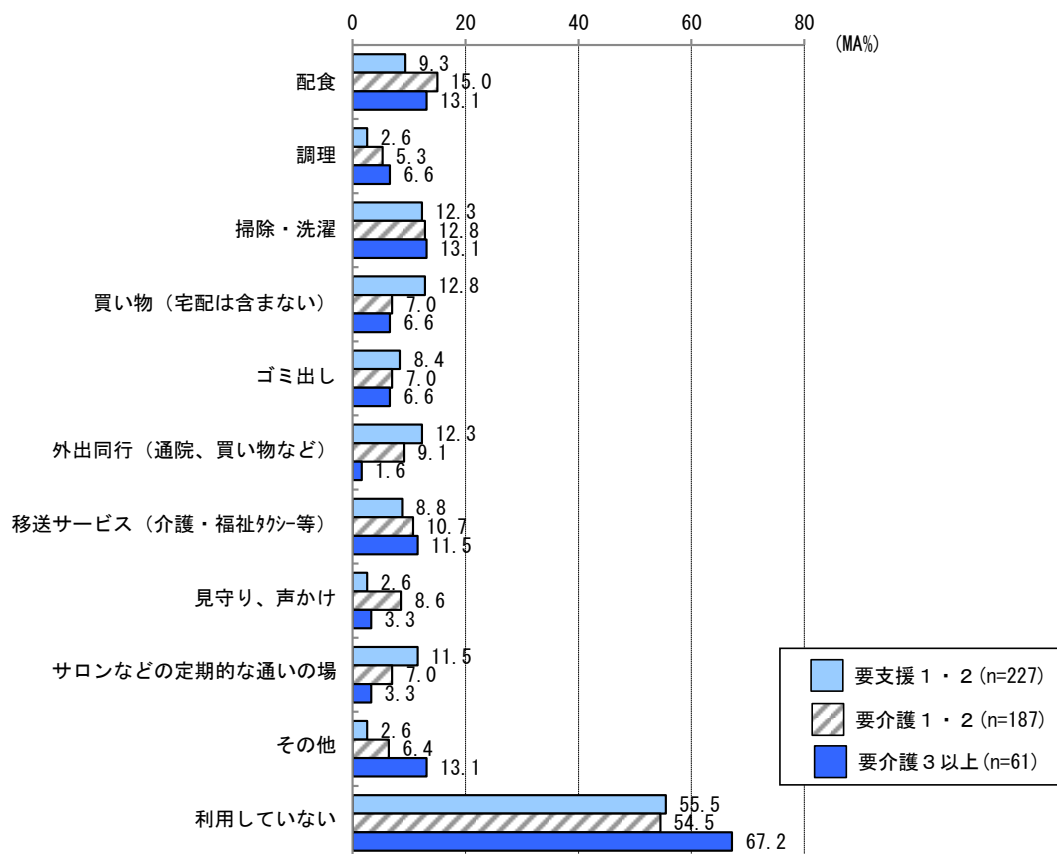
③ 「世帯類型」 × 「要介護度」 × 「保険外の支援・サービスの利用状況」

「買い物 (宅配は含まない)」「外出同行 (通院、買い物など)」「サロンなどの定期的な通いの場」など、外出に係る支援・サービスの利用は、軽度の要介護者のほうが高い割合になっている。また、同居者のいる世帯に比べて単身世帯のほうが、保険外の支援・サービスの利用の割合は高くなっている。

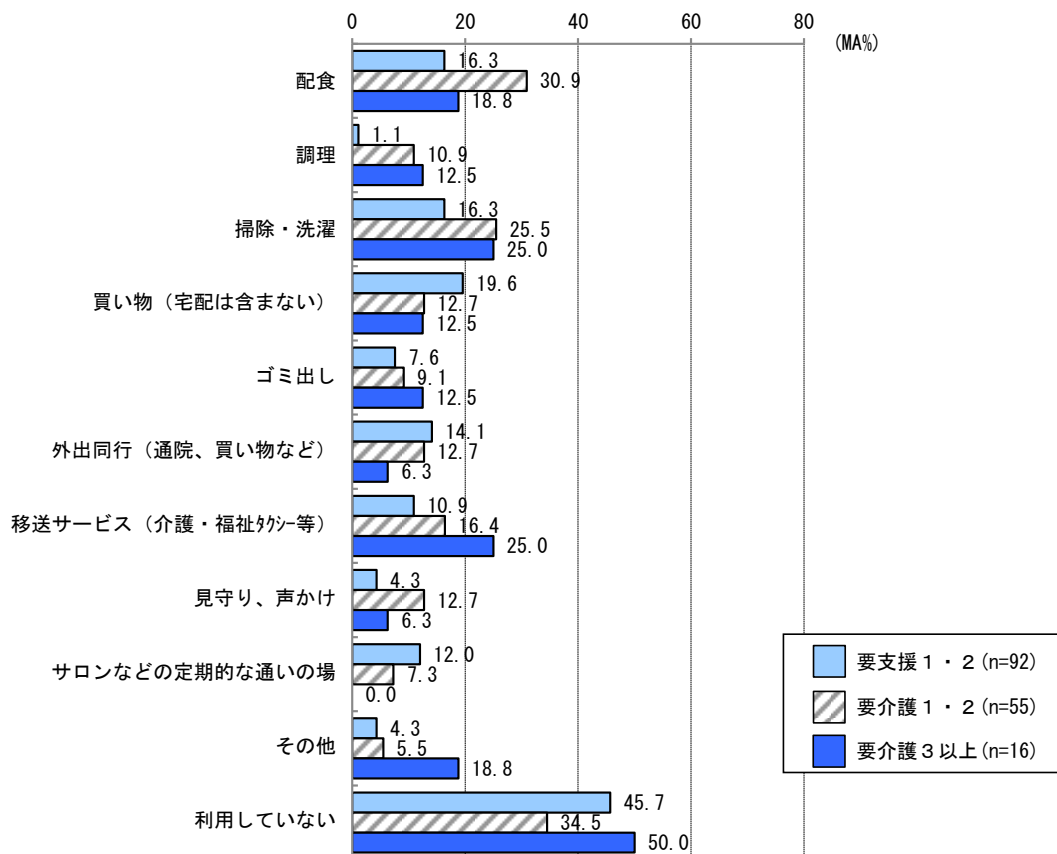
利用している支援・サービスでは、単身世帯で「配食」、夫婦のみ世帯で「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」、その他世帯で「外出同行 (通院、買い物など)」「サロンなどの定期的な通いの場」が、それぞれ多くみられる。

要介護度別にみると、単身世帯と夫婦のみ世帯の利用状況では、要介護1・2の要介護者が保険外の支援・サービスを利用している割合が他の要介護度区分よりも比較的高い傾向にあるが、これは要支援1・2の要介護者は自立度が高く、要介護3以上になると介護保険サービスの利用者が多くなるためと考えられる。一方、その他世帯の利用状況では、軽度の要介護者ほど利用している割合が高い傾向がみられ、同居者はいても日中一人になる等の背景が考えられる。

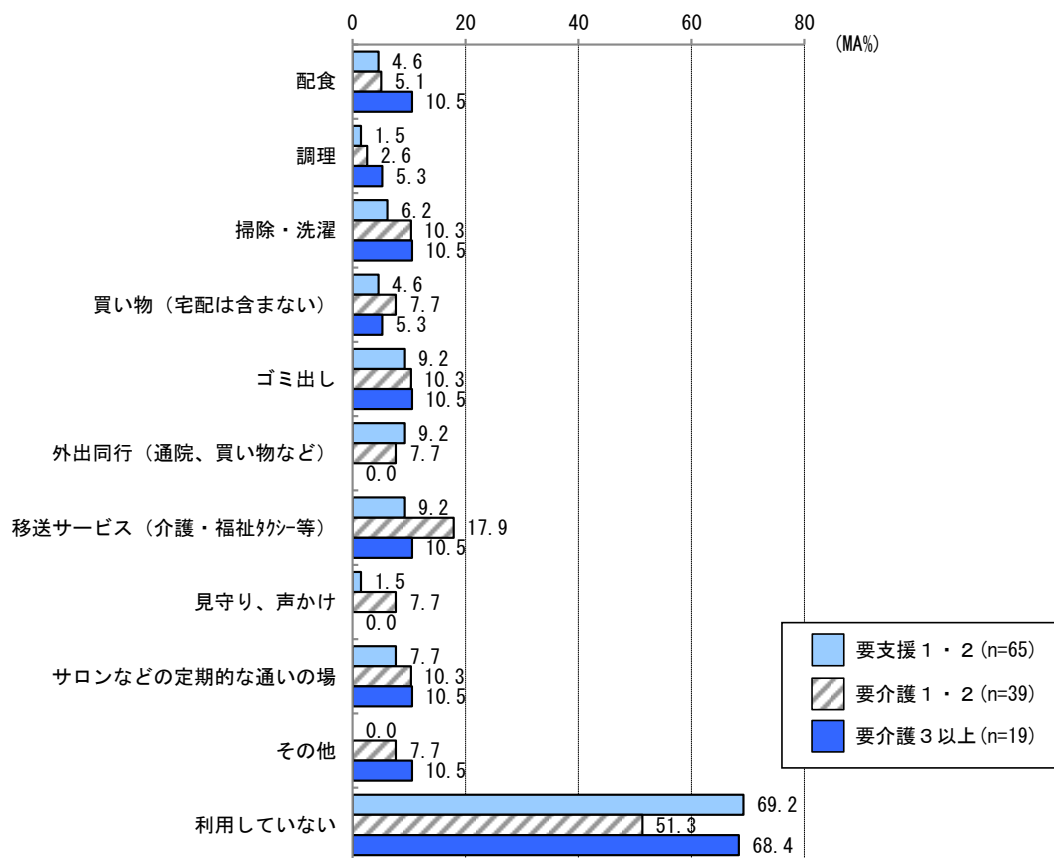
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】



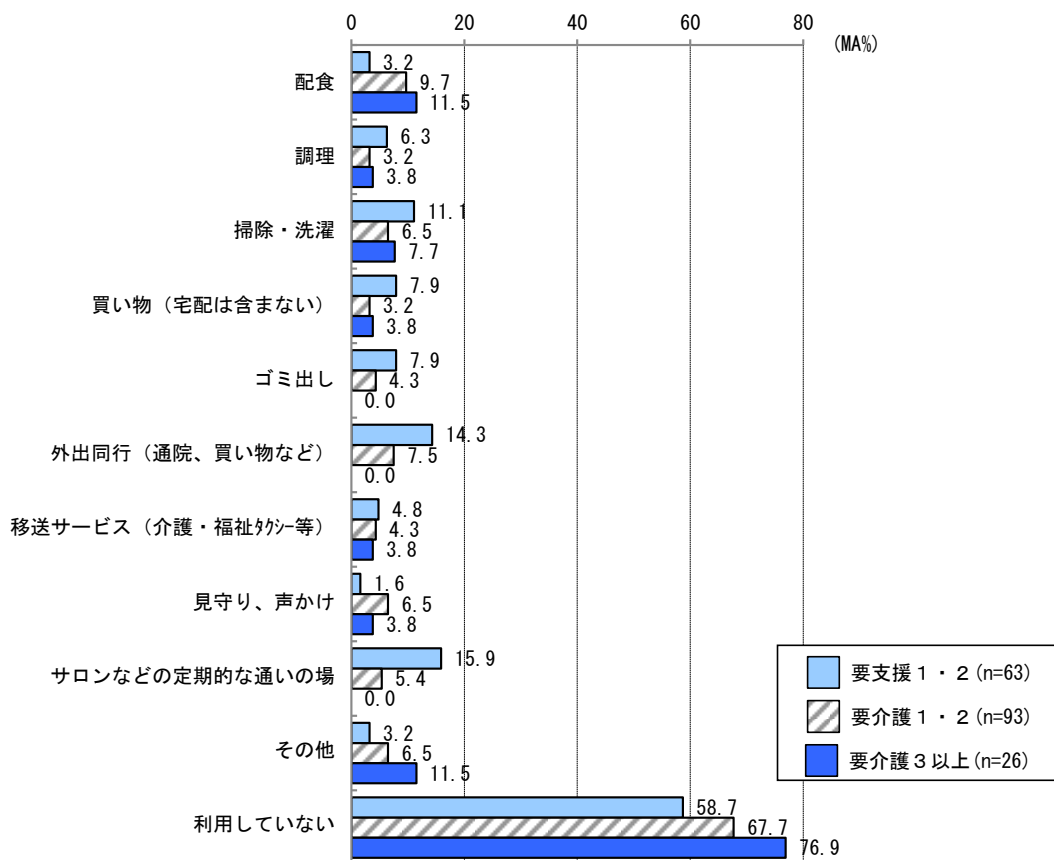
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況 (単身世帯)】



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】



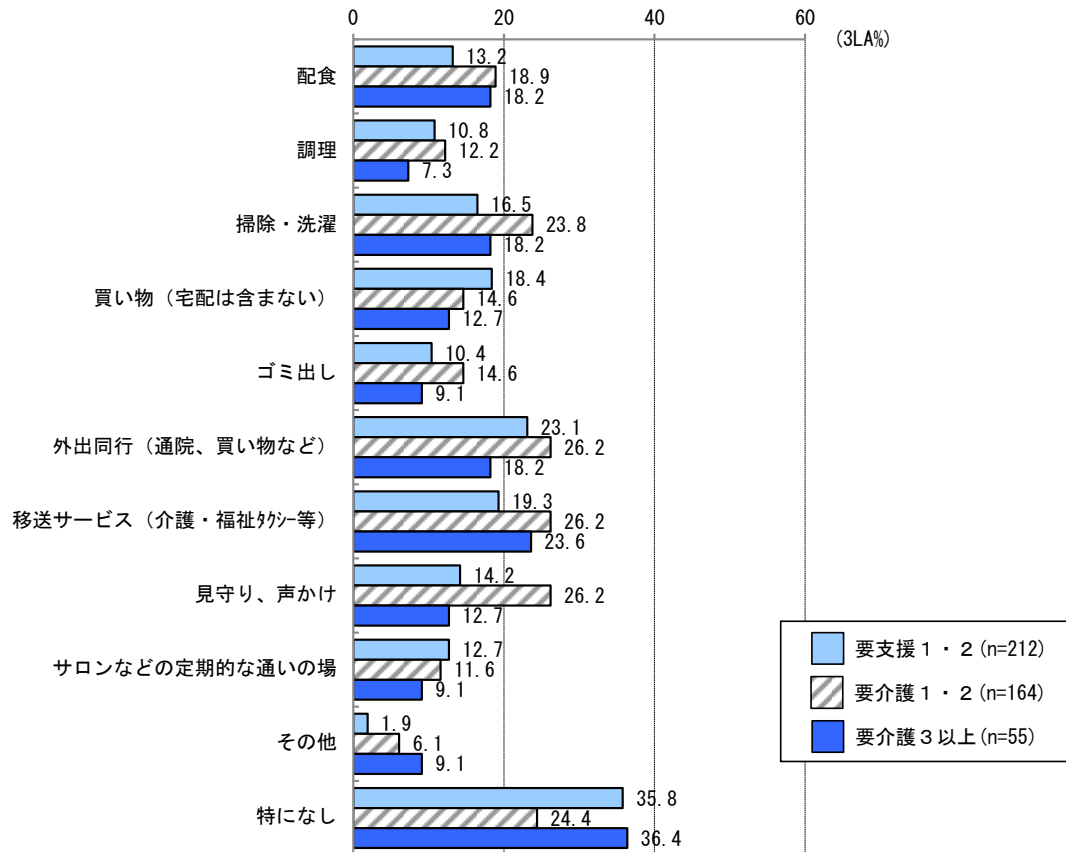
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】



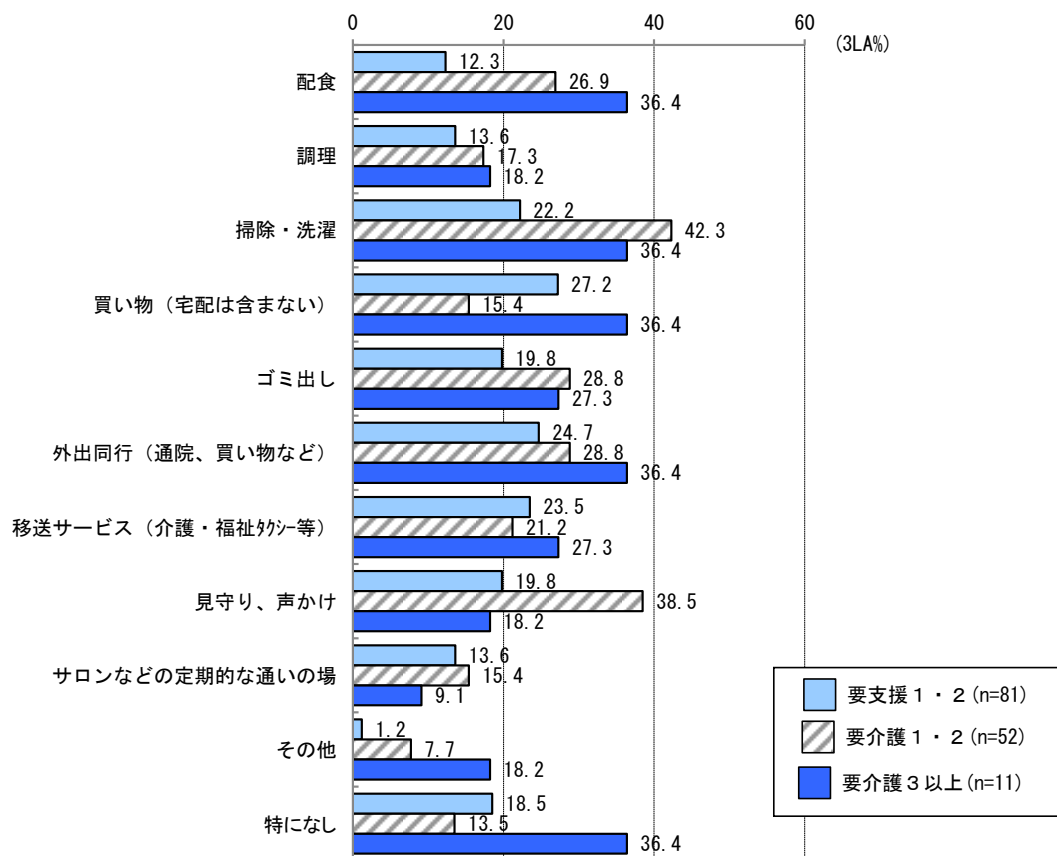
④「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

全体的に要介護1・2の要介護者のニーズが高い傾向がみられる。なかでも、単身世帯では「掃除・洗濯」「見守り・声かけ」、夫婦のみ世帯では「買い物（宅配は含まない）」「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、その他世帯では「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り・声かけ」が、それぞれ高い割合になっている。

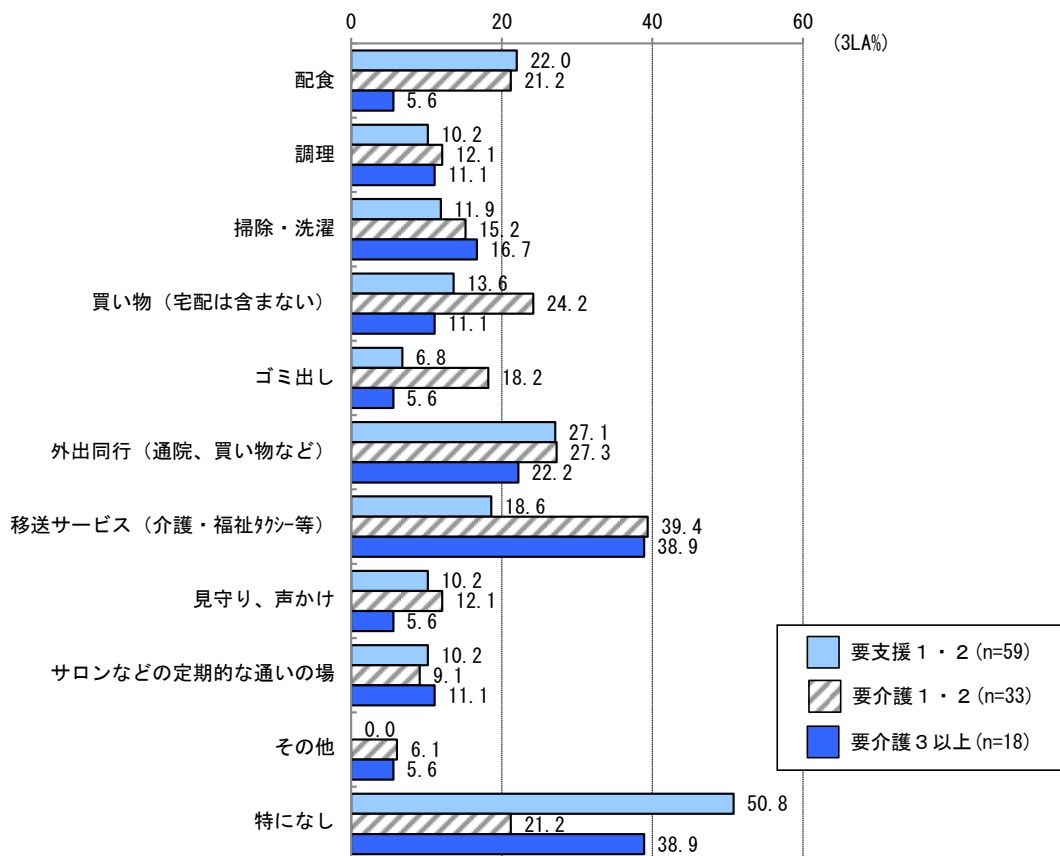
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



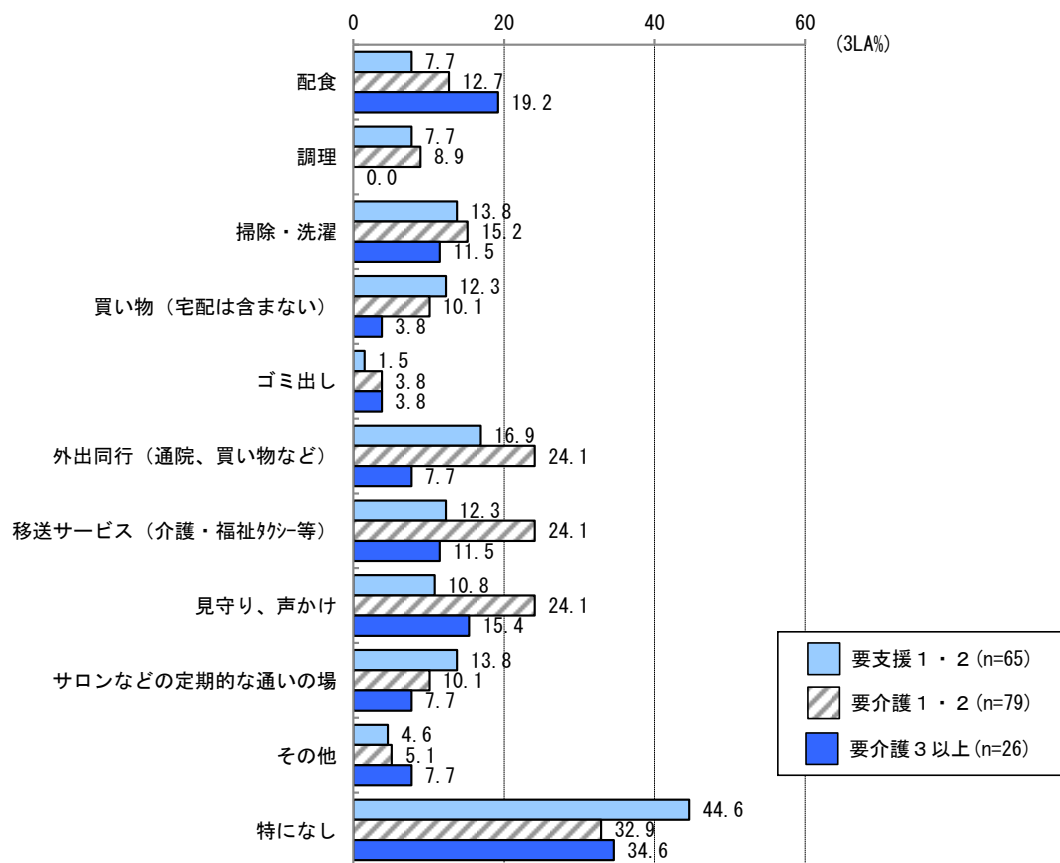
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】



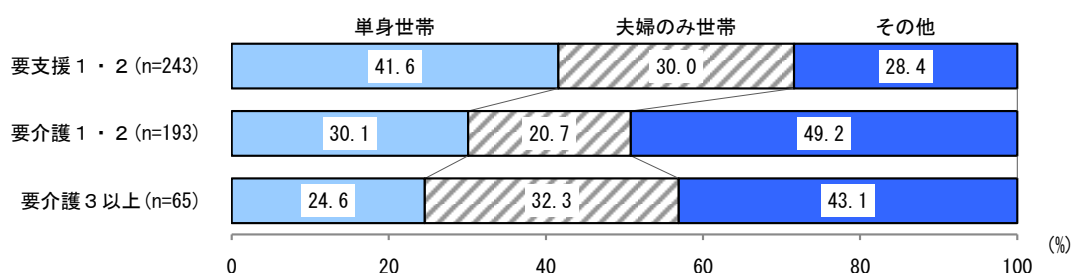
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当て、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行っている。

①基礎集計

要介護度の重度化に伴って、同居者のいる世帯の割合が高くなっている。

【要介護度別・世帯類型】

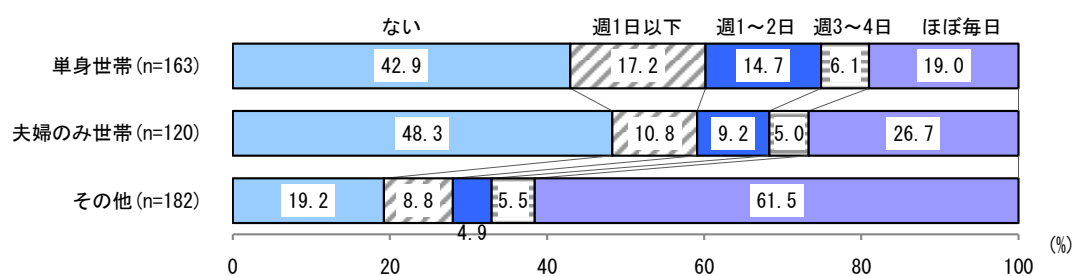


②「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

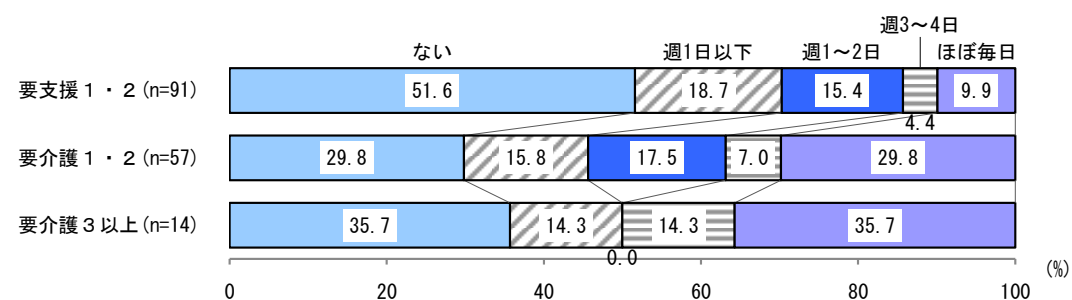
家族等による介護頻度について、「ほぼ毎日」の割合が、単身世帯とその他世帯は重度化に伴って高くなっており、夫婦のみ世帯は要介護1・2の要介護者で最も高くなっている。

一方、要介護3以上の要介護者に、家族等による介護が「ない」割合が、単身世帯と夫婦ふたり世帯で高い傾向がみられる。

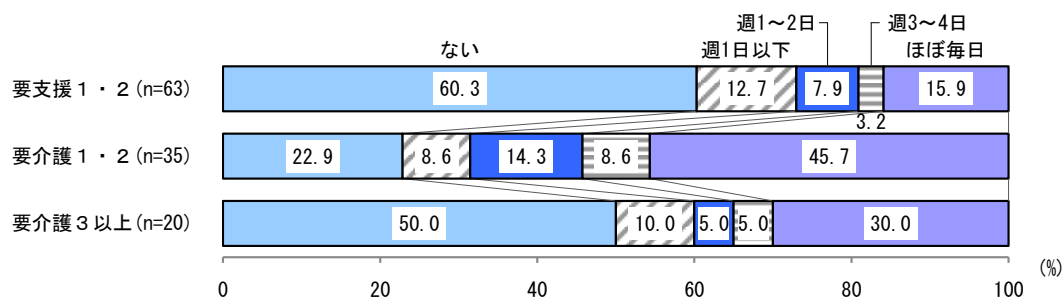
【世帯類型別・家族等による介護の頻度】



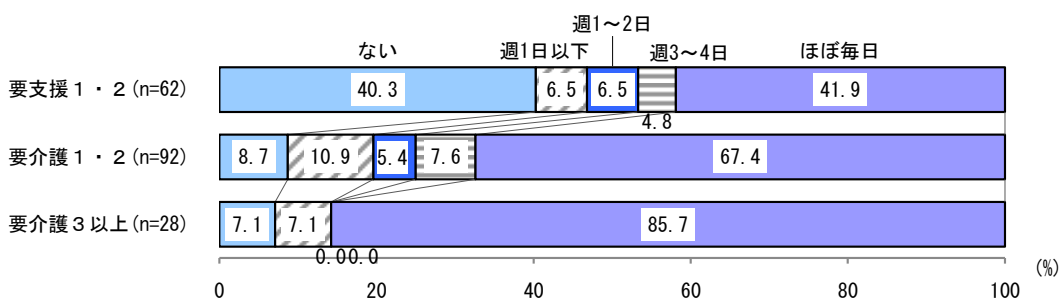
【要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）】



【要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

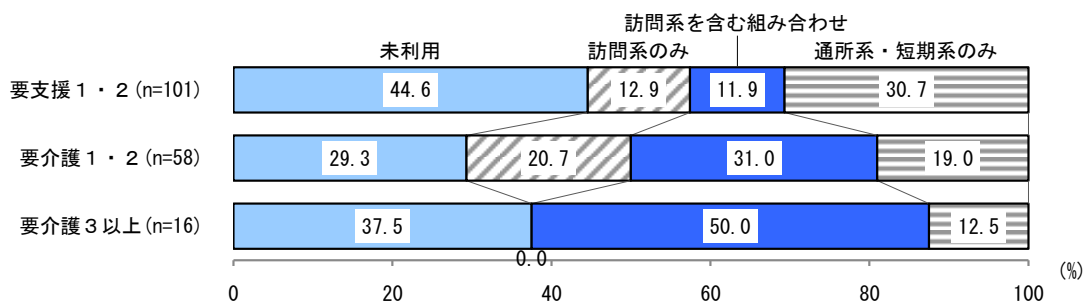


③ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

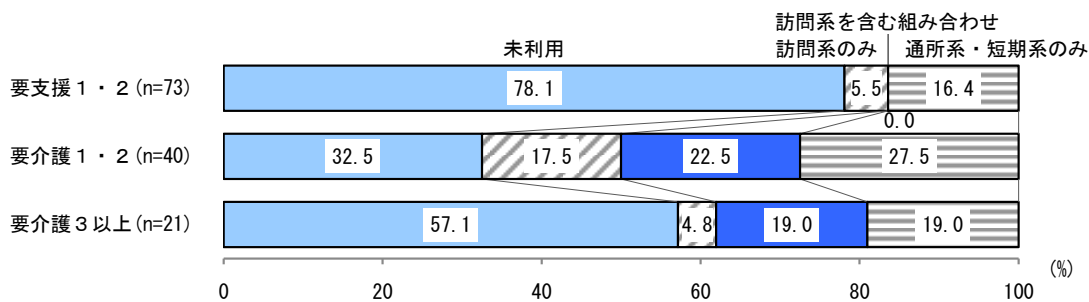
単身世帯とその他世帯では、重度化に伴って「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がみられる。また、重度の要介護者のいる単身世帯では「訪問系のみ」の割合が限りなく低くなっている。

一方、夫婦のみ世帯では、「未利用」の割合が他の類型の世帯に比べて高い傾向がみられる。また、要介護1・2の要介護者のいる世帯は、サービス利用割合が比較的高くなっており、自立度Ⅱ以上の要介護者が多く含まれていることも示唆される。

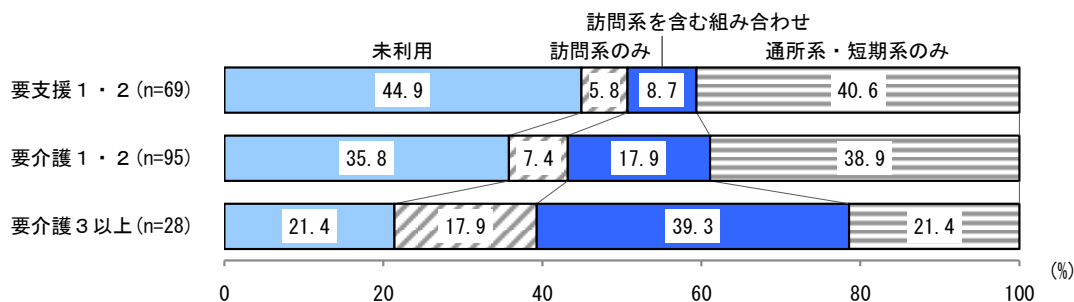
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】



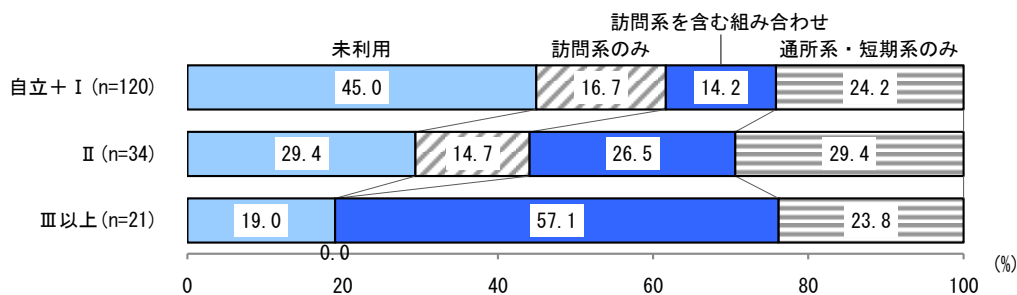
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】



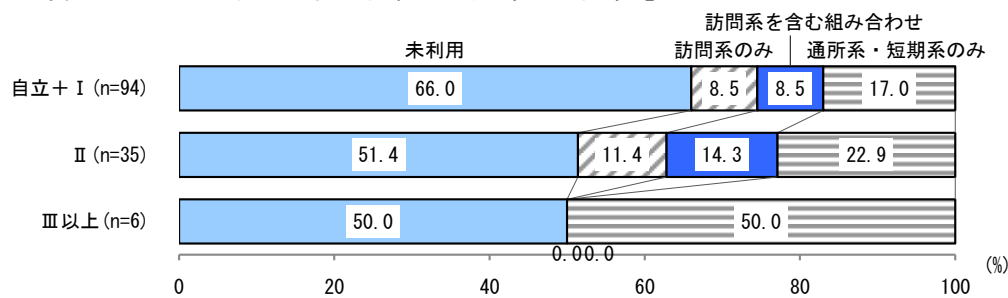
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】



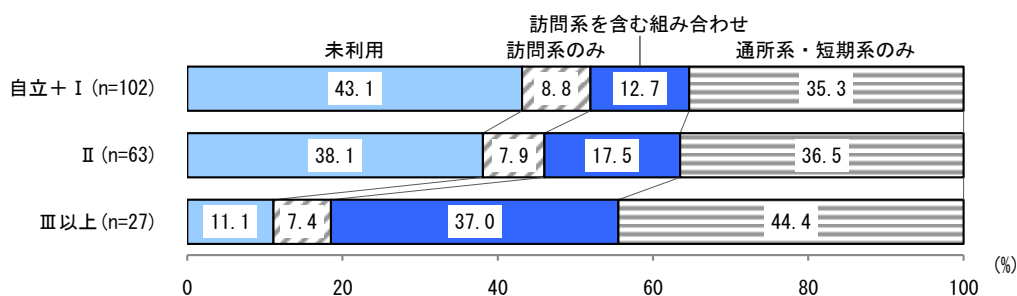
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】



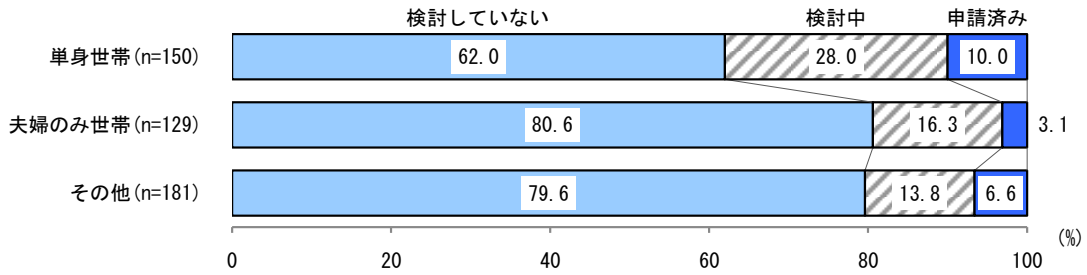
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】



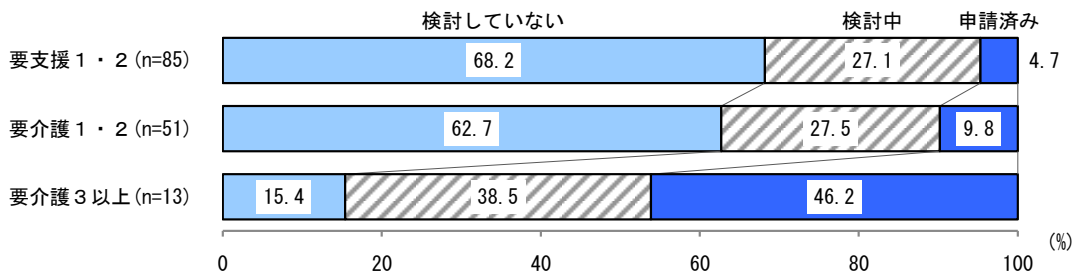
④「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討状況」

要介護者の在宅生活の継続に向けて、施設等の入所・入居を「検討していない」割合を高めていくことが必要だが、単身世帯では比較的低い割合になっている。なお、単身世帯で軽度の要介護者は過半数が「検討していない」と回答しているが、重度の要介護者では「検討していない」割合が特に低くなっている。

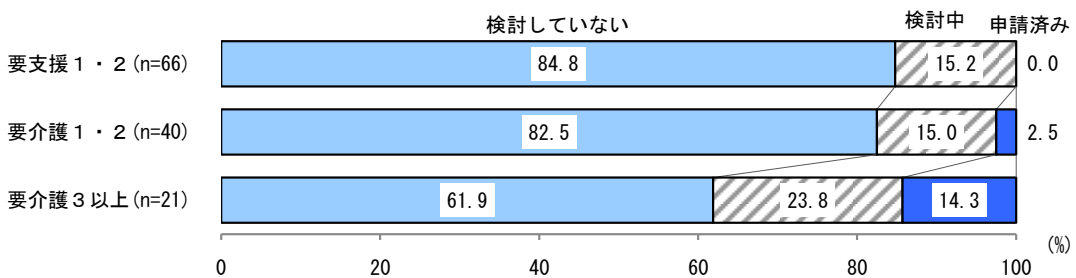
【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】



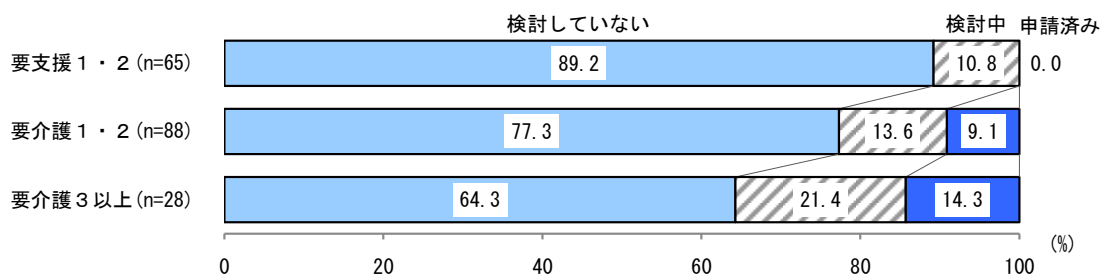
【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】



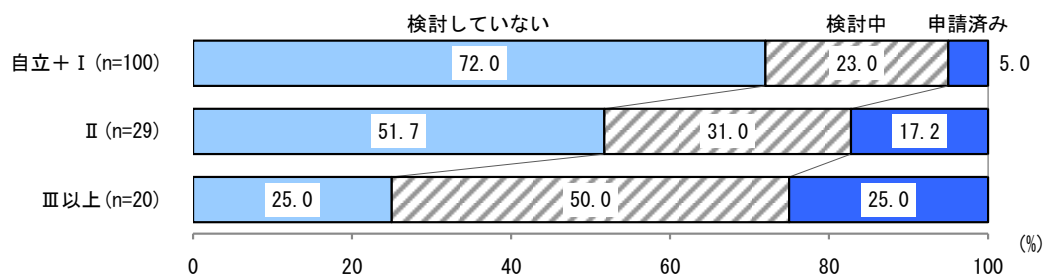
【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】



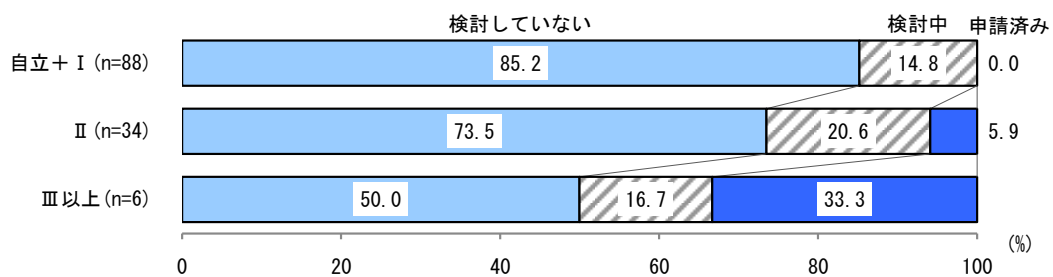
【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】



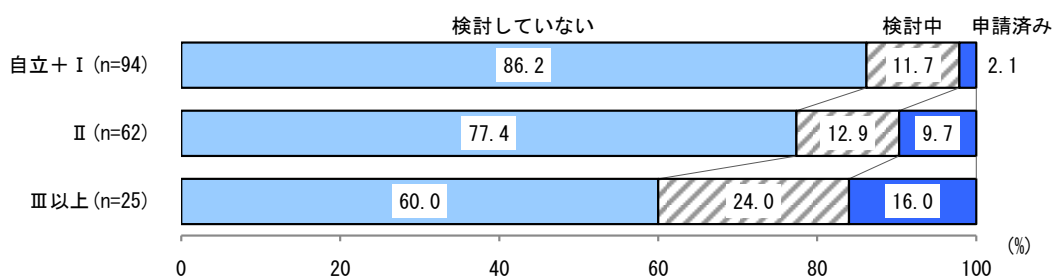
【認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）】



【認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】



【認知症自立度別・施設等検討の状況（その他世帯）】



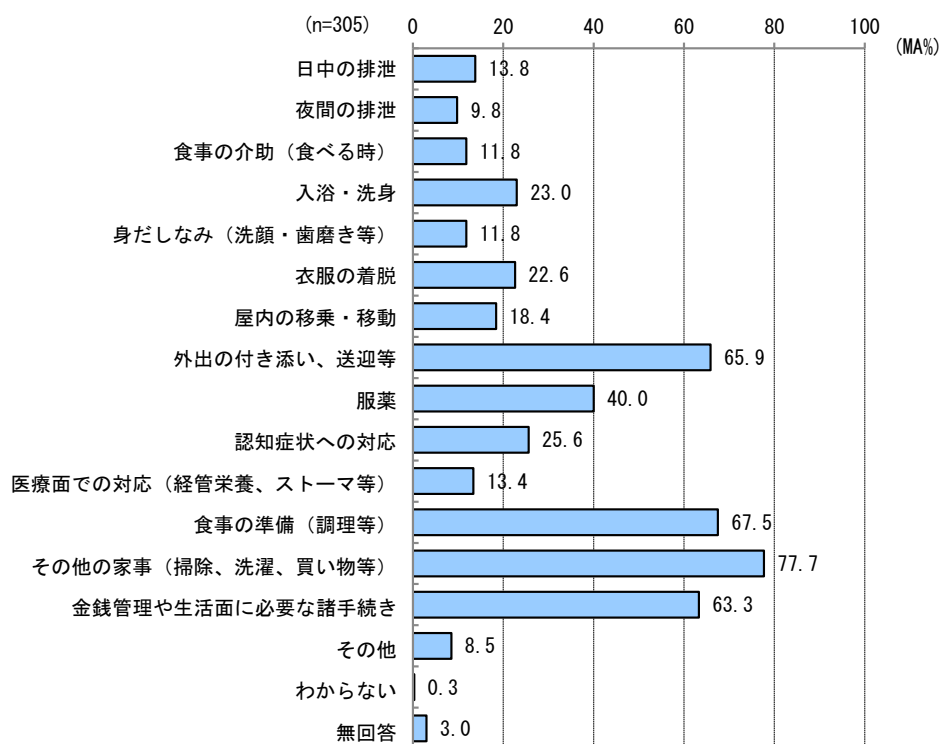
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるため、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行っている。

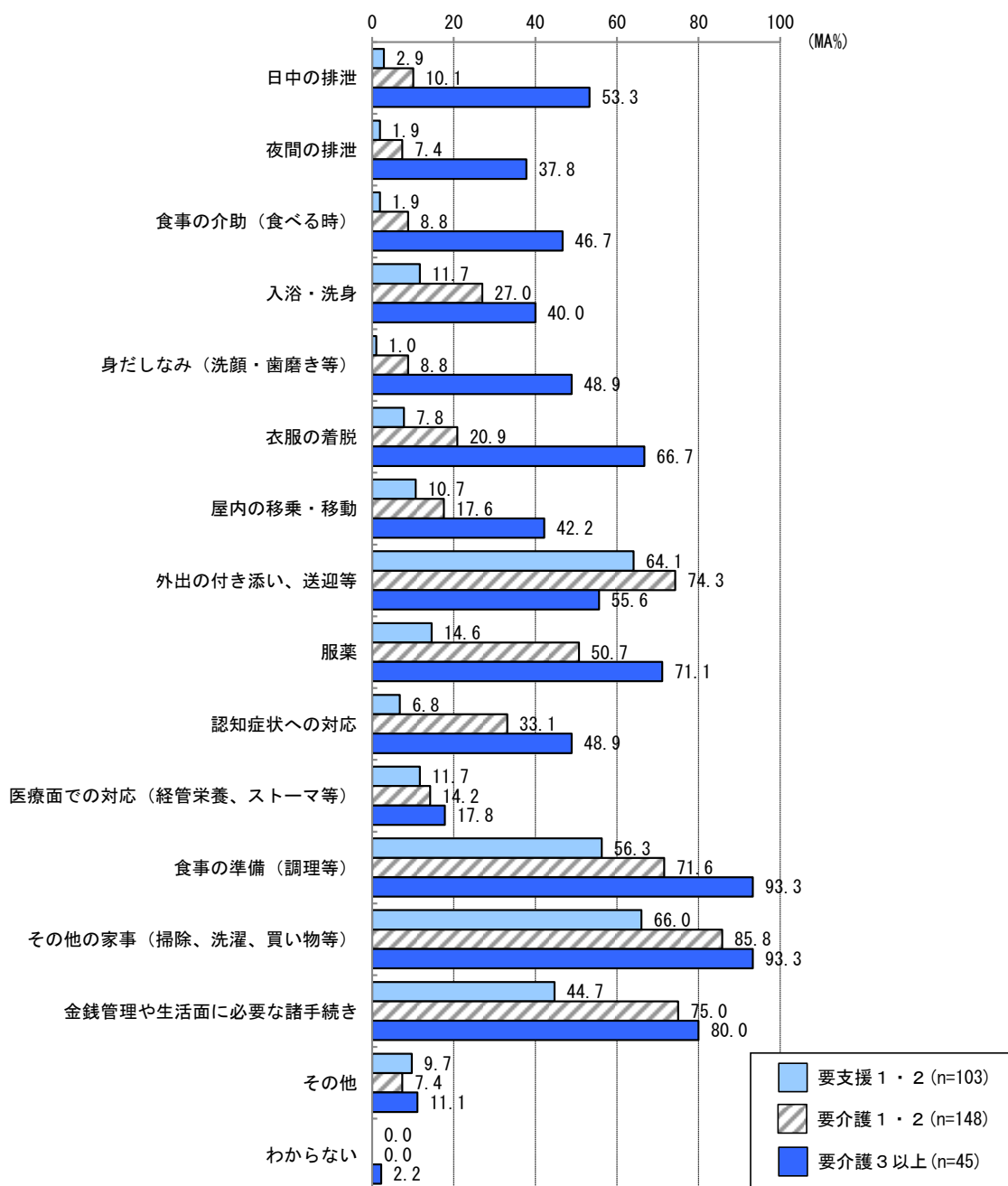
①基礎集計

「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は全体で13.4%となっている。要介護度別で見ると、重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。

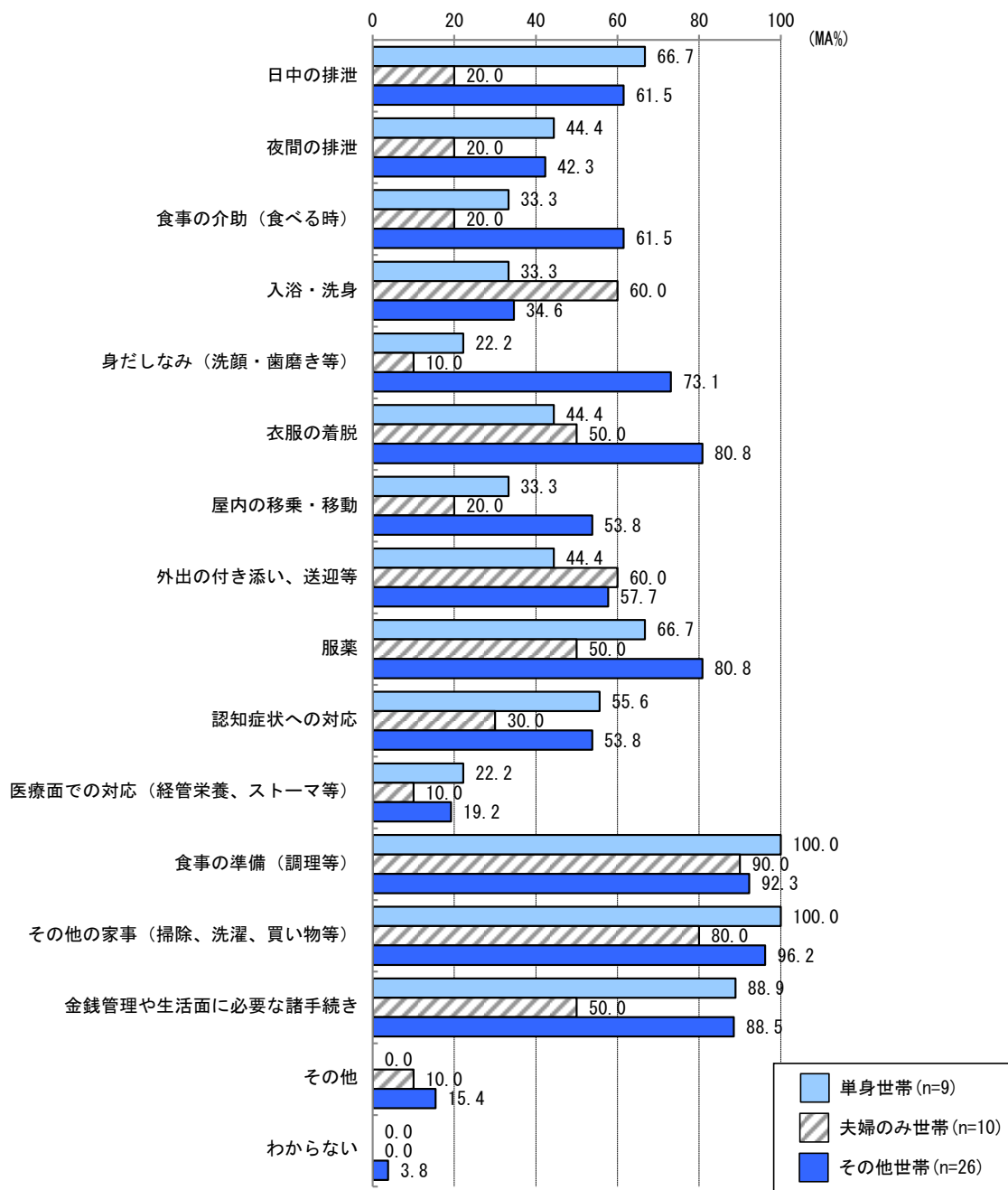
【主な介護者が行っている介護】



【要介護度別・主な介護者が行っている介護】



【世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）】

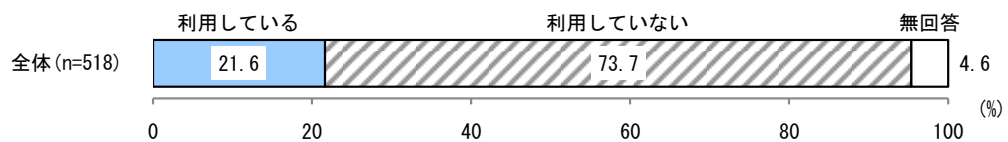


②訪問診療の利用割合

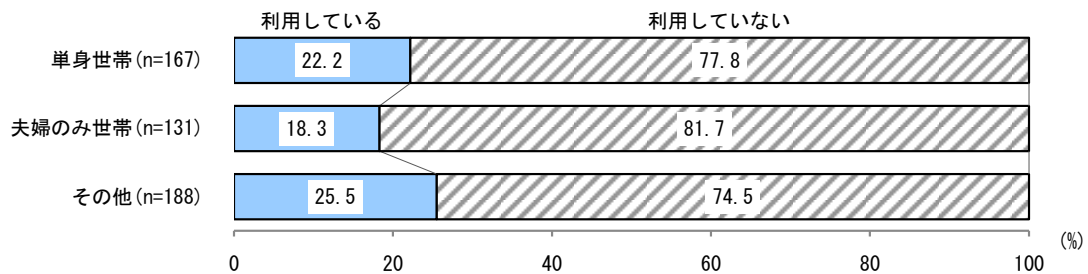
訪問診療を「利用している」割合は、全体で21.6%となっている。世帯類型別でみると、夫婦のみ世帯が他の世帯に比べて低くなっている。

要介護度別でみると、「利用している」割合は、要介護2以上になると高くなる傾向がみられる。今後、増加が見込まれる中重度の要介護者は“医療ニーズが高い要介護者”として、いかに適切なサービス提供体制を確保していくかが重要な課題になると考えられる。

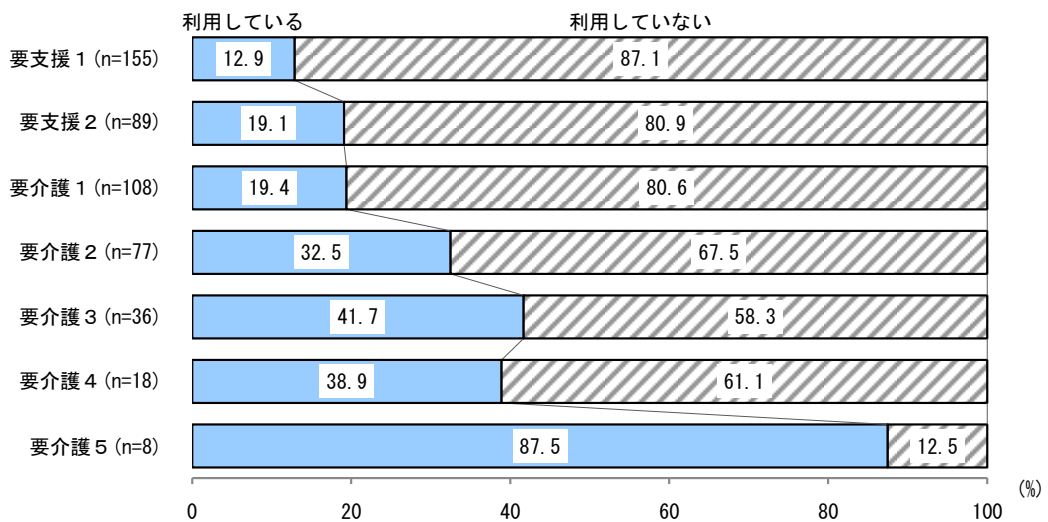
【訪問診療の利用の有無】



【世帯類型別・訪問診療の利用割合】



【要介護度別・訪問診療の利用割合】



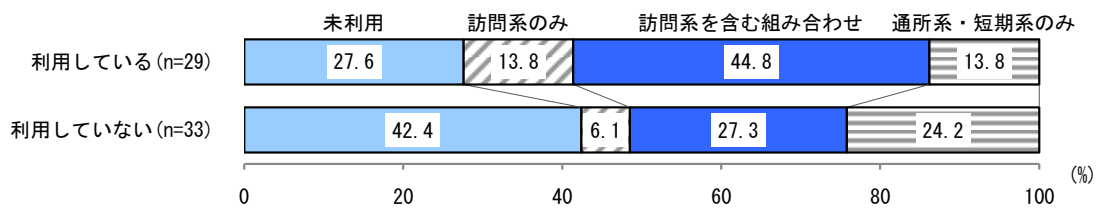
③訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

重度の要介護者で訪問診療を利用している人のサービス利用では、「訪問系を含む組み合わせ」が44.8%で最も多くなっている。

一方、重度の要介護者で訪問診療を利用していない人では、サービスの「未利用」が42.4%で最も多くなっている。また、訪問診療を利用している人に比べて「訪問系のみ」の割合は低く、「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっている。

“医療ニーズが高い要介護者”の増加に伴い、「訪問系を含む組み合わせ」のニーズが高まる可能性が考えられる。

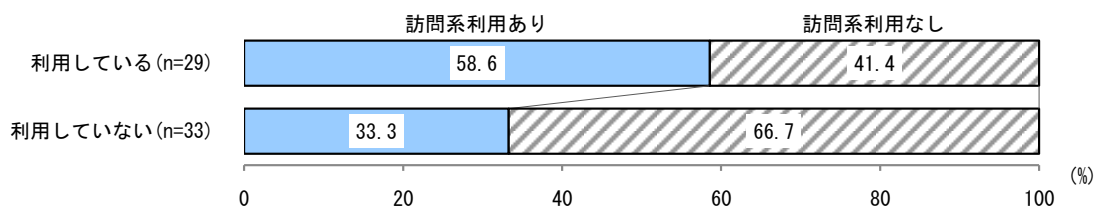
【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】



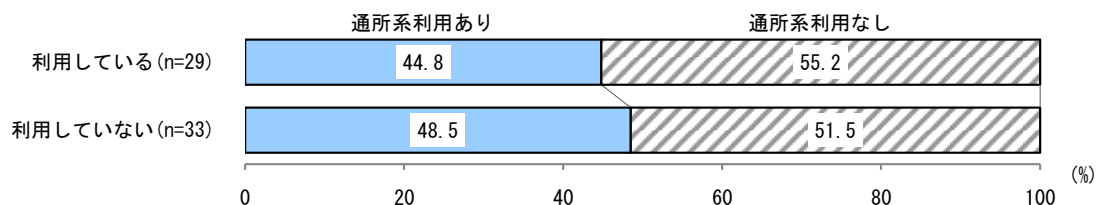
④訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

重度の要介護者で訪問診療を利用している人は、利用していない人に比べて「訪問系利用あり」と「短期系利用あり」の割合が高くなっており、「通所系利用あり」の割合はやや低くなっている。

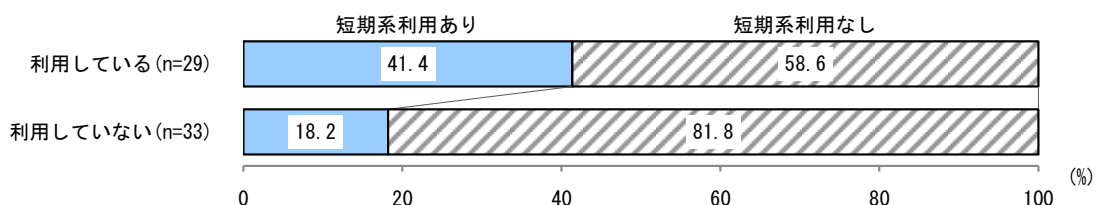
【訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）】



【訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）】



【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）】



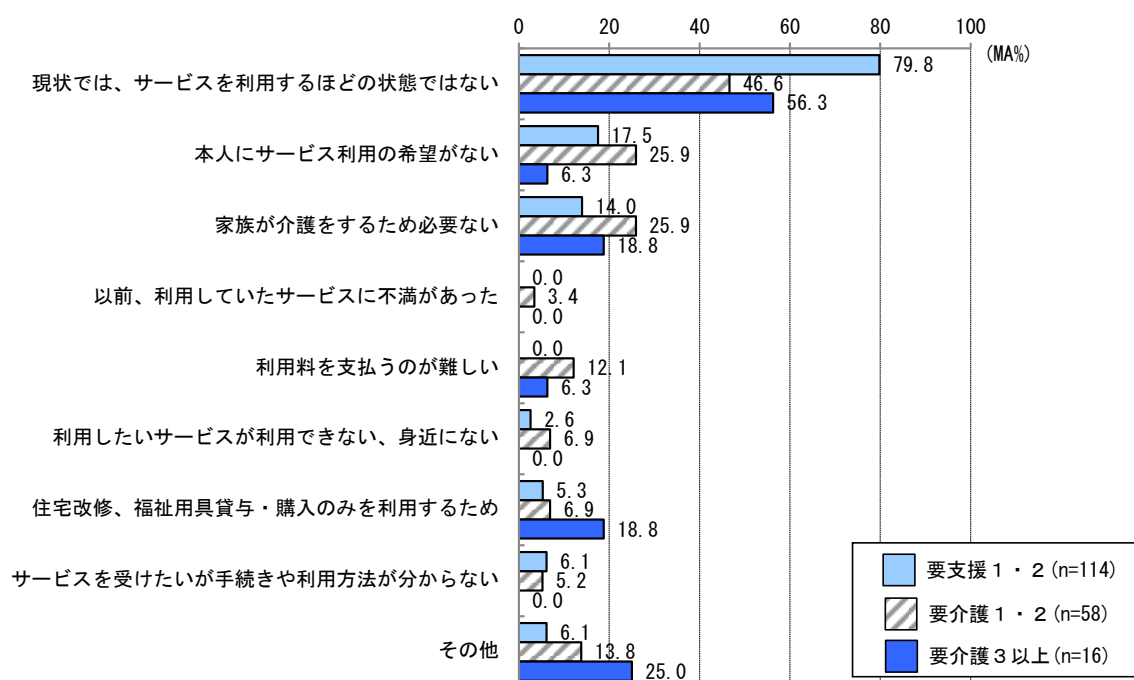
(6) サービス未利用の理由など

ここでは、地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられる、「サービス未利用の理由」「認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス」「本人の抱えている傷病」などの集計結果を整理している。

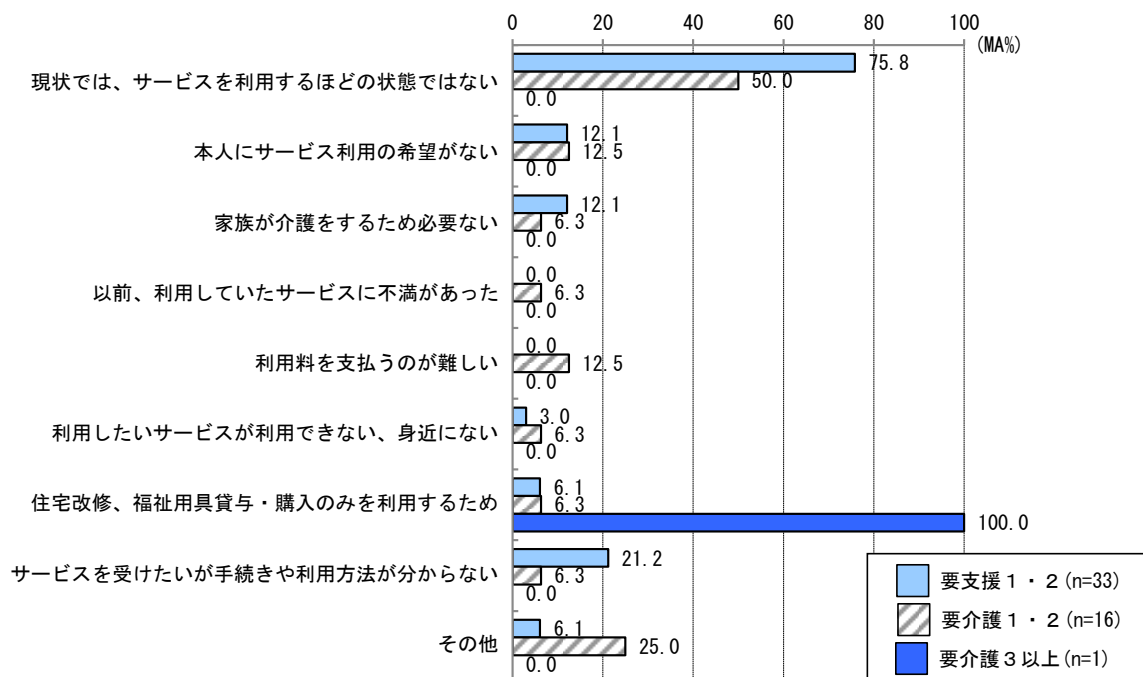
①要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が多くなっているが、中重度の要介護者も高い割合になっており、在宅生活を継続させるための支援を整えておく必要がある。

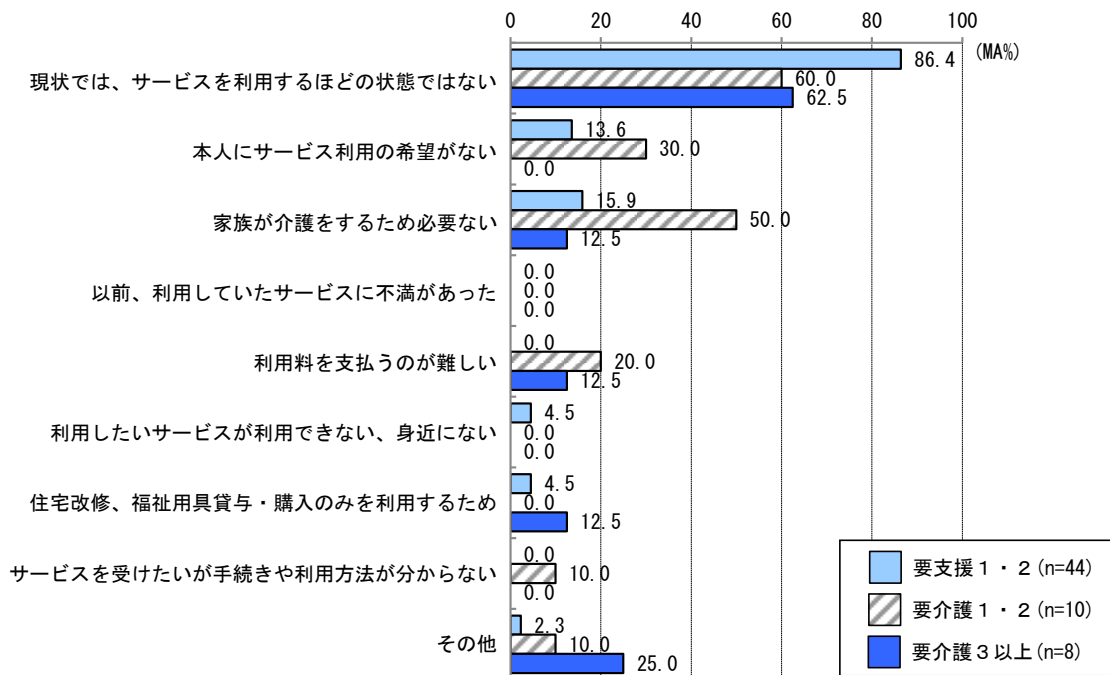
【要介護度別・サービス未利用の理由】



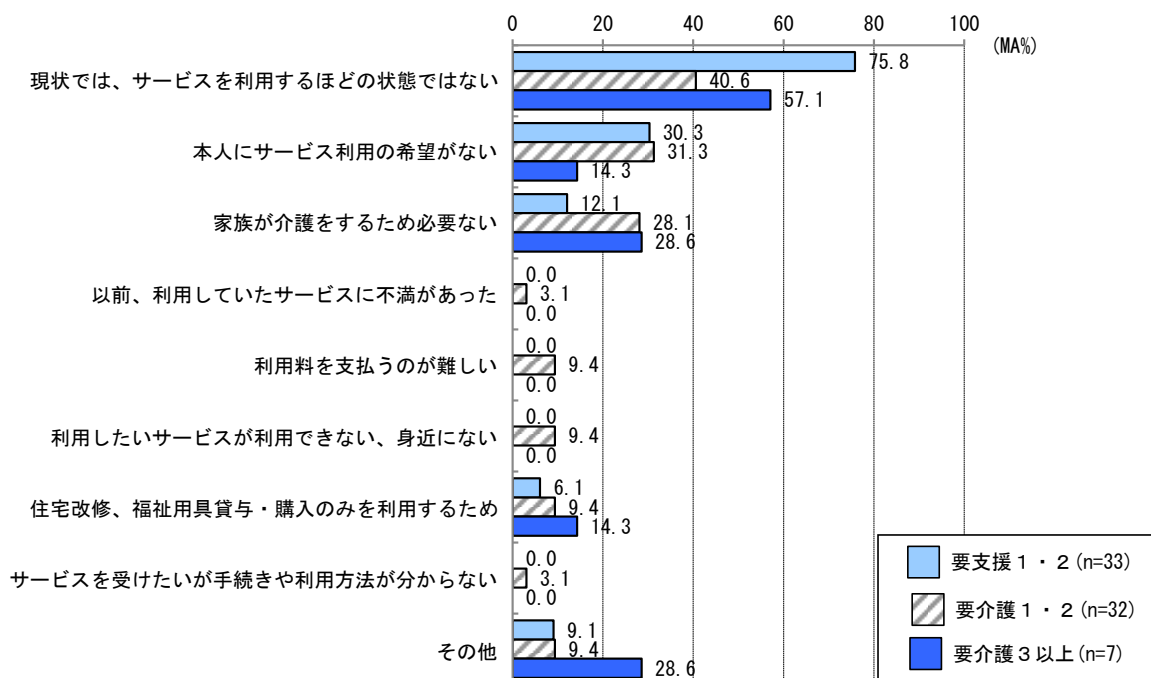
【要介護度別・サービス未利用の理由（単身世帯）】



【要介護度別・サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・サービス未利用の理由（その他世帯）】

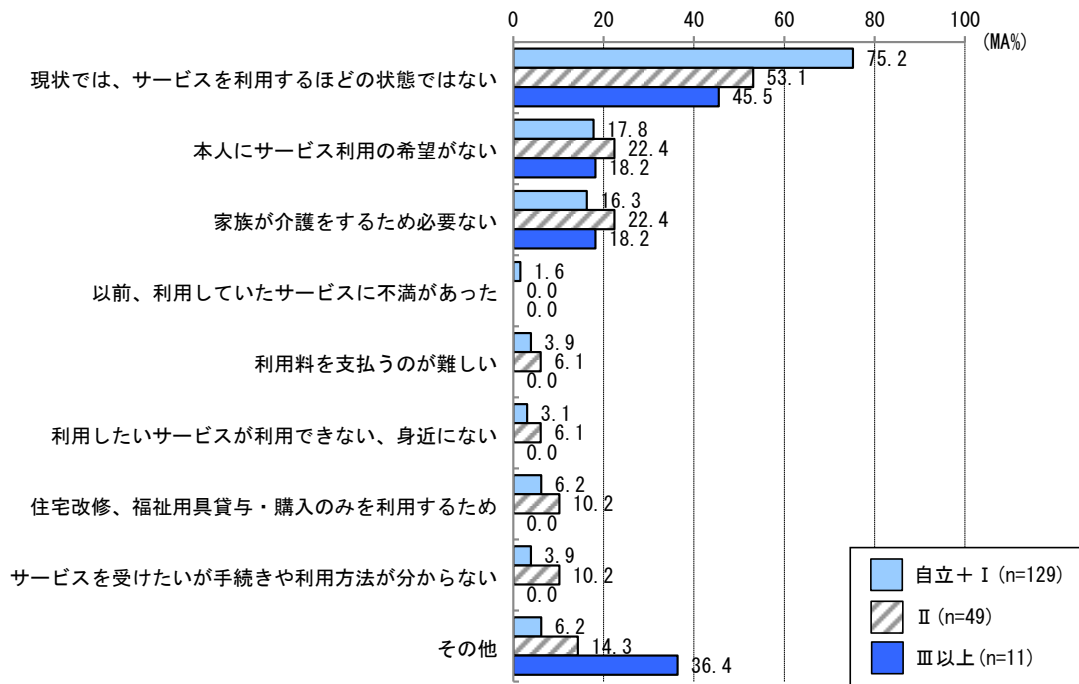


②認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

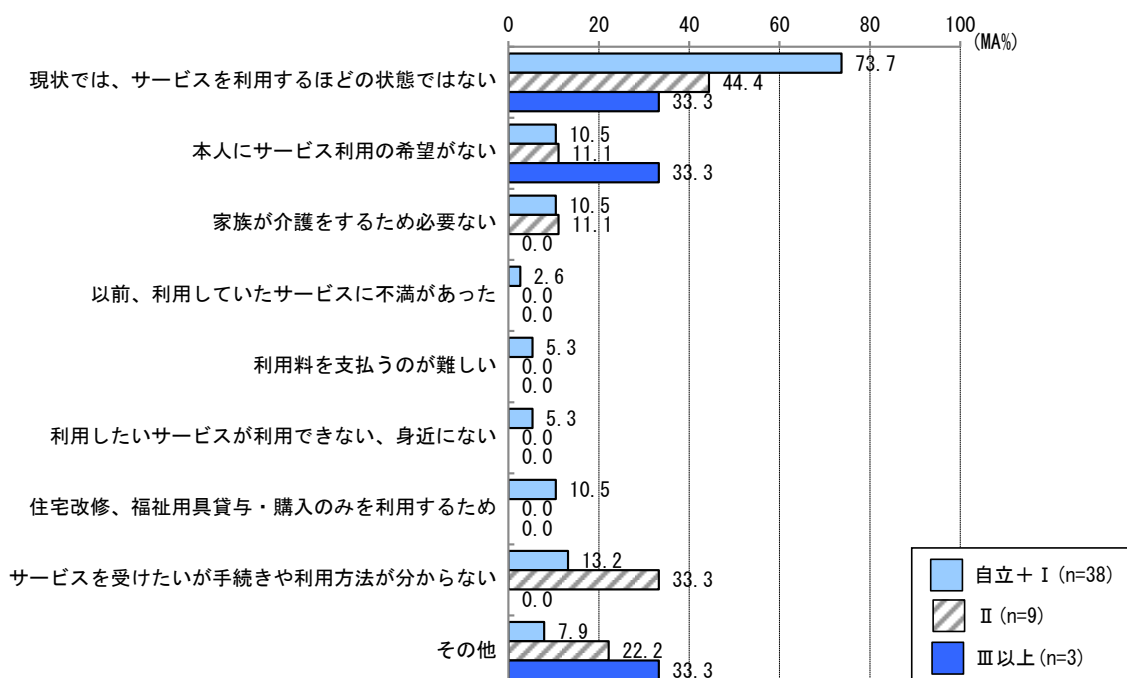
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が多くなっているが、中重度の要介護者の割合も高くなっている。

また、単身世帯では、同居者のいる世帯に比べて「家族が介護をするため必要がない」の割合が低く、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が高い割合になっている。

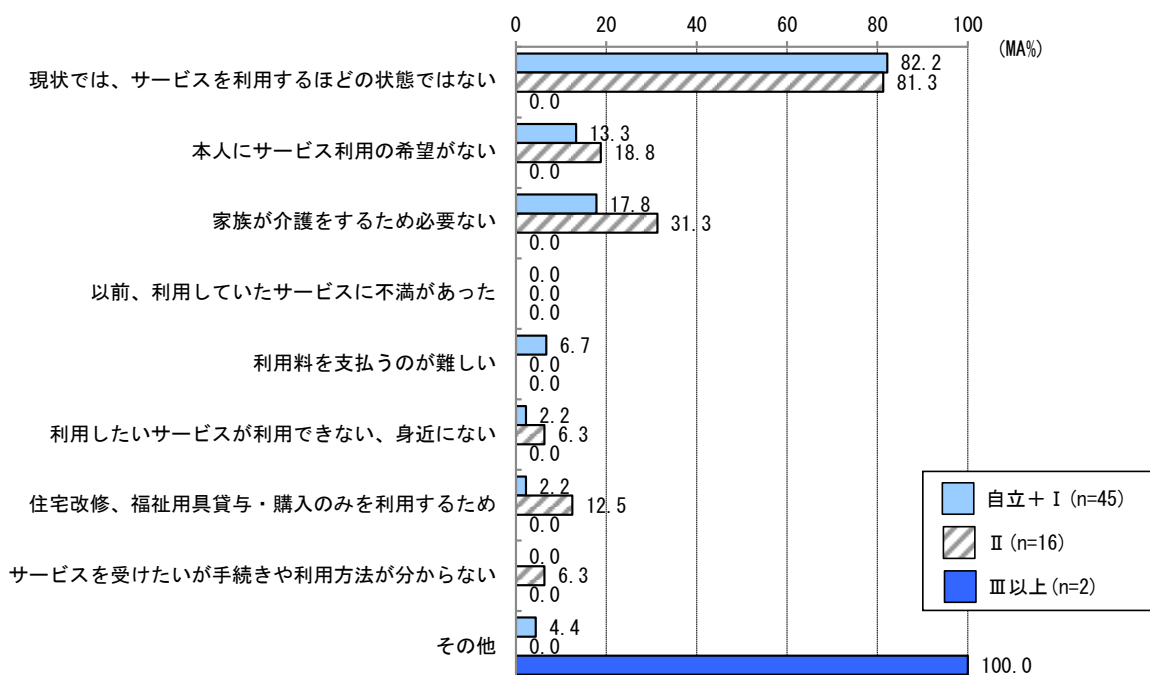
【認知症自立度別・サービス未利用の理由】



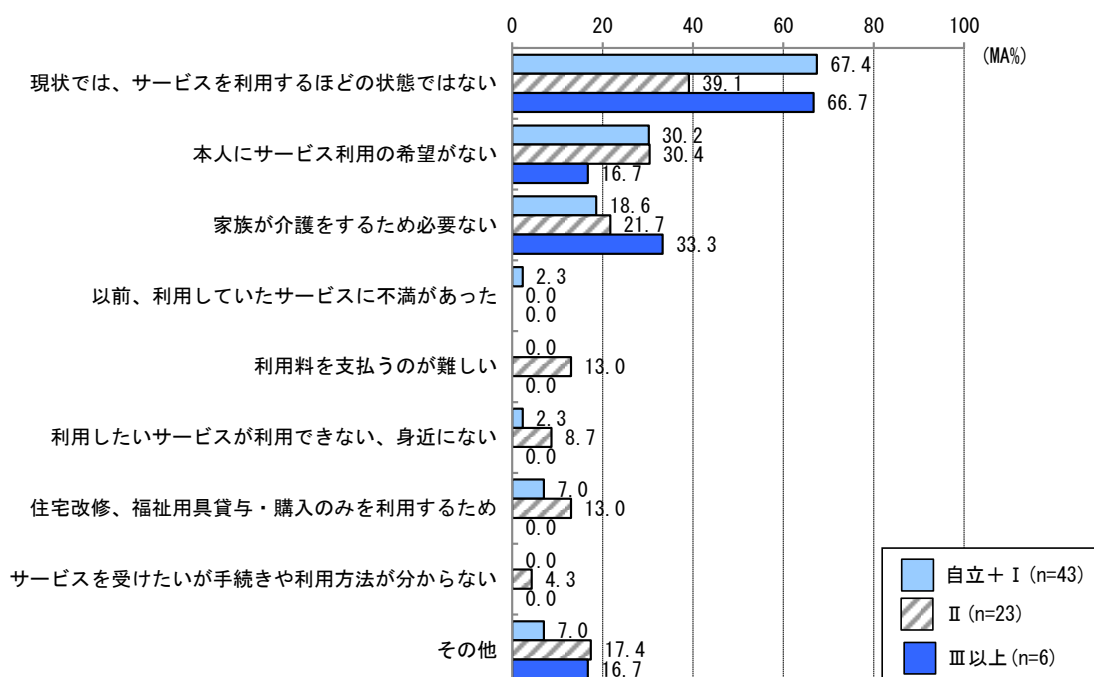
【認知症自立度別・サービス未利用の理由（単身世帯）】



【認知症自立度別・サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】



【認知症自立度別・サービス未利用の理由（その他世帯）】

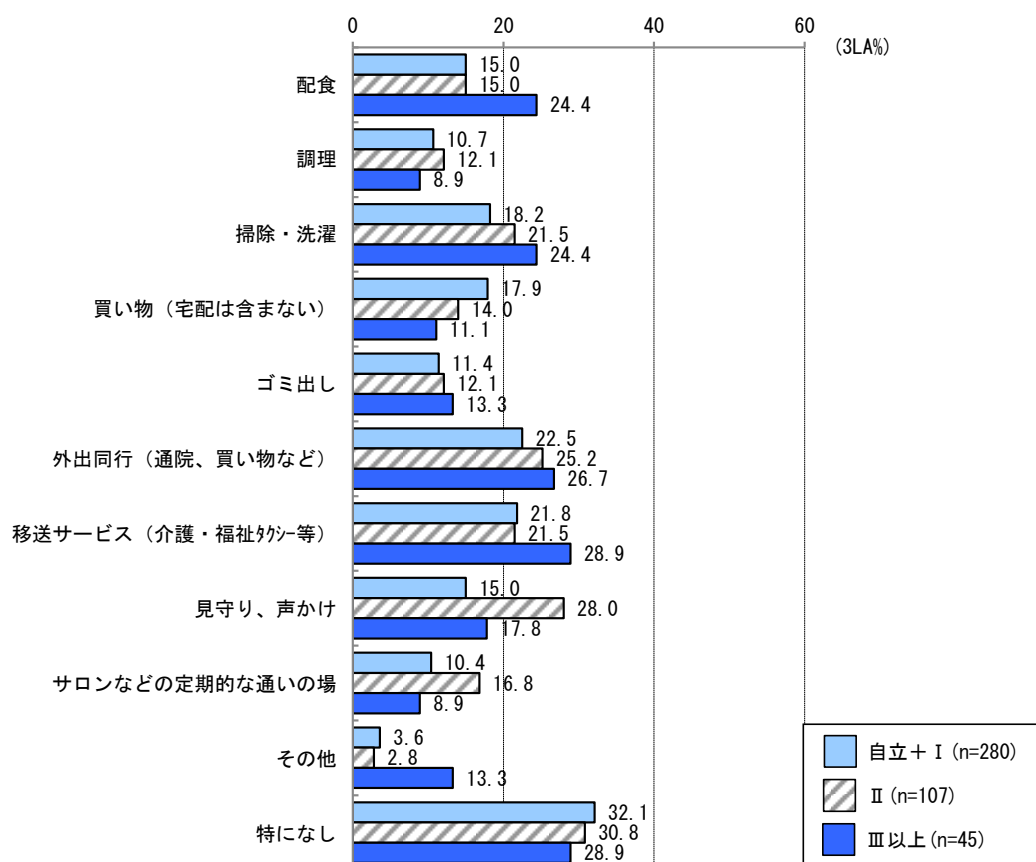


③認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

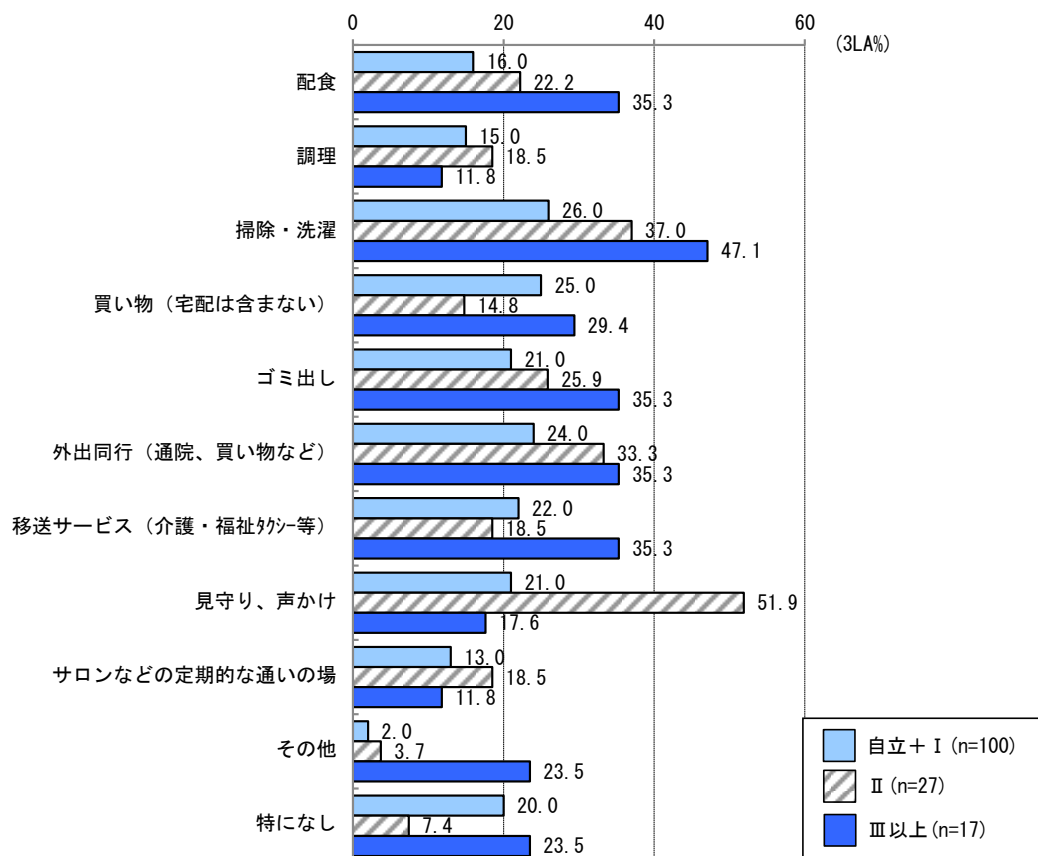
必要と感じる支援・サービスの多くは、重度化に伴って割合が高くなる傾向がみられる。特に、自立度Ⅱの要介護者では「見守り、声かけ」「サロンなどの定期的な通いの場」が、自立度Ⅲ以上の要介護者では「配食」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が、それぞれ高い割合になっている。

世帯類型別でみると、サービス全般的に単身世帯のニーズが同居者のいる世帯に比べて高く、特に自立度Ⅱの要介護者では、「見守り、声かけ」が単身世帯で51.9%となっており、夫婦のみ世帯の11.5%、その他世帯の24.5%と比べ、単身世帯のニーズが大幅に高くなっている。

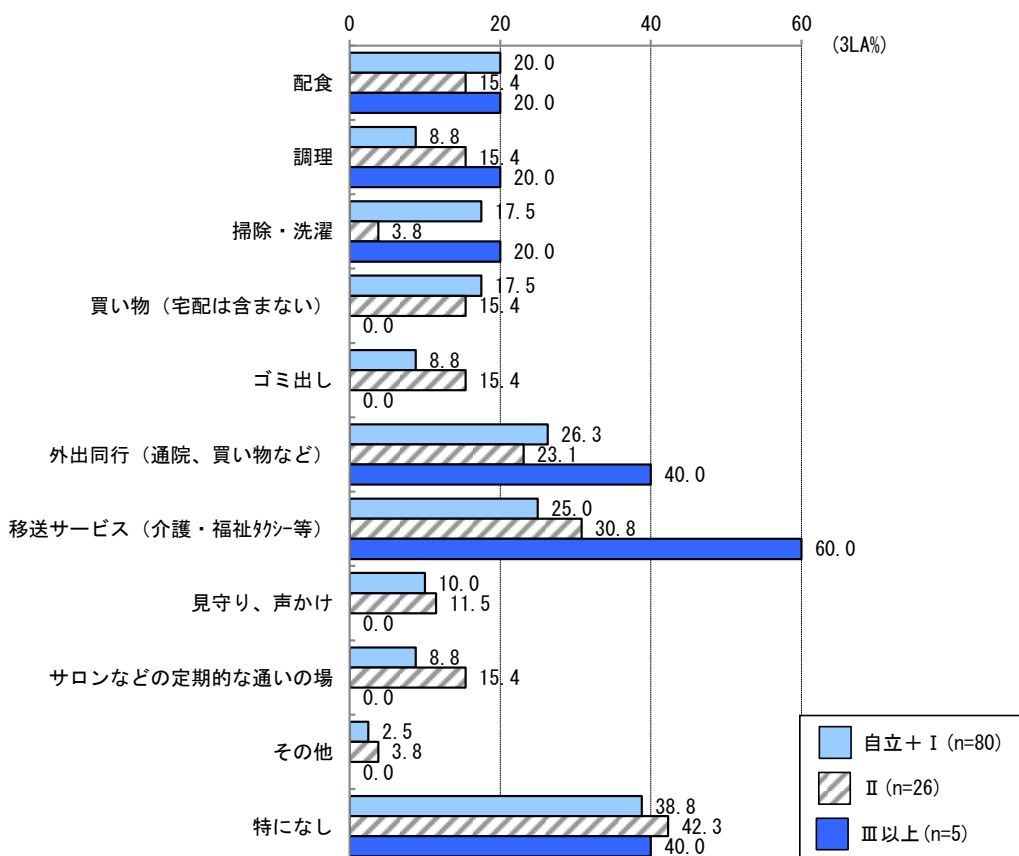
【認知症自立度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



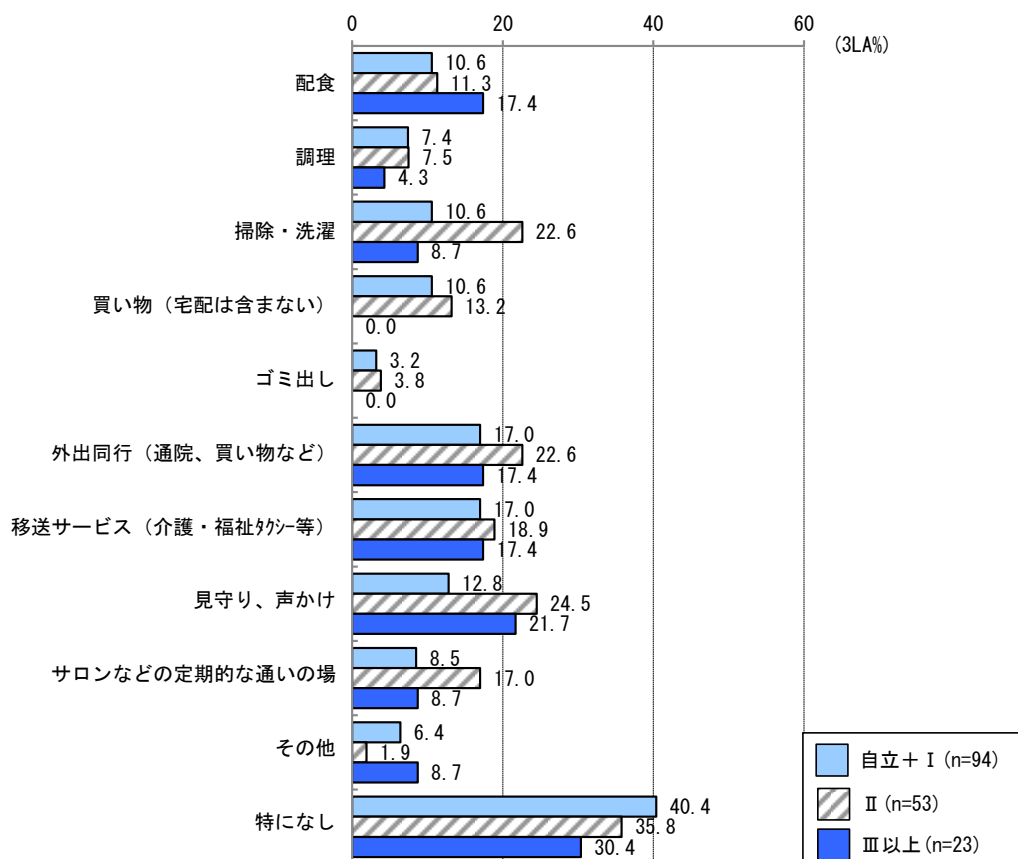
【認知症自立度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】



【認知症自立度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】



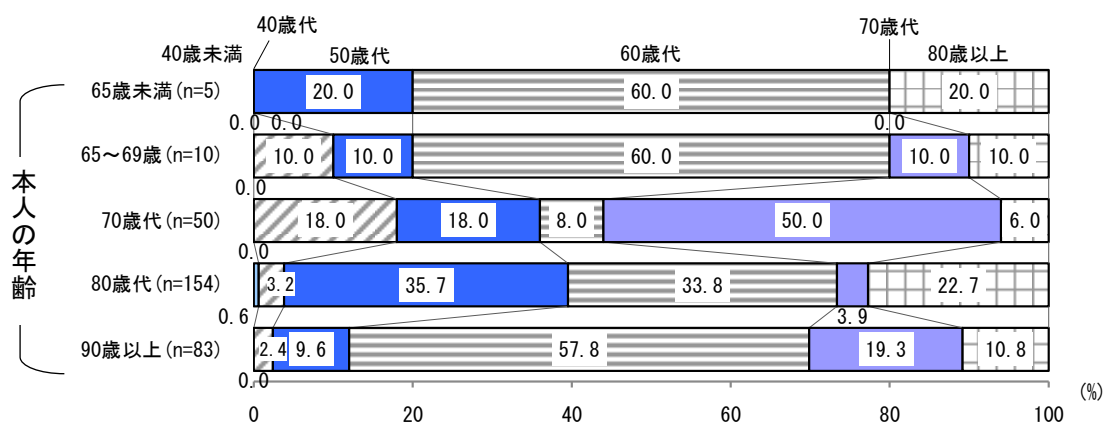
【認知症自立度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】



④本人の年齢別・主な介護者の年齢

70歳以下の要介護者（本人）では、同年代の介護者が多くなっている。80歳以上の要介護者（本人）では、20歳以上離れた若い年代の介護者が多くなっている。

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】



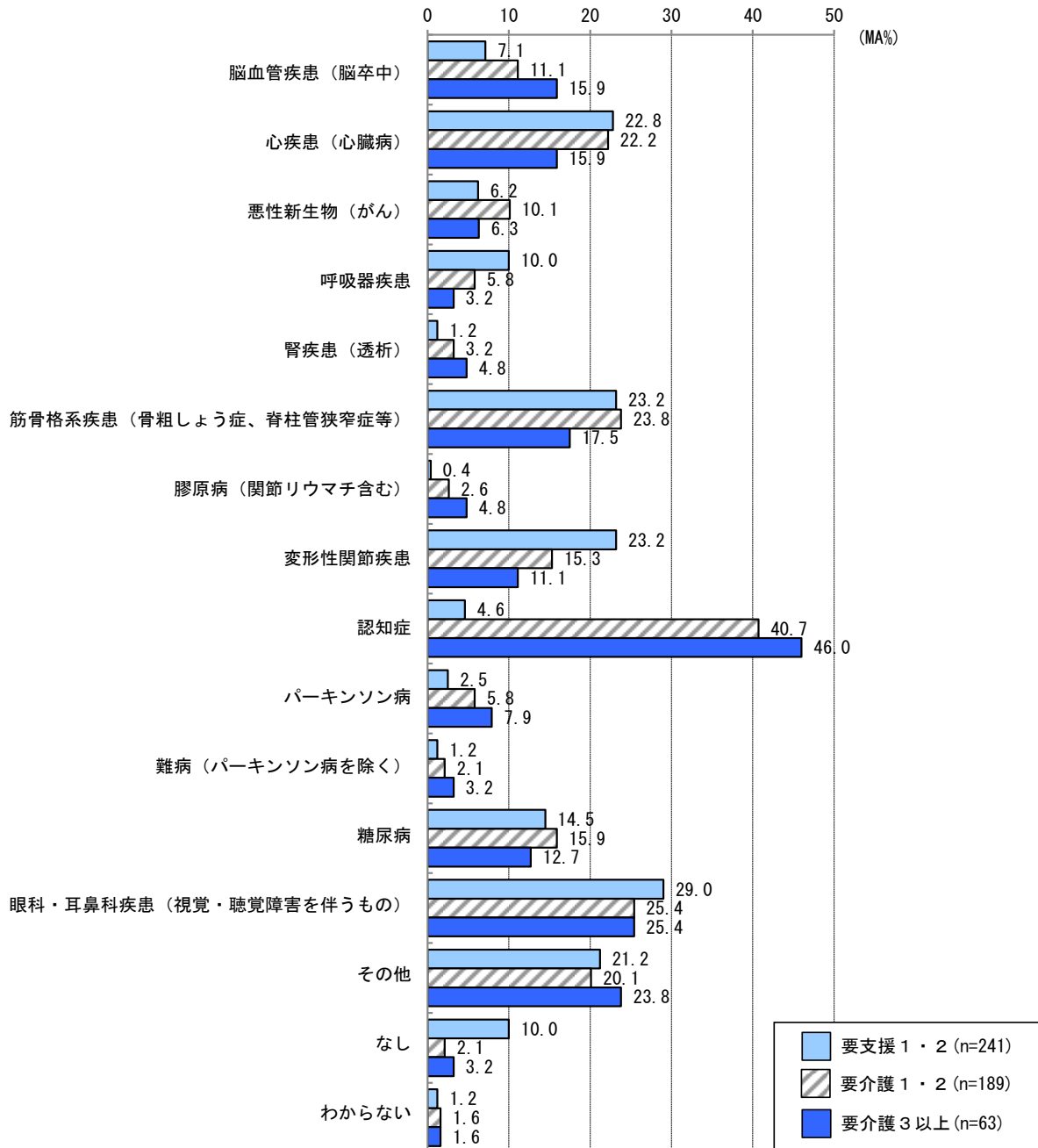
⑤要介護度別の抱えている傷病

要支援1・2の要介護者では、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が29.0%で最も多く、また、要介護1～5の要介護者に比べて「変形性関節疾患」の割合が高くなっている。

要支援1・2と要介護1・2の要介護者では、「心疾患（心臓病）」「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が要介護3以上の要介護者に比べて高い割合になっている。

要介護1・2と要介護3以上の要介護者では、「認知症」が40%を超えて最も多くなっている。

【要介護度別・抱えている傷病】



⑥訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

訪問診療を利用している要介護者では、「悪性新生物（がん）」「糖尿病」の割合が、利用していない要介護者に比べて5ポイント以上高くなっている。

【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

